

令和7年度 講義案内

仏教学部

宗学科
仏教学科

RISSHO UNIVERSITY
2025 Guidebook of Lecture

Faculty of Buddhist Studies
Department of Nichiren Buddhism
Department of Buddhist Studies

令和7（2025）年度
講義案内

仏教学部

目 次

1. 仏教学部専門科目履修案内	1
2. 科目履修上の基礎用語	2
3. 履修に関する全般的注意事項	4
4. 開設科目とその履修方法 【令和7(2025)年度入学】 仏教学部	9
5. 開設科目とその履修方法 【令和2(2020)～令和6(2024)年度入学】 仏教学部	21
6. 開設科目とその履修方法 【平成31(2019)年度入学】 宗 学 科	31
7. 開設科目とその履修方法 【平成29(2017)～平成31(2019)年度入学】 仏教学科	39
8. 僧階講座開設科目とその履修方法	49
9. 仏教学部開設一般教育科目について	53
10. キャリア開発関連科目について	57
11. クラス担任 他	63
12. 令和7年度オフィスアワー（学生生活相談）の実施について	65
《資料》仏教学部生の9月卒業のための卒業論文提出に関する要領	67
13. 仏教学部講義概要（シラバス）	69

1. 仏教学部専門科目履修案内

仏教学部には宗学科と仏教学科の2学科があり、専門科目のカリキュラム編成と履修方法は、それぞれの学科ならびに入学年度による大きな相違がある。原則として入学時に配付された『学生要覧』の規定が卒業まで適用される。ただし、変更が加えられる場合もあるので、(年度末～)毎年度初めに行われるガイダンス・掲示等に充分注意する必要がある。

本書『講義案内 仏教学部』では、令和7年度入学生・令和2～6年度入学生・平成31年度入学宗学科生・平成29～31年度入学仏教学科生の開設専門科目とその履修方法、ならびに僧階講座の履修方法について説明をする。学科・コース・入学年度により、開設科目・履修方法が異なるので、必ず下記の表に従って各自の該当する箇所の説明・指示を見ること。

令和7(2025)年度入学

仏教学部	11～19頁
------	--------

令和2(2020)～6(2024)年度入学

仏教学部	23～30頁
------	--------

平成31(2019)年度入学 宗学科

宗 学 科	法華仏教コース及び日本仏教コース	33～38頁
-------	------------------	--------

平成29(2017)～31(2019)年度入学 仏教学科

仏教学科	思想・歴史コース及び文化・芸術コース	41～47頁
------	--------------------	--------

2. 科目履修上の基礎用語

仏教学部生は新年度早々に年間の受講計画を立て、所定の期日に「履修登録」をおこなわなければならない。登録方法については仏教学部事務室及び、所属する学科の指示に従って情報環境基盤センターの端末機や学外（自宅等）のパソコン等から web を利用し、各自が入力することになる。そこでまず、本書で頻繁に使用する基礎用語を簡単に解説しておく。

1 単 位

授業を受講して認定される受講基準数のことである。大学設置基準では、1 単位につき「45時間の学修を必要とする」と定めている。したがって、2 単位の授業を修得するためには90時間の学修が必要である。授業として30時間（1 コマ 2 時間換算×15回）を受講し、授業外学修として60時間（90時間－30時間）学修したうえで、試験やレポート等の成績が合格点に達した場合、2 単位を修得できる（4 単位の場合、それぞれ 2 倍の時間数が必要）。ただし、演習、実習、外国語、体育実技では、単位の算定方法が異なる場合があるので、本書の各自が該当する入学年度の「開設科目とその履修方法」で単位数を確認すること。

2 開設科目

仏教学部の各学科・コースに在籍する学生が受講できる科目のことである。他学部・他学科・他コースに設けられた科目は、受講できなかったり、受講しても単位が認定されなかったり、特別な手続きが必要となる。

3 履 修

授業を受講し単位を認定されるまでの一連のながれをいう。1 年間の受講計画を立て、所定の期日までに「履修登録」をする必要がある。履修登録をしないと、たとえ受講しても単位は認定されないので、充分留意しなければならない。

4 卒業基準単位数

卒業要件として最少限修得しておかなければならない単位数のことである。卒業に必要な最少限度の単位数であるから、できるだけ余裕をもって単位修得に努めること。

5 履修登録単位数の上限

各学年において1 年間および各学期で履修登録できる単位数には上限がある。単位数の上限は、入学年度・学年・学期によって異なるので、各自所定の表を確認する必要がある。

6 必修科目

卒業要件として必ず単位を修得しなければならない各分野の基本科目のことである。これを全て修得しないと卒業できない。

7 選択必修科目

必修科目に準ずるもので、各分野の基幹科目のことである。このうち所定の科目数・単位数以上を修得しないと卒業できない。

8 選択科目

必修科目・選択必修科目以外で、各分野の専門知識を広く修得するための科目のことである。年次指定等に従って選択履修することになる。必修科目・選択必修科目だけでは卒業基準単位に達しないので、不足分をこれで補うことになる。

9 関連領域科目

専門分野と関連する領域の知識を広く修得するための科目のことである。なお、このカテゴリーは、入学した学科・年度により設けられていない場合がある。

10 自由科目

修得単位数が卒業基準単位には算入されないが、単位自体は認定される科目のことである。各種の資格取得、もしくは個々の学的関心に従って履修できる科目をいう。

11 セメスター制度

多様な専門知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。

12 資格講座

仏教学部生は在学中に各種の資格を取得するための科目を受講することができる。ただし、卒業基準単位数には含まれない。

3. 履修に関する全般的注意事項

1 必修科目・選択科目の区分とその履修年次の指定

仏教学部では専門的知識の修得と同時に、学生の自らの研究能力の開発育成をめざしている。専門科目のうち、必修科目・選択必修科目は、各学科及びコースに在籍する学生がそれぞれの専門分野を研究する上で、不可欠の科目とみなされるものである。選択科目はできるだけ学生の自由な選択ができるよう配慮してある。また履修年次の指定に従って各科目を履修する必要がある。なお、科目名・学年の指定などが入学年度によって変更されることもあるが、原則として各自の入学年度の規定が適用されるので、入学時に配付された『学生要覧』に十分に留意し、履修計画を検討することが必要である。

2 科目履修上の規定

- (1) 科目を履修するには、年度初めの所定の期間中に、各自が情報環境基盤センターの端末パソコンもしくは、学外（自宅等）のパソコン等から web を利用して「履修登録」の入力をしなければならない。未登録の場合は、受講し試験を受けても単位修得が認められない。さらに授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を担当教員へ提出すること。
- (2) セメスター制における第2期（後期）開講の科目についても、履修登録は原則として年度初めの所定の期間に行うこと。ただし、第2期開講科目については、年間履修登録単位数の上限以内で、第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、注意すること。
- (3) 一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り履修中止を申し出ることができる。ただし、以下の点について十分に注意のうえ、手続きを行わなければならない。
 - ①卒業年次では、履修を中止しても卒業要件を満たしているか、また2年次では、履修を中止しても3年次への進級要件を満たしているか、各自が必ず確認をすること。
 - ②履修中止を申請した科目は GPA 算出の対象から除外される（履修中止の手続きをしないまま未受講・未受験となると、その科目は0点として換算され、GPA を大幅に下げることになる）。ただし、履修中止をしても登録可能な単位数を回復させることはできない（したがって、他の科目に変更することはできない）。
 - ③通年科目の履修中止は、**第1期履修中止申請期間にのみ受け付ける**。
 - ④科目により履修中止申請ができない場合がある。
 - ⑤履修中止をした科目を、次年度以降に再履修することは可能である。
 - ⑥履修中止を希望する者は、ポータルサイトより申請すること。ただし、履修中止申請期間以外では一切受け付けない。

3 単位の修得

- (1) 所定の期日に履修登録をした科目について、試験その他の指定された方法により一定の評価基準以上に達した場合にのみ、所定の単位が認定される。
- (2) 試験は原則として筆記試験が行われるが、レポート等その他の方法をもって代えられることもある。
- (3) 試験は所定の試験日時及び所定の場所で受けなければならない。ただし、止むを得ない事情によって受験できなかった場合に限り、追試験が許可されることもある。追試験を受けようとする場合は、定期試験を受験できなかったことを証明する書類（医師の診断書など）を添えて、大学の指定する日時までに学事課に願出しなければならない。

- (4) レポート等は、学部または、担当教員の指示する期日までに指定された場所に直接提出しなければならない。**郵送及び期日に遅れて提出されたものは、原則として受理されない。**
- (5) 他の大学を卒業、または中途退学し、新たに本学部の1年次に入学した学生については、他の大学での既修得単位を認定する制度があるので、入学後すみやかに仏教学部事務室へ申し出ること。

4 卒業論文

- (1) 卒業論文題目は、卒業年度（宗学科は卒業前年度）の所定の期日までに指導教員の承認を得て、仏教学部長宛に提出することになっている。それに先立って、当該学科及びコースにおいて、卒業論文指導会が開かれる予定であるが、この指導会以前に指導を希望する教員（1名）の選択（宗学科のみ）、研究分野の選択、研究方針並びに研究内容を十分に検討しておくべきである。

なお、留年者で、当該年度に論文を提出しようとする場合も、その年度の初めに改めて論文題目を提出しなければならない。当該年度に卒業論文題目届が提出されていない論文は受理されないので、特に注意を要する。

なお、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

仏教学科の文化遺産・芸術コース生は、選考を経て、卒業論文に換えて卒業制作を選択することができる。

- (2) 提出された論文題目の変更は原則として認められない。止むを得ず変更を希望する場合は、所定の期日までに指導教員の承認を得て、論文題目変更届（指導教員の捺印が必要）を仏教学部長宛に提出しなければならない。
- (3) 卒業論文は、原則として**手書きの場合は400字詰原稿用紙（宗学科はB4、仏教学科はA4）を使用し、50枚以上の枚数がなければならない。パソコンを使用する場合は20000字以上の文字数を必要とする。**指定の枚数・文字数に達しないものは受理されない。卒業論文の書式等の体裁については各学科の指示に従うこと。
- (4) 卒業論文の表紙は厚紙を使用し、論題・所属する学部学科コース名・学籍番号・氏名・指導教員名を必ず明記すること。別冊を添付する場合も同様の表紙をつけること（次頁の図 参照）。
- (5) 表紙と同一内容を原稿用紙に記入（パソコンの場合は白紙に印刷）し、内表紙として挿入すること。
- (6) 卒業論文は指定された期間中〔2025年度は12月1日（月）～12月24日（水）（土日祝日除く）（最終日は午後5時まで）の予定〕に仏教学部事務室窓口に直接提出する。日時に遅れた場合は受理されない。なお、**論文提出に際して、不測の事故が起きて、提出が困難となった場合には、すみやかに指導教員に申し出て相談すること。**
- (7) 提出された論文について、口頭試問が行われる。止むを得ず欠席する場合は、指導教員の指示を受け、事前に試問を受けることもできる。

〔宗学科〕

タテ書き

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生 論文題目 仏教学部宗学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇	○ ○
---	------------

ヨコ書き（１）

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生 論文題目 仏教学部宗学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇	○ ○
---	------------

〔仏教学科〕

タテ書き

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生 論文題目 仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇	○ ○
--	------------

ヨコ書き（１）

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生 論文題目 仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇	○ ○
--	------------

5 卒業論文（卒業制作含む）の成績判定基準

1、宗学科

- (1) 宗学についての基本的理解と識見を修得しているか。
- (2) 先行研究の確認と参照は充分になされているか。
- (3) 資料の十分な検討がなされているか。引用は妥当であるか。
- (4) 十分な考察がなされているか。
- (5) 矛盾なく着実に論理が展開されているか。
- (6) 文章に誤字・脱字などはないか。
- (7) 文章表現は妥当であるか。
- (8) 記号の使い方は妥当であるか。
- (9) 注記の記載は妥当であるか。
- (10) 自律的に取り組んだか。
- (11) 口頭試問の成績。

ヨコ書き（２）

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生 論文題目 仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇	○ ○
--	-----

2、仏教学科

- (1) 仏教学およびその関連領域における基礎的理解をふまえ、専門分野に応じた適切な研究テーマの設定と調査・考察・表現の方法が修得されているか。
- (2) 各自の問題意識に対する調査と考察に当たって、主体的積極的な取り組みがなされ、論理的思考が行われているか。
- (3) 卒業制作においては、仏教美術作品の創作もしくは模作を通じて仏教精神を体感的に理解し、それが造形表現および論文に示されているか。
- (4) 矛盾なく着実に論理的記述が展開されているか。
- (5) 主題についての主要な研究書・研究論文が参照されているか。
- (6) 他者の文章や見解を引用・活用する際に典拠を明示しているか。
- (7) 文章表現や記号の使い方は妥当であるか。
- (8) 注記の記載は妥当であるか。
- (9) 口頭試問の成績。

6 卒業論文（卒業制作含む）の作成・提出・審査の流れ

- 1、学科・コースにおいて指導会が開催される。
- 2、卒業論文の分野・テーマを指定の期日までに提出する。
- 3、テーマに添って指導教員が決定される。
- 4、宗学科生は4年次の指定された期日までに中間報告書を提出する。
- 5、仏教学科生は4年次のゼミナールにおいて中間発表を行う。
- 6、卒業論文は指定された期間中に提出する。
- 7、卒業論文提出者は指定された期日に口頭試問を受ける。
- 8、指導教員による成績評価。
- 9、仏教学科では、全教員で審査し評価を確定する。

※上記の「5 卒業論文（卒業制作含む）の成績判定基準」「6 卒業論文（卒業制作含む）の作成・提出・審査の流れ」については、年度によって変更されることがあるので、毎年度配付される『講義案内 仏教学部』（シラバス）の該当箇所を必ず参照し、確認すること。

7 ポータルサイト・掲示による通知

仏教学部から学生への通知する事項が生じた場合、履修上の事項に限らず、ポータルサイトまたは所定の掲示板に掲示をもって行う。登下校の際は必ず所定の掲示板を確認すること。

4. 開設科目とその履修方法

【令和7（2025）年度入学】

宗 学 科	法華仏教コース
	日本宗教・文化コース
仏教学科	歴史・思想コース
	文化遺産・芸術コース

4 仏教学部〔令和7(2025)年度入学〕

1 卒業基準単位

仏教学部生〔令和7(2025)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次の通りである。

仏教学部の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上		
	発展教養科目			
	外国語科目	4 単位以上		
専 門 科 目	必 修 科 目	法華仏教コース	54単位	必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上
		日本宗教・文化コース	46単位	
		歴史・思想コース	46単位	
		文化遺産・芸術コース	46単位	
	選択必修科目	20単位以上		
	選 択 科 目			
合 計		124単位以上		

〈教養的科目〉は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上を修得。
〈専門科目〉は、必修科目（卒業論文8単位を含む）、選択必修科目、選択科目あわせて84単位以上を修得。さらに〈教養的科目〉と〈専門科目〉のいずれかの科目を加えて、合計124単位以上とすることが必要である。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の必修科目のうち、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

仏教学部生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。なお、年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限以内で、所定の第2期追加履修登録期間中に第2期開講科目を追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出る

ことができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は、「文献読解基礎演習〔英語〕1」・「文献読解基礎演習〔英語〕2」・「文献読解基礎演習〔古文漢文〕1」・「文献読解基礎演習〔古文漢文〕2」の4科目（開設表の中の※印科目）から2科目以上を含め、10科目20単位以上を修得しなければならない。

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

また、令和5（2023）年度以降入学生について、1年次終了時においてGPA3.5以上の者は2年次の履修登録年間単位数の上限を46単位とする。

学 年	年間 履修登録単位数の上限	第1期 履修登録単位数の上限	第2期 履修登録単位数の上限	備 考
1 年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2 年	42	24	24	
3 年	42	24	24	
4 年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学演習基礎1、仏教学演習基礎2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 在籍する学科・コース

在籍する学科・コースは3年次に進級する時に最終確定する。本学を卒業するためには、総単位数を満たすだけでなく、それぞれ学科・コースごとに設定されている必修・選択必修の科目指定や必要単位数等の卒業要件を満たす必要がある。

学科・コースの3年次からの所属については、次の①～③を基準にして総合的に判定される。

①2年次の所定の時期における各自の志望コース申請（第1志望～第3志望）

②1・2年次における学業の成績（累積GPA）

③教員免許状の取得を志す者は、希望する免許の種類（「中学社会」「中学宗教」「高校公民」「高校地歴」「高校宗教」）の別と、それに向けた資格科目の2年次までの修得状況および成績

入学時に考えている志望コースや卒業後の進路が、大学で学びを重ねるうちに自分の中で変化していくことも十分にあり得ることであるから、1・2年次の間は各コースの重点科目も幅広く学び、自己の可能性を広げていくように、学びの計画を立てていくことが大切である。そして、自らの進路を切り拓

くことができるものは、日頃からの積み重ねだけであることを深く自覚し、目標に向かって邁進してほしい。

8 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学部生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学部の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画を立てること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

〔令和7(2025)年度入学生〕 必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 ーは履修不可 自由は自由科目

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
統括	卒業論文	8	4	◆	◆	◆	◆	休		年間履修制限外科目
基幹系	ゼミナール 1	2	3	◆	◆	◆	◆	休		
	ゼミナール 2	2	3	◆	◆	◆	◆	休		
	ゼミナール 3	2	4	◆	◆	◆	◆	休		
	ゼミナール 4	2	4	◆	◆	◆	◆	休		
基礎系	仏教学演習基礎 1	2	1	◆	◆	◆	◆			
	仏教学演習基礎 2	2	1	◆	◆	◆	◆			
	日本語表現基礎	2	1							
	古文漢文表現基礎	2	1							
	文献読解基礎演習[古文漢文] 1	2	2	□	□	□	□	休		4科目のうち2科目以上 選択必修 同言語連続履修を推奨
	文献読解基礎演習[英語] 1	2	2	□	□	□	□	休		
	文献読解基礎演習[古文漢文] 2	2	2	□	□	□	□	休		
	文献読解基礎演習[英語] 2	2	2	□	□	□	□	休		
	法華仏教研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
	日本宗教・文化研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
	歴史・思想研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
	文化遺産・芸術研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
	ゼミナール基礎	2	2	◆	◆	◆	◆	休		
	仏教研究基礎 1	2	2	◆	◆	◆	◆	休		
	仏教研究基礎 2	2	2	◆	◆	◆	◆	休		
	人文科学とコンピュータ	2	2・3					休		
総合系	海外仏教文化研修 1	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	海外仏教文化研修 2	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	海外仏教文化研修 3	2	1・2・3・4							年間履修制限外科目*
	海外仏教文化研修 4	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	国内仏教文化研修 1	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	国内仏教文化研修 2	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	国内仏教文化研修 3	2	1・2・3・4							年間履修制限外科目*
	国内仏教文化研修 4	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	総合演習	2	4					休		
言語系	サンスクリット語初級Ⅰ	2	2			□		休		
	サンスクリット語初級Ⅱ	2	2			□		休		
	世界の言語と文化[中国語]	2	1・2					休		
	世界の言語と文化[ドイツ語]	2	1・2							
	世界の言語と文化[フランス語]	2	1・2							
	世界の言語と文化[ハングル語]	2	1・2							
	サンスクリット語中級	2	3・4			□		休		
	仏教聖典語 1	2	3・4	ー	ー			休		
思想系	仏教聖典語 2	2	3・4	ー	ー			休		
	仏教学概論 1	2	2	◆	◆	◆	◆	休		
	仏教学概論 2	2	2	◆	◆	◆	◆	休		
	インド仏教思想概論	2	2			◆	□	休		
	中国仏教思想概論	2	2			◆	□	休		
	法華思想史 1	2	3・4			□		休		
	法華思想史 2	2	3・4			□		休		
	仏教思想特講 1	2	2・3			□		休		
	仏教思想特講 2	2	2・3			□		休		
日本宗教系	仏教思想特講 3	2	3・4	ー	ー			休		
	仏教思想特講 4	2	3・4	ー	ー			休		
	禅学概論	2	2・3・4		□			休		
	浄土学概論	2	2・3・4		□			休		
真言系	真言学概論	2	2・3・4		□			休		

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 休講は「休」表示	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
日本宗教系	神 道 概 論	2	2・3・4		☐			休		
	日 本 宗 教 概 論	2	2	☐	◆			休		
	日 本 宗 教 思 想 特 講 1	2	2・3		☐			休		
	日 本 宗 教 思 想 特 講 2	2	2・3		☐			休		
歴 史 系	インド仏教史概論	2	2			◆	☐	休		
	仏教史特講1	2	2・3			☐		休		
	仏教史特講2	2	2・3			☐		休		
	仏教史特講3	2	3・4					休		
	仏教史特講4	2	3・4					休		
	中国仏教史概論	2	2			◆	☐	休		
	日本仏教史概論	2	2	☐	◆			休		メディア授業
	日本仏教史特講1	2	2・3		☐			休		
	日本仏教史特講2	2	2・3		☐			休		
	日本仏教文献演習	2	3・4	☐		－	－	休		
	仏教書誌学研究	2	3・4	☐		－	－	休		
	仏教古文書演習	2	3・4	☐		－	－	休		
文 化 系	日 本 宗 教 史	2	2・3・4		☐			休		
	文 化 遺 産 概 論	2	2			☐	◆	休		
	文 化 遺 産 特 講 1	2	2・3				☐	休		
	文 化 遺 産 特 講 2	2	3・4				☐	休		
	世界遺産研究1	2	2・3・4					休		
	世界遺産研究2	2	2・3・4					休		
	インド文化概論	2	2			☐	◆	休		
	東南アジア文化概論	2	2			☐	◆	休		
	中国文化概論	2	2			☐	◆	休		
	日本文化概論	2	2		◆			休		
	仏教文化特講1	2	2・3					休		
	仏教文化特講2	2	2・3					休		
	仏教文化特講3	2	3・4	－	－			休		
	仏教文化特講4	2	3・4	－	－			休		
	仏教考古学研究1	2	2・3・4					休		
	仏教考古学研究2	2	2・3・4					休		
	日本文化特講1	2	3・4		☐	－	－	休		
	日本文化特講2	2	3・4		☐	－	－	休		
芸 術 系	伝統文化研究1	2	2・3・4					休		
	伝統文化研究2	2	2・3・4					休		
	アジア美術史1	2	2・3				☐	休		
	アジア美術史2	2	2・3				☐	休		
	日本美術史1	2	2・3				☐	休		
	日本美術史2	2	2・3				☐	休		
	芸術研究1	2	2・3・4					休		
	芸術研究2	2	2・3・4					休		
	芸術実習基礎A～B	4	1				☐	Bのみ休		2時限連続授業
	芸術実習[仏像Ⅰ]A～B	4	2・3・4				☐	休		2時限連続授業 (芸術実習基礎を修得後の履修を推奨)
	芸術実習[仏画Ⅰ]	4	2・3・4				☐	休		
	芸術実習[仏像Ⅱ]A～B	4	4	－	－			休		2時限連続授業 (卒業制作指導)
	芸術実習[仏画Ⅱ]	4	4	－	－			休		
現代宗教系	宗 教 学	2	2・3		☐			休		
	宗 教 史	2	2・3		☐			休		
	現 代 宗 教 研 究	2	2	☐	◆			休		メディア授業
	現 代 宗 教 特 講 1	2	2・3		☐			休		
	現 代 宗 教 特 講 2	2	2・3		☐			休		
	現 代 宗 教 特 講 3	2	3・4		☐	－	－	休		

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
現代宗教系	現代宗教特講 4	2	3・4		☐	—	—	休		
	仏教カウンセリング	2	2・3・4	☐				休		メディア授業
	仏教デス・エデュケーション	2	2・3・4	☐				休		メディア授業
	宗教法人法	2	2・3・4	☐				休		メディア授業
日蓮 教 学 系	日蓮聖人伝 1	2	2	◆	☐			休		
	日蓮聖人伝 2	2	2	◆	☐			休		
	立正安国論講義 1	2	2・3	☐				休		
	立正安国論講義 2	2	2・3	☐				休		
	宗学概論 1	2	2	◆	☐			休		
	宗学概論 2	2	2	◆	☐			休		
	宗史概論 1	2	2・3	◆	☐			休		
	宗史概論 2	2	2・3	◆	☐			休		
	天台学概論 1	2	2・3	☐				休		メディア授業
	天台学概論 2	2	2・3	☐				休		メディア授業
	法華経概論 1	2	3	◆	☐			休		
	法華経概論 2	2	3	◆	☐			休		
	宗学史概論 1	2	3	☐		自由	自由	休		
	宗学史概論 2	2	3	☐		自由	自由	休		
	開目抄講義 1	2	3	☐		自由	自由	休		
	開目抄講義 2	2	3	☐		自由	自由	休		
他学部開講	観心本尊抄講義 1	2	4	☐		自由	自由	休		
	観心本尊抄講義 2	2	4	☐		自由	自由	休		
他学部開講	哲学とは何か A～B	2	2					休		
	倫理学とは何か A～B	2	2					休		

※「海外仏教文化研修3」「国内仏教文化研修3」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。

授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
			法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
Introduction to Cultures of the World 1(世界の文明1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2(世界の文明2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3(東アジア文化1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4(東アジア文化2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5(世界遺産1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6(世界遺産2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7(日本文化1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 8(日本文化2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 9(日本の歴史1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 10(日本の歴史2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 11(日本文化3)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12(日本文化4)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13(日本の歴史3)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14(日本の歴史4)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
中 国 語 I	1	2・3・4					休	Web	文学部開設、同言語Ⅰ、Ⅱ 同時履修が前提
中 国 語 II	1	2・3・4					休	Web	
中 国 語 III	1	2・3・4					休	Web	
中 国 語 IV	1	2・3・4					休	Web	
ド イ ツ 語 I	1	2・3・4					休	Web	文学部開設、同言語Ⅰ、Ⅱ 同時履修が前提
ド イ ツ 語 II	1	2・3・4					休	Web	
ド イ ツ 語 III	1	2・3・4					休	Web	
ド イ ツ 語 IV	1	2・3・4					休	Web	
フ ラ ン ス 語 I	1	2・3・4					休	Web	文学部開設、同言語Ⅰ、Ⅱ 同時履修が前提
フ ラ ン ス 語 II	1	2・3・4					休	Web	
フ ラ ン ス 語 III	1	2・3・4					休	Web	
フ ラ ン ス 語 IV	1	2・3・4					休	Web	
ハ ン グ ル 語 I	1	2・3・4					休	Web	文学部開設、同言語Ⅰ、Ⅱ 同時履修が前提
ハ ン グ ル 語 II	1	2・3・4					休	Web	
ハ ン グ ル 語 III	1	2・3・4					休	Web	
ハ ン グ ル 語 IV	1	2・3・4					休	Web	
哲学の基本諸問題	2	2					休	Web	文学部開設
倫理学の基本諸問題A～B	2	2					休	Web	文学部開設
キリスト教思想1	2	3・4					休	Web	文学部開設
キリスト教思想2	2	3・4					休	Web	文学部開設
民俗学1	2	3・4					休	Web	文学部開設
民俗学2	2	3・4					休	Web	文学部開設
家族社会学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
政治社会学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
都市社会学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*

授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
			法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
憲 法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*
民 法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*
ミクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*
マクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

令和7(2025)年度以降仏教学部入学生

3年生進級時にコースによって区分が変わる科目一覧(1・2年で修得しても下記の通り変わるので注意)

科目名	1・2年次	法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術
サンスクリット語初級Ⅰ	選択	選択	選択	選択必修	選択
サンスクリット語初級Ⅱ	選択	選択	選択	選択必修	選択
インド仏教思想概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
中国仏教思想概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
仏教思想特講1	選択	選択	選択	選択必修	選択
仏教思想特講2	選択	選択	選択	選択必修	選択
禅学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
浄土学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
真言学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
神道学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本宗教概論	選択	選択必修	必修	選択	選択
日本宗教思想特講1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本宗教思想特講2	選択	選択	選択必修	選択	選択
インド仏教史概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
中国仏教史概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
日本仏教史概論	選択	選択必修	必修	選択	選択
日本仏教史特講1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特講2	選択	選択	選択必修	選択	選択
仏教史特講1	選択	選択	選択	選択必修	選択
仏教史特講2	選択	選択	選択	選択必修	選択
日本宗教史	選択	選択	選択必修	選択	選択
文化遺産概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
文化遺産特講1	選択	選択	選択	選択	選択必修
インド文化概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
東南アジア文化概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
中国文化概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
日本文化概論	選択	選択	必修	選択	選択
アジア美術史1	選択	選択	選択	選択	選択必修
アジア美術史2	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史1	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史2	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習基礎	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習[仏像Ⅰ]	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習[仏画Ⅰ]	選択	選択	選択	選択	選択必修
宗教学	選択	選択	選択必修	選択	選択
宗教史	選択	選択	選択必修	選択	選択
現代宗教研究	選択	選択必修	必修	選択	選択
現代宗教特講1	選択	選択	選択必修	選択	選択
現代宗教特講2	選択	選択	選択必修	選択	選択
仏教カウンセリング	選択	選択必修	選択	選択	選択
仏教デス・エデュケーション	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗教法人法	選択	選択必修	選択	選択	選択
日蓮聖人伝1	選択	必修	選択必修	選択	選択
日蓮聖人伝2	選択	必修	選択必修	選択	選択
立正安国論講義1	選択	選択必修	選択	選択	選択
立正安国論講義2	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗学概論1	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗学概論2	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗史概論1	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗史概論2	選択	必修	選択必修	選択	選択
天台学概論1	選択	選択必修	選択	選択	選択
天台学概論2	選択	選択必修	選択	選択	選択

※各学科、コース毎の区分の違いなどは『学生要覧』や『仏教学部講義案内』(本書)にて各自きちんと確認すること。

5. 開設科目とその履修方法

【令和2（2020）～令和6（2024）年度入学】

宗 学 科 法華仏教コース

日本仏教コース

仏教学科 思想・歴史コース

文化・芸術コース

5 仏教学部〔令和2(2020)～6(2024)年度入学〕

1 卒業基準単位

仏教学部生〔令和2(2020)年度入学～6(2024)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

仏教学部の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上		
	発展教養科目			
	外国語科目	4 単位以上		
専 門 科 目	必 修 科 目	法華仏教コース	32単位	必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上
		日本仏教コース	28単位	
		思想・歴史コース	24単位	
		文化・芸術コース	24単位	
	選択必修科目	24単位以上		
	選 択 科 目			
合 計		124単位以上		

〈教養的科目〉は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上を修得。
〈専門科目〉は、必修科目（卒業論文8単位を含む）、選択必修科目、選択科目あわせて84単位以上を修得。さらに〈教養的科目〉と〈専門科目〉のいずれかの科目を加えて、合計124単位以上とすることが必要である。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の必修科目のうち、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

仏教学部生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。なお、年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限以内で、所定の第2期追加履修登録期間中に第2期開講科目を追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出る

ことができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は、「法華仏教研究入門」・「日本仏教研究入門」・「思想・歴史研究入門」・「文化・芸術研究入門」の4科目（開設表の中の※印科目）から2科目以上を含め、**12科目24単位以上**を修得しなければならない。

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

また、令和5（2023）年度以降入学生について、1年次終了時においてGPA3.5以上の者は2年次の履修登録年間単位数の上限を46単位とする。

学 年	年間 履修登録単位数の上限	第1期 履修登録単位数の上限	第2期 履修登録単位数の上限	備 考
1 年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2 年	42	24	24	
3 年	42	24	24	
4 年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学演習基礎1、仏教学演習基礎2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 在籍する学科・コース

在籍する学科・コースは3年次に進級する時に最終確定する。本学を卒業するためには、総単位数を満たすだけでなく、それぞれ学科・コースごとに設定されている必修・選択必修の科目指定や必要単位数等の卒業要件を満たす必要がある。

学科・コースの3年次からの所属については、次の①～③を基準にして総合的に判定される。

①2年次の所定の時期における各自の志望コース申請（第1志望～第3志望）

②1・2年次における学業の成績（累積GPA）

③教員免許状の取得を志す者は、希望する免許の種類（「中学社会」「中学宗教」「高校公民」「高校地歴」「高校宗教」）の別と、それに向けた資格科目の2年次までの修得状況および成績

入学時に考えている志望コースや卒業後の進路が、大学で学びを重ねるうちに自分の中で変化していくことも十分にあり得ることであるから、1・2年次の間は各コースの重点科目も幅広く学び、自己の可能性を広げていくように、学びの計画を立てていくことが大切である。そして、自らの進路を切り拓

くことができるものは、日頃からの積み重ねだけであることを深く自覚し、目標に向かって邁進してほしい。

8 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学部生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学部の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画を立てること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

〔令和2(2020)～令和6(2024)年度入学生〕必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 ーは履修不可 自由は自由科目

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術			
基礎・演習系	仏 教 学 演 習 基 礎 1	2	1	◆	◆	◆	◆			4科目のうち2科目以上 選択必修
	仏 教 学 演 習 基 礎 2	2	1	◆	◆	◆	◆			
	文献読解基礎演習1A～C	2	2	◆	◆	◆	◆			
	文献読解基礎演習2A～C	2	2	◆	◆	◆	◆			
	法華仏教研究入門	2	1	□	□	□	□			
	日本仏教研究入門	2	1	□	□	□	□			
	思想・歴史研究入門	2	1	□	□	□	□			
	文化・芸術研究入門	2	1	□	□	□	□			
	文 献 学 演 習 1	2	2・3	□	□	□	□			年間履修制限外科目 2025年度より 年間履修制限外科目 2025年度より 年間履修制限外科目* 2025年度より 年間履修制限外科目 2025年度より 年間履修制限外科目 2025年度より 年間履修制限外科目 2025年度より 年間履修制限外科目* 2025年度より 年間履修制限外科目 2025年度より
	文 献 学 演 習 2	2	2・3	□	□	□	□			
	文 献 学 演 習 3	2	2・3	□	□	□	□			
	文 献 学 演 習 4	2	2・3	□	□	□	□			
	海外仏教文化研修1	2	1・2・3・4					休		
	海外仏教文化研修2	2	1・2・3・4					休		
	海外仏教文化研修3	2	1・2・3・4					休		
	海外仏教文化研修4	2	1・2・3・4					休		
	国内仏教文化研修1	2	1・2・3・4					休		
	国内仏教文化研修2	2	1・2・3・4					休		
	国内仏教文化研修3	2	1・2・3・4					休		
	国内仏教文化研修4	2	1・2・3・4					休		
基幹・演習系	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	◆	◆	◆	◆			
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	◆	◆	◆	◆			
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	◆	◆	◆	◆			
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	4	◆	◆	◆	◆			
	卒 業 論 文	8	4	◆	◆	◆	◆			
言語・スキル系	サンスクリット語初級ⅠA～B	2	1・2			□	□	Bのみ休		
	サンスクリット語初級ⅡA	2	1・2			□	□			
	サンスクリット語初級Ⅱ	2	1・2			□	□			
	サンスクリット語中級Ⅰ	2	2・3			□	□			
	サンスクリット語中級Ⅱ	2	2・3			□	□			
	世界の言語と文化〔英語Ⅰ〕	2	1・2・3・4					休 休		
	世界の言語と文化〔英語Ⅱ〕	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化〔中国語Ⅰ〕	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化〔中国語Ⅱ〕	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化〔ドイツ語Ⅰ〕	2	1・2・3・4					休		
	世界の言語と文化〔ドイツ語Ⅱ〕	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化〔フランス語Ⅰ〕	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化〔フランス語Ⅱ〕	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化〔ハングル〕	2	1・2・3・4					休		
	世界の言語と文化〔ヒンディー語〕	2	1・2・3・4							
	人文科学とコンピュータ	2	2・3							
	日本仏教文献演習1	2	3・4		□	ー	ー			
	日本仏教文献演習2	2	3・4		□	ー	ー			
	仏教書誌学研究	2	3・4	□		ー	ー			
	仏教古文書演習	2	3・4	□		ー	ー			
	パーリ語入門	2	3・4	ー	ー	□				
	チベット語入門	2	3・4	ー	ー	□				
思想・思想史系	仏 教 学 概 論 1	2	2・3	□	□	□	□			
	仏 教 学 概 論 2	2	2・3	□	□	□	□			
	法華思想史 1	2	2・3・4			□	□			
	法華思想史 2	2	2・3・4			□	□			
	インド哲学仏教学特講 1	2	2・3・4			□		休		

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術			
思想・思想史系	インド哲学仏教学特講 2	2	2・3・4			☐		休		メディア授業 メディア授業
	インド哲学仏教学特講 3	2	3・4	－	－	☐				
	インド哲学仏教学特講 4	2	3・4	－	－	☐				
	インド思想史 1	2	3・4	－	－	☐		休		
	インド思想史 2	2	3・4	－	－	☐		休		
	天台学概論 1	2	2・3・4	☐	☐	☐				
	天台学概論 2	2	2・3・4	☐	☐	☐				
	禅学概論 1	2	2・3・4							
	禅学概論 2	2	2・3・4							
	浄土学概論 1	2	2・3・4					休		
	浄土学概論 2	2	2・3・4					休		
	真言学概論 1	2	2・3・4					休		
	真言学概論 2	2	2・3・4					休		
	日本仏教思想概論 2	2	2・3	☐	◆	☐	☐			
	日本仏教思想特講 1	2	2・3・4		☐					
仏教史系	日本仏教思想特講 2	2	2・3・4		☐					メディア授業
	日本仏教思想特講 3	2	3・4		☐	－	－			
	日本仏教思想特講 4	2	3・4		☐	－	－			
	インド仏教史 1	2	1	☐	☐	☐	☐			
	インド仏教史 2	2	2	☐	☐	☐	☐			
	中国仏教史 1	2	2・3	☐	☐	☐	☐			
	中国仏教史 2	2	2・3	☐	☐	☐	☐			
	日本仏教史概論 2	2	2・3	☐	◆	☐	☐			
	仏教史特講 1	2	2・3・4			☐	☐			
	仏教史特講 2	2	2・3・4			☐	☐			
文化・文化史系	仏教史特講 3	2	3・4	－	－	☐	☐			休
	日本仏教史特論 1	2	2・3・4		☐					
	日本仏教史特論 2	2	2・3・4		☐					
	日本仏教史特論 3	2	2・3・4		☐					
	日本仏教史特論 4	2	2・3・4		☐					
	アジア文化史 1	2	1・2	☐	☐	☐	☐	休		
	アジア文化史 2	2	1・2	☐	☐	☐	☐	休		
	東洋文化史 1	2	1・2	☐	☐	☐	☐			
	東洋文化史 2	2	1・2	☐	☐	☐	☐			
	日本文化史概論 2	2	1・2	☐	☐	☐	☐	休		
	世界の宗教地理 1	2	2・3・4			☐	☐			
	世界の宗教地理 2	2	2・3・4			☐	☐			
	仏教文化史特講 1	2	2・3・4				☐			
	仏教文化史特講 2	2	2・3・4				☐			
	仏教文化史特講 3	2	3・4	－	－		☐			
美術史・文化財・伝統文化系	仏教考古学研究 1	2	2・3・4					休		
	仏教考古学研究 2	2	2・3・4							
	日本文化特講 1	2	2・3・4		☐					
	日本文化特講 2	2	2・3・4		☐					
	日本文化史特講 1	2	2・3・4		☐					
	日本文化史特講 2	2	2・3・4		☐					
	アジア美術史 1	2	2・3				☐			
	アジア美術史 2	2	2・3				☐			
	日本美術史 1	2	2・3				☐			
	日本美術史 2	2	2・3				☐			
	文化財論 1	2	2・3・4				☐			
	文化財論 2	2	2・3・4				☐			
	文化財論 3	2	3・4	－	－		☐			
	文化財研究 1	2	2・3・4							
	文化財研究 2	2	2・3・4							

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術			
美術史・文化財・伝統文化系	芸 術 研 究 2	2	2・3・4							
	芸 術 研 究 3	2	2・3・4							
	芸 術 研 究 4	2	2・3・4							
	芸 術 研 究 5	2	2・3・4					休		
芸術実習系	芸術実習基礎 A～B	4	1・2				☐			2 時限連続授業
	芸術実習[仏像Ⅰ] A～B	4	2・3	自由	自由			B のみ休		2 時限連続授業 (芸術実習基礎を修得してからの履修を推奨)
	芸術実習[仏画Ⅰ]	4	2・3	自由	自由					
	芸術実習[仏像Ⅱ] A～B	4	4	－	－					2 時限連続授業 (卒業制作指導)
	芸術実習[仏画Ⅱ]	4	4	－	－					
比較文化系	比較思想論	2	3・4	－	－	☐				
	比較文化特講	2	3・4	－	－		☐			
	比較宗教文化論	2	3・4	－	－		☐			
宗教学・現代宗教系	宗教とは何か	2	2・3・4							
	宗教の史的展開	2	2・3・4							
	宗教哲学	2	2・3・4							
	現代宗教研究	2	2・3・4	☐	☐			休		メディア授業
	宗教社会学	2	2・3・4							
	宗教心理学	2	2・3・4							
	仏教カウンセリング	2	2・3・4	☐						メディア授業
	仏教デス・エデュケーション	2	2・3・4	☐						メディア授業 メディア授業 メディア授業
日蓮教学系	宗教法人法	2	2・3・4	☐						
	日本社会と宗教	2	3・4		☐	－	－			
	日蓮聖人伝 1	2	2	☐	☐					
	日蓮聖人伝 2	2	2	☐	☐					
	立正安国論講義 1	2	2・3	☐						
	立正安国論講義 2	2	2・3	☐						
	宗学概論 1	2	2	◆	☐					
	宗学概論 2	2	2	◆	☐					
	宗史概論 1	2	2・3	☐						
	宗史概論 2	2	2・3	☐						
	法華経概論 1	2	3	◆	☐					
	法華経概論 2	2	3	◆	☐					
	宗学史概論 1	2	3	☐		自由	自由			
	宗学史概論 2	2	3	☐		自由	自由			
	開目抄講義 1	2	3	☐		自由	自由			
	開目抄講義 2	2	3	☐		自由	自由			
学際領域系	観心本尊抄講義 1	2	4	☐		自由	自由			
	観心本尊抄講義 2	2	4	☐		自由	自由			
	哲学とは何か A～B	2	2							
	倫理学とは何か A～B	2	2							
	心理学概論Ⅰ	2	3・4							メディア授業
	心理学概論Ⅱ	2	3・4							

※「海外仏教文化研修3」「国内仏教文化研修3」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。

授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
			法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術			
Introduction to Cultures of the World 1〈世界の文明1〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2〈世界の文明2〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3〈東アジア文化1〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4〈東アジア文化2〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5〈世界遺産1〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6〈世界遺産2〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7〈日本文化1〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 8〈日本文化2〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 9〈日本の歴史1〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 10〈日本の歴史2〉	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 11〈日本文化3〉	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12〈日本文化4〉	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13〈日本の歴史3〉	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14〈日本の歴史4〉	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
哲 学 の 基 本 諸 問 題	2	2							文学部開設
倫理学の基本諸問題A	2	2					休		文学部開設
倫理学の基本諸問題B	2	2							文学部開設
キ リ ス ト 教 思 想 1	2	3・4					休		文学部開設
キ リ ス ト 教 思 想 2	2	3・4					休		文学部開設
民 俗 学 1	2	3・4							文学部開設
民 俗 学 2	2	3・4							文学部開設
家 族 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
政 治 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	文学部開設*
都 市 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
憲 法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*
民 法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*
ミクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*
マクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*

メディア授業

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

令和2（2020）年度から令和6（2024）年度仏教学部入学生

3年生進級時にコースによって区分が変わる科目一覧（1・2年で修得しても下記の通り変わるので注意）

科目名	1・2年次	法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術
サンスクリット語初級Ⅰ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
サンスクリット語初級Ⅱ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
サンスクリット語中級Ⅰ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
サンスクリット語中級Ⅱ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
法華思想史 1	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
法華思想史 2	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
インド哲学仏教学特講 1	選択	選択	選択	選択必修	選択
インド哲学仏教学特講 2	選択	選択	選択	選択必修	選択
天台学概論 1	選択	選択必修	選択必修	選択必修	選択
天台学概論 2	選択	選択必修	選択必修	選択必修	選択
日本仏教思想概論	選択必修	選択必修	必修	選択必修	選択必修
日本仏教思想特講 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教思想特講 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史概論	選択必修	選択必修	必修	選択必修	選択必修
仏教史特講 1	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
仏教史特講 2	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
日本仏教史特論 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特論 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特論 3	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特論 4	選択	選択	選択必修	選択	選択
世界の宗教地理 1	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
世界の宗教地理 2	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
仏教文化史特講 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
仏教文化史特講 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本文化特講 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本文化特講 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本文化史特講 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本文化史特講 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
アジア美術史 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
アジア美術史 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
文化財論 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
文化財論 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習基礎	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習〔仏像Ⅰ〕	自由科目	自由科目	自由科目	選択	選択
芸術実習〔仏画Ⅰ〕	自由科目	自由科目	自由科目	選択	選択
現代宗教研究	選択	選択必修	選択必修	選択	選択
仏教カウンセリング	選択	選択必修	選択	選択	選択
仏教デス・エデュケーション	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗教法人法	選択	選択必修	選択	選択	選択
日蓮聖人伝 1	選択	選択必修	選択必修	選択	選択
日蓮聖人伝 2	選択	選択必修	選択必修	選択	選択
立正安国論講義 1	選択	選択必修	選択	選択	選択
立正安国論講義 2	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗学概論 1	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗学概論 2	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗史概論 1	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗史概論 2	選択	選択必修	選択	選択	選択

※各学科、コース毎の区分の違いなどは『学生要覧』や『仏教学部講義案内』（本書）にて各自きちんと確認すること。

6. 開設科目とその履修方法

【平成31（2019）年度入学】

宗 学 科 法華仏教コース

日本仏教コース

6 宗学科〔平成31(2019)年度入学生〕

1 卒業基準単位

宗学科生〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

宗学科の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上	
	発展教養科目		
	外国語科目	4 単位以上	
専 門 科 目	必 修 科 目	28単位	必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上
	選択必修科目	24単位以上	
	選 択 科 目		
合 計		124単位以上	

教養的科目は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上、専門科目は、卒業論文8単位を含め、必修科目（28単位）、選択必修科目（24単位以上）、選択科目あわせて84単位以上、合計124単位以上である。

例えば、一般教育科目24単位、外国語科目4単位、専門科目の必修科目28単位（卒業論文含む）、選択必修科目42単位、選択科目26単位を修得すれば、合計124単位となり卒業要件を満たす。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

一般教育科目の「キャリア開発基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目中、1科目2単位以上が**選択必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

宗学科生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。**第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。**なお、年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限以内で、所定の第2期追加履修登録期間中に第2期開講科目を追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出ることができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を

行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は12科目24単位以上を修得しなければならない。

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

学 年	年間 履修登録単位数の上限	第1期 履修登録単位数の上限	第2期 履修登録単位数の上限	備 考
1 年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2 年	42	24	24	
3 年	42	24	24	
4 年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 宗学基礎演習1、宗学基礎演習2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。宗学科生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を宗学科の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画を立てること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 一は履修不可 自由は自由科目

平成31(2019)年度入学 宗学科

授 業 科 目	単位	履修年次	区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
			法華仏教	日本仏教			
仏教史特講	3	2		☐			
仏教史特講	4	2		☐	休		
法華思想史	1	2					
法華思想史	2	2					
サンスクリット語初級Ⅰ(宗学科)	2	1					
サンスクリット語初級Ⅱ(宗学科)	2	1					
サンスクリット語中級Ⅰ	2	2					
サンスクリット語中級Ⅱ	2	2					
インド哲学仏教特講	1	2			休		
インド哲学仏教特講	2	2					
インド哲学仏教特講	3	2					
インド哲学仏教特講	4	2					
世界の宗教地理	1	2					
世界の宗教地理	2	2					
日本文化史	1	2		☐	休		
日本文化史	2	2		☐	休		
東洋文化史	1	2					
東洋文化史	2	2					
アジア文化史	1	2			休		
アジア文化史	2	2			休		
仏教文化史特講	1	2					
仏教文化史特講	2	2					
仏教文化史特講	3	2					
仏教文化史特講	4	2			休		
アジア美術史	1	2			休		
アジア美術史	2	2					
日本美術史	1	2					
日本美術史	2	2					
芸術研究	1	2					
芸術研究	2	2					
芸術研究	3	2					
芸術研究	4	2					
芸術研究	5	2			休		
芸術実習基礎A～B	4	1・2			休		
文化財財論	1	2			休		
文化財財論	2	2			休		
文化財修復概説	2	2					
海外仏教文化研修	1	2			休	年間履修制限外科目	2025年度より
海外仏教文化研修	2	2			休	年間履修制限外科目	2025年度より
海外仏教文化研修	3	2				年間履修制限外科目*	2025年度より
海外仏教文化研修	4	2			休	年間履修制限外科目	2025年度より
国内仏教文化研修	1	2			休	年間履修制限外科目	2025年度より
国内仏教文化研修	2	2			休	年間履修制限外科目	2025年度より
国内仏教文化研修	3	2				年間履修制限外科目*	2025年度より
国内仏教文化研修	4	2			休	年間履修制限外科目	2025年度より
世界の言語と文化[英語Ⅰ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	1・2・3・4			休		
世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	1・2・3・4			休		
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	1・2・3・4			休		
世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[ハンダール]	2	1・2・3・4					

授 業 科 目	単位	履修年次	区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
			法華仏教	日本仏教			
世界の言語と文化〔ヒンディー語〕	2	1・2・3・4			休		
人文科学とコンピュータ	2	2					
仏教カウンセリング	2	2・3・4					メディア授業
仏教デス・エデュケーション	2	2・3・4					メディア授業
現代宗教研究	2	2・3・4					メディア授業
宗教法	2	2・3・4			休		メディア授業
社会と宗教 1	2	2・3・4					
社会と宗教 2	2	2・3・4					
宗教とは何か	2	2・3・4					
宗教の文化	2	2・3・4					
宗教の史的展開	2	2・3・4					
宗教文化史概論	2	2・3・4					
宗教社会学	2	2・3・4					
宗教哲学	2	2・3・4			休		
宗教心理学	2	2・3・4					
哲学とは何か A ～ B	2	2					他学部開講科目
倫理学とは何か A ～ B	2	2					他学部開講科目
心理学概論 I	2	3・4					他学部開講科目 メディア授業
心理学概論 II	2	3・4					他学部開講科目

※「海外仏教文化研修3」「国内仏教文化研修3」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。

授 業 科 目	単位	履修年次	区分		開講有無 (休講は「休」表示)	講義概要 参照方法	備考
			法華仏教	日本仏教			
Introduction to Cultures of the World 1 〈 世 界 の 文 明 1 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2 〈 世 界 の 文 明 2 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3 〈 東 ア ジ ア 文 化 1 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4 〈 東 ア ジ ア 文 化 2 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5 〈 世 界 遺 産 1 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6 〈 世 界 遺 産 2 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7 〈 日 本 文 化 1 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 8 〈 日 本 文 化 2 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 9 〈 日 本 の 歴 史 1 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 10 〈 日 本 の 歴 史 2 〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 11 〈 日 本 文 化 3 〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12 〈 日 本 文 化 4 〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13 〈 日 本 の 歴 史 3 〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14 〈 日 本 の 歴 史 4 〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
哲 学 の 基 本 諸 問 題	2	2					文学部開設
倫 理 学 の 基 本 諸 問 題 A	2	2			休		
倫 理 学 の 基 本 諸 問 題 B	2	2					文学部開設
キ リ ス ト 教 思 想 1	2	3・4			休		文学部開設
キ リ ス ト 教 思 想 2	2	3・4			休		文学部開設
民 俗 学 1	2	3・4					文学部開設
民 俗 学 2	2	3・4					文学部開設
家 族 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	休	Web	文学部開設*
政 治 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由		Web	文学部開設*
都 市 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	休	Web	文学部開設*
憲 法	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*
民 法	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*
ミ ク ロ 経 済 学 基 礎 A	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*
マ ク ロ 経 済 学 基 礎 A	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*

メディア授業

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

7. 開設科目とその履修方法

【平成29（2017）～平成31（2019）年度入学】

仏教学科 思想・歴史コース

文化・芸術コース

7 仏教学科〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕

1 卒業基準単位

仏教学科生〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

仏教学科の卒業基準単位

教養的 科 目	一 般 教 育 科 目	20単位以上	
	発 展 教 養 科 目		
	外 国 語 科 目	4 単位以上	
専 門 科 目	必 修 科 目	24単位	必修・選択必修1群・ 選択必修2群・選択・ 関連領域をあわせて 84単位以上
	選択必修科目1群	24単位以上	
	選択必修科目2群	8単位以上（2018、2019年度入学生） 16単位以上（2017年度入学生）	
	選 択 科 目		
	関 連 領 域 科 目		
合 計		124単位以上	

教養の科目は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上、専門科目は、卒業論文8単位を含め、必修科目（24単位）、選択必修科目1群（24単位以上）、選択必修科目2群（2017年度入学生は16単位以上。2018、2019年度入学生は8単位以上）、選択科目、関連領域科目あわせて84単位以上、合計124単位以上である。

例えば、一般教育科目24単位、外国語科目4単位、専門科目の必修科目24単位（卒論含む）、選択必修科目44単位、選択科目28単位を修得すれば、合計124単位となり卒業要件を満たす。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

一般教育科目の「キャリア開発基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目中、1科目2単位以上が**選択必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

仏教学科生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養の科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、年度の半期で開講される形態であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。なお、年間履修登録単位数の上限以内で第2期開講科目を所定の第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期

の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出ることができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は1群と2群に分かれる。各コースの必要単位数は次表のとおりである。

コース	選択必修1群	選択必修2群 (2017年度入学生)	選択必修2群 (2018、2019年度入学生)
思想・歴史 コース	20科目40単位中	18科目36単位中 8科目16単位以上	15科目30単位中 8単位以上
文化・芸術 コース	12科目24単位以上	19科目40単位中 8科目16単位以上	15科目32単位中 8単位以上

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

学 年	年間 履修登録単位数の上限	第1期 履修登録単位数の上限	第2期 履修登録単位数の上限	備 考
1 年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2 年	42	24	24	
3 年	42	24	24	
4 年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学基礎演習1、仏教学基礎演習2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学科生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学科の専門科目（関連領域科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画をたてること。

- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕 仏教学科《思想・歴史コース及び文化・芸術コース》

必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 ーは履修不可 自由は自由科目

授 業 科 目	単位	履修年次	区分		開講有無 (休講は「休」表示)	備考
			思想・歴史	文化・芸術		
●統括科目						
卒業論文	8	4	◆	◆		
●基礎・演習系						
仏教学基礎演習1	2	1	◆	◆		
仏教学基礎演習2	2	1	◆	◆		
仏教学基礎演習3 A～C	2	2	◆	◆		
仏教学基礎演習4 A～D	2	2	◆	◆		
ゼミナール1	2	3	◆	◆		
ゼミナール2	2	3	◆	◆		
ゼミナール3	2	4	◆	◆		
ゼミナール4	2	3	◆	◆		
海外仏教文化研修1	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
海外仏教文化研修2	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
海外仏教文化研修3	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目* 2025年度より
海外仏教文化研修4	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
国内仏教文化研修1	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
国内仏教文化研修2	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
国内仏教文化研修3	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目* 2025年度より
国内仏教文化研修4	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
●言語・スキル系						
サンスクリット語初級Ⅰ(仏教学科)	2	1	□1群	□1群		
サンスクリット語初級Ⅱ(仏教学科)	2	1	□1群	□1群		
サンスクリット語中級Ⅰ	2	2	□1群	□1群		
サンスクリット語中級Ⅱ	2	2	□1群	□1群		
世界の言語と文化[英語Ⅰ]	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	1・2・3・4			休	
世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	1・2・3・4			休	
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[ハンガール]	2	1・2・3・4			休	
世界の言語と文化[ヒンディー語]	2	1・2・3・4				
人文科学とコンピュータ	2	2・3				
●基礎・基幹系						
アジア文化史1	2	1	□1群	□1群	休	
アジア文化史2	2	1	□1群	□1群	休	
東洋文化史1	2	1	□1群	□1群		
東洋文化史2	2	1	□1群	□1群		
日本文化史1	2	1	□1群	□1群	休	
日本文化史2	2	1	□1群	□1群	休	
インド仏教史1	2	1	□1群	□1群		
インド仏教史2	2	2	□1群	□1群		
中国仏教史1	2	2	□1群	□1群		
中国仏教史2	2	2	□1群	□1群		
日本仏教史1	2	2	□1群	□1群		
日本仏教史2	2	2	□1群	□1群		
仏教概論1	2	2	□1群	□1群		
仏教概論2	2	2	□1群	□1群		
法華思想史1	2	2	□1群	□1群		
法華思想史2	2	2	□1群	□1群		

メディア授業

授 業 科 目	単位	履修年次	区分		開講有無 (休講は「休」表示)	備考
			思想・歴史	文化・芸術		
●言語系						
パ ー リ 語 入 門	2	2・3	☐ 2 群			
チ ベ ッ ト 語 入 門	2	2・3	☐ 2 群			
●思想・思想史系						
イ ン ド 思 想 史 1	2	2・3	☐ 2 群		休	
イ ン ド 思 想 史 2	2	2・3	☐ 2 群		休	
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 1	2	2・3	☐ 2 群		休	
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 2	2	2・3	☐ 2 群		休	
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 3	2	2・3	☐ 2 群			
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 4	2	2・3	☐ 2 群			
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 5	2	2・3	☐ 2 群		休	2017年度入学生のみ履修可能
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 6	2	2・3	☐ 2 群		休	2017年度入学生のみ履修可能
仏 教 史 特 講 1	2	2・3	☐ 2 群			
仏 教 史 特 講 2	2	2・3	☐ 2 群			
仏 教 史 特 講 3	2	2・3	☐ 2 群			
仏 教 史 特 講 4	2	2・3	☐ 2 群		休	
天 台 学 概 論 1	2	2・3	☐ 2 群			メディア授業
天 台 学 概 論 2	2	2・3	☐ 2 群			メディア授業
比 較 思 想 論 1	2	2・3	☐ 2 群			2017年度入学生は履修不可
比 較 思 想 論 2	2	2・3	☐ 2 群		休	2017年度入学生のみ履修可能
比 較 思 想 論 2	2	2・3	☐ 2 群			2017年度入学生のみ履修可能
●各宗派教学・教団史系						
禅 学 概 論 1	2	2・3・4				
禅 学 概 論 2	2	2・3・4				
浄 土 学 概 論 1	2	2・3・4			休	
浄 土 学 概 論 2	2	2・3・4			休	
真 言 学 概 論 1	2	2・3・4			休	
真 言 学 概 論 2	2	2・3・4			休	
日 本 仏 教 思 想 特 講 1	2	3・4				
日 本 仏 教 思 想 特 講 2	2	3・4				
日 本 仏 教 史 特 講 1	2	3・4				
日 本 仏 教 史 特 講 2	2	3・4				
●文化史・文化財系						
ア ジ ア 美 術 史 1	2	2・3		☐ 2 群		
ア ジ ア 美 術 史 2	2	2・3		☐ 2 群		
日 本 美 術 史 1	2	2・3		☐ 2 群		
日 本 美 術 史 2	2	2・3		☐ 2 群		
世 界 の 宗 教 地 理 1	2	2・3		☐ 2 群		
世 界 の 宗 教 地 理 2	2	2・3		☐ 2 群		
仏 教 文 化 史 特 講 1	2	2・3		☐ 2 群		
仏 教 文 化 史 特 講 2	2	2・3		☐ 2 群		
仏 教 文 化 史 特 講 3	2	2・3		☐ 2 群		
仏 教 文 化 史 特 講 4	2	2・3		☐ 2 群	休	
仏 教 文 化 史 特 講 5	2	2・3		☐ 2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
仏 教 文 化 史 特 講 6	2	2・3		☐ 2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
比 較 文 化 特 講 1	2	2・3		☐ 2 群		2017年度入学生は履修不可
比 較 文 化 特 講 2	2	2・3		☐ 2 群		2017年度入学生のみ履修可能
比 較 宗 教 文 化 論 1	2	2・3		☐ 2 群	休	2017年度入学生は履修不可
比 較 宗 教 文 化 論 2	2	2・3		☐ 2 群		2017年度入学生のみ履修可
文 化 財 論 1	2	2・3		☐ 2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
文 化 財 論 2	2	2・3		☐ 2 群		
仏 教 考 古 学 研 究 1	2	2・3・4				
仏 教 考 古 学 研 究 2	2	2・3・4			休	

授 業 科 目	単位	履修年次	区 分		開講有無 (休講は「休」表示)	備 考
			思想・歴史	文化・芸術		
文 化 財 修 復 概 説	2	2・3・4				2017年度入学生は履修不可
文 化 財 修 復 概 説 Ⅰ	2	2・3・4				2017年度入学生のみ履修可能
文 化 財 修 復 概 説 Ⅱ	2	2・3・4			休	2017年度入学生のみ履修可能
●芸術実習系						
芸 術 実 習 基 礎 A ～ B	4	1・2		□ 2 群		2 時限連続授業
芸 術 実 習 [仏 像 Ⅰ] A ～ B	4	2・3				2 時限連続授業 (芸術実習基礎を修得してからの履修を推奨)
芸 術 実 習 [仏 画 Ⅰ]	4	2・3				
芸 術 実 習 [仏 像 Ⅱ] A ～ B	4	4				2 時限連続授業 (卒業制作指導)
芸 術 実 習 [仏 画 Ⅱ]	4	4				
●宗教学系						
宗 教 と は 何 か	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗 教 の 文 化	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗 教 の 史 的 展 開	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗 教 文 化 史 概 論	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗 教 哲 学	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
●現代宗教系						
宗 教 社 会 学	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗 教 心 理 学	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
社 会 と 宗 教 Ⅰ	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
社 会 と 宗 教 Ⅱ	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ	2	2・3・4	関連領域	関連領域		メディア授業
仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	2	2・3・4	関連領域	関連領域		メディア授業
●伝統文化系						
芸 術 研 究 Ⅰ	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
芸 術 研 究 Ⅱ	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
芸 術 研 究 Ⅲ	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
芸 術 研 究 Ⅳ	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
芸 術 研 究 Ⅴ	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
●日蓮教学系						
日 蓮 聖 人 伝 Ⅰ	2	2	関連領域	関連領域		
日 蓮 聖 人 伝 Ⅱ	2	2	関連領域	関連領域		
宗 学 概 論 Ⅰ	2	2	関連領域	関連領域		
宗 学 概 論 Ⅱ	2	2	関連領域	関連領域		
宗 史 概 論 Ⅰ	2	2	関連領域	関連領域		
宗 史 概 論 Ⅱ	2	2	関連領域	関連領域		
法 華 経 概 論 Ⅰ	2	3	関連領域	関連領域		
法 華 経 概 論 Ⅱ	2	3	関連領域	関連領域		
宗 学 史 概 論 Ⅰ	2	3	関連領域	関連領域		
宗 学 史 概 論 Ⅱ	2	3	関連領域	関連領域		
立 正 安 国 論 講 義 Ⅰ	2	2	関連領域	関連領域		
立 正 安 国 論 講 義 Ⅱ	2	2	関連領域	関連領域		
開 目 抄 講 義 Ⅰ	2	3	関連領域	関連領域		
開 目 抄 講 義 Ⅱ	2	3	関連領域	関連領域		
観 心 本 尊 抄 講 義 Ⅰ	2	4	関連領域	関連領域		
観 心 本 尊 抄 講 義 Ⅱ	2	4	関連領域	関連領域		
現 代 宗 教 研 究	2	2	関連領域	関連領域		メディア授業
●他学部開講科目						
哲 学 と は 何 か A ～ B	2	2	関連領域	関連領域		他学部開講科目
倫 理 学 と は 何 か A ～ B	2	2	関連領域	関連領域		他学部開講科目
心 理 学 概 論 Ⅰ	2	3・4	関連領域	関連領域		他学部開講科目 メディア授業
心 理 学 概 論 Ⅱ	2	3・4	関連領域	関連領域		他学部開講科目

※「海外仏教文化研修3」「国内仏教文化研修3」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部仏教学科の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。
 なお、講義概要は Web シラバス検索にて確認すること。

授 業 科 目	単位	履修年次	区分		開講有無 (休講は「休」表示)	備考
			思想・歴史	文化・芸術		
Introduction to Cultures of the World 1 〈 世 界 の 文 明 1 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2 〈 世 界 の 文 明 2 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3 〈 東 ア ジ ア 文 化 1 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4 〈 東 ア ジ ア 文 化 2 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5 〈 世 界 遺 産 1 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6 〈 世 界 遺 産 2 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7 〈 日 本 文 化 1 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 8 〈 日 本 文 化 2 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 9 〈 日 本 の 歴 史 1 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 10 〈 日 本 の 歴 史 2 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 11 〈 日 本 文 化 3 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12 〈 日 本 文 化 4 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13 〈 日 本 の 歴 史 3 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14 〈 日 本 の 歴 史 4 〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
哲 学 の 基 本 諸 問 題	2	2	関連領域	関連領域		文学部開設
倫 理 学 の 基 本 諸 問 題 A ～ B	2	2	関連領域	関連領域	Aのみ休	文学部開設
キ リ ス ト 教 思 想 1	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
キ リ ス ト 教 思 想 2	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
民 俗 学 1	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
民 俗 学 2	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
家 族 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	休	文学部開設*
政 治 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由		文学部開設*
都 市 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	休	文学部開設*
憲 法	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*
民 法	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*
ミ ク ロ 経 済 学 基 礎 A	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*
マ ク ロ 経 済 学 基 礎 A	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*

メディア授業

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

8. 僧階講座開設科目とその履修方法

8-1 僧階講座開設表〔令和2(2020)年度以降入学生〕

区分	講義コード	授 業 科 目	単位	学年	備 考
1	11A0103200	開 目 抄 講 義 1	2	3	「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています
2	11A0103300	開 目 抄 講 義 2	2	3	
3	11A0103400	観 心 本 尊 抄 講 義 1	2	4	
4	11A0103500	観 心 本 尊 抄 講 義 2	2	4	
5	11A0102400	宗 学 概 論 1	2	2	「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています
6	11A0102500	宗 学 概 論 2	2	2	
7	11A0102800	日 蓮 聖 人 伝 1	2	2	
8	11A0102900	日 蓮 聖 人 伝 2	2	2	
9	11A0103800	宗 史 概 論 1	2	2・3	
10	11A0103900	宗 史 概 論 2	2	2・3	
11	11A0104000	宗 学 史 概 論 1	2	3	
12	11A0104100	宗 学 史 概 論 2	2	3	
13	11A0102600	法 華 経 概 論 1	2	3	
14	11A0102700	法 華 経 概 論 2	2	3	
15	11A0104400	日 本 仏 教 史 概 論	2	2	メディア授業
16	11A0103600	仏 教 学 概 論 1	2	2	メディア授業
17	11A0104200	天 台 学 概 論 1	2	2・3	
18	11A0104300	天 台 学 概 論 2	2	2・3	
19	11A0114400	現 代 宗 教 研 究	2	2	
20	11A0114500	宗 教 法 人 法	2	2・3・4	
21	11A0114200	仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ	2	2・3・4	
22	11A0114300	仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	2	2・3・4	
23	16A0170300	教 化 学 1	2	2・3・4	
24	16A0170400	教 化 学 2	2	2・3・4	
25	16A0170001	法 要 実 習 1	1	2	
26	16A0170101	法 要 実 習 2	1	2	

仏教学部開設科目と共通

- ・ 1～26の26科目50単位を修得すること。
- ・ 学年指定に注意すること。
- ・ 2年次編転入学生は、令和3年度の編転入学者より適用する。
- ・ 3年次編転入学生は、令和4年度の編転入学者より適用する。
- ・ 科目等履修生は、令和3年度受講開始者より適用する。
- ・ 大学院に在学し、新たに僧階講座を履修するものは、令和3年度入学者より適用する。

8-2 僧階講座開設表〔平成27(2015)～平成31(2019)年度入学生〕

区分	講義コード	授 業 科 目	単位	学年	備 考
1	11A0103200	開 目 抄 講 義 1	2	3	「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています 「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています
2	11A0103300	開 目 抄 講 義 2	2	3	
3	11A0103400	観 心 本 尊 抄 講 義 1	2	4	
4	11A0103500	観 心 本 尊 抄 講 義 2	2	4	
5	11A0102400	宗 学 概 論 1	2	2	メディア授業
6	11A0102500	宗 学 概 論 2	2	2	
7	11A0102800	日 蓮 聖 人 伝 1	2	2	
8	11A0102900	日 蓮 聖 人 伝 2	2	2	
9	11A0103800	宗 史 概 論 1	2	2	
10	11A0103900	宗 史 概 論 2	2	2	
11	11A0104000	宗 学 史 概 論 1	2	3	
12	11A0104100	宗 学 史 概 論 2	2	3	
13	11A0102600	法 華 経 概 論 1	2	3	
14	11A0102700	法 華 経 概 論 2	2	3	
15	11A0104400	日 本 仏 教 史 1	2	2	メディア授業
16	11A0103600	仏 教 学 概 論 1	2	2	
17	11A0104200	天 台 学 概 論 1	2	2・3	
18	11A0104300	天 台 学 概 論 2	2	2・3	
19	11A0114400	現 代 宗 教 研 究 2	2	2・3・4	
20	11A0114500	宗 教 法 人 法 2	2	2・3・4	
21	11A0114200	仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ 2	2	2・3・4	
22	11A0114300	仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン 2	2	2・3・4	
23	16A0170300	教 化 学 1	2	2・3・4	
24	16A0170400	教 化 学 2	2	2・3・4	
25	16A0170001	法 要 実 習 1	1	2	メディア授業
26	16A0170101	法 要 実 習 2	1	2	

仏教学部開設科目と共通

- ・ 1～26の26科目50単位を修得すること。
- ・ 学年指定に注意すること。
- ・ 2年次編転入学生は、平成28年度の編転入学者より適用する。
- ・ 3年次編転入学生は、平成29年度の編転入学者より適用する。
- ・ 科目等履修生は、平成28年度受講開始者より適用する。
- ・ 大学院に在学し、新たに僧階講座を履修するものは、平成28年度入学者より適用する。

9. 仏教学部開設一般教育科目について

凡 例

- ① 科目名が同一であっても、担当者などにより、講義内容が異なることもあるので、注意すること。
- ② 入学年度により履修可能科目が異なるので、十分に注意すること。

9 一般教育科目

一般教育科目（仏教学部生のクラスとして指定されている授業）

授 業 科 目	開 講 形 態	単 位	備 考
英語 1 A、B	1 期	1	
英語 2 A、B	2 期	1	
英語 3 A、B	1 期	1	
英語 4 A、B	2 期	1	
学修の基礎Ⅰ A～C	1 期	2	
学修の基礎Ⅱ A～C	2 期	2	
キャリア開発基礎講座Ⅱ D	1 期	2	2024年度入学生のみ
データサイエンス入門（仏教学部）	1 期集中	2	2023年度以降入学生のみ

※一部の科目は『令和7年度 講義案内 教養的科目』冊子と重複掲載されています。

一般教育科目：講義概要（シラバス）は『令和7年度 講義案内 教養的科目』または Web シラバスを参照

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
仏教入門	2	哲学概論	2	経済学概説	2
仏教と人間	2	社会学概説	2	経済学と社会	2
教養基礎	2	社会学の基礎	2	統計学序説	2
教養総合	2	心理学	2	統計学概説	2
文学入門	2	心理学理論と心理的支援	2	進化生物学とは何か	2
文学の世界	2	法学入門	2	進化生物学の世界	2
歴史と文化	2	法律学概説	2	数学の世界	2
歴史の世界	2	政治学概説	2	環境科学	2
哲学入門	2	現代日本の政治と社会	2		

《学部間相互履修科目》 ※以下の2科目（法学部開設）は、平成28～令和4年度入学生のみ適用する。

授業科目	授業テーマ	単 位	授業科目	授業テーマ	単 位
現代の政治	〈石橋湛山の政治思想〉	2	現代の経済	〈石橋湛山の経済思想〉	2

発展教養科目：講義概要（シラバス）は『令和7年度 講義案内 教職課程・各種資格課程』または Web シラバスを参照

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
日本史概説	2	地理学概論	2	人文地理学概論	2
外国史概説	2	自然地理学概論	2	地誌学概論	2

10. キャリア開発関連科目について

10-1. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔令和7(2025)年度以降入学生〕(一般教育科目)

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「ライフ・キャリア概論」「キャリア・デザイン入門」「キャリア実習〔大学提携型就業体験〕」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。(下表の備考欄を参照)。

(1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開 設 科 目	単 位	学 年	備 考
ラ イ フ ・ キ ャ リ ア 概 論	2	1	メディア授業
キ ャ リ ア ・ デ ザ イ ン 入 門	2	1	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自がポータルサイト等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

(2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開 設 科 目	単 位	学 年	備 考
イ ン タ ー ン シ ッ プ	4	3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。
キャリア実習〔大学提携型就業体験〕	2	2・3	同一年度で両方の科目を履修できない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価をおこなう。

募集時期やその他諸連絡等については、ポータルサイト上の「キャリア支援」やキャリアサポートセンター掲示板等にて各自で確認すること。

10-2. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔令和2(2020)年度～令和6(2024)年度入学生〕(一般教育科目)

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。(下表の備考欄を参照)。また「スキル開発」受講にあたっては、講座別に登録料等が必要となる。

(1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
キャリア開発基礎講座Ⅰ	2	1・2	
キャリア開発基礎講座Ⅱ	2	1・2・3	
キャリア開発基礎講座Ⅲ	2	3	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自がポータルサイト等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

(2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
インターンシップ	2	2・3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価をおこなう。

募集時期やその他諸連絡等については、ポータルサイト上の「キャリア支援」やキャリアサポートセンター掲示板等にて各自で確認すること。

(3) スキル開発とその履修方法〔自由科目〕

開設科目	単位	学年	備考
スキル開発〔情報系1〕	2	1～4	MOS講座(Word・Excel)など
スキル開発〔情報系2〕	2	1～4	
スキル開発〔情報系3〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系1〕	2	1～4	簿記検定2級講座 秘書技能検定2級講座 など
スキル開発〔ビジネス系2〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系3〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系1〕	2	1～4	TOEIC®講座 など
スキル開発〔語学系2〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系3〕	2	1～4	

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。このスキル開発講座はキャリアサポートセンターが主催する講座で、登録料が必要であるが、外部の各種学校における受講料より低廉である。成績評価は所定の試験合格実績、講座への出席状況、受講態度等をキャリアサポート運営委員会で総合的に判定する。どの講座も開講時期は不定期につき、募集時期等についてはキャリアサポートセンターの掲示・お知らせに注意すること。

10-3. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔平成29(2017)～平成31(2019)年度入学生〕（一般教育科目）

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。なお「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」の3科目より1科目以上を修得することが必要である。（下表の備考欄を参照）。また「スキル開発」受講にあたっては、講座別に登録料等が必要となる。

(1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開 設 科 目	単 位	学 年	備 考
キ ャ リ ア 開 発 基 礎 講 座 Ⅰ	2	1・2	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。 3科目中、1科目以上を選択必修。
キ ャ リ ア 開 発 基 礎 講 座 Ⅱ	2	1・2・3	
キ ャ リ ア 開 発 基 礎 講 座 Ⅲ	2	3	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自がポータルサイト等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

(2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開 設 科 目	単 位	学 年	備 考
イ ン タ ー ン シ ッ プ	2	2・3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価をおこなう。

募集時期やその他諸連絡等については、ポータルサイト上の「キャリア支援」やキャリアサポートセンター掲示板等にて各自で確認すること。

(3) スキル開発とその履修方法〔自由科目〕

開 設 科 目	単 位	学 年	備 考
ス キ ル 開 発 [情 報 系 1]	2	1～4	MOS 講座（Word・Excel）など
ス キ ル 開 発 [情 報 系 2]	2	1～4	
ス キ ル 開 発 [情 報 系 3]	2	1～4	
ス キ ル 開 発 [ビ ジ ネ ス 系 1]	2	1～4	簿記検定2級講座 秘書技能検定2級講座 など
ス キ ル 開 発 [ビ ジ ネ ス 系 2]	2	1～4	
ス キ ル 開 発 [ビ ジ ネ ス 系 3]	2	1～4	
ス キ ル 開 発 [語 学 系 1]	2	1～4	TOEIC® 講座 など
ス キ ル 開 発 [語 学 系 2]	2	1～4	
ス キ ル 開 発 [語 学 系 3]	2	1～4	

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。このスキル開発講座はキャリアサポートセンターが主催する講座で、登録料が必要であるが、外部の各種学校における受講料より低廉である。成績評価は所定の試験合格実績、講座への出席状況、受講態度等をキャリアサポート運営委員会で総合的に判定する。どの講座も開講時期は不定期につき、募集時期等についてはキャリアサポートセンターの掲示・お知らせに注意すること。

11. クラス担任 他

11. クラス担任 他

仏教学部長	安中尚史
宗学科主任	三輪是法
仏教学科主任	高橋堯英

		1 年	2 年	3 年	4 年
宗 教 科	法 華 仏 教 コ ー ス			三 輪 是 法	原 慎 定
	日 本 仏 教 コ ー ス				
学 部	令 和 2 年 度 以 降 入 学 生	丹 治 恭 子 久 保 真 紀 子	田 村 亘 禰 岡 田 愛		
仏 教 学 科	思 想 ・ 歴 史 コ ー ス		岡 田 愛	戸 田 裕 久	手 島 一 真
	文 化 ・ 芸 術 コ ー ス			庄 司 史 生	高 橋 堯 英

仏 教 学 部 事 務 室	03 (3492) 8528
仏教学部懇談室（両学科履修指導担当教員連絡先）	03 (5487) 3108〔宗学科〕
	03 (5487) 3109〔仏教学科〕
日 蓮 教 学 研 究 所	03 (5487) 3266
法 華 経 文 化 研 究 所	03 (5487) 3253

12. 令和7年度オフィスアワー (学生生活相談) の実施について

令和7年度オフィスアワー（学生生活相談）の実施について

1. 専任教員へのメールによる相談

仏教学部では、学生生活全般にわたる相談について各専任教員が受け付けています（オフィスアワー）。令和7年度は、相談をメールでも随時受け付けます。各教員のメールアドレス一覧は次のとおり、立正大学ポータルサイト内に格納しています。

「ポータルサイト」→「My ツール→キャビネット」→「99.その他授業に関すること」
→「令和7（2025）年度 仏教学部教員メールアドレス一覧（キャビネット掲示用）」

メールを送信する際は、

- ① メール《件名（タイトル）欄》に、用件を簡明に記す。
（例、○月△日の授業「◇◇入門」での疑問点について質問します）
- ② メール《本文欄》には宛名（例、○○先生）や用件の内容のほかに、自分自身に関して【学部（学科／コース）・学年・学籍番号・氏名（必要ならば連絡先メールアドレス等も）】を記す。簡潔なあいさつ文もある方がよい。
- ③ 半角カタカナ・機種依存文字は、メールが正しく送達されない原因となるので、使用しない。

といった、基本的なマナーに十分留意してください。

本学の学生には Microsoft365 の使用权が賦与されますので、その中の Outlook を利用してメールを送受信することができます。またこれに付随して学生個々に与えられるメールアドレス（xxxxxxx@rissho-univ.jp）には、大学から重要な案件が送信される場合がありますので、このメールアドレスを常用のスマートフォンのメールソフトに登録する等して、着信には日常的に注意してください。

2. 履修指導担当教員および仏教学部事務室への相談

上記の専任教員による相談受付のほか、仏教学部懇談室に駐在する履修指導担当教員、また仏教学部事務室も相談を受け付けています。対応曜日・時間について留意の上、ご相談ください。

(1) 履修指導担当教員への電話による相談

仏教学部懇談室（2号館7階）では、11:00～18:00（土日祝除く）履修指導担当教員やチューター（教務補助員）が相談に応じています。〔授業や会議等で不在となることもあります。〕

Tel. 03-5487-3108（宗学科）

Tel. 03-5487-3109（仏教学科）

(2) 仏教学部事務室への電話による相談

仏教学部事務室（1号館1階）では、10:00～17:00（日祝除く）相談に応じています。〔他の問い合わせ対応中等で電話にでられない時もあります。〕

Tel. 03-3492-8528

《資料》 仏教学部生の９月卒業のための 卒業論文提出に関する要領

仏教学部生の9月卒業のための卒業論文提出に関する要領

- 1 本要領は、9月卒業のための卒業論文受理に関する事項を定める。
- 2 本要領の適用審査対象となる学生は、次のように定める。

卒業論文作成に向けた研究法について、4年生として第1期・第2期を合して1年間分の指導を受けて修得済み、もしくは修得見込みであることを前提として、9月卒業の意志を有し、その申請が可能な者（9月卒業のための要件については、学事課備付け「9月卒業申請書」を参照）。
- 3 2に定める条項の適用対象の審査は、学生の在籍する学科が行う。審査結果の学生への告知と履修指導は、各学科が行う。
- 4 本要領に定める卒業論文の提出には、3の学科の審査による承認（在籍5年目以降の第1期での卒業見込みの確認と、卒業論文提出予定時期の確認を含む）と、学生による「卒業論文」の履修登録および所定の9月卒業申請を必要条件とする。
- 5 卒業論文題目の届け出期限、卒業論文の提出期間、口頭試問の期日その他については、次のように定める。
 - 5-1 学生が9月卒業（予定）の当該年度第1期における卒業論文提出を希望する場合は、次のとおりとする。
 - ① 卒業論文題目の届け出期限は、5月末日（土日祝の場合は、直前の平日）17時まで（提出先は仏教学部懇談室）とする。
 - ② 卒業論文の提出期間は、おおよそ6月下旬～7月上旬（土日祝除く）の10時～17時00分（提出先は仏教学部事務室）とし、詳細は6月上旬に掲示にて告知する。
 - ③ 卒業論文の口頭試問の期日は、あらかじめ担当教員が当該学生に指示するとともに、担当教員は仏教学部事務室に伝達する。また、学生が急病等やむを得ない事情により口頭試問を受けられず追試験を希望する場合は1回まで認め、7月下旬を目途に行うものとする。
 - ④ 卒業論文の判定結果が不合格の場合、必要な指導を受けて論文を改稿の上、通常の第2期における卒業論文提出期間にあらためて提出することができるものとする。
 - 5-2 学生が9月卒業（予定）の前年度第2期における卒業論文提出を希望する場合、いずれも通常の場合に準ずる。

附則 平成27年3月24日仏教学部臨時教授会決定、平成27年4月1日施行
平成27年12月16日仏教学部定例教授会改正、平成28年4月1日施行

13. 仏教学部講義概要(シラバス)

凡 例

- ①科目名が同一であっても、担当者などにより、講義内容が異なることもあるので、注意すること。
- ②抽選の有無については、仏教学部生用の2025年度時間割表で確認すること。

講義コード	11A0110600	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	アジア美術史Ⅰ					久保 真紀子	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	東南アジア各地では、インドから伝来した仏教やヒンドゥー教と土着の祖先崇拝や精霊信仰とが結びつき、固有の宗教文化が発展した。その様相は、各地に残る寺院建築や建築に施された装飾浮彫、あるいは寺院内に祀られた彫像からうかがえる。この講義では、カンボジアを中心とする地域に9～15世紀に繁栄したアンコール朝の美術を中心に、寺院建築に施された多様な浮彫をテーマ別に詳しく観察する。						
到達目標	東南アジアの寺院建築や彫刻を題材に、仏教・ヒンドゥー教美術の主題や図像表現を理解し、説明できるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 東南アジアにおける「インド化」と「地域化」 【第2回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（1）ヒンドゥー教美術、シヴァ、ヴィシュヌ、ブラフマーの図像 【第3回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（2）ヒンドゥー教の神像表現のまとめ 【第4回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（3）ヒンドゥー教美術、『ラーマーヤナ』の図像 【第5回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（4）ヒンドゥー教美術、『マハーバーラタ』の図像 【第6回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（5）ヒンドゥー教叙事詩の図像表現のまとめ 【第7回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（6）仏教美術、仏伝図 【第8回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（7）仏教美術、ジャータカ図 【第9回】 東南アジア美術に表現された宗教世界（8）仏教美術のまとめ 【第10回】 東南アジア美術に表現された世俗世界、庶民の日常風景図、王の肖像、戦闘図 【第11回】 東南アジア美術に表現された装飾文様 【第12回】 東南アジア美術史研究の流れ 【第13回】 まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、課題の提出状況と内容（20%）、期末試験（40%）を総合して、成績を評価する。						
フィードバックの内容	毎回の授業に対する感想や課題を課す。提出された内容に基づき、その後の授業で補足説明する。						
教科書							
指定図書							
参考書	『東南アジア史〈1〉大陸部（新版 世界各国史）』石井米雄・桜井由躬雄編（山川出版社）1999、『東南アジア史〈2〉島嶼部（世界各国史）』池端雪穂編（山川出版社）1999、『インド・東南アジアの文様（世界の文様）』石澤良昭他編（小学館）1991、『アンコールワットの彫刻』伊東照司（雄山閣）2009、『世界美術大全集 東洋編 12 東南アジア』肥塚隆責任編集（小学館）2001、『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』千原大五郎（鹿島出版会）1982、『アンコールワットとクメール美術の1000年展』東京国立博物館他編（朝日新聞社他）1997、『美術を書く』バーネット・シルヴァン（東京美術）2014、『オリエンタリストの憂鬱－植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学－』藤原貞朗（めこん）2008、『アジア仏教美術論集（全12巻）』宮治昭・肥田路美・板倉聖哲監修（中央公論美術出版）						
教員からのお知らせ	東南アジアの美術・歴史・文化に関心があり、意欲的に学ぶ受講生を歓迎する。また、受講生に作品鑑賞文を書いてもらい、その次の講義で紹介する機会を複数回設ける。 講義はパワーポイントのスライドを中心に進め、テキストは使用しない。毎回、ハンドアウトや図版などの資料を配布するので、適宜参照すること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールにて受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0110700	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	アジア美術史2					久保 真紀子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この講義では、アジアの文化遺産について多様な観点から学ぶ。前半は、アジア各地に残る寺院建築や美術に着目し、その歴史的背景や造形的特徴、およびそれらを取り巻く環境や諸問題について理解を深める。後半は、東南アジアの文化遺産を毎回採り上げ、その建築や美術の鑑賞を通して、各地に残る文化的多様性を理解する。						
到達目標	アジアの寺院建築や美術の特徴を理解し説明できるようになる。文化遺産を歴史的な視点だけでなく、現代的な視点からもとらえられるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】アジアの石造建築と技術 【第2回】アジアの青銅彫刻（1） 【第3回】アジアの青銅彫刻（2） 【第4回】アジアの文化遺産と保存修復活動（1）遺跡現場での取り組み 【第5回】アジアの文化遺産と保存修復活動（2）博物館の取り組み 【第6回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（1）ベトナム 【第7回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（2）タイ〈先タイ期〉 【第8回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（3）タイ〈純タイ期〉 【第9回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（4）ミャンマー 【第10回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（5）インドネシア〈建築史・美術史の概説〉 【第11回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（6）インドネシア〈ボロブドゥールとプランバナンの彫刻〉 【第12回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（7）インドネシア美術のまとめ 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40％）、授業時間内に指示する課題の提出状況と内容（20％）、期末試験（40％）を総合して、成績を評価する。						
フィードバックの内容	毎回の授業に対する感想や課題を課す。提出された内容に基づき、その後の授業で補足説明する。						
教科書							
指定図書							
参考書	『東南アジア史〈1〉大陸部（新版 世界各国史）』石井米雄・桜井由躬雄編（山川出版社）1999、『東南アジア史〈2〉島嶼部（世界各国史）』池端雪穂編（山川出版社）1999、『インド・東南アジアの文様（世界の文様）』石澤良昭他編（小学館）1991、『アンコールワットの彫刻』伊東照司（雄山閣）2009、『世界美術大全集 東洋編 12 東南アジア』肥塚隆責任編集（小学館）2001、『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』千原大五郎（鹿島出版会）1982、『アンコールワットとクメール美術の1000年展』東京国立博物館他編（朝日新聞社他）1997、『美術を書く』バーネット・シルヴァン（東京美術）2014、『オリエンタリストの憂鬱－植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学－』藤原貞朗（めこん）2008、『アジア仏教美術論集（全12巻）』宮治昭・肥田路美・板倉聖哲監修（中央公論美術出版）						
教員からのお知らせ	東南アジアの美術・歴史・文化に関心があり、意欲的に学ぶ受講生を歓迎する。また、受講生には数回にわたって作品鑑賞文の課題を課し、それを次の授業で紹介する機会を設ける。講義はパワーポイントのスライドを中心に進め、テキストは使用しない。毎回、ハンドアウトや図版などの資料を配布するので、適宜参照すること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、－ 外学習、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2108200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	インド哲学仏教学特講3					中井 本勝	第1期
履修前提条件						備考	
授業の目的	本講義では、中国仏教において重要な人物である、鳩摩羅什の弟子の僧肇（374-414）の思想について説明をする。特に僧肇の著作である『肇論』を読みながら詳しく説明をする。						
到達目標	僧肇の思想について、その特徴を把握し、説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味の分からない用語については、あらかじめ調べておくことが望ましい。						
授業計画	【第1回】講義の概要説明、僧肇と『肇論』 【第2回】『肇論』を読む（1） 【第3回】『肇論』を読む（2） 【第4回】『肇論』を読む（3） 【第5回】『肇論』を読む（4） 【第6回】『肇論』を読む（5） 【第7回】『肇論』を読む（6） 【第8回】『肇論』を読む（7） 【第9回】『肇論』を読む（8） 【第10回】『肇論』を読む（9） 【第11回】『肇論』を読む（10） 【第12回】『肇論』を読む（11） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（課題提出）（60％）、学期末試験もしくは学期末レポート（40％）により総合評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	適宜、配布する。						
指定図書	『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝』沖本克己編（佼成出版社）2010、『新アジア仏教史07 中国Ⅱ 隋唐』沖本克己編（佼成出版社）2010						
参考書	『中国般若思想史研究：吉蔵と三論学派』平井俊榮（春秋社）1976、『大乘仏典〈中国・日本篇〉2 肇論・三論玄義』平井俊榮（中央公論社）1990、『出三蔵記集序巻訳注』中嶋隆藏（平楽寺書店）1997、『六朝期における仏教受容の研究』遠藤祐介（白帝社）2014、『六朝隋唐仏教展開史』船山徹（法蔵館）2019						
教員からのお知らせ	①本講義は、学問的に専門的なことを扱うため、ある程度の仏教知識が必要とされます。よって、基礎的な仏教知識を得た上、思想的な問題意識を持って受講してください。 ②4回以上、欠席あるいは課題が未提出であった場合、単位は修得できません。 ③10分以上遅刻の場合は、出席にはなりません。 ④特別な理由なく教室を途中退出することは不可とします。（退出後、不当に長時間戻ってこなかった場合、出席にはなりません。） ⑤よくわからないことがある場合は、必ず自主的に質問をしてください。可能な範囲内でお答えします。 ⑥課題や学期末試験もしくは学期末レポート等は自分で考えた意見を書いてもらいます。ネット記事や論文から一部分でも「貼り付け」（コピー＆ペースト）をした場合や、ChatGPT等のAIを使った場合、評価は0点となります。 ⑦課題や学期末試験もしくは学期末レポートの記述内容が、十分な姿勢で取り組んでいないと教員が判断した場合、評価は0点となります。 ⑧上記の内容について、「シラバスを読んでいなかった」・「知らなかった」という主張は通じませんので、必ず通読し、理解をしておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他	【注意】本講義は、考えることを要求される。自分の頭脳を使って考え、自分の言葉で語れるようになってください。						

講義コード	11A2108300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	インド哲学仏教学特講4					中井 本勝	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本講義では、中国において『中論』・『十二門論』・『百論』の「三論」を中心として成立した三論宗の思想について、「空思想」をキーワードとして説明する。特に重要な中国仏教者の著作を読みながら詳しく説明をする。						
到達目標	三論宗の思想について、その展開を理解し、説明することができる。特に空の思想について、その特徴を把握し、説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味の分からない用語については、あらかじめ調べておくことが望ましい。						
授業計画	【第1回】講義の概要説明、インド仏教諸思想における空思想（1） 【第2回】インド仏教諸思想における空思想（2） 【第3回】三論宗の空思想（1） 【第4回】三論宗の空思想（2） 【第5回】三論宗の空思想（3） 【第6回】三論宗の空思想（4） 【第7回】三論宗の空思想（5） 【第8回】三論宗の空思想（6） 【第9回】三論宗の空思想（7） 【第10回】三論宗の空思想（8） 【第11回】三論宗の空思想（9） 【第12回】三論宗の空思想（10） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（課題提出）（60％）、学期末試験もしくは学期末レポート（40％）により総合評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	適宜、配布する。						
指定図書	『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝』沖本克己編（佼成出版社）2010、『新アジア仏教史07 中国Ⅱ 隋唐』沖本克己編（佼成出版社）2010						
参考書	『中国般若思想史研究：吉蔵と三論学派』平井俊榮（春秋社）1976、『大乘仏典〈中国・日本篇〉2 肇論・三論玄義』平井俊榮（中央公論社）1990、『出三蔵記集序巻訳注』中嶋隆藏（平楽寺書店）1997、『六朝期における仏教受容の研究』遠藤祐介（白帝社）2014、『六朝隋唐仏教展開史』船山徹（法蔵館）2019						
教員からのお知らせ	①本講義は、学問的に専門的なことを扱うため、ある程度の仏教知識が必要とされます。よって、基礎的な仏教知識を得た上、思想的な問題意識を持って受講してください。 ②4回以上、欠席あるいは課題が未提出であった場合、単位は修得できません。 ③10分以上遅刻の場合は、出席にはなりません。 ④特別な理由なく教室を途中退出することは不可とします。（退出後、不当に長時間戻ってこなかった場合、出席にはなりません。） ⑤よくわからないことがある場合は、必ず自主的に質問をしてください。可能な範囲内でお答えします。 ⑥課題や学期末試験もしくは学期末レポート等は自分で考えた意見を書いてもらいます。ネット記事や論文から一部分でも「貼り付け」（コピー＆ペースト）をした場合や、ChatGPT等のAIを使った場合、評価は0点となります。 ⑦課題や学期末試験もしくは学期末レポートの記述内容が、十分な姿勢で取り組んでいないと教員が判断した場合、評価は0点となります。 ⑧上記の内容について、「シラバスを読んでいなかった」・「知らなかった」という主張は通じませんので、必ず通読し、理解をしておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他	【注意】本講義は、考えることを要求される。自分の頭脳を使って考え、自分の言葉で語れるようになってください。						

講義コード	11A0106100	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員	開 講 期
科 目 名	インド仏教史Ⅱ					庄司 史生	第1期
履修前提条件					備 考		
授 業 の 目 的	本講義では、(a) 大乘仏教の成立と展開、(b) インド仏教の衰亡と近代における復興について、配布資料に基づいて講義する。						
到 達 目 標	上記の観点から、インド仏教の歴史的展開について理解し、説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義の受講に際して、読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べておくこと。講義前後は予習と復習を重ね不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授 業 計 画	〔導入〕 【第1回】はじめに			〔(b) インド仏教の衰亡と近代における復興〕 【第11回】①インド仏教の衰亡 【第12回】②ダルマパーラとアンバードカルによる仏教復興			
	〔(a) 大乘仏教の成立と展開〕 【第2回】①大乘仏教とは何か 【第3回】②大乘仏教の成立 【第4回】③大乘経典の誕生 【第5回】④大乘仏教起源論の展望 【第6回】⑤上座部仏教と大乘仏教 【第7回】⑥アビダルマ仏教と大乘仏教 【第8回】⑦大乘仏説論の一断面 【第9回】⑧大乘仏典における法滅と授記の役割 【第10回】⑨新たに提起された大衆部起源説と大乘仏教成立論のまとめ			〔総括〕 【第13回】まとめ			
成績評価の方法	平常点60％（授業への取り組み姿勢30％＋毎回の課題提出30％）と学期末の課題提出40％により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教 科 書							
指 定 図 書	『仏教史概説 インド篇』佐々木教悟 [ほか]（平楽寺書店）1966						
参 考 書	『大乘仏教とは何か』桂紹隆 [ほか] 編（春秋社）2011、『大乘仏教の誕生』桂紹隆 [ほか] 編（春秋社）2011、『インド仏教はなぜ亡んだのか：イスラム史料からの考察』保坂俊司（北樹出版）2004、『インド仏教史 上』平川彰（春秋社）2011、『インド仏教史 下』平川彰（春秋社）2011、『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会 [編]（法蔵館）2017、『インド大乘仏教の虚像と断片』グレゴリー・ショーベン（渡辺章悟監訳）（国書刊行会）2022						
教員からのお知らせ	指定の教科書はありません。プリントを配布します。参考文献は必要に応じて授業内に紹介します。過剰な私語など、授業のさまたげとなる行為は控えてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習						
実践的な教育内容							
そ の 他							

講義コード	11A0151001	授業形態	演習	抽選の有無	－	担 当 教 員	戸 田 裕 久	開 講 期	第 1 期
科 目 名	英語ⅠA								
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさと文化的背景を理解し心情に触れる。								
到 達 目 標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティヴスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講読される英語説論文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。								
授 業 計 画	【第1回】Chapter 2. The Buddha (introduction) 【第2回】Early Scriptures 【第3回】The Life of the Buddha (outline) 【第4回】Chapter 4. The Four Noble Truths (intro.) 【第5回】The Truth of Suffering (1) 【第6回】The Truth of Suffering (2) 【第7回】The Truth of Arising (1) 【第8回】The Truth of Arising (2) 【第9回】The Truth of Cessation (1) 【第10回】The Truth of Cessation (2) 【第11回】The Truth of the Path (1) 【第12回】The Truth of the Path (2) 【第13回】第1期講読内容総括								
成績評価の方法	レポート2回（60%）、当番発表2回（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教 科 書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』Damien Keown (Oxford University Press) 2013								
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を適宜複写して配布します（各自で購入する必要はありません）。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
そ の 他	授業には必ず出席すること。遅刻しないこと。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するよう心がけてください。								

講義コード	11A0151002	授業形態	演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	英語１Ｂ					戸田 裕久		第１期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさと文化的背景を理解し心情に触れる。								
到 達 目 標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティヴスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回１時間、計15時間以上行うのが望ましい。								
授 業 計 画	【第１回】 Chapter 2. The Buddha (introduction) 【第２回】 Early Scriptures 【第３回】 The Life of the Buddha (outline) 【第４回】 Chapter 4. The Four Noble Truths (intro.) 【第５回】 The Truth of Suffering (１) 【第６回】 The Truth of Suffering (２) 【第７回】 The Truth of Arising (１) 【第８回】 The Truth of Arising (２) 【第９回】 The Truth of Cessation (１) 【第10回】 The Truth of Cessation (２) 【第11回】 The Truth of the Path (１) 【第12回】 The Truth of the Path (２) 【第13回】 第１期講読内容総括								
成績評価の方法	レポート２回（60%）、当番発表２回（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教 科 書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013								
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を適宜複写して配布します（各自で購入する必要はありません）。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
そ の 他	授業には必ず出席すること。遅刻しないこと。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するよう心がけてください。								

講義コード	11A0151101	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期
科目名	英語2A								
履修前提条件					備考				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさと文化的背景を理解し心情に触れる。								
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティヴスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】 Chapter 8. Ethics (introduction) 【第2回】 Dharma 【第3回】 Ahimsa, or the inviolability of life 【第4回】 Buddhist precepts 【第5回】 Virtues 【第6回】 Monastic ethics 【第7回】 Skillful means				【第8回】 Rights 【第9回】 Human rights 【第10回】 War and terrorism (1) 【第11回】 War and terrorism (2) 【第12回】 War and terrorism (3) 【第13回】 第2期講読内容総括				
成績評価の方法	レポート2回（60%）、当番発表2回（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教科書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を複写して配布します。なお、毎回授業で紹介する歌は、成績には直接関わりませんが、世の中、数字で表わされないものに本当の価値があったりするもの。そこにこそ皆さんに伝えたいことがあるのです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他	いつまで続くんた、この苦役苦行は。と思っていた英語の授業も、振り返ってみれば、あっという間だった気がするでしょう。必修の授業は1年足らずで済みますが、外国語との付き合いはずっと続きます。一生勉強です。								

講義コード	11A0151102	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	英語２Ｂ					戸田 裕久		第２期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。								
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティヴスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回１時間、計15時間以上行うのが望ましい。								
授 業 計 画	【第１回】 Chapter 8. Ethics (introduction) 【第２回】 Dharma 【第３回】 Ahimsa, or the inviolability of life 【第４回】 Buddhist precepts 【第５回】 Virtues 【第６回】 Monastic ethics 【第７回】 Skillful means 【第８回】 Rights 【第９回】 Human rights 【第10回】 War and terrorism (１) 【第11回】 War and terrorism (２) 【第12回】 War and terrorism (３) 【第13回】 第２期講読内容総括								
成績評価の方法	レポート２回（60%）、当番発表２回（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教科書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を複写して配布します。なお、毎回授業で紹介する歌は、成績には直接関わりませんが、世の中、数字で表わされないものに本当の価値があったりするもの。そこにこそ皆さんに伝えたいことがあるのです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
そ の 他	いつまで続くんた、この苦役苦行は。と思っていた英語の授業も、振り返ってみれば、あつという間だった気がするでしょう。必修の授業は１年足らずで済みますが、外国語との付き合いはずっと続きます。一生勉強です。								

講義コード	11A0151201	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	英語３Ａ					太田 美智子		第１期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目標とします。 映画「海の上のピアニスト」を通して様々な英語表現を学び、発信力や受容能力を伸ばしましょう。また、想像力を駆使して内容理解にも努めて下さい。								
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目的です。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	丁寧に辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。 最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。								
授業計画	【第１回】 前期オリエンテーション 【第２回】 Chapter 1 The Legend of 1900 (１) 【第３回】 Chapter 1 The Legend of 1900 (２) 【第４回】 Chapter 1 The Legend of 1900 (３) 【第５回】 Chapter 2 The Legend of 1900 (１) 【第６回】 Chapter 2 The Legend of 1900 (２) 【第７回】 Chapter 2 The Legend of 1900 (３) 【第８回】 Chapter 3 The Legend of 1900 (１) 【第９回】 Chapter 3 The Legend of 1900 (２) 【第10回】 Chapter 3 The Legend of 1900 (３) 【第11回】 Chapter 4 The Legend of 1900 (１) 【第12回】 Chapter 4 The Legend of 1900 (２) 【第13回】 前期のまとめ								
成績評価の方法	授業中の小テスト（40％）、予習の有無および発表姿勢（30％）、授業への取り組み姿勢（30％）								
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは当日授業内に行います。								
教科書	『The Legend of 1900』 上杉恵美他（英宝社）2007								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業中は原則スマホは使わず、真摯に取り組んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	積極的に授業に参加してください。そのためには率先して挙手したり、調べたことを発言する等の姿勢を示してください。 また、場合によってはディスカッションやディベートも行いましょう。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0151202	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	英語３Ｂ					太田 美智子		第１期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目標とします。 映画「海の上のピアニスト」を通して様々な英語表現を学び、発信力や受容能力を伸ばしましょう。また、想像力を駆使して内容理解にも努めて下さい。								
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目的です。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	丁寧な辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。 最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。								
授業計画	【第１回】 後期オリエンテーション 【第２回】 Chapter 5 The Legend of 1900（１） 【第３回】 Chapter 5 The Legend of 1900（２） 【第４回】 Chapter 5 The Legend of 1900（３） 【第５回】 Chapter 6 The Legend of 1900（１） 【第６回】 Chapter 6 The Legend of 1900（２） 【第７回】 Chapter 6 The Legend of 1900（３） 【第８回】 Chapter 7 The Legend of 1900（１） 【第９回】 Chapter 7 The Legend of 1900（２） 【第10回】 Chapter 7 The Legend of 1900（３） 【第11回】 Chapter 8 The Legend of 1900（１） 【第12回】 Chapter 8 The Legend of 1900（２） 【第13回】 後期のまとめ								
成績評価の方法	授業中の小テスト（40％）、予習の有無および発表姿勢（30％）、授業への取り組み姿勢（30％）								
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは当日授業内に行います。								
教科書	『The Legend of 1900』 上杉恵美他（英宝社）2007								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	専任）本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、LMS のメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0151301	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	英語４Ａ					太田 美智子		第２期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目標とします。 テキストは絵蠟燭や風呂敷、水引など日本の伝統文化や伝統工芸を扱っており、様々なアプローチで英語力を伸ばす工夫がなされています。 親しみ深い内容を通して学べると思います。								
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目的です。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	丁寧に辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。 最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。								
授業計画	【第１回】 前期オリエンテーション 【第２回】 Chapter 1 Picture and Candle（１） 【第３回】 Chapter 1 Picture and Candle（２） 【第４回】 Chapter 1 Picture and Candle（３） 【第５回】 Chapter 2 The Furoshiki（１） 【第６回】 Chapter 2 The Furoshiki（２） 【第７回】 Chapter 2 The Furoshiki（３） 【第８回】 Chapter 3 The Namahage（１） 【第９回】 Chapter 3 The Namahage（２） 【第10回】 Chapter 3 The Namahage（３） 【第11回】 Chapter 4 The Sanshin（１） 【第12回】 Chapter 4 The Sanshin（２） 【第13回】 前期のまとめ								
成績評価の方法	授業中の小テスト（40％）、予習の有無および発表姿勢（30％）、授業への取り組み姿勢（30％）								
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは当日授業内に行います。								
教科書	『CLIL Dive Deep into Japanese Culture』 竹内ニコール・マリー、柏木賀津子（三修社）2025								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業中は原則スマホは使わず、真摯に取り組んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	積極的に授業に参加してください。そのためには率先して挙手したり、調べたことを発言する等の姿勢を示してください。 また、場合によってはディスカッションやディベートも行いましょう。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0151302	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	英語4B					太田 美智子	第2期
履修前提条件						備考	
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目標とします。 テキストは絵蠟燭や風呂敷、水引など日本の伝統文化や伝統工芸を扱っており、様々なアプローチで英語力を伸ばす工夫がなされています。 親しみ深い内容を通して学べると思います。						
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目的です。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	丁寧な辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。 最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。						
授業計画	【第1回】後期オリエンテーション 【第2回】Chapter 5 Haiku to the World (1) 【第3回】Chapter 5 Haiku to the World (2) 【第4回】Chapter 5 Haiku to the World (3) 【第5回】Chapter 6 Mizuhiki (1) 【第6回】Chapter 6 Mizuhiki (2) 【第7回】Chapter 6 Mizuhiki (3) 【第8回】Chapter 7 Japanese Curry (1) 【第9回】Chapter 7 Japanese Curry (2) 【第10回】Chapter 7 Japanese Curry (3) 【第11回】Chapter 8 Karate (1) 【第12回】Chapter 8 Karate (2) 【第13回】後期のまとめ						
成績評価の方法	授業中の小テスト (40%)、予習の有無および発表姿勢 (30%)、授業への取り組み姿勢 (30%)						
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは当日授業内に行います。						
教科書	『CLIL Dive Deep into Japanese Culture』竹内ニコール・マリー、柏木賀津子（三修社）2025						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業中は原則スマホは使わず、真摯に取り組んで下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	積極的に授業に参加してください。そのためには率先して挙手したり、調べたことを発言する等の姿勢を示してください。 また、場合によってはディスカッションやディベートも行いましょう。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0112400	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	海外仏教文化研修3					庄司史生・安中尚史	集中
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業は、実地の見学・研修と事前事後の学習を併せて行うことによって、海外における仏教文化とその周辺について体験的に学習することを目的とします。 本年度はモンゴルを研修地（現地研修は5泊6日）とし、モンゴル仏教の歴史と現状について学習します。						
到達目標	研修で訪れた史跡や寺院などの特色と歴史的背景・意義等に関して説明できる。						
授業外学習内容・ 授業外学習時間数	見学先となる史跡・寺院等の歴史・背景等の予習に40時間以上、事前学習会および現地での発表の準備に20時間以上、合計60時間以上の学修を行うこと。						
授業計画	事前学習会を4回開催し、各史跡・寺院等の特色や、その歴史的背景についてあらかじめ知識を蓄えてもらいます。研修への参加を希望する（あるいは、考えている）学生は、必ず第1回の事前学習会に出席すること。それをふまえて、履修登録変更期間に履修登録を行ってください。 【第1回】事前学習 4月19日（土）4限 【第2回】事前学習 5月24日（土）4限 【第3回】事前学習 6月21日（土）4限 【第4回】事前学習 7月19日（土）4限 【第5回】事後学習 10月18日（土）4限（レポート提出） 教室は全て「1353教室」の予定 ※事前学習会・事後学習会は以上の日程で行う予定。教室等の変更、日程変更があった場合は、仏教学部掲示板に掲示、もしくはポータルサイトで伝達します。登校時には必ずポータルサイトや仏教学部掲示板（2号館・4号館間の地下1階外廊下）を見るようにしてください。 現地研修期間：9月15日（木）～9月20日（土）の6日間（予定） ※現地では、各自（もしくは班）の調査に基づく発表をしてもらう予定です。 主な研修先： ○エルデニゾー寺（カラコルム） ○ガンダン寺（ウランバートル） ○モンゴル国立大学（ウランバートル） ○チンギスハーン博物館（ウランバートル） ※日程・見学地いずれも予定であり、事情によって変更する場合があります。						
成績評価の方法	事前学習・現地研修の平常点60%、研修レポート40%で成績を評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは、授業時に指示します。						
教科書	各種プリントを配布します。						
指定図書	授業中に適宜指示を出します。						
参考書	授業中に適宜指示を出します。						
教員からのお知らせ	事前・事後学修会には必ず参加し、新たな知見や必要な情報の修得に自ら努めること、また異なる文化圏における安全の確保や、集団での行動に対応出来るよう、健康を含め平素より自己管理を心がけることを求めます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応するほか、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、フィールドワークなど						
実践的な教育内容							
その他	日本ならびに研修国等の法令に違反する行為、団体を乱し行動の妨げとなる行為、注意事項を怠る行為等を行った者は、参加中止・即刻帰国に処す場合があります。厳に自制し、実り多い研修となることを期待します。						

講義コード	11A0103200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	開目抄講義 1					三輪 是法		第 1 期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	『開目抄』は、日蓮聖人の三大部の中に含まれる重要な書である。本書は、日蓮聖人流罪の地・佐渡において執筆され、その内容は、仏教を布教・実践する宗教者としての自覚を表明された書といわれている。大著である『開目抄』をじっくりと拝読し、日蓮聖人の仏教の特質と、自覚という心理的動向について理解していく。								
到達目標	『開目抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を 2 時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を 2 時間以上、通期で 60 時間以上おこない、理解を深める。								
授 業 計 画	【第 1 回】オリエンテーション～『開目抄』解題 1 【第 2 回】『開目抄』解題 2 【第 3 回】『開目抄』解題 3 【第 4 回】『開目抄』講読 1 【第 5 回】『開目抄』講読 2 【第 6 回】『開目抄』講読 3 【第 7 回】『開目抄』講読 4 【第 8 回】『開目抄』講読 5 【第 9 回】『開目抄』講読 6 【第 10 回】『開目抄』講読 7 【第 11 回】『開目抄』講読 8 【第 12 回】『開目抄』講読 9 【第 13 回】『開目抄』講読 10－第 1 期まとめ								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容 30 パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験 70 パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。								
教 科 書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988 年								
指 定 図 書	『日蓮聖人遺文全集 第二巻』渡辺宝陽・関戸堯海（春秋社）2011 年、『日本の仏典 9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988 年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978 年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924 年								
参 考 書	『開目抄講讀 上下』茂田井教亨（山喜房佛書林）1988 年、『傍訳日蓮聖人御遺文 開目抄 上下』庵谷行亨・高森大乘（四季社）2001 年、『日蓮聖人御遺文講義 第二巻』石川海典（日本仏書刊行会）1964 年								
教員からのお知らせ	開目抄講義 2 / (二) をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生（日蓮宗寺院にはあると思います）は、必ず持参するようにしてください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の重要な書である「開目抄」を解説し理解させる。								
そ の 他									

講義コード	11A0103300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	開目抄講義2					三輪 是法		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	『開目抄』は、日蓮聖人の三大部の中に含まれる重要な書である。本書は、日蓮聖人流罪の地・佐渡において執筆され、その内容は、仏教を布教・実践する宗教者としての自覚を表明された書といわれている。大著である『開目抄』をじっくりと拝読し、日蓮聖人の仏教の特質と、自覚という心理的動向について理解していく。								
到達目標	『開目抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授 業 計 画	【第1回】第1期復習・『開目抄』講読1 【第2回】『開目抄』講読2 【第3回】『開目抄』講読3 【第4回】『開目抄』講読4 【第5回】『開目抄』講読5 【第6回】『開目抄』講読6 【第7回】『開目抄』講読7 【第8回】『開目抄』講読8 【第9回】『開目抄』講読9 【第10回】『開目抄』講読10 【第11回】『開目抄』講読11 【第12回】『開目抄』講読12 【第13回】『開目抄』講読13－総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験70パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行っていく。								
教 科 書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年								
指 定 図 書	『日蓮聖人遺文全集 第二巻』渡辺宝陽・関戸堯海（春秋社）2011年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年								
参 考 書	『開目抄講讀 上下』茂田井教亨（山喜房佛書林）1988年、『傍訳日蓮聖人御遺文 開目抄 上下』庵谷行亨・高森大乘（四季社）2001年、『日蓮聖人御遺文講義 第二巻』石川海典（日本仏書刊行会）1964年								
教員からのお知らせ	開目抄講義1／（一）をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生（日蓮宗寺院にはあると思います）は、必ず持参するようにしてください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して対話を行う。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の重要な書である「開目抄」を解説し理解させる。								
そ の 他									

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義・演習	抽選の有無	—	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅰ〔A～C〕					丹治 恭子	第1期
履修前提条件						備考 講義コード 〔A〕 11A0152003 〔B〕 11A0152004 〔C〕 11A0152005	
授業の目的	本科目は、立正大学仏教学部入学者を対象に、高等学校までの生活から学問探究の場としての大学生活へとスムーズに移行し、学修に積極的に取り組めるよう、①仏教精神に由来する立正大学・仏教学部での学びの動機づけ、②充実した大学生活を送るために必要となる事項の理解、③大学生として求められる基礎的なコミュニケーションの方法ならびにアカデミック・スキルの修得、を主な目的としている。 本授業では複数クラスを編成し、少人数制を導入する。①については、仏教学等を専門分野とする教員が「立正大学を知る」をテーマに講義を行い、②については、障害や命といった身近なテーマを専門とする講師を招いて特別講義を行う。なお、①②は講義内容に応じて全クラス合同での対面授業またはオンライン授業を実施する。③については、大学での研究・学修と関連づけながら、「話す」「聞く」「読む」「書く」といったコミュニケーション活動を用いて講義・演習を行う。なお、演習では、受講者同士のグループ・ワークを行い、実践的な理解を図る。						
到達目標	1. 立正大学仏教学部の一員としての誇りを持ち、学修に積極的に取り組むことができる。 2. 大学生に求められる基礎的なアカデミック・スキルズについて理解することができる。 3. 大学生活に必要なコミュニケーションの方法を理解し、実践することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の講義で扱う項目について、授業内で提示する課題ならびに図書館及びインターネットを活用した予習・復習に取り組むこと。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション 【第2回】スタディ・スキル（1）——ノートをとる／学生生活の留意点（1）——大学生とカルト 【第3回】文献読解基礎能力テスト／スタディ・スキル（2）——メールを書く 【第4回】スタディ・スキル（3）——レポートとは何か、調べる際の方法 【第5回】学生生活の留意点（2）——命を考える ※オンライン授業で実施 【第6回】スタディ・スキル（4）——図書館・学内情報サービスの使い方 【第7回】学生生活の留意点（3）——障害を考える（合同授業） 【第8回】スタディ・スキル（5）——論理的文章とは 【第9回】学生生活の留意点（4）——キャリアを考える（合同授業） 【第10回】スタディ・スキル（6）——論理的文章と論理的でない文章、レポートの形式 【第11回】学生生活の留意点（5）——キャリアを考える（合同授業） 【第12回】立正大学を知る（1）——建学の精神（合同授業） 【第13回】立正大学を知る（2）——立正大学の歴史（合同授業）						
成績評価の方法	課題またはレポート（25%）、各回の授業外学修課題（45%）および授業への取り組み姿勢（30%）で評価する。						
フィードバックの内容	レスポンスカードに対するフィードバックは次回以降の授業内にて、レポートのフィードバックはLMSにて行う。						
教科書	『START 学修の基礎2025』立正大学全学教育推進センター運営委員会編（立正大学）2025						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業計画に示した各回の内容は、合同授業の日程等によって前後することがある。また、合同授業の実施方法については内容に応じて変更される場合がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、メール（アドレスは授業内で提示）でも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、グループ・ワーク、反転授業						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義・演習	抽選の有無	—	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅱ(A～C)					丹治 恭子	第2期
履修前提条件						講義コード [A] 11A0152103 [B] 11A0151004 [C] 11A0152105	
授業の目的	本科目は、仏教学の専門的学修への導入を図るとともに、学問探求の場としての大学での学修・生活に取り組むための基礎として、①仏教学部での学びの動機づけ、②充実した学生生活を送るために必要となる事項の理解、③大学における学修・研究活動に必須となるアカデミック・スキルズ、ならびにそこで用いられるコミュニケーション技能の習得、を主な目的とする。 本授業も「学修の基礎Ⅰ」と同様、複数クラス編成の少人数制を導入する。①については、仏教学を専門分野とする教員が案内役となり、宗教・仏教に関連する施設を見学する機会を2～3回程度設け、履修者はいずれかの回に参加する（行先・日程等の詳細については、授業内で提示する）。②は、アルバイト等の学生生活に関するテーマを取り上げ、必要に応じて全クラス合同またはオンラインで授業を実施する。③については、クラス別に、「話す」「聞く」「読む」「書く」といったコミュニケーション活動について、大学での研究・学修と関連づけながら講義・演習を行う。なお、演習では、受講者同士のペア・ワークやグループ・ワークを行い、実践的な理解を図る。						
到達目標	1. 仏教学に対する関心を持ち、学修に積極的に取り組むことができる。 2. 大学生として求められる基礎的なアカデミック・スキルズを理解し、実践することができる。 3. 大学生活に必要なコミュニケーションの方法を理解し、実践することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の講義で扱う項目について、授業内で提示する課題ならびに図書館及びインターネットを活用した予習・復習に取り組むこと。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション 【第2回】学生生活の留意点（1）——ソーシャルメディアと情報倫理 【第3回】論理的な文章（1）——論理的文章の構造・論証とは何か 【第4回】論理的な文章（2）——事実と意見 ※オンライン授業で実施 【第5回】論理的な文章（3）——資料の読取 【第6回】論理的な文章（4）——構成 ※オンライン授業で実施 【第7回】学生生活の留意点（2）——キャリアを考える 【第8回】論理的な文章（5）——レポートの作成／学生生活の留意点（3）——アルバイトを考える 【第9回】学生生活の留意点（4）——学生生活とアルバイト（合同授業） 【第10回】学生生活の留意点（5）——キャリアを考える 【第11回】文献読解基礎能力テスト（合同授業） 【第12回】宗教・仏教関連施設の見学（1）（合同授業） 【第13回】宗教・仏教関連施設の見学（2）（合同授業）						
成績評価の方法	課題またはレポート（25%）、各回の授業外学修課題（45%）および授業への取り組み姿勢（30%）で評価する。						
フィードバックの内容	レスポンスカードに対するフィードバックは次回以降の授業内にて、レポートのフィードバックはLMSにて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『START 学修の基礎2025』立正大学全学教育推進センター運営委員会編（立正大学）2025						
教員からのお知らせ	授業計画に示した各回の内容は、合同授業の日程等によって前後することがある。また、合同授業の実施方法については内容に応じて変更される場合がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業日（金曜日）の授業時間内で教室内にて対応する。また、メール（アドレスは授業内で提示）でも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、調査学習、グループ・ワーク、反転授業						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0103400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	観心本尊抄講義 1					原 慎定	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	『観心本尊抄』には、日蓮聖人みずから「当身の大事」と記されているように、最重要の教えが開陳されている。すなわち、聖人が幾多の法難を克服して「法華經の行者」としての自覚を深められ、さらに久遠の釈尊の勅命に応じて、末法に応現した地涌の菩薩としての自覚に立って執筆されたのが『観心本尊抄』である。そこで本抄の講読を通して、聖人独自の法華經信仰の世界を探求し、末代凡夫の救済のあり方についてたずねてみたい。						
到達目標	『観心本尊抄』がどのような意図で著され、いかなる宗教的意義をもつかを理解できるようになる。また本抄の概要を説明できるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では計60時間以上の授業外学修を行うこと。まず予習としてテキストの該当箇所を読み、専門用語等について予め調べる。授業中は、日蓮聖人の遺文の中でも最重要の『観心本尊抄』を拝読するので真摯な学修が要請される。さらに毎回の復習として、使用するシステムを通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。						
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第8回】第1章 第2節：天台大師を歎じて後世を誡しむ 【第2回】日蓮聖人の五大部について 【第9回】第2章「観門の意義」第1節：教門の難信難解、 【第3回】『開目抄』と『観心本尊抄』の関連性 第2節：観門の難信難解 【第4回】『観心本尊抄副状』について 【第10回】第3章「法華經の十界互具」第1節：観心と向鏡 【第5回】『観心本尊抄』の解題・構成と大綱、撰述の由来、 【第11回】第3章 第2節：法華經における十界互具の明文 題号釈 【第12回】第3章 第3節：十界互具の事実 【第6回】『摩訶止観』の引用 【第13回】第3章 第4節：人界具仏界の難信難解 【第7回】〈序分〉第1章「天台教学における一念三千の位置」第1節：一念三千名称の出处						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価します。						
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次の授業内で行います。						
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2008年、『日蓮聖人『観心本尊抄』を読む』北川前肇（大法輪閣）2008年						
指定図書	『本尊抄講讀（上・中・下）』茂田井教亨述（山喜房佛書林）1983～7年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰著（筑摩書房）1988年						
参考書	『日蓮聖人御遺文講義第3巻』望月敏厚著（日蓮聖人遺文研究会）1957年復刊、『仏典講座38 観心本尊抄』浅井圓道著（大蔵出版）1982年、『傍訳 観心本尊抄』小松邦彰・田村完爾編著（四季社）2002年、『國寶『観心本尊抄』讃仰』渡邊寶陽著（山喜房佛書林）2013年						
教員からのお知らせ	本講義受講の必須条件として、「法華經概論1・2」が履修済であることを前提としますので、あらかじめご承知おき下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0103500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	観心本尊抄講義2					原 慎定	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	『観心本尊抄』には、日蓮聖人みずから「当身の大事」と記されているように、最重要の教えが開陳されている。すなわち、聖人が幾多の法難を克服して「法華經の行者」としての自覚を深められ、さらに久遠の釈尊の勅命に応じて、末法に現した地涌の菩薩としての自覚に立って執筆されたのが『観心本尊抄』である。そこで本抄の講読を通して、聖人独自の法華經信仰の世界を探求し、末代凡夫の救済のあり方についてたずねてみたい。						
到達目標	『観心本尊抄』がどのような意図で著され、いかなる宗教的意義をもつかを理解できるようになる。また聖人独自の法門は、三十三字段、四十五字段、五十一字段に帰結していることを説明できるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では計60時間以上の授業外学修を行うこと。まず予習としてテキストの該当箇所を読み、専門用語等について予め調べる。授業中は、日蓮聖人の遺文の中でも最重要の『観心本尊抄』を拝読するので真摯な学修が要請される。さらに毎回の復習として、使用するシステムを通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。						
授業計画	【第1回】〈正宗分〉第4章「受持の成仏」第1節：七大難問 【第8回】〈流通分〉第6章「末法の法華經」第1節：五重三段 【第2回】第4章第2節：爾前經の真理性と天台の譬見 【第3回】第4章第3節：難信難解と覚知の三師 【第9回】第6章第2節：末法為正と種脱対判 【第4回】第4章第4節：一念三千の仏種 【第10回】第6章第3節：起顕竟と下種の必然 【第5回】第4章第5節：受持と譲与 【第11回】第7章「末法の依師」第1節：四種の四依、第2節：遣使還告と神力別付 【第6回】第5章「本尊の相貌」第1節：不常住の依正、第2節：三千常住と本門の肝心 【第12回】第8章「五義の闡明」第1節：謗法と五字と地涌 【第7回】第5章第3節：本尊の相貌 【第13回】第8章第2節：仏記と現証						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価します。						
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次の授業内で行います。						
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2008年、『日蓮聖人『観心本尊抄』を読む』北川前肇著（大法輪閣）2008年						
指定図書	『本尊抄講讀（上・中・下）』茂田井教亨述（山喜房佛書林）1983～7年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰著（筑摩書房）1988年						
参考書	『日蓮聖人御遺文講義第3巻』望月敏厚著（日蓮聖人遺文研究会）1957年復刊、『仏典講座38 観心本尊抄』浅井圓道著（大蔵出版）1982年、『傍訳 観心本尊抄』小松邦彰・田村完爾編著（四季社）2002年、『國寶『観心本尊抄』讃仰』渡邊寶陽著（山喜房佛書林）2013年、『法華經の信心～久遠釈尊からの要請に生きる～』原 慎定著（日蓮宗福岡県布教師会）2020年						
教員からのお知らせ	本講義の受講の必須条件として、「法華經概論1・2」および「観心本尊抄講義1」が履修済であることを前提としますので、あらかじめご承知おき下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	17Y0105101	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅰ A					田中 聖華	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。自己管理能力やキャリア・プランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。						
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成が促進されることで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成が期待される。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：本科目の主旨と授業の進め方、履修上の注意等 キャリアについて考えるⅠ：キャリアとは、なぜキャリア開発が必要なのか 【第2回】コミュニケーション力をつけるⅠ：グループディスカッションとプレゼンテーション 【第3回】社会を知るⅡ：進路の考え方 【第4回】自分を知るⅠ：過去のふり振り返りからやる気を分析する（過去） 【第5回】自分を知るⅡ：職業についての価値観を確かめる（現在） 【第6回】自分を知るⅢ：職業についての興味を確認する（現在） 【第7回】自分を知るⅣ：キャリアステージを広げる（現在～未来） 【第8回】社会を知るⅢ：社会から求められる能力とは 【第9回】社会を知るⅣ：多様性とアンコンシャスバイアス 【第10回】自分を知るⅤ：これからの生き方についての考え方を考える（過去～現在～未来） 【第11回】自分を知るⅥ：上手くいえないときは？（現在～将来） 【第12回】コミュニケーション力をつけるⅡ：プレゼンテーション 【第13回】プレゼンテーション／まとめ *クラスサイズにより、授業計画の進捗や順序が異なることがある。						
成績評価の方法	授業中およびリアクションペーパーによる授業取り組み姿勢40％、授業中ワークに基づく課題20％、期末課題20％、指定プレゼンテーション20％の合計点を評価点とする。期限を過ぎた提出物はいかなる理由であっても受け付けられないので、期限を厳守すること。 *注意事項* 授業に出席すれば単位取得できる、という授業ではない。授業中のワークや授業外の課題に積極的に取り組み、自身を深く洞察し、社会と結び付けられるようになっているかどうかを評価するので、受講姿勢・態度に注意すること。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	資料およびワークシート配布、連絡はOpenLMSを使用する。確認を欠かさないこと。事前学習指示がある場合は指示内容を行ってから受講すること。 － 履修者の状況に合わせて適宜授業内容を変更する場合がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。指定アドレスへのメールにも適宜対応する。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、グループディスカッション、ペアワークなど *クラスサイズにより、実施できない内容もある。						
実践的な教育内容	企業人（総合商社やコンサルティングファーム）としての社会人経験や国家資格キャリアコンサルタントの知識および経験を生かした授業を行う。						
その他	自身のキャリア開発に関心を持ち積極的に取り組む受講者を歓迎する。						

講義コード	17Y0105102	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座ⅠB					勝又 あずさ	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	本科目の目的は、学生が、コミュニケーションを通した自他理解と、大学生活と卒業後も視野に入れた「自律的なキャリア開発」について考えることである。 具体的には、自らキャリアを開発していく上で必要な考えかたを、理論と実践を組み合わせながら学んでいく。 授業の前半は“自分らしさ”を追究し、後半は“キャリアビジョン”を描いていく。 この科目の大まかなながれは、以下のとおりである。 1. 自分の歩んできた道をふり振り返り、今、自分の糧になっている出逢いや正念場を意味づける。 2. 自分の強みを整理する。他者の魅力を知り自分を観る。集団における自分を観る。 3. 将来を描き、目標を設定し、コミットする（目標は決めつけず柔軟な発想で）。 大学時代のこの節目に自他理解と関係構築を行いながら、立正大学生としての「モラリスト×エキスパート」を体現していく。 注：履修については、本シラバスの「教員からのお知らせ」に記載した4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。						
到達目標	本授業では下記3点を到達目標とする。 1. 自分と他者と社会について考え、大学で学ぶ意味、働く意義について、自身の意見を論理的に表現できる。 2. 集団の中で自己の価値を発揮し、他者の価値を引き出し、リーダーシップを発揮する場をつくる。 3. キャリアに関する諸理論を理解し、自分なりの解釈ができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	1. 毎回の授業で学び得たことを授業レポートとして提出する（500字以上と毎回文字数を指定する予定）。 2. 授業後のおさらい・振り返りと、翌日に扱うテーマの予習を行う。 3. 理論について、学習後は自分なりの解釈を書きとめ、また翌日に備え質問を整理しておく。 授業外には計60時間以上の学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション（科目趣旨と授業の進め方）、グランドルール、キャリアとは、クラスづくり 【第2回】自己理解と他者理解：一人ひとりの個性を大切にしよう 【第3回】キャリア発達：ライフステージとキャリアステージ、ライフ・キャリア・レインボー 【第4回】キャリアとアイデンティティ、キャリア・アンカー 【第5回】多様な働き方：社会を知り職業を知る、職業興味と職業選択理論 【第6回】多様な生き方：ダイバーシティ・エクイティ・インクルーシブネス 【第7回】創造するキャリア・創造する社会、計画された偶発性理論 【第8回】働くことの意味：なぜ働くのか、どのように働こうか、キャリア構成理論 【第9回】よく生きる：ウェルビーイングとメンタルヘルス 【第10回】世界市民・地球市民として：サステナビリティ、他者と社会との共生 【第11回】キャリアビジョンとライフテーマ：将来の見通し 【第12回】キャリアプラン：社会に出てどう生きようか 【第13回】アクションプラン：学生生活をどう過ごそうか 今後の実践と継続的發展に向けてコミットメント・授業全体のふりかえり・総まとめ 受講者にあわせて授業を進行していくため、内容を更新する場合がある。						
成績評価の方法	下記3項目の合計点で評価する。 1. 平常点（授業への参加度、授業への取り組み姿勢として、ディスカッション発言・質問・設営準備等の貢献、受講態度やペア・グループワークにおけるファシリテーションや、協同学習におけるリーダーシップ）（26%） 2. 授業で学んだことのふりかえり・解釈、授業レポートの提出（39%） 3. 定期試験に代わるレポート（35%） 出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない。						
フィードバックの内容	授業レポートには授業での学びや理論の解釈について記述を求めるが、授業時間内にその授業レポートに対するフィードバックを行う。						
教科書 指定図書 参考書							
教員からのお知らせ	1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。 2. 授業終了後には毎回、授業レポートをOpenLMSを通して提出していただきます（500字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。 3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行なう予定です。 4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていきましょう。上記4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 OpenLMSのメッセージ機能→メールでの問い合わせにも対応する。 メールアドレス：katsumata@seijo.ac.jp						
アクティブラーニングの内容	1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。 2. 授業終了後には毎回、授業レポートをOpenLMSを通して提出する（500字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。 3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行なう予定です。 4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていく。 上記4つの項目を認識の上で、履修を検討のこと。						
実践的な教育内容	科目担当教員はソニー株式会社（現：ソニーグループ）にて24年間、主に広報・PRとキャリア支援・人材育成を担当し、独立後には株式会社（教育事業）を設立した。 これまでの実務経験を活かし、個人が他者や社会と関わりながら自律的にキャリアを構築していく、その重要性について多様な事例を紹介しながら授業を展開する。						
その他							

講義コード	17Y0105103	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座ⅠC					木村 了子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。自己管理能力やキャリアプランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。						
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成が促進されることで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的、自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成が期待される。						
授業外学習内容・ 授業外学習時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学習を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方、キャリアとは 【第2回】仕事と人生：生涯発達 【第3回】自己理解（1）：ジョハリの窓 【第4回】自己理解（2）：自己分析 【第5回】私たちが生きている社会と未来（1）：多様性を活かす社会 【第6回】働くについて（1）：多様な働き方 【第7回】自己理解（3）：自分のこれからを考える 【第8回】働くについて（2）：組織の中で働くために 【第9回】働くについて（3）：業界・職種・組織 【第10回】私たちが生きている社会と未来（2）：技術革新と社会課題 【第11回】私たちが生きている社会と未来（3）：社会変化への対応を考える 【第12回】キャリア・プラン：生涯を通してのキャリアビジョン 社会に出てどう生きるか 【第13回】学生生活をどう生きるか&まとめ ※ 状況により、授業計画の内容や順序は変更されることがある。						
成績評価の方法	期末レポート（40%）、中間レポート（20%）、リアクション・ペーパー（小レポート）に基づく授業に対する取り組み姿勢（40%） 到達目標に向けて、各レポート、リアクションペーパー等において、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	授業で扱った内容の振り返りを記述するためのリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに対する講評を次回以降の授業内で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業の資料は、紙での配布、及び授業終了後に指定のアプリに掲載する。 他者の意見を聞くことで視野広く考えられるようにするため、毎回グループワークを取り入れます。また、いろいろな人と話ができるように座席を決めています。 －						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、LMSからも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習や、授業内でグループ・ワークおよびグループ・ディスカッションを実施する。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	17Y0105201	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅱ A					佐藤 一義	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本科目の目的は、労働者としての権利・義務、就業規則といった雇用にかかわる基本的知識、税金・社会保険・年金の仕組みなどのキャリアを積み上げていく上で必要な知識を習得することに加えて、多様な雇用形態の在り方、男女共同参画社会の意義や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の重要性などについて学ぶことである。						
到達目標	社会人・職業人として必要な知識を習得することで、大学から社会・職業への円滑な移行・将来のキャリア形成の場における様々な課題への柔軟な対応が可能になることが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度が育成される。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方 【第2回】雇用環境と諸問題（1）：日本経済の動向、雇用動向 【第3回】雇用環境と諸問題（2）：新規卒者の離職状況 【第4回】労働条件・職場環境に関するルール（1）：賃金に関する基準 【第5回】労働条件・職場環境に関するルール（2）：労働時間・休日に関する主な制度 【第6回】労働条件・職場環境に関するルール（3）：保険や年金に関する主な制度 【第7回】雇用システムの在り方：長期雇用・年功賃金、成果主義 【第8回】職場における教育・人材育成 【第9回】多様な働き方：派遣労働者、契約社員、パートタイム労働者などの雇用形態 【第10回】雇用における男女の均等な機会と待遇 【第11回】定年、退職及び解雇 【第12回】定年・退職後の働き方 【第13回】就職・採用活動に関する基礎知識						
成績評価の方法	定期試験の結果で評価する（100％）						
フィードバックの内容	ポータルサイトの本授業の「掲示板」で質問を受け付ける。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	授業後に対応します						
アクティブラーニングの内容	経済的ニュース・情報を入手した場合や社会人と接した場合、授業で学んだ知識を積極的に確認する授業外学習。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	17Y0105202	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅱ B					坪田 まり子	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	労働者としての権利・義務、就業規則といった雇用にかかわる基本的知識、税金・社会保険・年金の仕組みなどのキャリアを積み上げていく上で必要な知識を習得することを第一の目的とする。 後半の授業では、インターンシップ参加を含む就職活動に備えた準備と対策をし、自信をもって就職活動に挑む意識と態度を育成することを第二の目的とする。						
到達目標	大学から社会・職業への円滑な移行・将来のキャリア形成の場における様々な課題への柔軟な対応ができるようになること。 産業・就業構造が変化する中で、社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を高めること。さらに、キャリア開発Ⅰの授業で身につけた人前で話す力やプレゼンテーション能力をさらに高めること。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方 【第2回】雇用環境と諸問題（1）日本経済の動向，雇用動向 【第3回】雇用環境と諸問題（2）新規卒者の離職状況 【第4回】労働条件・職場環境に関するルール（1）賃金に関する基準 【第5回】労働条件・職場環境に関するルール（2）労働時間・休日に関する主な制度 【第6回】労働条件・職場環境に関するルール（3）保険や年金に関する主な制度 【第7回】雇用システムの在り方：長期雇用，年功賃金，成果主義，男女の均等な機会と待遇など 【第8回】多様な働き方：派遣労働者，契約社員，パートタイム労働者などの雇用形態，退職後など 【第9回】職場における教育・人材育成の在り方 【第10回】就職活動（インターンシップ）の知識と準備（1）＊オンラインで実施 【第11回】就職活動（インターンシップ）の知識と準備（2）＊オンラインで実施 【第12回】就職・採用活動に関する基礎知識と対策（1）＊オンラインで実施 【第13回】就職・採用活動に関する基礎知識と対策（2）						
成績評価の方法	定期試験（50％）、レポート（20％）、授業への取り組み姿勢（30％）による。 対面、オンライン授業に関わらず、自主的な発言やグループディスカッション中の積極的な取り組み姿勢、プレゼンテーション時の取り組み姿勢で評価していく。キャリア開発基礎講座Ⅰで得たコミュニケーション能力の成果を上げるために実践的な場を増やし、評価する。定期試験は、筆記試験ではなく、成果発表（実技試験）とする。						
フィードバックの内容	授業の冒頭で、前回の授業を振り返ることから始め、理解の定着を図る。 課題に対する講評を翌週の授業内冒頭にて行う。 レポートに対する各自へのコメントを適宜、Webclass で出す。						
教科書							
指定図書							
参考書	『ポケット労働法 2024』東京都産業労働局						
教員からのお知らせ	この授業は授業計画に基づいて授業を進めますが、授業の効果を上げるために、順番を変更する場合があります。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 Webclass（メール機能）からの質問も可能とします。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ペアワーク、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなど。						
実践的な教育内容	就職活動全般（自己分析から面接対策まで）とキャリアデザインに関する実務経験のある教員が、その経験を活かして講義する。						
その他	ポケット労働法2024は、適宜、授業で使用するための参考書としての位置づけ。 初回授業で配布する予定。						

講義コード	17Y0105203	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅱ C					徳山 誠	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本科目では、「大学生にとってのキャリア」について考え、「大学で学ぶ意味」と「社会で働く意義」について理解を深めていく。そのうえで、自身のキャリアの自律を図るヒントを得ることを目指す。先行き不透明な時代だからこそ自分で考え、決断し主体的に行動することに大切さを自覚するきっかけとする。						
到達目標	激動・激変の社会にあって、変化に柔軟に対応できる力、自らのキャリアについて考え行動する力が必要であることを習得する。さらに、社会に出て求められるコミュニケーション力をつけるため、授業内でのグループワークで学生一人ひとりが積極的に話せるようになることを目標とする。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学習をおこなう必要があり、そのための課題を毎回提示する。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション&大学で学ぶ意味:「キャリア」の意味、日本社会の現状、労働の連鎖、自己理解。大学教育の意味、大学は先行投資、大学教育はどのように役に立っているのか、 【第2回】社会を見る目を養う:新聞の必要性、新聞を読むメリット 【第3回】労働の連鎖:企業内外はじめ国境を越える労働の連鎖、労働連鎖と職業選択 【第4回】アルバイトは就業経験?:労働法超初級編、ブラックバイト、非正社員と正社員の違い 【第5回】働くことの意義とやりがい:働く目的、「仕事」とは?、社会人インタビュー、やりがいはどこから?、ブランドハップンスタンス理論、 【第6回】ライフキャリアと職業キャリア(男女の視点):女性労働の実態と特徴、仕事の位置づけ、男性の働き方改革、WLBが求められる背景 【第7回】グローバル人材とは:経営のグローバル化、グローバル人材、異文化コミュニケーション力 【第8回】仕事の未来を考える:昔の仕事、これから残る仕事、大きく変わる働き方、10年先の仕事を考える 【第9回】変化対応力を鍛える:VUCA時代に必要な企業・組織・個人の変化対応力 【第10回】世界の中の日本:国際社会の現状、日本の食料事情、国際情勢の変化、国際社会と日本 【第11回】考える力を高める:データベースの構築、文章を書く、議論することの重要性、やりたいことができるようになるには? 【第12回】これまでの振り返りと総括。人生100年時代とプロティアンキャリア 【第13回】試験またはレポート						
成績評価の方法	・レポート課題(中間)30% ・最終試験(対面)またはレポート(リモートの場合)40% ・リアクション・ペーパー(授業中の「課題」も含む)評価および授業に対する取り組み姿勢(授業中の態度など)30%						
フィードバックの内容	毎回授業後に提出するリアクションペーパー(課題)の内容を次回の授業の冒頭で共有し、理解深化を図るためテーマを絞り必ずフィードバックをおこなう。						
教科書 指定図書 参考書	『考える力を高めるキャリアデザイン入門』藤村博之編(有斐閣)2021年4月10日						
教員からのお知らせ	大学は、いろいろなことにチャレンジできる場です。大学は、失敗してもいい場所です。授業では毎回グループワークを実施します。コミュニケーションが苦手は人ほど大歓迎です。授業を通じて成長しましょう。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。どんな相談でも受け付けます。遠慮なく声をかけてください。						
アクティブラーニングの内容	授業では、毎回のグループワークによる意見共有など交流し、社会人へのインタビュー取材など能動的な授業外学習などを予定しています。						
実践的な教育内容	担当講師は、日常企業で経営陣はじめ管理職、社員各層に対する人財育成支援に関わっており、企業の変化など実情を踏まえた内容を授業に反映していきます。						
その他	特になし						

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅲ〔A～F〕					〔A・B・C〕 野条 美貴 〔D・E・F〕 木村 了子	第1期
履修前提条件							
備考	講義コード 〔A〕 17Y0105301 〔B〕 17Y0105302 〔C〕 17Y0105303 〔D〕 17Y0105304 〔E〕 17Y0105305 〔F〕 17Y0105306						
授業の目的	本科目では、自己分析や業界研究・企業研究を行うことで、産業構造・企業構造の変化に伴う職業人として求められる資質能力の多様化を踏まえた、具体的な業種・職種を意識した職業観・勤労観を育成することが目的である。加えて、実際の現場で活躍する実務家などを外部講師として招聘し、業界や企業の最新動向を学ぶことを目的とする。						
到達目標	様々な業種・職種と学生の適性や興味・関心がすり合わされることで、自己実現に向けた主体的なキャリアデザインが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度が育成されることを目標とする。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：コミュニケーションとマナー 【第2回】自分を知る（1）：自己分析 【第3回】社会を知る（1）：社会人基礎力 【第4回】働くとは：ストレスとの向き合い方 【第5回】自分を知る（2）：筆記試験の種類と傾向 【第6回】自分を知る（3）：適職を見つける・考える／履歴書の書き方 【第7回】社会を知る（2）：業界研究 【第8回】社会を知る（3）：企業研究・職種研究 【第9回】仕事を知る（1）：社会人のキャリア 【第10回】仕事を知る（2）：社会人のキャリア 【第11回】仕事を知る（3）：社会人のキャリア 【第12回】仕事を知る（4）：働くとはを考える 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	期末授業内レポート（50%）、リアクション・ペーパー（小レポート）に基づく授業に対する取り組み姿勢（50%） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	授業で扱った内容の振り返りを記述するためのリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに対する講評を次回以降の授業内で行う。						
教科書	『会社四季報業界地図 2025年版』（東洋経済新報社）2024年						
指定図書							
参考書	『CAREER COMPASS 2027』（立正大学キャリアサポートセンター）2025年						
教員からのお知らせ	上記の授業計画に基づいて授業を進める。但し、学外の講師による講演が授業計画の一部に含まれるため、授業計画は変更されることがある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、LMSからも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習や、授業内でグループ・ワークおよびグループ・ディスカッションを実施する。						
実践的な教育内容							
その他	参考書は、新年度に実施のキャリアサポートセンターミニセミナー「ガイダンス」で配布します。						

講義コード	14Z0102101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門A					佐藤 一義	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65％。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35％。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容							
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	授業後対応します						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0102102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門B					佐藤 一義	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65％。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35％。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容							
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	授業後対応します						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0102103	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門C					佐藤 一義	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65%。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35%。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容							
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	授業後対応します						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0102104	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担 当 教 員	勝又 あずさ	開 講 期	
科 目 名	キャリア・デザイン入門D					勝又 あずさ		第2期	
履修前条件						備 考			
授 業 の 目 的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到 達 目 標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうちに取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授 業 計 画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画								
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65％。 期末レポート（キャリアアブランシートの提出）：35％。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	授業レポートには授業での学びや解釈について記述を求めるが、翌回以降の授業時間内にその授業レポートに対するフィードバックを、教員からあるいはクラスメイトと相互に行う。 ラーニング・マネジメント・システム（LMS）を活用することもある。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。 2. 授業終了後には毎回、授業レポートをオンラインで提出していただきます（〇字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。また、学期末には定期試験に代わる期末レポートを提出いただき、それらをもとに評価をします。これらの提出について期日を過ぎた場合は受理をしません。 「定期試験に代わる期末レポートを提出したがその文書に記載がない」という場合は、「試験答案を白紙で提出」と扱いざるをえないため確認をして提出すること。 その他、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をすること。 3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行う予定です。 4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていきましょう。 上記4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業の授業時間内で教室内にて対応する。 OpenLMSのメッセージ機能、または、メールでの問い合わせにも対応する。 メールアドレス：katsumata@seijo.ac.jp								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容	科目担当教員はソニー株式会社（現：ソニーグループ）にて24年間、主に広報・PRとキャリア支援・人材育成を担当し、独立後には株式会社（教育事業）を設立した。 これまでの実務経験と、現在の本務校でのライフ・キャリア教育を活かし、「個人が他者や社会と関わりながら自律的にキャリアを構築していく」、その重要性について事例を紹介しながら授業を展開する。								
そ の 他	1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。 2. 授業終了後には毎回、授業レポートをオンラインで提出していただきます（〇字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。また、学期末には定期試験に代わる期末レポートを提出いただき、それらをもとに評価をします。これらの提出について期日を過ぎた場合は受理をしません。 「定期試験に代わる期末レポートを提出したがその文書に記載がない」という場合は、「試験答案を白紙で提出」と扱いざるをえないため確認をして提出すること。 その他、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をすること。 3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行う予定です。 4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていきましょう。 上記4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。								

講義コード	14Z0102105	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	キャリア・デザイン入門E					木村 了子		第2期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのため、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到 達 目 標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授 業 計 画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画								
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65％。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35％。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	対面授業において、グループワークなどを実施しますので、積極的な姿勢で参加してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	14Z0102106	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担 当 教 員	開 講 期
科 目 名	キャリア・デザイン入門F					木村 了子	第2期
履修前提条件					備 考		
授 業 の 目 的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到 達 目 標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授 業 計 画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65％。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35％。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。						
教 科 書							
指 定 図 書							
参 考 書							
教員からのお知らせ	対面授業において、グループワークなどを実施しますので、積極的な姿勢で参加してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
そ の 他							

講義コード	14Z0102107	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門G					徳山 誠	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65%。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35%。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	課題やリアクションペーパーに対するフィードバックは、翌週の授業冒頭でおこないます。その際、できるだけ共通するポイントを取り上げて共有します。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業では毎回必ずグループワークをおこないます。人前で話すのが苦手な人、コミュニケーションが下手だと思っている学生を歓迎します。終了するまでに必ず苦手を克服できると思います。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0102108	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門H					坪田 まり子	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65%。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35%。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	授業の冒頭で、前回の授業の簡単な振り返り等をし、欠席した学生を含め、理解の定着を図っていきます。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	1限という早い時間帯ですが、お互いに頑張って授業に取り組んでまいりましょう。						
オフィスアワー	原則、授業開始前や終了後に、教室にて質問や相談を受け付けます。 長い相談になる場合には、別の方法で臨機応変に対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容	就職活動全般（自己分析から面接対策まで）とキャリアデザインに関する実務経験のある教員が、その経験を活かして講義します。						
その他							

講義コード	14Z0102109	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	キャリア・デザイン入門Ⅰ					野条 美貴		第2期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのため、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到 達 目 標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授 業 計 画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画								
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65％。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35％。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	対面授業において、グループワークなどを実施しますので、積極的な姿勢で参加してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	14Z0102110	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	キャリア・デザイン入門Ⅱ					野条 美貴		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画								
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65％。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35％。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	対面授業において、グループワークなどを実施しますので、積極的な姿勢で参加してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	14Z0102111	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門K					木村 了子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65%。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35%。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	対面授業において、グループワークなどを実施しますので、積極的な姿勢で参加してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0102112	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門L					田中 聖華	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65%。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35%。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーの内容から、共有する必要があるもの、継続議論が必要な視点のもの、および参考情報や資料を取り上げ、翌週の授業で採り上げて共有、解説する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	提出物は期限厳守のこと。期限後は受付を締め切るので注意すること。						
オフィスアワー	質問は、指定メールアドレスへのメッセージで受け付ける。 指定メールアドレスはOpenLMSに掲載するので、必ず指定されたメールアドレスに連絡すること。指定メールアドレス以外のメールには回答できないことがあるので注意すること。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0102113	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	キャリア・デザイン入門 M					野条 美貴	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	具体的な働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、具体的な働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画						
成績評価の方法	各回の課題提出・平常点（ワークへの取り組み態度など）：65%。 期末レポート（キャリアプランシートの提出）：35%。 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に表現できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	対面授業において、グループワークなどを実施しますので、積極的な姿勢で参加してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	16A0170300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	菅野 龍清	開講期	第1期
科目名	教化学Ⅰ					菅野 龍清		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教世界において伝統宗門では宗祖や宗派の歴史に培われた「教学」、またはインド学から派生した「仏教学」が仏教思想を研究する学問とされてきた。しかし現代ではそれらの学問が布教の現場では、現実から乖離しているとの指摘もあり、また極めて難渋な言説を必要とすると傾向もあり、教化・布教に役立つ現代的な学問が必要ともいわれている。教化学がそれらのニーズに合うものなのか考えていきたい。								
到達目標	仏教学、教学、教化学の違いを明らかにすることができる 仏教の基本思想を明確に説明できる 日本の文化習俗の一面を知ることができる 僧侶として檀信徒を含め社会からの問いに答えるためのヒントを得ることができる								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎回、次回必要となるテキストや参考資料を紹介、指示するので能く予習しておくこと またグループケア等については専門家（臨床宗教師、臨床仏教師）によるテキストあるいは動画等を指示するので参照しておくこと								
授業計画	【第1回】「教化」とは何か 【第2回】教化学の定義〈仏教学と教学〉〈教学と教化学〉〈教学の現代的意義としての教化学〉 【第3回】教化と布教〈共通点と相違点〉 【第4回】伝えるべき仏教の基本①〈インド仏教思想の要点〉〈出家と在家〉〈大乘仏教と密教〉 【第5回】伝えるべき仏教の基本②〈日本仏教思想の要点〉〈顕教と密教〉 【第6回】日本の習俗と宗教文化①〈怨霊の理〉 【第7回】日本の習俗と宗教文化②〈穢れと祓い〉〈死と穢れ〉〈憑物〉 【第8回】現代における教化・布教とは①〈伝統的布教方法の持つ意味と役割〉 【第9回】現代における教化・布教とは②〈寺院の現代的存在理由〉〈地域と過疎化と過密化〉 【第10回】現代における教化・布教とは③〈宗教者にとってのグループケア〉 【第11回】現代における教化・布教とは④〈宗教とジェンダー、仏教とジェンダー〉 【第12回】現代における教化・布教とは⑤〈宗教者は世界にどのように対峙すべきか〉〈仏教と戦争論〉 【第13回】仏教と教化学〈これからの宗教者・仏教者にとっての教化学とは〉								
成績評価の方法	半期科目ですので、最終講義の後、レポートを提出してもらいます その他、5回目と7回目の講義には小レポート（300～400字程度）の感想文（リアクション）を提出してもらいます								
フィードバックの内容	リアクションの内容については必要な場合は、その内容を講義に反映させていく レポートについてはコメントをLMSにアップする								
教科書									
指定図書									
参考書	『現代宗教研究1 霊と仏教』現代宗教研究所（日蓮宗宗務院）2021.9、『現代宗教研究2 宗教と霊的体験』現代宗教研究所（日蓮宗宗務院）2022.3、『現代宗教研究3 苦に寄り添って』現代宗教研究所（日蓮宗宗務院）2023.3、『日蓮宗全女性教師アンケート報告書』現代宗教研究所（日蓮宗宗務院）2023.3								
教員からのお知らせ	日蓮宗現代宗教研究所の主任を務めております 教化学に関することはもちろん、現代宗教にかかわる問題についても講義中に触れたいと思います								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバック等による振り返りを用いて								
実践的な教育内容	－ 応ずる								
その他									

講義コード	16A0170400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	教化学2					村井 惇匡		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	法華経・日蓮聖人の教えや信仰の世界を、布教の現場のみならず社会の中で如何に伝え、活かしてゆくかを「教化学」の基礎的知識をもとに、実例を交えた実践論あるいは応用論を講義する。								
到達目標	本講義を受けることにより、法華経・日蓮聖人の教えを異なる時間・場所・状況あるいは対象者に応じた伝え方を習得し、教化の展開方法などを構築することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、出題する課題やレポート作成に30時間、指定図書・紹介図書を読み予習・復習に30時間使うこと。								
授業計画	【第1回】「教化」とは 身業説法と社会教化 【第2回】 青少幼年への教化①「修養道場」の理念と実践 【第3回】 青少幼年への教化② 寺院を会場とする行事の構築とポイント 【第4回】 公立学校での教化 公立小中学校での活動 【第5回】 矯正施設での教化 矯正と更生に携わる宗教者 【第6回】 医療現場での教化 臨床仏教師に学ぶ 【第7回】 未信徒への教化① 国内開教師に学ぶ 【第8回】 未信徒への教化② 社会に開かれた寺院の活動 【第9回】 檀信徒への教化① 信行への手引き 【第10回】 檀信徒への教化② 安心への導き 【第11回】 修徒への教化① 日蓮宗の組織と教育機関 【第12回】 修徒への教化② 介護殺人を考える 【第13回】 本講義のまとめ「教化」の原点とハタラク								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、レポート2回（60%）で評価する。 到達目標に記載の内容について、自身の言葉で具体例を挙げて記述できることをレポートの評価基準とします。								
フィードバックの内容	提出されたレポートの講評やふり返りのアドバイスは授業内で行います。								
教科書	プリントを配布します。								
指定図書	講義の中で紹介します、『介護殺人 追いつめられた家族の告白』毎日新聞大阪社会部取材班（新潮社）平成28年								
参考書	講義の中で紹介します								
教員からのお知らせ	受講前には授業予告等を確認し、レジュメや添付資料、または配布資料を手元に準備し授業に臨んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は Forms 機能の掲示板にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、リアル教材として動画を活用。								
実践的な教育内容	無住職寺院の継承を契機に寺院活動の復興、教誨師・保護司・人権擁護委員としての社会活動、僧道林・信行道場・布教研修所の訓育現場の経験がある教員が対象者に応じた教化における視点や手法、注意点を講義する。								
その他	毎回授業予告に添付するレジュメや資料とは別に、紙媒体資料（小冊子・リーフレット等）を配布します。仏教学部事務室へ指定する期日・期間内に受け取りに行ってください。								

講義コード	11A0111100	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	芸術研究Ⅰ					長谷川 耕史		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	創造的な表現を育むために、芸術分野においての鑑賞眼を高めていく。 有名法帖の古典を唐代の楷書を臨書し、結構美の習得と書の奥深さを学んでいく。								
到達目標	書の実作を通して、書の実用性と芸術性を理解して習得出来るようにする。 自己表現としての書を古典をふまえて、追求していけるようにする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 鑑賞眼を高めていく為に、寺社、仏閣に遺されている手書きの看板や石碑の字をセレクトして 写真を添付の上、 短評のレポート提出を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 書の心得 名前の練習 【第2回】 永字八法 【第3回】 楷書 以呂波① 【第4回】 楷書 以呂波② 【第5回】 楷書 以呂波③ 【第6回】 臨書 以呂波④ 【第7回】 臨書 九成宮醴泉銘① 【第8回】 臨書 九成宮醴泉銘② 【第9回】 臨書 孔子廟堂碑① 【第10回】 臨書 孔子廟堂碑② 【第11回】 臨書 雁塔聖教序① 【第12回】 臨書 雁塔聖教序② 【第13回】 臨書 楷書の創作								
成績評価の方法	提出作品課題 40% 平常点「積極性及び授業への取り組み姿勢」30% レポート 20% 忘れ物10%								
フィードバックの内容	基本的に授業内で添削を行うが、提出課題に関しては半期ごとに成績をつけて返却予定。								
教科書	『五体いろは帖』長谷川耕南（日本書鏡院）昭和33年								
指定図書	『五體字類』高田竹山（西東書房）								
参考書	『九成宮醴泉銘』欧陽詢（二玄社）、『孔子廟堂碑』虞世南（二玄社）、『雁塔聖教序』褚遂良（二玄社）								
教員からのお知らせ	書道に興味のある諸君、共に書の奥深さを学んでいきましょう。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応致します。 また、メール koushi19710817@gmail.com にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	実習、フィールドワーク。								
実践的な教育内容	現役書道家が書道の基本について実践的に理解させる。								
その他									

講義コード	11A0111200	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	芸術研究2					長谷川 耕史	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	創造的な表現を育むために、芸術分野においての鑑賞眼を高めていく。 有名法帖の古典を行書から草書へと臨書し、書の奥深さを学んでいく。						
到達目標	書の実作を通して、書の実用性と芸術性を理解して習得出来るようにする。 自己表現としての書を古典をふまえて、追求していけるようにする。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 鑑賞眼を高めていく為に、寺社、仏閣に遺されている看板や石碑の字をセレクトして写真を添付の上、 短評のレポート提出を行うこと。						
授業計画	【第1回】行書 いろは① 【第2回】行書 いろは② 【第3回】臨書 蘭亭序① 【第4回】臨書 蘭亭序② 【第5回】臨書 蘭亭序③ 【第6回】草書 いろは① 【第7回】草書 いろは② 【第8回】草書 いろは③ 【第9回】臨書 書譜① 【第10回】臨書 書譜② 【第11回】実用書道① 【第12回】実用書道② 【第13回】創作						
成績評価の方法	提出作品課題 40% 平常点「積極性及び授業への取り組み姿勢」30% レポート 20% 忘れ物10%						
フィードバックの内容	基本的に授業内で添削を行うが、提出課題に関しては半期ごとに成績をつけて返却予定。						
教科書	『五体いろは帖』長谷川耕南（日本書鏡院）昭和33年						
指定図書							
参考書	『蘭亭序』王羲之（二玄社）、『書譜』孫過庭（二玄社）、『五體字類』高田竹山（西東書房）						
教員からのお知らせ	書道に興味のある諸君、共に書の奥深さを学んでいきましょう。通年のカリキュラムになっておりますので、前期から履修することをおすすめします。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応致します。 また、メール koushil9710817@gmail.com にて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	実習、フィールドワーク。						
実践的な教育内容	現役書道家が書道の基本について実践的に理解させる。						
その他							

講義コード	11A0111300	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	芸術研究3					金柄鎮	第1期
履修前提条件						備考	
授業の目的	建築とはなにか。さまざまな世界遺産建築を取り上げ、その特質を捉えつつ文化と呼びうるものについて考察する。建築史の専門性を重要することではなく、世界遺産の建築を例として挙げながら建築というものが何なのか分かるやすく説明をする。 授業の前半では、日本の伝統建築を対象に、古代・中世・近世の建築と建築生産史を取り上げ、その建築の取り上げ方、評価のありようを探る。国宝建築はなぜ国宝なのか？そんなことを考えながら、自分の取り上げた建築について自分なりに価値評価をしてみる。 後半では、日本建築を足がかりに、東洋建築、文化財保存論へと考察の対象を展開させ、さらに視点を深化させるために、建築に関する自分の考えをまとめ、個人別で発表しながら議論化する。						
到達目標	日本だけではなく東アジアにある建築について、その歴史の変遷を理解し、説明することができる。 日本の伝統的な木造建築の基本的な構造や部材名称・用語を理解し、使うことができる。 自分の回りの伝統建築・都市に残された歴史的なものを感じるができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、毎回の授業で扱う時代の建築について予習・復習を行うこと。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション ・この授業の進め方 ・参考図書の紹介 ・日本建築文化について説明 【第2回】外から見た日本建築文化 ・日本建築文化の特徴 ・建築保存文化・保存制度 【第3回】日本建築文化 ・日本建築世界遺産 【第4回】日本建築生産史 ・建築の木工技術 ・設計図の流れ 【第5回】日本の密教文化 ・中世の寺院建築 ・近世の寺院建築 【第6回】日本の文化財保存 ・文化財保存方法（実物の例を挙げて） 【第7回】韓国の建築文化Ⅰ ・統一新羅時代の建築 ・高麗時代の建築 ・伽藍配置 【第8回】韓国の建築文化Ⅱ ・朝鮮時代の建築 【第9回】カンボジア建築と保存Ⅰ ・カンボジア建築の概要 ・建築文化の特徴 ・時代別の建築（実物の例を挙げて） 【第10回】カンボジア建築と保存Ⅱ ・時代別の建築（実物の例を挙げて） 【第11回】個人発表会Ⅰ ・グループまたは個人発表 【第12回】個人発表会Ⅱ ・グループまたは個人発表 【第13回】個人発表会・授業のまとめ ・グループまたは個人発表						
成績評価の方法	・計1つのレポートの提出（40％） ・各回であった講義から感じた文化を反映した建築要素（例として建物を挙げて）を個人的で資料を集めて発表資料を作成する。また、個人発表後には全員が必ず質疑に参加して、各発表者が質疑にあった内容を補完して最後のレポートに提出する。（40％） ・クラスメイトの発表に対する質問など議論への参加状況（20％）						
フィードバックの内容	メールでフィードバックを対応します。						
教科書							
指定図書							
参考書	『日本建築史図集』日本建築学会編（彰国社）2011.1、『日本建築史』後藤治（共立出版）2003.7、『日本建築史序説』太田博太郎（彰国社）2009.3、『密教建築空間論』藤井恵介（中央公論美術出版）1998.2、『朝鮮木造建築の研究：架構技術の発展と様式の成立』片桐正夫（相模書房）2014.7、『アンコール遺跡の建築学』片桐正夫（連合出版）2001.7						
教員からのお知らせ	授業はスライドを中心に行いますので、自分でノートにメモすることにします。 教科書を購入する必要はありません。参考図書は授業内で紹介します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0111400	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	芸術研究4					中村 千鶴	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	いけばなは日本の伝統芸術のひとつで、自然の花や枝などの素材を組み合わせ美しい状態を構成し、鑑賞する芸術です。いけばなには多くの流派がありますが、小原流は19世紀末、小原雲心が「盛花」という新形式のいけばなを創始して、近代いけばなの道を開いたことに始まりました。今ではおなじみの水盤と剣山を使ういけばなは、小原流が始めたものです。本授業ではいけばなの古典の格調と基礎的な技術を学びながら、日本独自の伝統文化を深く理解してもらえるように指導に取り組みます。また授業では多くの実践を通じていけばなの基本を紹介します。						
到達目標	授業を通じて、日本伝統文化であるいけばなの美しさを感じながら、いけばなの基礎的ないけ込みの技法を習得するとともに、日本伝統文化であるいけばなを説明することが出来る。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	必要に応じて、華展や庭園などを鑑賞してもらい、レポートなどを書いてもらいます。 なお、上記に示した授業以外の学習は60時間以上を目安に行うこと。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション・いけばなの道具の使用方法及び基本形の講義、作品鑑賞 【第2回】立てるかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技①） 【第3回】立てるかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技②） 【第4回】立てるかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技③） 【第5回】立てるかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技④） 【第6回】傾けるかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技⑤） 【第7回】傾けるかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技⑥） 【第8回】傾けるかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技⑦） 【第9回】ひらくかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技⑧） 【第10回】ひらくかたちの花の講義と受講生各自の花の生け込み（実技⑨） 【第11回】総括及び受講生各自の花の生け込み（実技⑩） 【第12回】総括及び華道についての講義＊1 【第13回】小原流いけばなについての講義とレポートのまとめ ＊1 実技に変更する場合があります。 ※花材により講義の順番が前後することがあります。 ※履修人数や花材により「ひらくかたち」が「立てるかたち」や「傾けるかたち」に変更になることがあります。 ※テキストは必要に応じてプリントを配布します。 ※受講生各自でお花を生ける時間が10回あります。 ※お花代（その他の道具代含む）は1回目の授業で10回分を払って下さい。（10回分15000円）、授業履修予定の方は必ず1回目の授業にいらして下さい。 ※欠席しても、お花代の返金はありません。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50％、レポート50％						
フィードバックの内容	・毎回の実技での作品を添削し、フィードバックする。 ・提出されたレポートを添削し、授業期間内に返却する。						
教科書							
指定図書							
参考書	－						
教員からのお知らせ	一回目の授業でお花代を集めますので、必ずいらして下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2118700	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担当教員	橋岡 昭男	開講期	通年																										
科目名	芸術実習【仏画Ⅰ】					橋岡 昭男		通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本講義では、古典により多く接しながら、模写の製作手順など仏画における基礎知識を身につけることを目的とします。																																		
到達目標	物の見方、考え方、感じ方の参考になることをなるべく簡単に、かつ理論的に理解して、頭の中で理解したものを実践し、使いこなせる。線の引き方（明度の差・強弱・太い細い）で、立体の表現ができる。展覧会を見た時に色々な事柄（明度・明暗・構図・絵の考え方）に興味がもてる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	鳥獣戯画の背景となる関連事項や、鎌倉時代後期から平安時代前期にどのような絵巻物があるか、展覧会に行くなど、授業外に計120時間以上の学修を行うこと。																																		
授業計画	<table><tr><td>【第1回】導入・授業全体の見直し 鳥獣戯画の説明</td><td>【第14回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）①</td></tr><tr><td>【第2回】新聞紙で模写棒を作る</td><td>【第15回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）②</td></tr><tr><td>【第3回】試し描き 筆・墨・道具の使い方①</td><td>【第16回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）③</td></tr><tr><td>【第4回】試し描き 筆・墨・道具の使い方②</td><td>【第17回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）④</td></tr><tr><td>【第5回】試し描き 筆・墨・道具の使い方③</td><td>【第18回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑤</td></tr><tr><td>【第6回】試し描き 筆・墨・道具の使い方④</td><td>【第19回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑥</td></tr><tr><td>【第7回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方①</td><td>【第20回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑦</td></tr><tr><td>【第8回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方②</td><td>【第21回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑧</td></tr><tr><td>【第9回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方③</td><td>【第22回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑨</td></tr><tr><td>【第10回】本紙制作 擦れの表現の仕方①</td><td>【第23回】本紙制作 毛羽立ちの表現①</td></tr><tr><td>【第11回】本紙制作 擦れの表現の仕方②</td><td>【第24回】本紙制作 毛羽立ちの表現②</td></tr><tr><td>【第12回】本紙制作 擦れの表現の仕方③</td><td>【第25回】朱で印を表現する 裏打①</td></tr><tr><td>【第13回】本紙制作 擦れの表現の仕方④</td><td>【第26回】朱で印を表現する 裏打②</td></tr></table>									【第1回】導入・授業全体の見直し 鳥獣戯画の説明	【第14回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）①	【第2回】新聞紙で模写棒を作る	【第15回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）②	【第3回】試し描き 筆・墨・道具の使い方①	【第16回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）③	【第4回】試し描き 筆・墨・道具の使い方②	【第17回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）④	【第5回】試し描き 筆・墨・道具の使い方③	【第18回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑤	【第6回】試し描き 筆・墨・道具の使い方④	【第19回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑥	【第7回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方①	【第20回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑦	【第8回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方②	【第21回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑧	【第9回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方③	【第22回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑨	【第10回】本紙制作 擦れの表現の仕方①	【第23回】本紙制作 毛羽立ちの表現①	【第11回】本紙制作 擦れの表現の仕方②	【第24回】本紙制作 毛羽立ちの表現②	【第12回】本紙制作 擦れの表現の仕方③	【第25回】朱で印を表現する 裏打①	【第13回】本紙制作 擦れの表現の仕方④	【第26回】朱で印を表現する 裏打②
【第1回】導入・授業全体の見直し 鳥獣戯画の説明	【第14回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）①																																		
【第2回】新聞紙で模写棒を作る	【第15回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）②																																		
【第3回】試し描き 筆・墨・道具の使い方①	【第16回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）③																																		
【第4回】試し描き 筆・墨・道具の使い方②	【第17回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）④																																		
【第5回】試し描き 筆・墨・道具の使い方③	【第18回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑤																																		
【第6回】試し描き 筆・墨・道具の使い方④	【第19回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑥																																		
【第7回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方①	【第20回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑦																																		
【第8回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方②	【第21回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑧																																		
【第9回】本紙制作 筆・墨・道具の使い方③	【第22回】本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑨																																		
【第10回】本紙制作 擦れの表現の仕方①	【第23回】本紙制作 毛羽立ちの表現①																																		
【第11回】本紙制作 擦れの表現の仕方②	【第24回】本紙制作 毛羽立ちの表現②																																		
【第12回】本紙制作 擦れの表現の仕方③	【第25回】朱で印を表現する 裏打①																																		
【第13回】本紙制作 擦れの表現の仕方④	【第26回】朱で印を表現する 裏打②																																		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢70% 作品の仕上がり30%																																		
フィードバックの内容	制作課題を授業期間内に返却する。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ	実践的な模写をするにあたって薄美濃紙、面相筆を購入して頂きます。																																		
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																																		
アクティブラーニングの内容	実習／実技／調査研究（調査学習）																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11A2118990	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担 当 教 員	開 講 期
科 目 名	芸術実習Ⅱ【仏画Ⅱ】					橋岡 昭男	通年
履修前提条件						備 考	
授 業 の 目 的	古典により多く接し、実践的な模写を通して、優れた美術・文化を身近なものとしてゆくことを目的とする。又、卒業制作（仏画関係）を希望する者がいる場合は、その指導も行う。						
到 達 目 標	物の見方、考え方、感じ方の参考になることをなるべく簡単に、かつ理論的に理解して、頭の中で理解したものを実践して使いこなせる。芸術実習Ⅰにあわせて、薄墨の明暗明度のとり方も身につける。構図の在り方が理解できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	平安・鎌倉時代の絵画に興味をもち関連事項を調べた上で、日本画とはどういうものか理解し、授業外に計120時間以上の学修を行い、積極的に色々な展覧会へ足を運んで下さい。						
授 業 計 画	【第1回】	導入・授業全体の見直し	制作における作品探し	【第14回】	本紙制作	空間の意識④	
	【第2回】	作品探し	コピー 模写棒作り	【第15回】	本紙制作	空間の意識⑤	
	【第3回】	試し描き	立体の意識（明暗明度の捉え方）①	【第16回】	本紙制作	空間の意識⑥	
	【第4回】	試し描き	立体の意識（明暗明度の捉え方）②	【第17回】	本紙制作	全体感をよく見る①	
	【第5回】	試し描き	立体の意識（明暗明度の捉え方）③	【第18回】	本紙制作	全体感をよく見る②	
	【第6回】	試し描き	立体の意識（明暗明度の捉え方）④	【第19回】	本紙制作	全体感をよく見る③	
	【第7回】	本紙制作	立体の意識（明暗明度の捉え方）①	【第20回】	本紙制作	全体感をよく見る④	
	【第8回】	本紙制作	立体の意識（明暗明度の捉え方）②	【第21回】	本紙制作	全体感をよく見る⑤	
	【第9回】	本紙制作	立体の意識（明暗明度の捉え方）③	【第22回】	本紙制作	全体感をよく見る⑥	
	【第10回】	本紙制作	立体の意識（明暗明度の捉え方）④	【第23回】	本紙制作	全体感をよく見る⑦	
	【第11回】	本紙制作	立体の意識（明暗明度の捉え方）⑤	【第24回】	裏打の仕方		
	【第12回】	本紙制作	空間の意識①	【第25回】	裏打①		
	【第13回】	本紙制作	空間の意識②	【第26回】	裏打②		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢70% 作品の仕上り30%						
フィードバックの内容	制作課題を授業期間内に返却する。						
教 科 書							
指 定 図 書							
参 考 書							
教員からのお知らせ	芸術実習Ⅰを履修した生徒は道具類そのまま使用可、初めての生徒は薄美濃紙、面相筆を購入して頂きます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	実習／実技／調査研究（調査学習）						
実践的な教育内容							
そ の 他							

講義コード	11A2118602	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	芸術実習Ⅰ〔仏像Ⅰ〕B					伊加利 庄平	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	本講座では、特殊な粘土を用いて高さ14cmの小仏像を制作する。小仏像とはいえ、授業時間内で作品をある程度の完成度までもって行くのは大変な作業である。完成を目標に粘り強く取り組んでほしい。同時に、触覚芸術ともいわれる彫刻の立体的造形感覚の世界を体験することにより、彫刻芸術に対する理解を深めることを目的とする。完成作品は業者に依頼してブロンズに鋳造します。						
到達目標	各自なりに一つの仏像を造り上げる。 彫刻芸術に対して、自分の感覚を通した新たな視点を獲得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 美術書等で日本の古典の仏像、またアジア各地に遺された仏教美術に親しみ、仏像や仏教美術に対する見識を深めてほしい。特に日本の仏像に関しては、時代ごとの表現の違いに着目して観るとよい。これらのことを通して、文化圏や時代による表現の違いとその必然性などについて思考を深める。 授業期間を通して、美術館、博物館などで仏像彫刻その他の美術作品の実物に触れる機会をできるだけ多く持ってほしい。						
授業計画	【第1回】導入・授業全体の見通しと当授業における仏像彫刻の捉え方について 【第2回】＜仏像制作＞下絵作成 【第3回】材の調整① 【第4回】材の調整② 【第5回】粗作り（あらづくり）① 【第6回】粗作り② 【第7回】中作り（なかづくり）① 【第8回】中作り② 【第9回】中作り③ 【第10回】小作り（こづくり）① 【第11回】小作り② 【第12回】小作り・仕上げ① 【第13回】小作り・仕上げ②						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50％、作品の内容50％。						
フィードバックの内容							
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	秋田貴廣先生が毎回補助に入ります。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間中個別指導時、または授業終了後、次の授業に支障が無い範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	実技実習、能動的な授業外学修、体験学習・発見学習など						
実践的な教育内容	彫刻家としての実務経験を活かし小仏像を制作することによって彫刻芸術を体験的に理解させる。						
その他	実習に用いるモチーフ・材料・道具・資料などは授業中に指示します。完成作品は専門家に依頼して鋳造します。なお、材料費と鋳造費が別途必要（17,000円）となります。						

講義コード	11A2118892	授業形態	講義・実習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	芸術実習Ⅰ〔仏像Ⅱ〕B					伊加利 庄平	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	本講座は卒業制作において彫刻模刻を選択する学生に対して開講するものである。 卒業制作において、模刻作品の内容をそれに見合うレベルのものにするためには、限られた時間の中で、彫刻造形の本質をできる限り深く理解すると同時に、それを感覚として自分のものにし、制作に応用していかなければならない。そのために必要とされる実践的な指導を行う。						
到達目標	高いレベルの造形的探求に基づいた模刻制作を行うことができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 美術館、博物館などで実物の美術作品（仏像や仏教美術を主とするが、それだけに限らない）に触れる機会を多く持つ。仏像に関しては、美術書などにも当たり、自分が模刻する仏像だけでなく、より多くの仏像を鑑賞し、特に各時代の特色に関する見識を深める。						
授業計画	【第1回】模刻制作の現時点での到達点と課題を明確にし、後半の制作の進め方についての見通しを立てる。 【第2回】彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導① 【第3回】彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導② 【第4回】彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導③ 【第5回】彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導④ 【第6回】模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導① 【第7回】模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導② 【第8回】模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導③ 【第9回】時間的な制約と完成密度の兼ね合いを見極め、最終的な完成イメージを想定する。 【第10回】完成イメージに向けての具体的な指導① 【第11回】完成イメージに向けての具体的な指導② 【第12回】完成イメージに向けての具体的な指導③ 【第13回】完成イメージに向けての具体的な指導④						
成績評価の方法	授業及び制作全般への取り組み姿勢50％、完成作品の内容50％。						
フィードバックの内容							
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	卒業制作において模刻制作を行う4年生のみ履修すること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業時間内に受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	卒業研究、実技実習、能動的な授業外学修、発見学習・体験学習、意見共有など。						
実践的な教育内容							
その他	当授業は制作中の作品に対する指導のための授業なので、授業時間の他に各自制作のための時間をできる限り多く捻出する努力をすること。						

講義コード	11A0114400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	現代宗教研究					安中 尚史	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	現代社会のなかで、実に多様性をもっている宗教問題について、特に身近な宗教の具体的な事例を掲げて、本講義では考察を進めます。						
到達目標	現代社会における宗教状況について、その基本知識と理解の修得を目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、現代社会における宗教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】近代以降における日蓮系各宗派の動向1 【第2回】近代以降における日蓮系各宗派の動向2 【第3回】近代以降における日蓮系各宗派の動向3 【第4回】宗教制度の変遷1 【第5回】宗教制度の変遷2 【第6回】宗教制度の変遷3 【第7回】伝統宗教教団の過去・現在・未来1 【第8回】伝統宗教教団の過去・現在・未来2 【第9回】新宗教について1 【第10回】新宗教について2 【第11回】現代社会における宗教の意義1 【第12回】現代社会における宗教の意義2 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%（講義毎の課題等）、レポート70%で評価します						
フィードバックの内容	大学が新たに導入した「OPEN LMS」の導入を予定しています。詳細については、第1回目の授業でお伝えします。						
教科書	プリントを配布します						
指定図書							
参考書	講義の中で紹介します						
教員からのお知らせ	単に知識として現代における宗教問題を学習するのではなく、講義に対して問題意識をもち、主体的に意欲をもって下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容	現役僧侶としての実務経験を活かし、現代の宗教情勢に関する基本知識を理解させる。						
その他							

講義コード	11A0112800	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	国内仏教文化研修3					手島一真・田村亘禰	集中
履修前条件						備考	
授業の目的	本授業は、実地の見学・研修と事前事後の学習を併せて行う。本年度は、「日本文化の幕開けと法華仏教の転変を泉州・大和に追う」と題し、古代日本の宗教文化の様相を窺う史跡、および近世初頭の日蓮教団における諸事件に関わる宗門史跡等について体験的に学習していく。具体的には、和泉堺・飛鳥・奈良の、寺院・遺跡・博物館等を中心に研修を行う。						
到達目標	研修で訪れた史跡の特色と歴史的背景等に関して説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。見学先となる寺院等の歴史・成立背景等について、参考書や配布資料を用いて学習した上で、事前学習会ならびに研修に臨むこと。						
授業計画	《研修期間》令和7年9月11日（木）～13日（土）2泊3日 《研修地》 堺 妙國寺 仁徳天皇陵 堺市博物館 等 飛鳥 川原寺跡 飛鳥寺 橘寺 等 奈良 東大寺 唐招提寺 等 事前学習会を以下の通り4回開催し、各寺院・遺跡等の特色や、その歴史的背景等について予備知識を得る。研修への参加を希望する学生は、第1回の事前学習会に必ず出席すること。 【第1回】事前学習会 4月19日（土）5時限（17:15～19:00） 【第2回】事前学習会 5月24日（土）5時限（17:15～19:00） 【第3回】事前学習会 6月21日（土）5時限（17:15～19:00） 【第4回】事前学習会 7月19日（土）5時限（17:15～19:00） 教室は「1353教室」の予定 ※連絡事項は、ガイダンス・ポータルサイト・仏教学部掲示板等で別途指示する。						
成績評価の方法	事前学習・現地研修の平常点60%、課題レポート40%で総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業時に行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考書等は、事前学習会各回において適宜指示する。 主体的な意欲をもって研修に臨むこと。 研修期間は団体行動となるので、全体の行動の妨げとなるような行為は厳に慎むこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付ける。						
アクティブラーニングの内容	調査学習						
実践的な教育内容							
その他	事前学習会には必ず参加すること。						

講義コード	11A0100261	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	古文漢文表現基礎A					清水 祥華		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本授業は、仏教学部の学びの導入科目として、古文・漢文の基本的な文法について学び、仏教文献を読解する上での必要な基礎学力を養うことを目的とする。								
到達目標	古文・漢文の文法に関する基本的事項について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】古文入門①								
	【第2回】古文入門②								
	【第3回】古文入門③								
	【第4回】古文入門④								
	【第5回】古文入門⑤								
	【第6回】古文入門⑥、小テスト								
	【第7回】漢文入門①								
	【第8回】漢文入門②								
	【第9回】漢文入門③								
	【第10回】漢文入門④								
	【第11回】漢文入門⑤								
	【第12回】漢文入門⑥								
	【第13回】漢文入門⑦、小テスト								
成績評価の方法	小テスト（40％）、授業への取り組み姿勢（60％）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内で行う。								
教科書	『〔新版二訂〕ニューエイジ 古典 基礎1』第一学習社編集部編（第一学習社）								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定の教科書に基づいて授業を行いますので、各自教科書を必ず用意して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0100262	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	古文漢文表現基礎B					有村 憲浩		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、仏教学部の学びの導入科目として、古文・漢文の基本的な文法について学び、仏教文献を読解する上での必要な基礎学力を養うことを目的とする。								
到達目標	古文・漢文の文法に関する基本的事項について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】 古文基礎①								
	【第2回】 古文基礎②								
	【第3回】 古文基礎③								
	【第4回】 古文基礎④								
	【第5回】 古文基礎⑤								
	【第6回】 古文基礎⑥、小テスト								
	【第7回】 漢文基礎①								
	【第8回】 漢文基礎②								
	【第9回】 漢文基礎③								
	【第10回】 漢文基礎④								
	【第11回】 漢文基礎⑤								
	【第12回】 漢文基礎⑥								
	【第13回】 漢文基礎⑦、小テスト								
成績評価の方法	小テスト（40％）、授業への取り組み姿勢（60％）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内で行う。								
教科書	『〔新版二訂〕ニューエイジ 古典 基礎1』第一学習社編集部編（第一学習社）								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定の教科書に基づいて授業を行いますので、各自教科書を必ず用意して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0107600	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	サンスクリット語初級Ⅰ／サンスクリット語初級Ⅰ(宗学科)(仏教学科)					戸田 裕久		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	サンスクリット語すなわち梵語は数千年前に端を発し紀元前4世紀頃に文法が確立された古典語であり印欧語族の最古層に位置づけられる。インド文化圏の共通語として宗教・哲学・文学・科学等あらゆる分野で用いられており、仏教等インドの思想・文化の研究にはその習得が必須である。本講では梵語の発音と文字、文法の概要を講じる。また、西欧諸語との関連性や東洋諸語に与えた影響、仏教用語の翻訳上の問題等にも言及する。								
到達目標	サンスクリット語の音韻に慣れ、聞き取り、発音することができる。名詞・形容詞・代名詞等の格変化形に慣れる。格の意味用法を理解し、文の構造を読み取ることができる。時制・態・法・人称・数に応じた動詞の活用が解る。簡単な文章が読める。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。仏教用語の原語を知り原義が解る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前に、配布資料『梵語便覧』の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後に、資料を再読して扱われた内容を完全に理解するように努め、また語形変化表や例文を音読し発音練習を重ねる。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】サンスクリットとは／文字と発音（母音字母） 【第2回】文字と発音（子音字母、母音表示、子音結合） 【第3回】品詞、性・数・格、格の意味用法 【第4回】名詞・形容詞の格変化（母音語幹1） 【第5回】名詞・形容詞の格変化（母音語幹2） 【第6回】代名詞（人称・指示・関係・疑問・不定代名詞） 【第7回】動詞活用概要（人称、態、時制、法、構成要素） 【第8回】現在組織の動詞活用：第1種（直説法現在時制） 【第9回】同：第1種（直説法過去時制・願望法・命令法） 【第10回】比較級・最上級、数詞（基数詞の語幹） 【第11回】数詞（基数詞の格変化・用法、序数詞、分数） 【第12回】不変化辞（副詞、前置詞、接続詞、間投詞） 【第13回】連声1：外連声（語と語の間の音変化）								
成績評価の方法	小テストあるいは課題レポート4回（80％）、授業への取り組み姿勢（20％）。								
フィードバックの内容	小テスト終了後に解法のヒントまたは解答を示す。翌週以降の授業内に答案を返却し講評する。								
教科書	『梵語便覧 2025年度簡約版』戸田 裕久（私家版（随時印刷して配布します。））								
指定図書									
参考書	『サンスクリット文法』辻 直四郎（岩波書店）1974年、『サンスクリット入門——インドの思想を育んだ完全なる言語』赤松明彦（中央公論新社）2024年、『実習サンスクリット文法——荻原雲来『実習梵語学』新訂版』荻原 雲来・吹田 隆道（春秋社）2015年、『初心者のためのサンスクリット文法Ⅰ』平岡 昇修（世界聖典刊行協会）2008年								
教員からのお知らせ	サンスクリット語はインド・ヨーロッパ語族に属しており、英語等の西洋諸言語の文法と対比すると理解し易い。大きな声で音読を繰り返し耳に慣れさせれば覚えられます。授業中はもちろん、復習する時も声を出して。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティベーションの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	語学の習得は基礎からの積み重ねです。今、何の話をしているのか、見失ってしまったときには、配布資料『梵語便覧』の最初の方と各章の始めの方を、落ち着いて読み返してみてください。必ずわかるようになります。								

講義コード	11A0107700	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	サンスクリット語初級Ⅱ／サンスクリット語初級Ⅱ(宗学科)(仏教学科)					戸田 裕久		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	サンスクリット語すなわち梵語は数千年前に端を発し紀元前4世紀頃に文法が確立された古典語であり印欧語族の最古層に位置づけられる。インド文化圏の共通語として宗教・哲学・文学・科学等あらゆる分野で用いられており、仏教等インドの思想・文化の研究にはその習得が必須である。本講では梵語の発音と文字、文法の概要を講じる。また、西欧諸語との関連性や東洋諸語に与えた影響、仏教用語の翻訳上の問題等にも言及する。								
到達目標	サンスクリット語の音韻に慣れ、聞き取り、発音することができる。名詞・形容詞・代名詞等の格変化形に慣れる。格の意味用法を理解し、文の構造を読み取ることができる。時制・態・法・人称・数に応じた動詞の活用が解る。簡単な文章が読める。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。仏教用語の原語を知り原義が解る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前に、配布資料『梵語便覧』の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後に、資料を再読して扱われた内容を完全に理解するように努め、また語形変化表や例文を音読し発音練習を重ねる。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】連声2：内連声（単語内部の音変化） 【第2回】名詞・形容詞の格変化（子音一語幹） 【第3回】名詞・形容詞の格変化（子音多語幹） 【第4回】現在組織の動詞活用：第2種（第5・8・9類） 【第5回】現在組織の動詞活用：第2種（第7・2・3類） 【第6回】未来組織の活用（単純未来、条件法、複合未来） 【第7回】アオリスト組織の活用（直説法7類型、祈願法） 【第8回】完了組織の活用（重複完了、複合完了） 【第9回】第二次活用（受動・使役・意欲・強意活用） 【第10回】準動詞（現在分詞、過去分詞、不定詞、等） 【第11回】複合語（その種類と分析） 【第12回】派生語（造語法） 【第13回】文献講読の例示								
成績評価の方法	小テストあるいは課題レポート3～4回（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。								
フィードバックの内容	小テスト終了後に解法のヒントまたは解答を示す。翌週以降の授業内に答案を返却し講評する。								
教科書	『梵語便覧 2025年度簡約版』戸田 裕久（私家版（随時印刷して配布します。））								
指定図書									
参考書	『サンスクリット文法』辻 直四郎（岩波書店）1974年、『サンスクリット入門——インドの思想を育んだ完全なる言語』赤松明彦（中央公論新社）2024年、『実習サンスクリット文法——荻原雲来『実習梵語学』新訂版』荻原 雲来・吹田 隆道（春秋社）2015年、『ニューエクスプレス＋ サンスクリット語』石井 裕（白水社）2021年								
教員からのお知らせ	「サンスクリット語初級Ⅱ」は「サンスクリット語初級Ⅰ」の内容を習得済みであることを前提として授業を進めます。夏期休暇中に第1期に習ったことを総復習しておきましょう。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	本講は単語の語形変化の説明が主となり、文については簡単な構文の短文に触れるに留まるでしょう。実際に色々な文章に親しむには次年度に「サンスクリット語中級Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。								

講義コード	11A0107800	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	サンスクリット語中級Ⅰ					有賀 弘紀	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	サンスクリット語（梵語）は古来インド文化圏の共通語として、宗教・哲学・文学、政治・経済、数学・医学・天文学等あらゆる分野で用いられてきました。本講では初級文法の知識を確認しつつ、サンスクリット語の理解を深めるため哲学書や宗教聖典、仏教文献などの各種文献を読み進めます。また、文体、構文、統語、慣用表現、注釈文献の定型表現等、解読に必要な知識・技法を習得できるよう解説します。						
到達目標	Language（言語）と Script（文字）の相違を認識し、サンスクリット語の音韻や連声の法則に慣れ、また、デーヴァナーガリー文字で文章を読むことができる。各種分野の文献に特徴的な術語や文体、定型的表現に慣れる。そして、最終的に辞書を使いながら文献を読解し、理解することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業前に、配布された教材の該当箇所にあらかじめ目を通し、翻訳を試みておくこと。授業後には、授業時に教示された文法事項を確認し、教員による訳例をもとにして自分なりの訳文を完成すること。これら予習・復習は各回4時間以上、計60時間以上行うこと。						
授業計画	【第1回】サンスクリット語の文法知識と分野についての助言と授業の進め方について 【第2回】言語と文字：デーヴァナーガリー文字の読み書き 【第3回】言語と文字：デーヴァナーガリー文字の読み書き 【第4回】言語と文字：初級文法と「文法学」 【第5回】言語と文字：初級文法と「文法学」 【第6回】仏教文献講読：『般若心経』と仏教文献の術語1 【第7回】仏教文献講読：『般若心経』と仏教文献の術語2 【第8回】仏教文献講読：仏教經典の術語1 【第9回】仏教文献講読：仏教經典の術語2 【第10回】インド文学・思想と『バガヴァッドギーター』1 【第11回】インド文学・思想と『バガヴァッドギーター』2 【第12回】インド文学・思想と『バガヴァットギーター』3 【第13回】既習文献の振り返りに基づく学習のまとめと学習継続のための助言 ○サンスクリット語初級文法の習得状況に基づいた振り返りの機会を設けることがあります。 ○デーヴァナーガリー文字になれる工夫（学習方法の紹介、反復学習の成果の確認）をします。 ○スマホまたはノート PC を携帯して出席してください。						
成績評価の方法	レポート提出2回（40%）、授業への取り組み姿勢（＝小レポート）（60%）により評価する。						
フィードバックの内容	授業時間内に随時言及する。もしくは個別に提出課題を添削して返却する。						
教科書							
指定図書							
参考書	『サンスクリット文法』辻直四郎（岩波書店）1974						
教員からのお知らせ	各分野の文献について教員から解説や読解上の注意点の説明がありますが、受講者は自ら予習して、自分の翻訳を作成しておいてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で受け付けます。また、小レポートに記入することも可。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他	この授業はサンスクリット語初級を履修済みであることを前提としています。						

講義コード	11A0107900	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	サンスクリット語中級Ⅱ					有賀 弘紀	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	サンスクリット語（梵語）は古来インド文化圏の共通語として、宗教・哲学・文学、政治・経済、数学・医学・天文学等あらゆる分野で用いられてきました。本講では初級文法の知識を確認しつつ、サンスクリット語の理解を深めるため哲学書や宗教聖典、仏教文献などの各種文献を読み進めます。また、文体、構文、統語、慣用表現、注釈文献の定型表現等、解説に必要な知識・技法を習得できるよう解説します。						
到達目標	Language（言語）と Script（文字）の相違を認識できる。サンスクリット語の音韻や連声規則に慣れ、デーヴァナーガリー文字の文章を読むことができる。各種分野の文献に特徴的な術語や文体、定型的表現を理解・習得し、最終的に、辞書を使いながら文献を解説し、理解することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業前に、配布された教材の該当箇所にあらかじめ目を通し、翻訳を試みておくこと。授業後には、授業時に教示された文法事項を確認し、教員による訳例をもとにして自分なりの訳文を完成すること。これら予習・復習は各回4時間以上、計60時間以上行うこと。						
授業計画	【第1回】インド哲学文献講読：『ガウダパーダ・バーシャ』1 【第2回】インド哲学文献講読：『ガウダパーダ・バーシャ』2 【第3回】インド哲学文献講読：『ガウダパーダ・バーシャ』3 【第4回】インド哲学文献講読：『ヨーガ・スートラ・バーシャ』1 【第5回】インド哲学文献講読：『ヨーガ・スートラ・バーシャ』2 【第6回】仏教文献講読：経典と論書1 【第7回】仏教文献講読：経典と論書2 【第8回】インド文学テキスト講読：『ラグ・ヴァンシャ』1 【第9回】インド文学テキスト講読：『ラグ・ヴァンシャ』2 【第10回】インド文学テキスト講読：『ラグ・ヴァンシャ』3 【第11回】インド文学テキスト講読：『ラグ・ヴァンシャ』4 【第12回】インド文学テキスト講読：『ラグ・ヴァンシャ』5 【第13回】インド文学テキスト講読：『ラグ・ヴァンシャ』6 ○サンスクリット語初級履修後間もないことを前提として、「サンスクリット語中級Ⅰ」の続きとしてテキストの講読を行います。 ○講読テキストは、小レポートに基づいて受講者の実力を考慮し、変更することがあります。 ○文法事項の確認を随時行うので、初級で使用した文法書を携行してください。						
成績評価の方法	レポート提出2回（40%）、授業への取り組み姿勢（＝小レポート）（60%）により評価します。						
フィードバックの内容	授業時間内に随時言及する。もしくは個別に提出課題を添削して返却する。						
教科書							
指定図書							
参考書	『サンスクリット文法』辻直四郎（岩波書店）1974						
教員からのお知らせ	各分野の文献について教員から解説や読解上の注意点の説明がありますが、受講者は自ら予習して、自分の翻訳を作成しておいてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で受け付けます。また、小レポートに記入することも可。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他	この授業はサンスクリット語初級を履修済みであることを前提としています。						

講義コード	11A0104000	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	宗学史概論 1					田村 亘禰		第 1 期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	①日蓮聖人滅後において、聖人の行動と思想の両面を、先師たちがどのように継承し、展開しようとしたかを考える。 ②日蓮聖人滅後から、江戸時代前期までの教学の歴史をたどる。								
到達目標	日蓮教団の思想史的展開の概要を説明することができる。 日蓮宗と日蓮系他教団との教理的な相違を概略、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回取り扱う内容について、各自、自宅や図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第 1 回】宗学史という学問分野の特長・考慮すべき諸事項 【第 2 回】鎌倉・南北朝時代における教団の展開と教学上の問題 【第 3 回】室町時代の京都における教団の展開と諸門流教学 【第 4 回】行学院日朝の行動と教学 【第 5 回】玄妙阿闍梨日什の分立とその教学 【第 6 回】円光房日陣の分立とその教学 【第 7 回】円明院日澄の教学 【第 8 回】慶林坊日隆の分立とその教学 【第 9 回】本因妙・本果妙下種論の展開 【第10回】常不輕房日真の分立とその教学 【第11回】富士門流における両巻血脈の形成 【第12回】広蔵院日辰の行動と教学 【第13回】宗風一変－折伏より摂受へ 仏心院日珙の行動と思想－								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教 科 書	『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）1952年								
指 定 図 書	『日蓮宗学説史』望月敏厚（平楽寺書店）1968年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（東京堂出版）1981年								
参 考 書	『日蓮教学の研究』望月敏厚（平楽寺書店）1958年、『興門教学の研究』執行海秀（海秀舎）1984年、『日蓮宗信行論の研究』渡邊寶陽（平楽寺書店）1976年、『日蓮教学研究』北川前肇（平楽寺書店）1987年、『日興門流上代事典』大黒喜道 編著（興風談所）2000年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室より退場させる。 この授業は「宗学の総合科目」とも言え、特に専門的な内容を有する。できれば「宗学概論」「宗史概論」「天台学概論」等を修得した後に履修することが望ましい。 教科書は各自、学内の購買等で購入すること。 専門用語に慣れるよう努力してもらいたい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習。								
実践的な教育内容									
そ の 他	教科書を事前に読み、意味の分からない用語について、『日蓮宗事典』等で、あらかじめ調べておくこと。授業中に行う小テストを授業時間内で解答できない場合は宿題として持ち帰り、次回の授業時に提出すること。								

講義コード	11A0104100	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	宗学史概論2								
履修前提条件						備考			
授業の目的	①日蓮聖人滅後において、聖人の行動と思想の両面を、先師たちがどのように継承し、展開しようとしたかを考える。 ②江戸時代前・後期における教学の歴史をたどる。								
到達目標	日蓮教団の思想史的展開の概要を説明することができる。 日蓮宗と日蓮系他教団との教理的な相違を概略、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回取り扱う内容について、各自、自宅や図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】江戸時代前期における教団の展開と教学上の諸問題 【第2回】一如院日重・寂照院日乾・心性院日遠の行動と教学 【第3回】仏性院日奥の行動と教学 【第4回】檀林教学の興隆と展開－常在院日深を中心に－ 【第5回】録内・録外遺文の注釈書－安国院日講を中心に－ 【第6回】書物を通じた論争－了義院日達・舜統院真迢等－ 【第7回】草山元政の法華律 【第8回】六牙院日潮の行動と教団史研究 【第9回】堅樹院日寛による富士大石寺教学の大成 【第10回】江戸時代後期における教団の展開と教学上の諸問題 【第11回】一妙院日導による教学の体系化 【第12回】優陀那院日輝の充治園設立と観心主義教学 【第13回】在家教学の隆盛－皆久論争と長松日扇等を中心に－								
	成績評価の方法								
	授業への取り組み姿勢（20％）、授業中の小テスト毎回および宿題（20％）、期末試験（60％）で評価する。								
	フィードバックの内容								
	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
	教科書								
	『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）1952年								
	指定図書								
	『日蓮宗学説史』望月敏厚（平楽寺書店）1968年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（東京堂出版）1981年								
	参考書								
	『日蓮教学の研究』望月敏厚（平楽寺書店）1958年、『興門教学の研究』執行海秀（海秀舎）1984年、『日蓮宗信行論の研究』渡邊寶陽（平楽寺書店）1976年、『日蓮教学研究』北川前肇（平楽寺書店）1987年、『日興門流上代事典』大黒喜道 編著（興風談所）2000年								
	教員からのお知らせ								
	私語は厳禁。これを破る者は教室より退場させる。 この授業は「宗学の総合科目」とも言え、特に専門的な内容を有する。できれば「宗学概論」「宗史概論」「天台学概論」等を修得した後に履修することが望ましい。								
オフィスアワー									
本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。									
アクティブラーニングの内容									
意見共有、能動的な授業外学習。									
実践的な教育内容									
その他									
教科書を事前に読み、意味の分からない用語について、『日蓮宗事典』等で、あらかじめ調べておくこと。授業中に行う小テストを授業時間内で解答できない場合は宿題として持ち帰り、次回の授業時に提出すること。									

講義コード	11A0115500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	宗教社会学					武井 順介	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	E. デュルケム、M. ウェーバーなど著名な社会学者たちは、その当時の「社会」を理解するために宗教を分析の対象にしました。これは、宗教とわたしたちの生活している社会が密接に関係していることをあらわしています。では、彼ら知の巨人たちは、どのように宗教を対象化し、分析したのでしょうか。そこで本講義では、宗教社会学の理論や方法を通して、宗教と社会の分析方法を学びます。それと同時に宗教と社会がいかに密接に関わりあっているのか考えていきたいと思ひます。						
到達目標	本講義の到達目標は、以下の2点と考えています。 (1) 宗教や宗教的な〈モノ／コト〉(＝宗教性、霊性)を分析する際の視点や方法を身につけること。 (2) 宗教と社会の関わりを知り、理解すること。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	宗教(あるいは、宗教的な〈モノ／コト〉)に関わるニュース(テレビ、新聞、雑誌、インターネットなど)にアンテナを張ってください。この点について60時間以上の授業外学修を行ってください。						
授業計画	【第1回】ガイダンス、アンケート、宗教とは何か 【第2回】社会学者と宗教分析(1) M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 【第3回】社会学者と宗教分析(2) E. デュルケム『宗教生活の原初形態』 【第4回】集団としての宗教 【第5回】カリスマとしての教祖 【第6回】社会運動としての宗教運動 【第7回】宗教への入信 【第8回】病氣治しとしての宗教 【第9回】宗教と儀礼 【第10回】宗教の世俗化 【第11回】宗教の合理的選択 【第12回】学生からの質問とそれへの応答 【第13回】まとめ、振り返り						
成績評価の方法	筆記試験100%(予定)(出席をとる場合、成績評価の対象は、授業を行った回数の3分の2以上の出席がある学生のみです。注意してください。)						
フィードバックの内容	第1回目と第13回目を除いた全授業の冒頭で、履修者からの意見に対してコメントをする予定です。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	ただボンヤリと授業を観ているだけでは、何も得られません。教室に来るならば、たとえ興味のない内容であったとしても、教員が話していることに対して「本当にそうなのか」「なぜそうなのか」など考えてください。そして、「何かを得よう」と意識してください。そうすれば得られることがあるはずですよ。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、時間があれば授業終了後にも受け付けます。オフィスアワーや授業終了後では都合が悪い学生は、Microsoft Teams のチャットにて問い合わせ予約をとってください。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0115800	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	宗教心理学					イーリヤ ムスリン	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	本コースでは、宗教とは何か、何故存在し、人間には何故必要なのかという問題を追究し、宗教と人間の心に関する理解を深めることを主な目的とする。 宗教心理学の歴史と宗教と心に関する諸問題を取り上げる。ジェームズ、フロイト、ユング、ランク、フロム、エリクソンなどの宗教論を紹介し、心理学者が宗教の成立・特徴・存在の理由などをどう捉え、宗教と意味・人格・アイデンティティなどの関係をどう見ているかを分析する。						
到達目標	宗教心理学の研究対象や方法の基本的な理解、宗教関連の諸問題を様々な視点から考える能力・態度を身に付けること。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	学生たちに本(宗教についての心理学書)を一冊読んでもらいます。 なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】コース紹介。宗教心理学：主な研究対象・アプローチ・課題 【第2回】宗教学と宗教心理学の創立 【第3回】初期宗教学：宗教と知性 【第4回】初期宗教学：宗教と情緒 【第5回】W. ジェームズとクラーク学派の宗教心理学 【第6回】S. フロイトの宗教論 【第7回】C.G. ユングの宗教論 【第8回】O. ランクの宗教論 【第9回】E. フロムの心理学における宗教 【第10回】E. エリクソン：アイデンティティ、ライフサイクルと宗教 【第11回】G. オルポート：宗教と人格(パーソナリティ) 【第12回】A. マズロー：宗教と自己実現 【第13回】宗教と意味：V. フランクルの意味論を中心に						
成績評価の方法	期末レポート 80%、授業への取り組み姿勢 20%。						
フィードバックの内容	レポートのフィードバックは WebClass または OpenLMS にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考文献は授業ごとに指示する。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 期末レポートに関する質問・相談はメールでも受け付けます。hachimantaro@yahoo.com						
アクティブラーニングの内容	授業の終了間際にその日、授業の中で出てきた問題について全員で短い討論(ディベート)を行う。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0115000	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	宗教とは何か					戸田 裕久		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	宗教とは何か。世界には宗教の名で呼ばれる現象が無数にあり、種々異なる様相を呈している。それらをひとくくりに定義するのは難しい。この捉え所のない諸宗教現象を、先人たちは理解しようと努め、あるいはそれに身を投じてきた。本講義では、そのような宗教に関する研究と実践の諸相を価値中立的立場から俯瞰し、宗教の存在意義を考察する。また特に、人類に共通する宗教体験の機序を探究する。								
到達目標	宗教現象の多様性を概括的に認識することができる。諸宗教の実態状況を中立的立場から客観的に理解することができる。多様な宗教現象に共通する要素や性質等を探究考察することができる。諸宗教の存在意義を理解し、寛容に対応することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後も資料を再読して扱われた内容の理解に努める。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】 宗教研究の意義、宗教の定義の試み 【第2回】 宗教研究の方法論、宗教現象の分類法 【第3回】 宗教儀礼、宗教心理、神秘主義 【第4回】 神という概念の多様性、神話 【第5回】 神という概念の多様性、神話 【第6回】 宗教現象学的考察：自然崇拝、呪力観 【第7回】 アニミズム、祖先崇拝、トーテミズム 【第8回】 シャーマニズム 【第9回】 宗教社会学の基礎理論 【第10回】 宗教集団に関する諸理論 【第11回】 宗教社会学の周辺分野 【第12回】 神秘体験・臨死体験と脳科学 【第13回】 現代社会における宗教の意義								
成績評価の方法	レポート1回（60%）、所見票13回（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）。								
フィードバックの内容	前回授業の所見票に対する講評および質問への回答を授業内において行う。								
教科書	適宜、資料を配布します。								
指定図書									
参考書	『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎監修（東京大学出版会）1973年、『宗教学』岸本英夫著（大明堂）1961年、『宗教現象学入門』G. v. d. レーウ著、田丸徳善／大竹みよ子訳（東京大学出版会）1979年、『宗教社会学を学ぶ人のために』井上順孝編（世界思想社）2016年、『シャーマンの世界』ピアーズ・ヴィテブスキー著、中沢新一監修、岩坂彰訳（創元社）1996年								
教員からのお知らせ	レポート作成に当たっては各種資料やノート等を披見してよいが、単なる感想文や資料の抜き書きだけでは評価に値しないので注意すること。各自の見解を率直に述べるのが得策である。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、意見共有。								
実践的な教育内容									
その他	宗教の存在意義を問いつつ、現在の世界の危機的状況の況を乗り越えて我々皆が生き延びることのできる道を、共に考えてまいりましょう。でも最後に、ちゃぶ台返し。								

講義コード	11A0115300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	宗教の史的展開					戸田 裕久		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	世界に続発する紛争の多くは宗教に起因するとよく耳にする。本当だろうか。聖戦の美名の裏には必ず生臭い利害対立があった。宣教は侵略と植民地支配の大義名分に過ぎなかった。それは歴史の物語る所である。本講では、世界の諸宗教の教義と実践の歴史的展開と現況を価値中立的立場から紹介する。そしてこれは、世界の諸宗教現象の源流を探る旅であり、また、宗教の未来を予測する試みでもある。								
到達目標	世界の諸宗教の多様性を概括的に認識することができる。諸宗教の実態状況を中立的立場から客観的に理解することができる。多様な宗教現象に共通する要素や性質等を探究考察することができる。諸宗教の存在意義を理解し寛容な対応をすることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後も資料を再読して扱われた内容の理解に努める。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】世界の諸宗教の全体像、先史時代の宗教 【第2回】メソポタミア・エジプトの古代宗教 【第3回】インド・イランの古代宗教 【第4回】ギリシアの古代宗教（神話、密儀、哲学） 【第5回】ユダヤ教（旧約聖書、律法書） 【第6回】ユダヤ教（預言者、諸書、信仰生活） 【第7回】キリスト教（史的イエスの生涯と思想） 【第8回】キリスト教（原始キリスト教の教義） 【第9回】キリスト教（中世以降の展開、文化習俗） 【第10回】イスラム教（コーラン、聖法） 【第11回】イスラム教（共同体、神秘主義、聖戦） 【第12回】中国の宗教（原始的信仰、儒教、道教） 【第13回】日本の宗教（神道、修験道、民間信仰）								
成績評価の方法	レポート1回（60%）、所見票13回（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）。								
フィードバックの内容	前回授業の所見票に対する講評および質問への回答を授業内において行う。								
教科書	適宜、資料を配布します。								
指定図書									
参考書	『エリアーデ世界宗教事典』ミルチャ・エリアーデ、ヨアン・P・クリアーノ著、奥山 倫明訳（せりか書房）1994年、『神の歴史－ユダヤ・キリスト・イスラーム教全史』カレン・アームストロング著、高尾利数訳（柏書房）1995年、『神の伝記』ジャック・マイルズ著、秦剛平訳（青土社）1996年、『知の教科書 キリスト教』竹下節子著（講談社）2002年、『世界の宗教と経典・総解説』（自由国民社）1998年								
教員からのお知らせ	上記の授業計画に留まらず、実際に授業を進める中で色々な方向に話が広がり、配布資料が多くなるかもしれません。授業では全てを扱い切れなくとも資料には一応目を通した上でレポート作成に臨んでください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、意見共有								
実践的な教育内容									
その他	世界の諸宗教について、お伝えすべきこと、お話ししたいことが山ほどありますので、数時間余分に授業（補講）するかもしれません。補講も含めて全ての授業を受講した上で学期末レポート作成に臨んでください。								

講義コード	11A0114500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	宗教法人法					秋山 経生		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	宗教法人法を中心とした、寺院を運営するにあたって必要な法律知識について、適宜教科書を参照しながら説明します。								
到達目標	将来、宗教法人の代表役員となった場合に、住職としての宗教活動だけではなく、宗教法人としての適格な運営をするために必要な最小限度の知識を得られるようにすることが目標です。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書に沿ったかたちで授業を進めますので、該当箇所をあらかじめ予習した上で授業に臨んでください。なお、この授業外学修は60時間以上を目安にしてください。								
授業計画	【第1回】宗教法人としての寺院1 【第2回】宗教法人としての寺院2 【第3回】寺院の管理運営1 【第4回】寺院の管理運営2 【第5回】寺院と所属教団 【第6回】寺院と檀信徒 【第7回】寺院と財産管理1 【第8回】寺院と財産管理2 【第9回】寺院と事業 【第10回】寺院と税金1 【第11回】寺院と税金2 【第12回】寺院と墓地経営1 【第13回】寺院と墓地経営2								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、期末試験70%で評価します。期末試験は教科書のみ持込可能です。								
フィードバックの内容									
教科書	『寺院の法律知識』長谷川正浩（新日本法規出版）令和2年12月4版								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各学部・学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容	現役の弁護士が宗教法人実務の事務の基本を理解させる。								
その他									

講義コード	11A0103800	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	宗史概論 1					本間 俊文		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	日蓮聖人滅後の日蓮教団は、六老僧をはじめとする門下が門流を形成し、東国はもとより畿内や九州などの各地へと展開していった。戦国時代に入ると、日蓮教団は戦国大名や強力な統一政権と対峙せざるを得なくなる。そして近世にいたり、現在へと続く教団の基礎が形成された。本授業では、各時代の特徴に留意しつつ、日蓮教団の歴史的展開を明らかにする。								
到達目標	日蓮教団の歴史的展開について、史料に基づいて基本的な説明ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】六老僧の制定と墓所輪番 【第2回】東国における門流の形成（1） 【第3回】東国における門流の形成（2） 【第4回】東国における門流の形成（3） 【第5回】東国における門流の形成（4） 【第6回】諸門流の京都進出（1） 【第7回】諸門流の京都進出（2） 【第8回】門流の分立（1） 【第9回】門流の分立（2） 【第10回】門流の分立（3） 【第11回】京畿における諸門流の展開（1） 【第12回】京畿における諸門流の展開（2） 【第13回】京畿における諸門流の展開（3）								
成績評価の方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	（なし）								
指定図書	『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日蓮とその弟子』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年、『京都日蓮教団門流史の研究』糸久宝賢（平楽寺書店）1990年、『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『中世東国の地域社会史』湯浅治久（岩田書院）2005年、『反骨の導師日親・日奥』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年、『戦国仏教』湯浅治久（中公新書）2009年、『日蓮教団史概説』影山堯雄（平楽寺書店）1959年、『京都町衆と法華信仰』冠賢一（山喜房佛書林）2010年								
参考書	『法華文化の展開』藤井学（法蔵館）2002年、『法華衆と町衆』藤井学（法蔵館）2003年、『中世日蓮教団史攷』高木豊（山喜房佛書林）2008年、『中世京都の民衆と社会』河内将芳（思文閣出版）2000年、『中世京都の都市と宗教』河内将芳（思文閣出版）2006年、『不受不施派の源流と展開』宮崎英修（平楽寺書店）1969年、『中世東国日蓮宗寺院の研究』佐藤博信（東京大学出版会）2003年、『日蓮宗儀礼史の研究』松村寿巖（平楽寺書店）2001年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』望月真澄（平楽寺書店）2002年、『日蓮宗と戦国京都』河内将芳（淡交社）2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	第2期開講の「宗史概論2」と合わせて履修することを希望します。								

講義コード	11A0103900	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	宗史概論2					本間 俊文		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人滅後の日蓮教団は、六老僧をはじめとする門下が門流を形成し、東国はもとより畿内や九州などの各地へと展開していった。戦国時代に入ると、日蓮教団は戦国大名や強力な統一政権と対峙せざるを得なくなる。そして近世にいたり、現在へと続く教団の基礎が形成された。本授業では、各時代の特徴に留意しつつ、日蓮教団の歴史的展開を明らかにする。								
到達目標	日蓮教団の歴史的展開について、史料に基づいて基本的な説明ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】 不受不施制の展開 【第2回】 門流和融運動の推進 【第3回】 日蓮教団の武装化 【第4回】 天文法難の勃発 【第5回】 天文法難以後の教団（1） 【第6回】 天文法難以後の教団（2） 【第7回】 地方における教団の活動 【第8回】 織田信長と安土宗論 【第9回】 豊臣秀吉と大仏千僧供養会 【第10回】 江戸時代の日蓮教団（1） 【第11回】 江戸時代の日蓮教団（2） 【第12回】 江戸時代の日蓮教団（3） 【第13回】 教学の振興と檀林の興起								
成績評価の方法	学期末試験（50％）、授業への取り組み姿勢（50％）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教 科 書	（なし）								
指 定 図 書	『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日蓮とその弟子』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年、『京都日蓮教団門流史の研究』糸久宝賢（平楽寺書店）1990年、『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『中世東国の地域社会史』湯浅治久（岩田書院）2005年、『反骨の導師 日親・日興』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年、『戦国仏教』湯浅治久（中公新書）2009年、『日蓮教団史概説』影山堯雄（平楽寺書店）1959年、『京都町衆と法華信仰』冠賢一（山喜房佛書林）2010年								
参 考 書	『法華文化の展開』藤井学（法蔵館）2002年、『法華衆と町衆』藤井学（法蔵館）2003年、『中世日蓮教団史攷』高木豊（山喜房佛書林）2008年、『中世京都の民衆と社会』河内将芳（思文閣出版）2000年、『中世京都の都市と宗教』河内将芳（思文閣出版）2006年、『不受不施派の源流と展開』宮崎英修（平楽寺書店）1969年、『中世東国日蓮宗寺院の研究』佐藤博信（東京大学出版会）2003年、『日蓮宗儀礼史の研究』松村寿巖（平楽寺書店）2001年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』望月真澄（平楽寺書店）2002年、『日蓮宗と戦国京都』河内将芳（淡交社）2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
そ の 他	第1期開講の「宗史概論1」と合わせて受講することを希望します。								

講義コード	11A0102400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員	田村 亘禰	開 講 期	第 1 期
科 目 名	宗学概論 1								
履修前提条件						備 考			
授 業 の 目 的	日蓮聖人教学の基本的概念を体系的に修得させる。宗学の専門用語をできるだけ平易に説明し、これを体得させる。私たちが生きている意義・価値を考え、未来の目標設定と実行への意志の涵養をはかる。								
到 達 目 標	法華経の全般的な内容や、日蓮聖人の生涯と思想について、心を込めて他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回の内容について、自宅および図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。ただし、インターネットに頼る学修は避けること。ネット上に氾濫する日蓮聖人に関連する解説などは、確かな文献に基づいていない場合が数多くある。								
授 業 計 画	【第1回】「宗学」とはどのような学問であるか 【第2回】日蓮聖人教学の本質 【第3回】法華経の思想 【第4回】久遠実成本師釈迦牟尼仏 【第5回】本化地涌の菩薩 【第6回】日蓮聖人の生涯（1） 【第7回】日蓮聖人の生涯（2） 【第8回】日蓮聖人の生涯（3） 【第9回】日蓮聖人の主要著作（1） 【第10回】日蓮聖人の主要著作（2） 【第11回】三国四師の系譜と本化上行の自覚 【第12回】日蓮聖人の法華経受容（1） 【第13回】日蓮聖人の法華経受容（2）								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト（20%）、期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教 科 書	『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部 編（日蓮宗新聞社）1989年								
指 定 図 書	『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会 編（平楽寺書店）1996年、『日蓮宗読本』立正大学日蓮教学研究所 編（平楽寺書店）1985年、『新装版日蓮辞典（電子版）』宮崎英修 編（紀伊國屋書店）2021年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所 編（身延山久遠寺）2003年、『日蓮辞典』宮崎英修 編（東京堂出版）1978年								
参 考 書	『日蓮－その行動と思想』高木 豊（太田出版）2002年、『日蓮宗小辞典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室を退出させる。 専門用語に慣れ親しむこと。 日蓮宗僧侶を志す受講者は、相応の自覚を持って授業に望むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人教学の基本的概念を解説し理解させる。								
そ の 他									

講義コード	11A0102500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	宗学概論2					田村 亘禰		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人教学の基本的概念を体系的に修得させる。宗学の専門用語をできるだけ平易に説明し、これを体得させる。私たちが生きている意義・価値を考え、未来の目標設定と実行への意志の涵養をはかる。								
到達目標	法華経の全般的な内容や、日蓮聖人の生涯と思想について、心を込めて他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回の内容について、自宅および図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。ただし、インターネット上に氾濫する日蓮聖人の解説などは、あまり信頼しないこと。								
授 業 計 画	【第1回】 五義の体系（1） 【第2回】 五義の体系（2） 【第3回】 天台大師の説く一念三千 【第4回】 日蓮聖人の受容する一念三千 【第5回】 題目妙法五字の意義（1） 【第6回】 題目妙法五字の意義（2） 【第7回】 一大秘法と三大秘法 【第8回】 本門の本尊（1） 【第9回】 本門の本尊（2） 【第10回】 本門の戒壇 【第11回】 主師親三徳と三大誓願 【第12回】 日蓮聖人の説き示す種々の成仏 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験1回（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教 科 書	『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部 編（日蓮宗新聞社）1989年								
指 定 図 書	『真訓両説妙法蓮華経並開結』法華経普及会 編（平楽寺書店）1996年、『日蓮宗読本』立正大学日蓮教学研究所 編（平楽寺書店）1985年、『日蓮辞典（電子版）』宮崎英修 編（紀伊國屋書店）2021年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所 編（身延山久遠寺）2003年、『日蓮辞典』宮崎英修 編（東京堂出版）1978年								
参 考 書	『日蓮－その行動と思想』高木 豊（太田出版）2002年、『日蓮宗小辞典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室を退出させる。 専門用語に慣れ親しむこと。 日蓮宗僧侶を志す受講者は、相応の自覚を持って授業に望むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人教学の基本的概念を解説し理解させる。								
そ の 他									

講義コード	11A0150000	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	情報基礎 1					田邊 資章		第 1 期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。								
授 業 計 画	【第 1 回】 インターネット検索演習（1） 【第 2 回】 インターネット検索演習（2） 【第 3 回】 日本語文書処理の基礎（1） 【第 4 回】 日本語文書処理の基礎（2） 【第 5 回】 日本語文書処理の基礎（3） 【第 6 回】 日本語文書処理の基礎（4） 【第 7 回】 日本語文書処理の基礎（5） 【第 8 回】 プレゼンテーションソフトの基本（1） 【第 9 回】 プレゼンテーションソフトの基本（2） 【第10回】 プレゼンテーションソフトの基本（3） 【第11回】 プレゼンテーションソフトの基本（4） 【第12回】 プレゼンテーションソフトの基本（5） 【第13回】 プレゼンテーションソフトの基本（6）								
成績評価の方法	毎週の課題（100％）から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	適宜授業中に指示								
指定図書	適宜授業中に指示								
参考書									
教員からのお知らせ	パソコン（PC）を使った演習を行う。 基礎から実践的に学んでいくので、初心者も遠慮無く受講してほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A0150100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	情報基礎2					田邊 資章	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシー育成のための授業である。情報リテラシーとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。						
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。						
授業計画	【第1回】プレゼンテーションソフトの応用（1） 【第2回】プレゼンテーションソフトの応用（2） 【第3回】プレゼンテーションソフトの応用（3） 【第4回】プレゼンテーションソフトの応用（4） 【第5回】プレゼンテーションソフトの応用（5） 【第6回】表計算ソフトの基礎（1） 【第7回】表計算ソフトの基礎（2） 【第8回】表計算ソフトの基礎（3） 【第9回】表計算ソフトの応用（1） 【第10回】表計算ソフトの応用（2） 【第11回】表計算ソフトの応用（3） 【第12回】表計算ソフトの応用（4） 【第13回】表計算ソフトの応用（5）						
成績評価の方法	毎週の課題（100％）から到達目標への到達度を評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	適宜授業中に指示						
指定図書	適宜授業中に指示						
参考書							
教員からのお知らせ	パソコン（PC）を使った演習を行う。 情報基礎2からは応用的な使用が増えてくるので、情報基礎1で学んだことを活用して欲しい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0114000	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	人文科学とコンピュータ					宮崎 展昌	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	人文学の研究において、PCやインターネットを活用することはもはや必須となって久しい。生成 AI などの登場によって、近年、それらを取り巻く環境・状況は目まぐるしく変化、変容してきている。本授業では、PCやインターネットを研究に活用することについて、これまでの経緯や動向、今後の展望・課題についても概観しながら、実用的な事例を紹介し、それらを実践することを通して、今後の学究に役立ててもらいたいことを目指す。						
到達目標	一次文献や二次文献について、インターネット上や PC 上のツールなどを活用して、調査・収集・解読できるような環境を整備し、それらを実際に利活用することで、今後の仏教学の学習および研究に活かすようにすることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この授業では60時間以上の授業外学習を行うこと 授業内容の予習・復習として毎回課題に取り組んでもらう。						
授業計画	【第1回】 仏教学の方法論とコンピュータの利用に関する概説、各自の環境について 【第2回】 一次文献を読解・解読するための環境整備とツールの利用・導入 【第3回】 一次文献を調査するためのテキストデータベース①漢語大蔵経 【第4回】 一次文献を調査するためのテキストデータベース②サンスクリット語やチベット語、パリー語 【第5回】 一次文献を調査・収集するためのデジタルアーカイブ① IIF について 【第6回】 一次文献を調査・収集するためのデジタルアーカイブ② 【第7回】 二次文献を調査・収集するためのツール① 仏教学の論文データベース 【第8回】 二次文献を調査・収集するためのツール① 仏教学以外の論文データベース 【第9回】 国会図書館で公開されているサービスやツールを活用する 【第10回】 AI の活用（生成 AI、翻刻 AI、翻訳 AI など） 【第11回】 ngram ツールの活用 【第12回】 研究データの管理、運用、共同研究のあり方 【第13回】 まとめ						
成績評価の方法	毎回出す課題への取り組みと授業へ取り組み 50% 期末の課題（あるいはテスト）50%						
フィードバックの内容	各回のリアクションペーパーへのフィードバックや課題に関する講評を翌週授業冒頭に行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	履修者は授業で利用する国立国会図書館の利用登録を済ませてください。 登録手続きページ https://ndlsearch.ndl.go.jp/register/mail 利用登録に関する説明動画 https://www.youtube.com/watch?v=8aushe5fW5I&list=PLXvKjMC1JnVvu9lm12h_iXAOsJ1BpkcRs&index=3						
オフィスアワー	授業後に時間を取るようになります。事前に以下のメールアドレスに連絡してもらえると幸いです。 miyazaki-t@tsurumi-u.ac.jp						
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他	－						

講義コード	11J0111501	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	心理学概論(臨・対)／心理学概論Ⅰ(臨)					笠置 遊	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	心理学は心の問題を扱うもっとも中心的な学問であるが、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。本授業は、心理学におけるさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心理についての理解を深めることを目指す。						
到達目標	心理学の各領域での基礎知識に基づいて、個人や集団へのアプローチ方法を理解できる。 心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みおよび働きについて説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、授業で扱う内容についての予習・復習を行うこと。						
授業計画	【第1回】心理学とは 【第2回】知覚心理学 【第3回】認知心理学① 【第4回】認知心理学② 【第5回】学習心理学 【第6回】感情心理学 【第7回】パーソナリティ心理学 【第8回】社会心理学① 【第9回】社会心理学② 【第10回】発達心理学 【第11回】臨床心理学① 【第12回】臨床心理学② 【第13回】神経・生理心理学						
成績評価の方法	授業への取り組み20％、定期試験80％						
フィードバックの内容	質問・コメントに対するフィードバックを翌週授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談の対応方法については、初回授業で説明します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11J1120101	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	心理学研究法入門／心理学概論Ⅱ					武部 匡也	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本講義では、臨床心理学における科学・研究の位置づけや重要性、危険性を理解し、その科学的思考法や研究倫理等のアカデミックな知識と技能を身につけることを目的とする。臨床心理学は「法則」を探究する科学の一分野でありながら、「個」を重視する学問であることから、科学の有用性だけでなく、その限界についても理解を深める。また、科学におけるコミュニケーションの一つである学術論文の執筆ルール等の習得も目的とする。						
到達目標	・科学的な思考法の核となる「対照」と「反証」について説明できる。 ・心理学研究における研究倫理と測定（信頼性・妥当性）の重要性を説明できる。 ・心理学研究における研究手法（実験・調査・観察・面接）の概要を説明できる。 ・臨床心理学における研究の重要性と限界を説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修では、授業の予習・復習に加えて、授業内で紹介された概念や理論に関連する文献を調べ、さらなる理解を深めることを求める。このような授業外学修は、60時間以上行うこと。						
授業計画	【第1回】学習から学問へ：答えのない世界の歩き方 【第2回】科学の基本的な思考法：「対照」 【第3回】科学の基本的な思考法：「反証」 【第4回】「エビデンス」とは？：臨床心理学における科学のメリットと限界 【第5回】構成概念を扱う心理学：測定における信頼性と妥当性 【第6回】心理学研究の基本的な研究手法：実験・調査・観察・面接 【第7回】相関と因果 【第8回】臨床心理学で良く用いられる研究手法：無作為化対照試験（RCT）と一事例実験 【第9回】研究に関するバイアスを理解する 【第10回】研究における倫理① 【第11回】研究における倫理② 【第12回】心理学論文の構成 【第13回】学術論文を書く技術：パラグラフ・ライティング						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（30％）、期末試験（70％）に基づいて評価する。						
フィードバックの内容	フィードバックは、主にリアクションペーパー（Microsoft Forms）およびSlido（アプリ）を使用して実施します。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、Teamsのチャット機能でも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、意見共有、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0113000	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	世界の言語と文化[英語Ⅰ]					戸田 裕久		第1期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では英語圏の映画や舞台記録等の視聴覚資料を鑑賞し脚本等を精読することにより、欧米人の文化習俗や言語感覚を体験的に学修する。								
到 達 目 標	英米語のネイティヴスピーカーの発音が聞き取れる。教材の表現方法を手本として、自分の見解や心情を英語で正確に伝えることができる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に生き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	視聴覚資料の教材の既習箇所を再読して概要をまとめた上で、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で作文しておく。教材の既習箇所の音読練習を重ねる。これら予習・復習を各回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授 業 計 画	【第1回】授業の進め方の説明と教材の選定、視聴覚資料の冒頭部分の視聴、内容の理解 【第2回】～【第12回】各回の授業は以下のように展開される。 （1）前回の復習：前回の授業で扱われた内容を振り返る。 （2）視聴覚資料の視聴：視聴覚資料を英語・日本語字幕なしで視聴し、大意を把握、あるいは内容を想像する。 （3）内容の理解：配布資料の当該箇所を読み内容を理解する。物語の時代背景や文化基盤等についての解説。 （4）再度の視聴：英語字幕つきで当該箇所を視聴し内容と出演者の演技を確認する。 （5）実演練習：英語原文の読み方を全員で確認した上で、各自で音読練習する。 （6）今回の内容の覚え書き：今回学習した箇所の概要をまとめ、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で書き留める。 【第13回】第1期実技試験：各人が英語で自己紹介し、授業で扱われた教材の中で特に印象に残った場面や事柄について述べた上で、当該箇所を音読実演する。その発表原稿をレポートとして提出する。								
成績評価の方法	実技試験（40%）、レポート（40%）、授業への取り組み姿勢（20%）。								
フィードバックの内容	課題レポート等の講評を授業内において行う。								
教 科 書	未定。適宜、教材を配布します。								
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	実技試験では音読する箇所を受験者本人に決めていただきます。どの場面を選ぶかということに、教材とした作品に対する理解度と授業への取り組み姿勢が表われるからです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	実技、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
そ の 他	何事も始めは気が進まなくとも、続けている内に楽しくなってくるものです。いやいやするのではなく、何らかの楽しみを見つけて勉めてください。								

講義コード	11A0113100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担 当 教 員	戸田 裕久	開 講 期	第2期
科 目 名	世界の言語と文化[英語Ⅱ]								
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では英語圏の映画や舞台記録等の視聴覚資料を鑑賞し脚本等を精読することにより、欧米人の文化習俗や言語感覚を体験的に学修する。								
到 達 目 標	英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。教材の表現方法を手本として、自分の見解や心情を英語で正確に伝えることができる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に生き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	視聴覚資料の教材の既習箇所を再読して概要をまとめた上で、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で作文しておく。教材の既習箇所の音読練習を重ねる。これら予習・復習を各回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授 業 計 画	【第1回】授業の進め方の説明と教材の選定、視聴覚資料の冒頭部分の視聴、内容の理解 【第2回】～【第12回】各回の授業は以下のように展開される。 （１）前回の復習：前回の授業で扱われた内容を振り返る。 （２）視聴覚資料の視聴：視聴覚資料を英語・日本語字幕なしで視聴し、大意を把握、あるいは内容を想像する。 （３）内容の理解：配布資料の当該箇所を読み内容を理解する。物語の時代背景や文化基盤等についての解説。 （４）再度の視聴：英語字幕つきで当該箇所を視聴し内容と出演者の演技を確認する。 （５）実演練習：英語原文の読み方を全員で確認した上で、各自で音読練習する。 （６）今回の内容の覚え書き：今回学習した箇所の概要をまとめ、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で書き留める。 【第13回】第2期実技試験：各人が英語で自己紹介し、授業で扱われた教材の中で特に印象に残った場面や事柄について述べた上で、当該箇所を音読実演する。その発表原稿をレポートとして提出する。								
成績評価の方法	実技試験（40％）、レポート（40％）、授業への取り組み姿勢（20％）。								
フィードバックの内容	課題レポート等の講評を授業内において行う。								
教 科 書	未定。適宜、教材を配布します。								
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	実技試験では音読する箇所を受験者本人に決めていただきます。どの場面を選ぶかということに、教材とした作品に対する理解度と授業への取り組み姿勢が表われるからです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	実技、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
そ の 他	若いうちに（25歳くらいまでに）なるべく多くの言語に触れることを強くお勧めします。「世界の言語と文化」のフランス語、ドイツ語、中国語も是非受講してください。								

講義コード	11A0113400	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	世界の言語と文化[ドイツ語]／世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]					望月 海慧		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	ドイツは最先端の仏教学研究が行われている地であり、ドイツ語は仏教を学ぶ上でも基礎的な言語の一つである。この授業では、そのためのツールとして、ドイツ語の基本文法と基礎的会話を修得することを目的とする。								
到達目標	ドイツ語で書かれた論文を読むことができる。ドイツ人とドイツ語で基本的な会話を行うことができる。ドイツの文化について人に説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。事前学習では教科書の次の講義箇所をの練習問題を解答し、事後学習では講義した箇所を復習し練習問題の誤りなどを確認しておくこと。								
授業計画	【第1回】ドイツ語の発音ができる／アルファベット 【第2回】挨拶ができる／人称代名詞・動詞の現在人称変化 【第3回】簡単な文章が書ける／名詞の性と格 【第4回】家族の紹介ができる／冠詞の変化 【第5回】命令文が言える／不規則同士変化 【第6回】数字が言える／名詞の複数形 【第7回】否定表現ができる／定冠詞類・不定冠詞類 【第8回】自己紹介ができる／否定分 【第9回】所有の表現ができる／人称代名詞 【第10回】天候の表現ができる／非人称の es 【第11回】場所の表現ができる／前置詞 【第12回】複雑な文章が理解できる／従属接続詞と副文 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	小テスト4回（40%）、期末試験（50%）、授業への取り組み（10%）による。到達目標の記載の内容について、自分で表現できることを小テストと期末試験の評価基準とする。								
フィードバックの内容	レポートのフィードバックは WebClass にて行う。								
教科書	『Landeskunde Deutsch』 Tatsuo Nagai（白水社）2025								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	ドイツ語の会話練習、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0113500	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]					望月 海慧		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	ドイツは最先端の仏教学研究が行われている地であり、ドイツ語は仏教を学ぶ上でも基礎的な言語の一つである。この授業では、そのためのツールとして、ドイツ語の基本文法と基礎的会話を修得することを目的とする。								
到達目標	ドイツ語で書かれた論文を読むことができる。ドイツ人とドイツ語で基本的な会話を行うことができる。ドイツの文化について人に説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。事前学習では教科書の次の講義箇所をの練習問題を解答し、事後学習では講義した箇所を復習し練習問題の誤りなどを確認しておくこと。								
授 業 計 画	【第1回】ドイツ語の発音ができる／話法の助動詞								
	【第2回】曜日・月日の表現ができる／分離動詞・非分離動詞								
	【第3回】過去表現ができる／動詞の過去基本形								
	【第4回】比較表現ができる／比較級								
	【第5回】完了表現ができる／過去分詞・完了形								
	【第6回】未来の表現ができる／未来形								
	【第7回】修飾表現ができる／形容詞の格変化								
	【第8回】色彩表現ができる／序数								
	【第9回】受動の表現ができる／受動文								
	【第10回】目的の表現ができる／zu 不定詞								
	【第11回】長文の文章表現ができる／関係代名詞								
	【第12回】仮定の表現ができる／接続法								
	【第13回】まとめ								
成績評価の方法	小テスト4回（40%）、期末試験（50%）、授業への取り組み（10%）による。到達目標の記載の内容について、自分で表現できることを小テストと期末試験の評価基準とする。								
フィードバックの内容	レポートのフィードバックは WebClass にて行う。								
教科書	『Landeskunde Deutsch』 Tatsuo Nagai（白水社）2025								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	ドイツ語の会話練習、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0113800	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	金 炳坤	開講期	第1期
科目名	世界の言語と文化[ハングル]					金 炳坤		第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	韓国語は日本語と文法的類似性が高く、ハングルと発音に慣れさえすれば、他のどの外国語よりも、日本人にとり習得しやすい言語です。本授業では、(1) 韓国語能力試験 (TOPIK Ⅰ) の1級レベル認定を目指します。(2) 半期の授業を通じて、今後継続可能な主体的な学び (独学) ができるようにします。(3) 未来を創るキャリア開発の場を提供しますので、到達目標の達成に理解の有る、意志堅固なる学生の受講を願います。								
到達目標	(1) 自己紹介、買い物、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な言語 (ハングル) が駆使でき、身近な話題の内容を理解、表現できる。(2) 約800語程度の基礎的な語彙と基本文法が理解でき、簡単な文章を作れる。(3) 簡単な生活文や実用文を理解し、構成できる。(4) 日常生活と関連する個人的な対話や談話を聞き、内容を把握し、推論できるかを評価する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書に沿って進めていきますので、事前学修 (2時間以上) では、単語テストに備え、単語帳を作り、教科書の語彙を覚えておくようにしてください。事後学修 (2時間以上) では、小テストに備え、ノートに教科書の文法などを整理し、活用できるようにしてください。								
授 業 計 画	【第1回】授業略説、第1課：韓国語と文字 (韓国語の系統と特徴、ハングルとは、ハングルの仕組み、ハングル文字の構成)、第2課：基本母音字 (10文字) 【第2回】第3・4・5課：基本子音字 (14文字) 【第3回】第6課：合成子音字 (5文字)、第7課：合成母音字 (11文字) 【第4回】第8課：1文字パッチム (16文字)、2文字パッチム (11文字)、第9課：連音化、あいさつのことば、教室のことば 【第5回】第10課：名詞＋です (か)、一人称代名詞、名詞＋は、第11課：指示代名詞 (この)、名詞＋も、＋ではありません 【第6回】第12課：名詞＋の、指示語 (この)、家族の名称、第13課：名詞＋が、あります (か)・います (か)・ありません (か)・いません (か)、指示代名詞 (ここ)、名詞＋と、位置関係のことば 【第7回】第14課：動詞＋ます (か)、名詞＋を、動詞＋ません、第15課：名詞＋に行きます、＋で、動詞＋に、曜日 【第8回】第16課：形容詞＋です (か)、なんの (どんな) ＋名詞、形容詞の語幹＋くありません、第17課：漢字語数詞、年・月・日 【第9回】第18課：固有語数詞、単位名詞、第19課：時・分、名詞＋から、＋まで 【第10回】第20課：尊敬形の作り方、尊敬語、「ㄹ」脱落、第21課：丁寧形の作り方、「ㄹ」否定形、名詞＋です (口語) 【第11回】第22課：過去形の作り方、動詞の語幹＋て、名詞＋でした、第23課：動詞＋(ら)れます、名詞＋でいらっしやいます、動詞の語幹＋(ら)れました、名詞＋で 【第12回】第24課：動詞の語幹＋ましょうか、＋ましょう、＋ます (～つもりです)、＋てください 【第13回】授業総説								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、単語テスト (40%)、小テスト (40%) により総合評価します。								
フィードバックの内容	単語テスト・小テストは、回収・採点・コメントの上、次回に授業にて返却します。								
教科書	『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト (初級)』李昌圭 (朝日出版社) 2009								
指定図書	『新合格できる韓国語能力試験 (TOPIK Ⅰ)』全ウン (アスク出版) 2014								
参 考 書	『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト (中級)』李昌圭 (朝日出版社) 2009、『新合格できる韓国語能力試験 (TOPIK Ⅱ)』全ウン (アスク出版) 2015、『楽しい韓国語 (入門・初級) 第2版』大坪祐子 (博英社) 2023								
教員からのお知らせ	ソウル生まれ (標準語使用)、日本在住歴23年、日本人に対する韓国語教授歴14年、韓国語能力試験初級合格者多数輩出。隔年開講となりますので、この機会を逃さないようにして下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
そ の 他	仏教史特講3「朝鮮仏教史」(第1期、月曜日、2時限)と連続で受講することを薦めます。とりわけ協定大学 (韓国) への海外研修・留学制度等については、「立正大学 国際交流センター」までお問い合わせください。								

講義コード	11A0113600	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	世界の言語と文化[フランス語]／世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]					久保 真紀子	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この講義では、フランス語の書籍や研究論文を読解することを目指し、教科書を使って基礎文法を学びながら、フランス語の世界に親しんでゆきます。						
到達目標	初級文法の知識を習得し、仏和辞典を用いながら語彙力を身につけるとともに、基本的な発音を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	語学を習得するためには予習と復習が不可欠です。毎回の授業前には、教科書を使って必ず予習してくるとともに、授業後にも復習して、授業で習った知識を定着させてください。時間にして、合計60時間以上の授業外学修が必要です。						
授 業 計 画	【第1回】文字と発音 アルファベ / 綴り字記号 / 発音記号と音 / 文字の読み方 / 語群の読み方 / 名詞の性と数 / 冠詞 【第2回】主語になる代名詞 / 動詞 être と avoir の直説法現在形 / 提示の表現 【第3回】否定形 / 形容詞 【第4回】-er 動詞の直説法現在 / 疑問形 / 疑問文に対する答え 【第5回】指示形容詞 / 疑問形容詞 / 所有形容詞 【第6回】aller, venir の直説法現在 / 近い未来と近い過去 / 前置詞 (à, de) と定冠詞 (le, les) の縮約 【第7回】finir, partir の直説法現在 / 疑問代名詞 / 疑問副詞 【第8回】voir, dire, entendre の直説法現在 / 形容詞・副詞の比較級 / 形容詞・副詞の最上級 / 特殊な比較級・最上級 【第9回】faire, prendre の直説法現在 / 命令形 / 非人称構文 【第10回】目的語になる人称代名詞・強勢形 【第11回】過去分詞 / 直説法複合過去 【第12回】関係代名詞 / 強調構文 / 代名動詞 【第13回】まとめ ※1 教科書と音声データについて 教科書は必ず購入して、毎回持参してください。ただし、注文してから手元に届くまでの期間として、最初の数回は該当ページのコピーを配布します。教科書の音声データは出版社のホームページから聴くことができます。ホームページの URL は教科書に記載されています。 ※2 第10回授業までに期末課題を伝えます（第13回までに提出）。第13回授業では、期末課題の回答確認や音読テストを行います。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）、期末課題（30%）						
フィードバックの内容	毎回の授業では受講生を指名して回答してもらいます。また、受講生の習熟状況を見ながら必要に応じて復習や補足説明をおこないます。						
教科書	『Le français clair』清岡智比古（白水社）2021						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	仏和辞典を必ず購入し、予習復習に使ってください（どの出版社のものでも構いません）。 第1期は基礎文法を学びますので、授業時間以外にも反復練習を必ず行ってください。第2期では第1期に習得した知識をもとにより実践的な読解を行いますので、第1期と第2期を連続して履修することを推奨します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後のほかメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ロールプレイング						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0113700	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	世界の言語と文化【フランス語Ⅱ】					久保 真紀子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この講義では、フランス語の書籍や研究論文を読解することを目指し、教科書を使って基礎文法の定着を図りつつ、専門的な内容の文献を辞書を使いながら時間をかけて読み込んでゆきます。						
到達目標	第1期から学修してきた基礎文法をもとに、フランス語の文献を講読できるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書および講読文献（コピー配布）については、毎回の授業前に、単語を調べて翻訳することを徹底してください。毎回の授業では1人1人指名して回答してもらいます。予習と復習のために、合計60時間以上の授業外学修が必要です。						
授 業 計 画	【第1回】教科書：pouvoir, vouloir, devoir の直説法現在 / 直説法単純未来 【第2回】教科書：直説法半過去 / 受動態 【第3回】教科書：現在分詞 / ジェロンディフ 【第4回】文献講読 【第5回】文献講読 【第6回】文献講読 【第7回】文献講読 【第8回】文献講読 【第9回】文献講読 【第10回】文献講読 【第11回】文献講読 【第12回】文献講読 【第13回】まとめ ※ 文献講読について 【第4回】以降は簡単なフランス語文献を講読します。使用する文献については、授業時にプリントを配布・指示します。 ※2 第10回授業までに期末課題を伝えます（第13回までに提出）。第13回授業では、期末課題の回答確認や音読テストを行います。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）、期末課題（30%）						
フィードバックの内容	毎回の授業では受講生を指名して回答してもらいます。また、受講生の習熟状況を見ながら必要に応じて復習や補足説明をおこないます。						
教 科 書	『Le français clair』清岡智比古（白水社）2021						
指 定 図 書							
参 考 書							
教員からのお知らせ	第1期に「世界の言語と文化【フランス語Ⅰ】」を履修していない学生は、教科書『Le français clair』を必ず購入してください。また、文献講読には仏和辞典が欠かせませんので、教科書とともに購入してください（どの出版社のものでも構いません）。 第1期に習得した基礎文法をもとに講読を進めて行きます。文献講読にはある程度のフランス語の知識が必要となるため、第1期と第2期を連続して履修することが望ましいです。履修も可能です。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ロールプレイング						
実践的な教育内容							
そ の 他	文献講読はゆっくりとしたペースで少しずつ読み進めてゆきますが、予習復習は必須です。予習や課題に取り組む際には、辞書をこまめに引きながら丁寧に読み進めるように心掛けてください。完璧な訳でなくても構いませんので、とにかく挑戦してみましょう。想像力を使いながら読み進めていくと、次第に慣れて行くものです。						

講義コード	11A0108800	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	世界の宗教地理 1					内藤 善之		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義では、仏教東漸の中核をなしたシルクロードのオアシス国家の盛衰を地理的背景の中で考察すると共に、画像資料を多用し、歴史的・民族的・文化的背景から、シルクロード内陸アジア地域の仏教事情を考察することを目的とする。								
到達目標	シルクロードと呼ばれる内陸アジアの地政学的・宗教的・歴史的特徴を理解し、シルクロードにおける仏教の諸展開・諸交渉の特徴を理解し、説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義中に指示した事項について、予習・復習をすることとし、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】シルクロードとは何か内陸アジアの概説 【第2回】シルクロードと探検家 【第3回】インドにおける仏教展開と地理 1 【第4回】インドにおける仏教展開と地理 2 【第5回】内陸アジアの地理的環境 【第6回】内陸アジアの民族と宗教 【第7回】パキスタン・アフガニスタン（ガンダーラ）における地理と民族 【第8回】パキスタン・アフガニスタン（ガンダーラ）における仏教展開 【第9回】ウズベキスタンの民族と歴史 【第10回】ウズベキスタンの仏教変遷と特色 【第11回】当該地域の諸資料を採る 1 【第12回】当該地域の諸資料を採る 2 【第13回】総括								
成績評価の方法	学期末レポート・課題小レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）により成績を評価します。								
フィードバックの内容	講義後回収する質問用紙に対するフィードバックを翌週講義内にておこなう。								
教科書									
指定図書									
参考書	『アジア仏教美術論集・東アジアⅠ』濱田 瑞美（中央公論美術出版）2017、『新アジア仏教史〈05〉文明・文化の交差点－中央アジア』奈良 康明 石井 公成（佼成出版社）2010								
教員からのお知らせ	シルクロードの仏教変遷を通して宗教と地理的環境の関係、異文化交渉の中で仏教の諸展開を習得することに努めてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0108900	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	世界の宗教地理 2					内藤 善之		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	仏教の伝播したインドから中国に至る内陸アジアでは、地理的環境の中で多くのオアシス国家が成立し、仏教の受容と展開に大きな影響を与えてきた。一般にシルクロードと呼ばれオアシス国家を結び発展し、東西文化交流を担った。仏教東漸の中核をなしたシルクロードの地理的・民族的・文化的背景を考察することを目的とする。								
到達目標	シルクロードの地理的環境を理解し、その各地域で展開した仏教諸交渉を理解し、説明出来る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義中に指示した事項について、予習・復習をすることとし、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】シルクロードを考える 【第2回】文明の十字路と呼ばれる所以は 【第3回】シルクロードの地理的環境と仏教の関わり・経典と地理 【第4回】シルクロードから中国への仏教移入と影響 【第5回】仏像の地理的変遷を考える 【第6回】ヒンドゥクシュを越えて 河西回廊と敦煌の地理的環境オンラインで実施 【第7回】亀茲国の地理的・歴史的展開 【第8回】キジル石窟にみる西方の影響 【第9回】トルファン周辺域の歴史と地政的役割 【第10回】高昌国を考える 【第11回】敦煌石窟の特徴と展開 【第12回】東トルキスタンの地理的環境と仏教の関係を考える 【第13回】総括								
成績評価の方法	学期末レポート・課題小レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）により成績を評価します。								
フィードバックの内容	講義後回収する質問用紙に対するフィードバックを翌週講義内にておこなう。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	シルクロードの仏教変遷を通して宗教と地理的環境の関係、異文化交渉の中で仏教の諸展開を習得することに努めてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101001	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ					安中 尚史	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	日本仏教の歴史的展開を主体的に学ぶための力を養うことをねらいとします。						
到達目標	日本仏教の歴史的展開を研究するために必要な基礎力を身につけることを目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	学術論文や史料（資料）を各自で検索・収集し内容を把握して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】学術論文・史料（資料）の検索と収集（1） 【第3回】学術論文・史料（資料）の検索と収集（2） 【第4回】学術論文・史料（資料）の検索と収集（3）および課題の提出（1） 【第5回】日本仏教史研究の方法論（1） 【第6回】日本仏教史研究の方法論（2） 【第7回】日本仏教史研究の方法論（3） 【第8回】日本仏教史研究の方法論（4）および課題の提出（2） 【第9回】日本仏教史研究の方法論（5） 【第10回】日本仏教史研究の方法論（6） 【第11回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第12回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第13回】まとめと課題の提出（3）						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で評価します。						
フィードバックの内容							
教科書	特にありません						
指定図書	授業中に紹介します						
参考書							
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101002	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ					寺尾 英智	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。						
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】「研究」と「論文」について 【第2回】研究文献及び史料について 【第3回】研究文献及び史料の収集と検討（1） 【第4回】研究文献及び史料の収集と検討（2） 【第5回】研究文献及び史料の収集と検討（3） 【第6回】研究文献及び史料についての発表（1） 【第7回】研究文献及び史料についての発表（2） 【第8回】研究の方法と実践（1） 【第9回】研究の方法と実践（2） 【第10回】研究の方法と実践（3） 【第11回】研究の方法と実践（4） 【第12回】研究文献及び史料についての発表（3） 【第13回】研究文献及び史料についての発表（4）						
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価する。						
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）						
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年						
参考書	『日蓮信仰の歴史を探る』寺尾英智（山喜房佛書林）2016年						
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。						
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101003	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					原 慎定		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	テーマ：人生における苦難の意義を考える オーストリアの精神医学者ビクトール・フランクルはナチスの強制収容所での過酷な体験を記した『夜と霧』の中で「人間が生きていることには、常にどんな状況でも、意味がある」と語った。日蓮聖人は度重なる法難・迫害を克服して法華経の価値を実証されたが、その内実にも「苦難」の意義が存すると思われる。かかる視座から「宗学」の根本的課題に迫りたい。								
到達目標	各自の人生観を振り返り、自己を相対化できるようになる。「宗学」とは、決して閉鎖的で独善的な学問ではない。普遍的な価値観を身につけることによって、現代社会の人々に対する説得力をもちうるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、自分自身の問題意識をもつことが求められる。また関連する情報や資料を収集し、レポートする能力の育成を図る。授業外学修として合計60時間以上の予習・復習が必要となる。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション 【第2回】自分の中の歴史 【第3回】ビクトール・フランクルと強制収容所について 【第4回】幸福のパラドックス 【第5回】悩み苦しむことの意味 【第6回】愛する人への思い 【第7回】どんなときも人生には意味がある 【第8回】変えられない運命に対してどのような態度をとるか 【第9回】人生からの問いかけに応える生き方への転換 【第10回】「法華経の行者」という生き方 【第11回】仏の「未来記」と法難にあうことの意義 【第12回】敵こそわが師なり 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、課題発表30%、レポート40%								
フィードバックの内容									
教科書	『ビクトール・フランクル 絶望の果てに光がある』諸富祥彦（KKベストセラーズ）2013								
指定図書	『夜と霧 新版』ヴィクトール・E・フランクル著・池田香代子訳（みすず書房）2002、『NHK 100分 de 名著 フランクル 夜と霧 絶望の果てに光がある』諸富祥彦（NHK 出版）2013								
参考書	『自分の中に歴史を読む』阿部謹也（ちくまプリマーブックス）1988、『人生に意味はあるか』諸富祥彦（講談社現代新書）2005								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーおよび使用するシステムのチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101004	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ					三輪 是法	第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	このゼミナールは日本仏教の思想的側面を研究対象とする。時代を限定せず、日本仏教関連の文献を講読していく。						
到達目標	日本仏教に関する文献を読解するための、補助的作業力（参考資料の調査や専門用語の理解習得など）を身につけ、文献内容を正しく理解説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	自分自身の課題について、事前学修を2時間以上おこない、発表準備に備える。授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上おこなう。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。						
授 業 計 画	【第1回】オリエンテーション～ゼミナールの進行について						
	【第2回】研究テーマの設定1						
	【第3回】研究テーマの設定2						
	【第4回】研究テーマの設定3						
	【第5回】研究テーマの設定4						
	【第6回】研究テーマの設定5						
	【第7回】文献講読1						
	【第8回】文献講読2						
	【第9回】文献講読3						
	【第10回】文献講読4						
	【第11回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①						
	【第12回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会②						
	【第13回】まとめ						
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。						
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。						
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。						
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101005	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ					田村 亘禰	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	卒業論文の準備作業。日蓮教学・教学史等の様々な学術論文を熟読し、卒業論文のテーマを見つける。						
到達目標	自分が読んだ学術論文の概要を、他者に話して聞かせることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、卒業論文の準備作業に充てること。授業外学修の時間は、最低でも60時間以上を充てること。						
授業計画	【第1回】自己紹介・卒論の展望を発表。質疑応答。 【第2回】自己紹介・卒論の展望を発表。質疑応答。 【第3回】ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第4回】ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第5回】資料の取り扱い方の説明。 【第6回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第7回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第8回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第9回】参考文献の講読。 【第10回】参考文献の講読。 【第11回】参考文献の講読。 【第12回】参考文献の講読。 【第13回】レポート提出。まとめ。						
成績評価の方法	期末レポート（60%）、発表（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）を基準として、総合的に評価します。						
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書	授業時に紹介します						
参考書	授業時に紹介します						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール／卒業論文						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101006	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ					本間 俊文	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。						
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する基本的事項と研究法について説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】「仏教」を学ぶ意義について考える 【第2回】研究テーマの定め方、先行研究について 【第3回】「歴史を研究する」ということ 【第4回】「論文」のあり方について学ぶ（1） 【第5回】「論文」のあり方について学ぶ（2） 【第6回】研究の「目的」と「意義」を考える（1） 【第7回】研究の「目的」と「意義」を考える（2） 【第8回】研究の「目的」と「意義」を考える（3） 【第9回】研究の方法・実践（1） 【第10回】研究の方法・実践（2） 【第11回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第12回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会② 【第13回】研究の方法・実践（3）						
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。						

講義コード	11A2101101	授業形態	演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	ゼミナールⅠ					秋田 貴廣		第 1 期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	現在に残された文化としての作品と、「造形」という視点をとおして対峙する。その上で、自らの感触と過去の事実を立体的に交差させながら、その必然性と意味を探る。								
到 達 目 標	「制作」を行う場合、4年次に取り組む「卒業制作」のための基礎造形力と技術、そして彫刻様式の把握力を身につける。また、自分のテーマを決定するための基礎資料収集を行う方法やその内容を検証する方法論を身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	自分が興味をもった文化に関する資料について、事前に調査する（15時間以上）。 仏教寺院や博物館・美術館等に赴き、自分の目で作品を鑑賞し、その実感を得る（15時間以上）。 自分自身の制作活動あるい論文資料の収集・確認作業（30時間以上）。								
授 業 計 画	<卒業論文（制作）に向けての指導を行う> 【第1回】ガイダンス 【第2回】美術とは何か？ 【第3回】論文とは何か？ 【第4回】仏教美術の基礎知識の習得と実習課題を行う1 【第5回】仏教美術の基礎知識の習得〃2 【第6回】仏教美術の基礎知識の習得〃3 【第7回】仏教美術の基礎知識の習得〃4 【第8回】仏教美術の基礎知識の習得〃5 【第9回】仏教美術の基礎知識の習得〃6 【第10回】仏教美術の基礎知識の習得〃7 【第11回】研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査1 【第12回】研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査2 【第13回】研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査3								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50％・授業内レポート50％								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内の行うほか、学生各自の興味を確認した上で、次の段階に移行するための助言を行う。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修（丸善プラネット）2012								
教員からのお知らせ	このゼミは1限の時間帯に開講されているが、「制作」行為を進める関係上、2限の時間帯を使用する可能性がある。そのため出来る限り2限の時間帯を空けておく（他の授業を入れない）ように。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	仏像の立体資料等を適宜用いて、学生自身の目と手で触れて実感できる機会を設ける。演習／ゼミナール								
実践的な教育内容									
そ の 他	本講義ではテキストは使用しないが、各自の関心のある作品について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい。								

講義コード	11A2101102	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	高橋 堯英	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ								
履修前提条件						備考			
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成のための基礎的なスキルを学ぶことを目的とする。								
到達目標	各ゼミ生は、当ゼミ終了時までに各自の研究の方向性を決定することが出来る。インド仏教文化関連の研究資料・研究論文の輪読などを通じ、史料の取り扱い方、調べ方が理解出来る。前期終了時のゼミ合宿またはゼミ発表会で、各自が決定したテーマについて報告が出来るようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	インド仏教文化関連の研究資料・研究論文の輪読で利用した資料をよく復習し、注の処理、史料の取り扱い方、調べ方を自らが主体的に理解するように。前期終了時のゼミ発表会で、各自が決定したテーマについて報告してもらうが、それに向かって毎回2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を求める。								
授業計画	【第1回】論文とは？レポートとは？ 【第2回】研究論文の構造の理解 【第3回】リーディング・リストの作成 【第4回】研究論文の輪読 【第5回】研究資料・論文の輪読 【第6回】自らの研究エリア又はテーマについての発表 【第7回】自らの研究エリア又はテーマについての発表 【第8回】研究資料・論文の輪読 【第9回】研究資料・論文の輪読 【第10回】研究資料・論文の輪読 【第11回】研究資料・論文の輪読 【第12回】自らの研究テーマについての発表とディスカッション 【第13回】自らの研究テーマについての発表とディスカッション								
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢（60％）、学期内中間発表（20％）、学期末発表（20％）。中間発表・学期末発表の評価には発表に用いるレジュメの評価も含まれます。								
フィードバックの内容	自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認する。輪読した論文の内容を知識として習得するために、学期末にレポートにて確認する機会を設ける。								
教科書	特にもうけず								
指定図書	特にもうけず								
参考書	特にもうけず								
教員からのお知らせ	輪読する資料は共有ストレージ内の高橋堯英のストレージにアップする予定ですので、事前に用意し、毎回必ず予習をしてゼミに参加して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、メール（takahidetakahashi1955@gmail.com）で対応します。								
アクティブラーニングの内容	学期途中と学期末に発表機会を設け、各自の調査成果を報告し、ディスカッションによって各自のテーマの掘り下げることを進めます。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101103	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					手島 一真		第1期	
履修前条件	備考								
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。								
到達目標	卒業研究を念頭に置いて、各自の研究テーマを設定し、必要な文献や資料を吟味し収集できる。 またその結果に基づいて考察を行い、小論文としてまとめることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	論文講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、原典資料からの引用文など、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表の際は、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】実証的研究のための方法論総説 【第2回】研究の土台となる基本文献に関する論文講読（1） 【第3回】同（2） 【第4回】同（3） 【第5回】ゼミ生による研究発表と意見交換（1） 【第6回】同（2） 【第7回】同（3） 【第8回】宗教文化史に関する論文・原典資料講読（1） 【第9回】同（2） 【第10回】ゼミ生による研究発表と意見交換（4） 【第11回】同（5） 【第12回】同（6） 【第13回】総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）								
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表、小論文に対する講評は、授業時に随時行う。								
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年								
指定図書	『全訳 漢辞海』戸川芳郎（三省堂）2019年、『新字源』小川環樹（角川書店）2017年、『新漢語林』鎌田正（大修館書店）2011年								
参考書	授業内で指示します								
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 演習／ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。								

講義コード	11A2101104	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					戸田 裕久		第1期	
履修前条件	備考								
授業の目的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教における修行法に焦点を当て、ヒンドゥー教系のそれと比較対照する。また古今の神秘主義思想とその実践方法に関して多角的に調査研究し考察する。受講生が自ら興味関心・問題意識をもって研究課題を設定し調査・報告する力を養う。								
到達目標	仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知り自らの研究に役立てることができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握し、各自の見解や疑問点を書きとめ、演習での発言や質問に備えること。また、各人が研究課題を設定して自主的に個人研究を推進し第2期での発表に備えること。個人研究の成果を報告書（小論文）の形でまとめておくこと。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】神秘主義とは何か 【第2回】世界の諸宗教における神秘主義 【第3回】ヒンドゥー教系ヨーガの概要 【第4回】古典ヨーガ（八支ヨーガ） 【第5回】ハタヨーガ 【第6回】仏教における種々の「行」 【第7回】初期仏教・アビダルマ仏教における「戒」 【第8回】初期仏教・アビダルマ仏教における「定」 【第9回】初期仏教・アビダルマ仏教における「慧」 【第10回】大乘仏教における「行」概観 【第11回】禅経類に見られる修道理論 【第12回】法華三部経に見られる「行」 【第13回】密教における「行」								
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20%）と発表資料（20%）、研究成果報告書（30%）、平常点（30%）。								
フィードバックの内容	研究成果報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。								
教科書	適宜、資料を配布します。								
指定図書									
参考書	『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年、『神秘主義』アンリ・セルューヤ著、深谷哲訳（白水社）1975年、『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年								
教員からのお知らせ	第1期は講義形式で授業を進めますが、第2期には各人が自ら研究課題を設定して研究した成果を発表する機会が与えられますので、それに備えて各自で研究を進めておいてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。なお受講生各自の研究は学友と分担し共同研究にすると、より楽しくまたより成果が上がるものと期待されます。研究テーマは修行法に限らず各自が自由に設定して構いません。								

講義コード	11A2101105	授業形態	演習	抽選の有無	—	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ					養輪 顕量	第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	仏教の伝えた修行実践には様々なものが存在するが、その基本は念処（注意を向けて十分に気づくこと）にあると考えられる。そこから止と観に分かれたと推定されるが、修行に関する資料を、翻訳を用いながら輪読し、修行の中身を理解することを目指す。まずはパーリ語の『念処経』を翻訳で読み、その内容について考察し、仏教の伝えた修行の原点を探る。						
到達目標	仏教の瞑想の基本が何であったのか、またそれが何を指すものであったのか、何が実現されるのか、深く理解できるようになる。さらには日本の仏教にまで、その中身が伝わっていることが理解できるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学習時間は60時間以上とする。テキストの講読に際して、事前の予習を中心に行う。予習の内容については、授業の終わりに、次回のための準備を、その都度、指示する。						
授業計画	【第1回】全体のガイダンス 【第2回】念処経のガイダンス 【第3回】念処経の輪読 【第4回】念処経の輪読 【第5回】念処経の輪読 【第6回】念処経の輪読 【第7回】念処経の輪読 【第8回】念処経の輪読 【第9回】念処経の輪読 【第10回】念処経の輪読 【第11回】念処経の輪読 【第12回】念処経の輪読 【第13回】念処経の輪読						
成績評価の方法	授業への貢献（5割）、期末のレポート（5割）で評価する						
フィードバックの内容	課題に対する講評を翌週授業時間内冒頭で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『パーリ仏典にブッダの禪定を学ぶ：『大念処経』を読む』片山一良（大法輪閣）2012						
教員からのお知らせ	耳学問は大切です。欠席しないようにしましょう。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。						
アクティブラーニングの内容	演習 図書館やインターネットで瞑想に資料を調べることを課す。						
実践的な教育内容	瞑想指導の経験を生かして時折、簡単な実習も行う。						
その他の	修行という実践的な内容を演習で扱うのは初めてなので、試行錯誤もあると思いますので、ご了解願いたい。						

講義コード	11A2101106	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ					庄司 史生	第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	このゼミナールでは、①論文執筆に必要となる資料の扱い方の習得、②各研究テーマの設定とプレゼン発表方法の習得を目的とする。 ①仏教学の論文執筆には欠かすことができない資料の扱い方に慣れるために、特定の一次資料、二次資料を取り上げ、その読解を行う。 ②研究テーマの設定から論文の書き方、論文の添削、ゼミ生による口頭発表を行い、その中で、論文執筆に関わる基礎的な知識の習得も目指す。						
到達目標	①学術論文を執筆するにあたっての基礎的なスキルを身につける。 ②学術情報に基づくプレゼン方法のスキルを身につける。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本ゼミナールの受講にあたっては、予習と復習を重ね事前・事後に不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】論文作成の方法と資料の扱い方① 【第3回】〃② 【第4回】〃③ 【第5回】〃④ 【第6回】〃⑤ 【第7回】〃⑥ 【第8回】〃⑦ 【第9回】〃⑧ 【第10回】〃⑨ 【第11回】〃⑩ 【第12回】〃⑪ 【第13回】まとめ ※以上の中で研究発表を行います。						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋課題提出30%）と口頭発表40%により成績を評価する。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考図書などは、必要に応じて指示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101107	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					久保 真紀子		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築等の造形表現やその成立背景を学ぶことに主眼を置き、画像や文献といった諸資料を丹念に読み解きながら研究を進める手法を身に付けることを目指す。								
到達目標	画像資料をよく観察してその特徴を描写したり、文献史料から読み取れたことを丁寧に伝える経験を積むことで、客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料を収集・整理する方法や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法を身に付ける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集や精読、あるいは博物館や美術館の見学等、進んで授業外学修を行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。								
授業計画	【第1回】参考文献リストの紹介・検索練習 【第2回】作品鑑賞会と意見交換 (グループワーク＋全体発表会) 【第3回】論文構想発表会 (1) 【第4回】論文構想発表会 (2) 【第5回】論文構想発表会 (3) 【第6回】論文構想発表会 (4) 【第7回】論文構想発表会 (5)				【第8回】論文講読会と意見交換 【第9回】論文構想発表会 (6) 【第10回】論文構想発表会 (7) 【第11回】論文構想発表会 (8) 【第12回】論文構想発表会 (9) 【第13回】総括				
	※1「作品鑑賞と意見交換」(第2回)では、授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深めます。 ※2「論文講読会と意見交換」(第8回)では、あらかじめ講師が指定した文献を全員で講読し、意見交換を行います。 ※3「論文構想発表会」では、卒業論文の構想や進捗状況の報告をおこないます。受講生は担当回に向けて各自準備してください。WordやPower Pointで資料を作成し、口頭で発表していただきます。発表後に全員で意見交換します。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。								
フィードバックの内容	作品鑑賞や論文購読、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙やFormに記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業では、全員に少なくとも1回は口頭発表を担当してもらいます。事前にしっかり準備して臨みましょう。また、自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対して積極的に発言しているかどうか評価の対象となります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101201	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2					安中 尚史		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本仏教の歴史的展開を主体的に学ぶための力を養うことをねらいとします。								
到達目標	日本仏教の歴史的展開を研究するために必要な基礎力を身につけることを目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	学術論文や史料（資料）を各自で検索・収集し内容を把握して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授 業 計 画	【第1回】日本仏教史研究の実践（1）								
	【第2回】日本仏教史研究の実践（2）								
	【第3回】日本仏教史研究の実践（3）								
	【第4回】日本仏教史研究の実践（4）および課題の提出（1）								
	【第5回】日本仏教史研究の実践（5）								
	【第6回】日本仏教史研究の実践（6）								
	【第7回】日本仏教史研究の実践（7）								
	【第8回】日本仏教史研究の実践（8）および課題の提出（2）								
	【第9回】日本仏教史研究の実践（9）								
	【第10回】日本仏教史研究の実践（10）								
	【第11回】受講生による研究報告と検討（1）								
	【第12回】受講生による研究報告と検討（2）								
	【第13回】まとめと課題の提出（3）								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	特にありません								
指定図書	授業中に紹介します								
参考書	授業中に紹介します								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101202	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2					寺尾 英智		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。								
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】研究の方法と実践（1） 【第2回】研究の方法と実践（2） 【第3回】研究の方法と実践（3） 【第4回】卒業論文の研究テーマについて（1） 【第5回】卒業論文の研究テーマについて（2） 【第6回】卒業論文の研究テーマについての発表（1） 【第7回】卒業論文の研究テーマについての発表（2） 【第8回】研究の方法と実践（4） 【第9回】研究の方法と実践（5） 【第10回】研究の方法と実践（6） 【第11回】研究の方法と実践（7） 【第12回】研究文献及び史料についての発表（1） 【第13回】研究文献及び史料についての発表（2）								
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）								
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年								
参考書	『日蓮信仰の歴史を語る』寺尾英智（山喜房佛書林）2016年								
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。								
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101203	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2					原 慎定		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	テーマ：法華経信仰のダイナミズムに迫る 法華経はレトリカルな表現と演劇的展開に満ちている。専門用語では伝えきれない法華経のダイナミズムを現代人に「わかる」言葉で伝えるための方法を探る。								
到達目標	法華経を「明鏡」として生きるとはどういうことなのか、自分の言葉で表現できるようになる。 各自が研究テーマを指定し、卒業論文作成に向けた基礎力と発想力を身につけることができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、ほぼ毎回自分の意見を発表することが求められる。 授業外学修として合計60時間以上の予習・復習が必要となる。								
授業計画	【第1回】法華経へのイントロダクション 【第2回】常識をくつがえす法華経 【第3回】法華経のレトリック 【第4回】法華経を託されたのは誰か 【第5回】法華経の世界観を受け入れたら、どんな展望が開けるか 【第6回】成仏とは何か 【第7回】法華経の自家発電的構造 【第8回】研究テーマの指定に向けて（1） 【第9回】研究テーマの指定に向けて（2） 【第10回】研究方法の構築（1） 【第11回】研究方法の構築（2） 【第12回】各自の研究計画 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、課題発表30%、レポート40%								
フィードバックの内容									
教科書	『信じない人のための〈法華経〉講座』中村圭志（文春新書）2008								
指定図書	『日蓮教学における罪の研究』原 慎定（平楽寺書店）1999								
参考書	『超訳 法華経』中村圭志（中央公論新社）2014、『宗教のレトリック』中村圭志（トランスビュー）2012、『宗教で読み解くファンタジーの秘密』中村圭志（トランスビュー）2014								
教員からのお知らせ	ゼミナール1とあわせて履修して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーおよび使用するシステムのチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101204	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2					三輪 是法	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールは日本仏教の思想的側面を研究対象とする。時代を限定せず、日本仏教関連の文献を講読していく。						
到達目標	日本仏教に関する文献を読解するための、補助的作業力（参考資料の調査や専門用語の理解習得など）を身につけ、内容を正しく理解説明できる。論文を執筆するための基本事項を理解し、卒業論文執筆の準備を完成する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	自分自身の課題について、事前学修を2時間以上おこない、発表準備に備える。授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上おこなう。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション～講読文献の選定 【第2回】文献講読の手引き 【第3回】文献講読1 【第4回】文献講読2 【第5回】文献講読3 【第6回】文献講読4 【第7回】文献講読5 【第8回】文献講読6 【第9回】論理的文章表現1 【第10回】論理的文章表現2 【第11回】論理的文章表現3 【第12回】論理的文章表現4 【第13回】まとめレポート作成提出						
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。						
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。						
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。						
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101205	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2					田村 亘禰	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	卒業論文の準備作業。論文のテーマに付随する諸問題の把握。						
到達目標	論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間以上、卒業論文の準備作業に充てること。						
授業計画	【第1回】卒業論文の進め方の確認。 【第2回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第3回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第4回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第5回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第6回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第7回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第8回】参考文献の購読。 【第9回】参考文献の購読。 【第10回】参考文献の購読。 【第11回】参考文献の購読。 【第12回】参考文献の購読。 【第13回】レポート提出。まとめ。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。						
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、その都度、指示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール／卒業論文						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101206	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2					本間 俊文	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。						
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する基本的事項と研究法について説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】史料講読・研究の実践（1） 【第2回】史料講読・研究の実践（2） 【第3回】史料講読・研究の実践（3） 【第4回】史料講読・研究の実践（4） 【第5回】史料講読・研究の実践（5） 【第6回】史料講読・研究の実践（6） 【第7回】史料講読・研究の実践（7） 【第8回】史料講読・研究の実践（8） 【第9回】史料講読・研究の実践（9） 【第10回】史料講読・研究の実践（10） 【第11回】史料講読・研究の実践（11） 【第12回】研究内容に関する発表（1） 【第13回】研究内容に関する発表（2）						
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。						

講義コード	11A2101301	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2					秋田 貴廣	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	現在に残された文化としての作品と、「造形」という視点をとおして対峙する。そして、自らの感触と過去の実事を立体的に交差させながら、その必然性と意味を探る。						
到達目標	4年次に取り組む「卒業制作」のための基礎造形力と技術、そして彫刻様式の把握力を身につける。また、自分のテーマを決定するための基礎資料収集を行いながら、美術に対する知識を獲得し、それを説明できるようになること。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	自分が興味をもった文化について、事前に調査する（30時間以上）。 仏教寺院や博物館・美術館等へ行き、自分の目で作品を鑑賞し、その実感を得る（30時間以上）。						
授業計画	<卒業制作に向けての指導を行う> 【第1回】造形課題に取り組む 【第2回】〃 【第3回】〃 【第4回】〃 【第5回】〃 【第6回】造形研究・技法研究・資料収集 【第7回】〃 【第8回】〃 【第9回】〃 【第10回】〃 【第11回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1 【第12回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2 【第13回】卒業制作（論文）のテーマを決定する						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%・授業内レポート50%						
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。						
教科書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修（丸善プラネット）2012						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	当該ゼミの学生「制作」行為に取り組む都合上、できる限り、ゼミのある日の午前中の予定を空けておくように。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。						
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他	本講義ではテキストは使用しないが、各自の関心のある作品について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい。						

講義コード	11A2101302	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2					高橋 堯英		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成を視野にいれ、必要な指導を行うことを目的とする。								
到達目標	雑誌論文の輪読を通じ、研究論文とは如何なるものかが理解出来る。研究論文を作成する上での注意事項が理解出来る。前期終了時に、自らの卒論について発表する機会を設け、研究発表の基本を身につけることが出来る。段階的指導に従うことによって、卒業論文を完成させるための適切な手法を身につけることが出来る。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文の輪読資料の復習を通じ、研究論文作成についての理解を深めて欲しい。『仏教学科生のためのガイドブック 研究編』を復習してほしい。学期の中間と期末に、卒論についての発表機会を行うので、準備を進めること。各授業に対し2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を各自で行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 研究論文の輪読 【第3回】 研究論文の輪読 【第4回】 研究論文の輪読 【第5回】 各自の研究の中間報告 【第6回】 各自の研究の中間報告 【第7回】 研究論文の輪読 【第8回】 研究論文の輪読 【第9回】 研究論文の輪読 【第10回】 研究論文の輪読 【第11回】 研究論文の輪読 【第12回】 研究の進行状況の報告発表とディスカッション 【第13回】 研究の進行状況の報告発表とディスカッション								
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢（60％）、中間発表と発表レジメ（20％）、学期末発表と発表レジメ（20％）。								
フィードバックの内容	輪読論文についてのディスカッションを授業中に行う。各自のテーマ設定、フレームワーク作成、リーディングリスト作成についての指導も授業中に行う。自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認する。								
教科書	特にもうけず								
指定図書	特にもうけず								
参考書	特にもうけず								
教員からのお知らせ	積極的・主体的取り組みを期待する。卒業論文のテーマ設定等相談があれば、オフィスアワーか、下記のメールアドレスにてメールで対応する。中間報告や学期末報告の発表日に無断欠席した者、発表資料未提出者には単位認定しない。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。メール（takahidetakahashi1955@gmail.com）でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	学期途中と学期末に、各自の積極的能動的な調査による研究成果を報告する発表機会を設け、ディスカッションを通じて、各自の研究の深化を図る。								
実践的な教育内容									
その他の									

講義コード	11A2101303	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2					手島 一真		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。								
到達目標	講読を通じて修得した文献の読解能力や取扱いの方法を踏まえ、各自が収集した文献を適切に活用して発表に活かすことができる。教員との応答の中で設定したテーマ・内容のブレ卒業研究（小論文）を完遂できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	原典資料講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表に関しては、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的にに取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】論文作成のポイント（1） 【第2回】ゼミ生による研究発表と意見交換（1） 【第3回】同（2） 【第4回】同（3） 【第5回】同（4） 【第6回】論文作成のポイント（2） 【第7回】原典資料・論文講読（1） 【第8回】同（2） 【第9回】同（3） 【第10回】ゼミ生による研究発表と意見交換（5） 【第11回】同（6） 【第12回】同（7） 【第13回】総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）								
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表といった課題に対する講評は、提出・発表時に随時行う。								
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年								
指定図書	ゼミ1指定図書を参照								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 演習／ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。								

講義コード	11A2101304	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2					戸田 裕久		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教における修行法に焦点を当て、ヒンドゥー教系のそれと比較対照する。また古今の神秘主義思想とその実践方法に関して多角的に調査研究し考察する。受講生が自ら興味関心・問題意識をもって研究課題を設定し調査・報告する力を養う。								
到達目標	仏教とヒンドゥー教の思想の一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知り自らの研究に役立てることができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握し、各自の見解や疑問点を書き留め、演習での発言や質問に備えること。また、各人が研究課題を設定して自主的に個人研究を推進し、発表に備えること。個人研究の成果を報告書（小論文）の形でまとめておくこと。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】卒業論文中間発表および質疑応答 【第2回】卒業論文中間発表および質疑応答 【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法 【第4回】模範的学術論文の講読 【第5回】模範的学術論文の受講生による輪読 【第6回】個人研究発表（1）討議、学術論文の輪読 【第7回】個人研究発表（2）討議、学術論文の輪読 【第8回】個人研究発表（3）討議、学術論文の輪読 【第9回】個人研究発表（4）討議、仏教文献講読 【第10回】個人研究発表（5）討議、仏教文献講読 【第11回】個人研究発表（6）討議、仏教文献講読 【第12回】指導教員の研究発表・討議 【第13回】卒業論文成果発表・合評会								
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20％）と発表資料（20％）、研究成果報告書（30％）、平常点（30％）。								
フィードバックの内容	研究成果報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。								
教科書	適宜、資料を配布します。								
指定図書									
参考書	『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年、『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年								
教員からのお知らせ	第2期には各人が自ら研究課題を設定して研究した成果を発表する機会が与えられます。また、学友の発表に対する積極的な発言が、平常点として評価の対象となります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。なお受講生各自の研究は学友と分担し共同研究にすると、より楽しくまたより成果が上がるものと期待されます。研究テーマは修行法に限らず各自が自由に設定して構いません。								

講義コード	11A2101305	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2					荻輪 顕量		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教の伝えた瞑想は東アジア世界に伝播し、漢訳されて普及していくが、鳩摩羅什によって翻訳された『坐禅三昧経』は中原に流布した瞑想に関する指南書でもある。このゼミナールでは、東アジア世界でよく使われた本書を講読していく。新国訳大蔵経の現代語訳を参照しながら、その内容を理解することを目指す。								
到達目標	『坐禅三昧経』に表現された仏教の瞑想の内実を自分のことばで説明できるようになる。とくに念処や止観ということばが何を意味するのか、また何が達成されるのか、自分のことばで語れるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学習を60時間以上とする。毎回の授業の終わりに、次の講読の箇所を示すので、それを予習する。								
授 業 計 画	【第1回】 全体のガイダンス 【第2回】 坐禅三昧経の概説 【第3回】 坐禅三昧経の講読 【第4回】 坐禅三昧経の講読 【第5回】 坐禅三昧経の講読 【第6回】 坐禅三昧経の講読 【第7回】 坐禅三昧経の講読 【第8回】 坐禅三昧経の講読 【第9回】 坐禅三昧経の講読 【第10回】 坐禅三昧経の講読 【第11回】 坐禅三昧経の講読 【第12回】 坐禅三昧経の講読 【第13回】 坐禅三昧経の講読								
成績評価の方法	授業への貢献（5割）と期末のレポート（5割）で判断する。								
フィードバックの内容	授業における発表に対して、毎回、コメントを付けるとともに、授業の冒頭で前の回の概要を振り返る。								
教科書									
指定図書									
参考書	『新国訳大蔵経 坐禅三昧経』塩崎孝雄校注（大蔵出版）2006								
教員からのお知らせ	最初は難しく感じるかも知れないが、翻訳を協において内容の理解を重視してゆっくりと進めたいと考えているので、心配せずに受講してほしい。								
オフィスアワー	専任）本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	演習 図書館やインターネットで関連する参考資料を調べる。								
実践的な教育内容	瞑想の指導経験を生かして時折、関連する瞑想を実習する。								
そ の 他	修行に関する資料であるので、ただ単に読むだけではなく、それをどのように理解すれば良いか試行錯誤もあると思うので、ご理解願いたい。								

講義コード	11A2101306	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2					庄司 史生	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、①論文執筆に必要となる資料の扱い方の習得、②各研究テーマの設定とプレゼン発表方法の習得を目的とする。 ①仏教学の論文執筆には欠かすことができない資料の扱い方に慣れるために、特定の一次資料、二次資料を取り上げ、その読解を行う。 ②研究テーマの設定から論文の書き方、論文の添削、ゼミ生による口頭発表を行い、その中で、論文執筆に関わる基礎的な知識の習得も目指す。						
到達目標	①学術論文を執筆するにあたっての基礎的なスキルを身につける。 ②学術情報に基づくプレゼン方法のスキルを身につける。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義の受講にあたっては、予習と復習を重ね事前・事後に不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】論文作成の方法と資料の扱い方① 【第3回】〃〃〃〃〃〃② 【第4回】〃〃〃〃〃〃③ 【第5回】〃〃〃〃〃〃④ 【第6回】〃〃〃〃〃〃⑤ 【第7回】〃〃〃〃〃〃⑥ 【第8回】〃〃〃〃〃〃⑦ 【第9回】〃〃〃〃〃〃⑧ 【第10回】〃〃〃〃〃〃⑨ 【第11回】〃〃〃〃〃〃⑩ 【第12回】〃〃〃〃〃〃⑪ 【第13回】まとめ ※以上の中で研究発表を行います。						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋課題提出30%）と口頭発表40%により成績を評価する。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考文献は、必要に応じて授業内に紹介します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101307	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2					久保 真紀子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築に関する研究論文等の講読を通して、制作当時の歴史的背景や地域的・時代的特性を考察するとともに、論文執筆の基礎を学ぶ。						
到達目標	客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料の収集・整理や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法や論文執筆の基本を身につける。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集と精読、博物館や美術館の見学等も可能な限り行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。						
授業計画	【第1回】論文中間報告会（1） 【第2回】論文中間報告会（2） 【第3回】論文中間報告会（3） 【第4回】論文中間報告会（4） 【第5回】論文中間報告会（5） 【第6回】論文中間報告会（6） 【第7回】論文構想発表会（1） 【第8回】論文構想発表会（2） 【第9回】論文構想発表会（3） 【第10回】論文構想発表会（4） 【第11回】論文構想発表会（5） 【第12回】卒業論文発表会（1） 【第13回】卒業論文発表会（2）						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。						
フィードバックの内容	文献講読や作品鑑賞、論文構想発表会、ならびに論文中間発表会では、各受講生に所定の用紙やFormに記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この授業では受講生全員に口頭発表の機会を設けている。その際には、他の受講生も積極的にコメントや質問を行って、お互いの研究の進展につなげてほしい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101401	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					安中 尚史	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	日本仏教の展開について、深く理解することをねらいとします。						
到達目標	受講生各自が設定したテーマに基づいた研究を行い、中間報告書の完成を目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各自が収集した学術論文や史料（資料）をもとに考察し、その結果を踏まえて論究して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】日本仏教研究に関する考察と論究（1） 【第3回】日本仏教研究に関する考察と論究（2） 【第4回】日本仏教研究に関する考察と論究（3） 【第5回】日本仏教研究に関する考察と論究（4） 【第6回】日本仏教研究に関する考察と論究（5）および課題の提出（1） 【第7回】日本仏教研究に関する考察と論究（6） 【第8回】日本仏教研究に関する考察と論究（7） 【第9回】受講生による中間報告と検討（1） 【第10回】受講生による中間報告と検討（2）および課題の提出（2） 【第11回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第12回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第13回】まとめと課題の提出（3）						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（中間報告書等）50%で評価します。						
フィードバックの内容							
教科書	特にありません						
指定図書	授業中に紹介します						
参考書	授業中に紹介します						
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101402	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					寺尾 英智	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけ、実践することを目的とする。						
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明し、実践することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】「研究」と「論文」について 【第2回】研究文献及び史料について 【第3回】研究文献及び史料の収集と検討（1） 【第4回】研究文献及び史料の収集と検討（2） 【第5回】研究文献及び史料の収集と検討（3） 【第6回】研究内容についての発表（1） 【第7回】研究内容についての発表（2） 【第8回】研究の方法と実践（1） 【第9回】研究の方法と実践（2） 【第10回】研究の方法と実践（3） 【第11回】研究の方法と実践（4） 【第12回】研究内容についての発表（3） 【第13回】研究内容についての発表（4）						
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価する。						
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）						
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年						
参考書	『日蓮信仰の歴史を探る』寺尾英智（山喜房佛書林）2016年						
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。						
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101403	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール3					原 慎定		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	テーマ：人生における苦難の意義を考える オーストリアの精神医学者ビクトール・フランクルはナチスの強制収容所での過酷な体験を記した『夜と霧』の中で「人間が生きていることには、常にどんな状況でも、意味がある」と語った。日蓮聖人は度重なる法難・迫害を克服して法華経の価値を実証されたが、その内実にも「苦難」の意義が存すると思われる。かかる視座から「宗学」の根本的課題に迫りたい。								
到達目標	各自の人生観を振り返り、自己を相対化できるようになる。「宗学」とは、決して閉鎖的で独善的な学問ではない。普遍的な価値観を身につけることによって、現代社会の人々に対する説得力をもちうるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、自分自身の問題意識をもつことが求められる。また関連する情報や資料を収集し、レポートする能力の育成を図る。授業外学修として合計60時間以上の予習・復習が必要となる。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション 【第2回】自分の中の歴史 【第3回】ビクトール・フランクルと強制収容所について 【第4回】幸福のパラドックス 【第5回】悩み苦しむことの意味 【第6回】愛する人への思い 【第7回】どんなときも人生には意味がある 【第8回】変えられない運命に対してどのような態度をとるか 【第9回】人生からの問いかけに応える生き方への転換 【第10回】「法華経の行者」という生き方 【第11回】仏の「未来記」と法難にあうことの意義 【第12回】敵こそわが師なり 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、課題発表30%、レポート40%								
フィードバックの内容									
教科書	『ビクトール・フランクル 絶望の果てに光がある』諸富祥彦（KK ベストセラーズ）2013								
指定図書	『夜と霧 新版』ヴィクトール・E・フランクル著・池田香代子訳（みすず書房）2002、『NHK 100分 de 名著 フランクル 夜と霧 絶望の果てに光がある』諸富祥彦（NHK 出版）2013								
参考書	『自分の中に歴史を読む』阿部謹也（ちくまプリマーブックス）1988、『人生に意味はあるか』諸富祥彦（講談社現代新書）2005								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワー、および使用するシステムのチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101404	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール3					三輪 是法		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールは日蓮仏教を含めた日本仏教を研究対象とする。自ら設定した研究テーマを、複眼的に研究考察する。								
到達目標	発表、レポート作成のための補助的作業力（資料の調査や読解、文章作成など）を身につけ、理解認識した内容を正確にプレゼンテーションできる。卒業論文を執筆する準備を整え、実際に研究論文を執筆することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	設定した研究テーマに関して事前学修を2時間以上、事後学修も2時間以上おこない、発表準備に備える。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～研究テーマの検討・設定・論文の書き方1								
	【第2回】研究テーマの検討・設定・論文の書き方2								
	【第3回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆1								
	【第4回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆2								
	【第5回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆3								
	【第6回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆4								
	【第7回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆5								
	【第8回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆6								
	【第9回】合同発表会準備①								
	【第10回】合同発表会準備②								
	【第11回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①								
	【第12回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会②								
	【第13回】まとめ								
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。								
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	仏教は知識ではありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。								
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習／ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101405	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					田村 亘綱	第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	卒業論文の作成。卒業論文のテーマに付随する諸問題の把握。						
到達目標	卒業論文の前半を形にする。卒業論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間以上、卒業論文の準備作業・作成作業に充てること。						
授業計画	【第1回】自己紹介・卒論テーマ発表・卒論の展望を発表。質疑応答。キーワードを伝達。 【第2回】辞典等を用いてキーワードを発表・解説。質疑応答。 【第3回】辞典等を用いてキーワードを発表・解説。質疑応答。 【第4回】ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第5回】資料の取り扱い方の説明。 【第6回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第7回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第8回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第9回】目次の作成方法の説明。→目次作成・添削。 【第10回】1章を作成・発表。質疑応答。 【第11回】1章を作成・発表。質疑応答。 【第12回】1章を作成・発表。質疑応答。 【第13回】レポート提出（卒業論文の一部）。まとめ。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。						
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、その都度、紹介します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール／卒業論文						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101406	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					本間 俊文	第1期
履修前提条件				備考			
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での研究法を身につけて実践することを目的とする。						
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する研究法を実践することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 研究の実践（1） 【第2回】 研究の実践（2） 【第3回】 研究の実践（3） 【第4回】 研究の実践（4） 【第5回】 研究の実践（5） 【第6回】 研究の実践（6） 【第7回】 研究の実践（7） 【第8回】 研究の実践（8） 【第9回】 研究の実践（9） 【第10回】 研究の実践（10） 【第11回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第12回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会② 【第13回】 研究の実践（11）						
成績評価の方法	発表（30％）、授業への取り組み姿勢（70％）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。						

講義コード	11A2101501	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール3					秋田 貴廣		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	「制作」を希望する学生は、現在に残された作品と「造形」という視点をとおして対峙し、自分自身の感触と過去の事実を立体的に交差させる。また、各作品の造形様式についてそこに至る展開と変遷を辿り、あるいは日本の美術作品を確認し、その必然性と意味を深める。								
到達目標	自分の「制作」におけるテーマを決定するための基礎資料収集、テーマの決定、制作材料の決定、その後ようやく制作作業に入り、対象に近づくことができる。あるいは、過去の学術成果を確認する中で自分自身の問題意識を培い、それを自らの考察に反映させることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義ではテキストは使用しない。それぞれのテーマに関連する関心のある作品や文化現象について、事前に調査することが望ましい（15時間）。 自分が興味をもった文化や作品について実際に観ることを心がける。そして随時レポートとして提出する（15時間）。 自分の制作、あるいは資料の検証と執筆作業（30時間）。								
授業計画	<年間を通して卒業論文（制作）に向けての制作指導を行う> 【第1回】制作に取り組みながら、自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討1 【第2回】制作に取り組みながら、自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討2 【第3回】制作に取り組みながら、自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討3 【第4回】制作に取り組みながら、テーマの検討と応用1 【第5回】制作に取り組みながら、テーマの検討と応用2 【第6回】制作に取り組みながら、テーマの検討と応用3 【第7回】制作に取り組みながら、テーマの検討と応用4 【第8回】制作に取り組みながら、テーマの検討と応用5 【第9回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1 【第10回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2 【第11回】制作に取り組みながら、自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る1 【第12回】制作に取り組みながら、自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る2 【第13回】制作に取り組みながら、自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る3								
成績評価の方法	論文ならびに制作に対する姿勢50％・授業内レポート50％								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内の冒頭で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	4年時は就職活動等で時間をとられてしまうことが多いので、早めに進行させるためにも毎回出席すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	立体資料を適宜用いて、学生自身の目と手で文化を実感する機会を設ける。制作行為によって直接的に造形と対話する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101502	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール3					高橋 堯英		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成のための基礎的なスキルを学ぶことを目的とする。								
到達目標	各ゼミ生は、当ゼミ終了時まで各自の研究の方向性を決定することが出来る。インド仏教文化関連の研究資料・研究論文の輪読などを通じ、史料の取り扱い方、調べ方が理解出来る。前期終了時のゼミ合宿またはゼミ発表会で、各自が決定したテーマについて報告が出来るようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	インド仏教文化関連の研究資料・研究論文の輪読で利用した資料をよく復習し、注の処理、史料の取り扱い方、調べ方を自らが主体的に理解するように。前期終了時のゼミ発表会で、各自が決定したテーマについて報告してもらうが、それに向かって毎回2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を求める。								
授業計画	【第1回】論文とは？レポートとは？ 【第2回】研究論文の構造の理解 【第3回】リーディング・リストの作成 【第4回】研究論文の輪読 【第5回】研究資料・論文の輪読 【第6回】自らの研究エリア又はテーマについての発表 【第7回】自らの研究エリア又はテーマについての発表 【第8回】研究資料・論文の輪読 【第9回】研究資料・論文の輪読 【第10回】研究資料・論文の輪読 【第11回】研究資料・論文の輪読 【第12回】自らの研究テーマについての発表とディスカッション 【第13回】自らの研究テーマについての発表とディスカッション								
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢（60％）、学期内中間発表（20％）、学期末発表（20％）。中間発表・学期末発表の評価には発表に用いるレジメの評価も含まれます。								
フィードバックの内容	自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認する。輪読した論文の内容を知識として習得するために、学期末にレポートにて確認する機会を設ける。								
教科書	特にもうけず								
指定図書	特にもうけず								
参考書	特にもうけず								
教員からのお知らせ	輪読する資料は共有ストレージ内の高橋堯英のストレージにアップする予定ですので、事前に用意し、毎回必ず予習をしてゼミに参加して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、メール（takahidetakahashi1955@gmail.com）で対応します。								
アクティブラーニングの内容	学期途中と学期末に発表機会を設け、各自の調査成果を報告し、ディスカッションによって各自のテーマの掘り下げを進めます。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101503	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					手島 一真	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならぬのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。						
到達目標	各自が学的関心をもった分野における先行研究文献を収集できること。先行研究の参照閲読を通して適切な研究課題を抽出できる。その課題に関して客観的合理的論証に至るための筋道を構想できる。その要点を捉えて口頭発表（プレゼンテーション）としてまとめることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	論文講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、原典資料からの引用文など、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表の際は、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】実証的研究のための方法論総説 【第2回】研究の土台となる基本文献に関する論文講読（1） 【第3回】同（2） 【第4回】同（3） 【第5回】ゼミ生による研究発表と意見交換（1） 【第6回】同（2） 【第7回】同（3） 【第8回】宗教文化史に関する論文・原典資料講読（1） 【第9回】同（2） 【第10回】ゼミ生による研究発表と意見交換（4） 【第11回】同（5） 【第12回】同（6） 【第13回】総括						
成績評価の方法	授業への取組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）						
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表、小論文に対する講評は、授業時に随時行う。						
教科書	『漢籍はもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年						
指定図書	ゼミ1指定図書を参照						
参考書	授業内で指示します						
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。						

講義コード	11A2101504	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					戸田 裕久	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教における修行法に焦点を当て、ヒンドゥー教系のそれと比較対照する。また古今の神秘主義思想とその実践方法に関して多角的に調査研究し考察する。受講生が自ら興味関心・問題意識をもって研究課題を設定し調査・報告する力を養う。						
到達目標	仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知り自らの研究に役立てることができる。各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文を作成することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握した上で、各自の見解や疑問点を書き留めておき、演習における発言や質問に備えること。また、各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文作成の準備を進めること。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。						
授業計画	【第1回】神秘主義とは何か 【第2回】世界の諸宗教における神秘主義 【第3回】ヒンドゥー教系ヨーガの概要 【第4回】古典ヨーガ（八支ヨーガ） 【第5回】ハタヨーガ 【第6回】仏教における種々の「行」 【第7回】初期仏教・アビダルマ仏教における「戒」 【第8回】初期仏教・アビダルマ仏教における「定」 【第9回】初期仏教・アビダルマ仏教における「慧」 【第10回】大乘仏教における「行」概観 【第11回】禅経類に見られる修道理論 【第12回】法華三部経に見られる「行」 【第13回】密教における「行」						
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20%）と発表資料（20%）、研究成果報告書（30%）、平常点（30%）。						
フィードバックの内容	研究成果報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。						
教科書	適宜、資料を配布します。						
指定図書							
参考書	『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年、『神秘主義』アンリ・セルューヤ著、深谷哲訳（白水社）1975年、『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年						
教員からのお知らせ	第1期は講義形式で授業を進めますが、その間に4年次の受講生は各自、卒業論文作成に向けて研究を推進してください。第2期からは本格的に論文執筆に取り組み、随時、個人指導を受けていただきます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション、卒業論文						
実践的な教育内容							
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。4年生は各自の卒業論文の完成に向けて研究に精励してください。卒業論文のテーマは各自が自由に設定して構いません。						

講義コード	11A2101505	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					養輪 顕量	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教の伝えた修行実践には様々なものが存在するが、その基本は念処（注意を向けて十分に気づくこと）にあると考えられる。そこから止と観に分かれたと推定されるが、修行に関する資料を、翻訳を用いながら輪読し、修行の中身を理解することを目指す。まずはパーリ語の『念処経』を翻訳で読み、その内容について考察し、仏教の伝えた修行の原点を探る。						
到達目標	仏教の瞑想の基本が何であったのか、またそれが何を指すものであったのか、何が可能されるのか、深く理解できるようになる。さらには日本の仏教にまで、その中身が伝わっていることが理解できるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学習時間は60時間以上とする。テキストの講読に際して、事前の予習を中心に行う。予習の内容については、授業の終わりに、次回のための準備を、その都度、指示する。						
授業計画	【第1回】全体のガイダンス 【第2回】念処経のガイダンス 【第3回】念処経の輪読 【第4回】念処経の輪読 【第5回】念処経の輪読 【第6回】念処経の輪読 【第7回】念処経の輪読 【第8回】念処経の輪読 【第9回】念処経の輪読 【第10回】念処経の輪読 【第11回】念処経の輪読 【第12回】念処経の輪読 【第13回】念処経の輪読						
成績評価の方法	授業への貢献（5割）、期末のレポート（5割）で評価する						
フィードバックの内容	課題に対する講評を翌週授業時間内冒頭で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『パーリ仏典にブッダの禅定を学ぶ：『大念処経』を読む』片山一良（大法輪閣）2012						
教員からのお知らせ	耳学問は大切です。欠席しないようにしましょう。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。						
アクティブラーニングの内容	演習 図書館やインターネットで瞑想に資料を調べることを課す。						
実践的な教育内容	瞑想指導の経験を生かして時折、簡単な実習も行う。						
その他	修行という実践的な内容を演習で扱うのは初めてなので、試行錯誤もあると思いますので、ご了解願いたい。						

講義コード	11A2101506	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					庄司 史生	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、文献読解と研究発表を通して、自己表現のひとつとしての学術論文（卒業論文）作成のための方法論の修得を目指す。さらには各研究課題への取り組みを通して、私たちが生きていく上で接せざるを得ないさまざまな事象とその背後にある思想や文化にふれ、そこから受講者各自が、未知の世界に自らの足で一歩を踏み出す力を、多少なりとも養うことを目的とする。						
到達目標	自ら問いを立てそれに答える力、またそれを他者に伝える力を身につけることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	このゼミナールの受講にあたっては、予習と復習を重ね、事前・事後に不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】論文作成の方法と資料の扱い方① 【第3回】〃〃〃〃〃〃② 【第4回】〃〃〃〃〃〃③ 【第5回】〃〃〃〃〃〃④ 【第6回】〃〃〃〃〃〃⑤ 【第7回】〃〃〃〃〃〃⑥ 【第8回】〃〃〃〃〃〃⑦ 【第9回】〃〃〃〃〃〃⑧ 【第10回】〃〃〃〃〃〃⑨ 【第11回】〃〃〃〃〃〃⑩ 【第12回】〃〃〃〃〃〃⑪ 【第13回】まとめ ※以上の中で研究発表を行います。						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋課題提出30%）と口頭発表40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考文献は、必要に応じて授業内に紹介します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101507	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3					久保 真紀子	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築等の造形表現やその成立背景を学ぶことに主眼を置き、画像や文献といった諸資料を丹念に読み解きながら研究を進める手法を身に付けることを目指す。						
到達目標	画像資料をよく観察してその特徴を描写したり、文献史料から読み取れたことを丁寧に伝える経験を積むことで、客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料を収集・整理する方法や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法を身につける。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集と精読、あるいは博物館や美術館の見学等、進んで授業外学修を行うこと。その時間として、合計60時間以上行なってほしい。						
授業計画	【第1回】参考文献リストの紹介・検索練習 【第2回】作品鑑賞会と意見交換 (グループワーク＋全体発表会) 【第3回】論文構想発表会 (1) 【第4回】論文構想発表会 (2) 【第5回】論文構想発表会 (3) 【第6回】論文構想発表会 (4) 【第7回】論文構想発表会 (5) 【第8回】論文講読会と意見交換 【第9回】論文構想発表会 (6) 【第10回】論文構想発表会 (7) 【第11回】論文構想発表会 (8) 【第12回】論文構想発表会 (9) 【第13回】総括 ※1「作品鑑賞と意見交換」(第2回)では、授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深めます。 ※2「論文講読会と意見交換」(第8回)では、あらかじめ講師が指定した文献を全員で講読し、意見交換を行います。 ※3「論文構想発表会」では、卒業論文の構想や進捗状況の報告をおこないます。受講生は担当回に向けて各自準備してください。Word や Power Point で資料を作成し、口頭で発表していただきます。発表後に全員で意見交換します。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。						
フィードバックの内容	作品鑑賞や論文講読、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙や Form に記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この授業では、全員に少なくとも1回は口頭発表を担当してもらいます。事前にしっかり準備して臨みましょう。また、自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対して積極的に発言しているかどうか評価の対象となります。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101601	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					安中 尚史	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	日本仏教の展開について、深く理解することをねらいとします。						
到達目標	受講生各自が設定したテーマに基づいた研究を行い、最終報告書の完成を目標とします。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	各自が収集した学術論文や史料(資料)をもとに考察し、その結果を踏まえて論究して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行なって下さい。						
授業計画	【第1回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (1) 【第2回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (2) 【第3回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (3) 【第4回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (4) 【第5回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (5) および課題提出 【第6回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (6) 【第7回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (7) 【第8回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (8) 【第9回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (9) および課題提出 【第10回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (10) 【第11回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (11) 【第12回】日本仏教史研究に関する考察と論究 (12) 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題(最終報告書等)50%で評価します。						
フィードバックの内容							
教科書	特にありません						
指定図書	授業中に紹介します						
参考書	授業中に紹介します						
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101602	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール4					寺尾 英智		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけ実践することを目的とする。								
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明し実践することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】研究の方法と実践（1） 【第2回】研究の方法と実践（2） 【第3回】研究の方法と実践（3） 【第4回】研究実践についての発表（1） 【第5回】研究実践についての発表（2） 【第6回】研究の方法と実践（4） 【第7回】研究の方法と実践（5） 【第8回】研究の方法と実践（6） 【第9回】研究の方法と実践（7） 【第10回】研究の方法と実践（8） 【第11回】研究の方法と実践（9） 【第12回】研究実践についての発表（3） 【第13回】研究実践についての発表（4）								
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）								
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年								
参考書	『日蓮信仰の歴史を語る』寺尾英智（山喜房佛書林）2016年								
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。								
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101603	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール4					原 慎定		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	テーマ：法華経信仰のダイナミズムに迫る 法華経はレトリカルな表現と演劇的展開に満ちている。専門用語では伝えきれない法華経のダイナミズムを現代人に「わかる」言葉で伝えるための方法を探る。								
到達目標	法華経を「明鏡」として生きるとはどういうことなのか、自分の言葉で表現できるようになる。 各自が研究テーマを指定し、卒業論文作成に向けた基礎力と発想力を身につけることができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、ほぼ毎回自分の意見を発表することが求められる。 授業外学修として合計60時間以上の予習・復習が必要となる。								
授業計画	【第1回】法華経へのイントロダクション 【第2回】常識をくつがえす法華経 【第3回】法華経のレトリック 【第4回】法華経を託されたのは誰か 【第5回】法華経の世界観を受け入れたら、どんな展望が開けるか 【第6回】成仏とは何か 【第7回】法華経の自家発電的構造 【第8回】研究テーマの指定に向けて（1） 【第9回】研究テーマの指定に向けて（2） 【第10回】研究方法の構築（1） 【第11回】研究方法の構築（2） 【第12回】各自の研究計画 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、課題発表30%、レポート40%								
フィードバックの内容									
教科書	『信じない人のための〈法華経〉講座』中村圭志（文春新書）2008								
指定図書	『日蓮教学における罪の研究』原 慎定（平楽寺書店）1999								
参考書	『超訳 法華経』中村圭志（中央公論新社）2014、『宗教のレトリック』中村圭志（トランスビュー）2012、『宗教で読み解くファンタジーの秘密』中村圭志（トランスビュー）2014								
教員からのお知らせ	ゼミナール3とあわせて履修して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワー、および使用するシステムのチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101604	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					三輪 是法	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールは日蓮仏教を含めた日本仏教を研究対象とする。自ら設定した研究テーマを、複眼的に研究考察する。						
到達目標	発表、レポート作成のための補助的作業力（資料の調査や読解、文章作成など）を身につけ、理解認識した内容を正確にプレゼンテーションできる。日蓮教学を含めた仏教思想を現代社会に応用できる。論文を執筆するための論理的考察力を身につけ、2万文字以上の論文を執筆できる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	設定した研究テーマに関して事前学修を2時間以上、事後学修も2時間以上おこない、発表準備に備える。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。						
授業計画	【第1回】オリエンテーション～研究テーマの検討・設定 【第2回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆1 【第3回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆2 【第4回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆3 【第5回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆4 【第6回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆5 【第7回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆6 【第8回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆7 【第9回】研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆8 【第10回】研究テーマに関する論文作成1 【第11回】研究テーマに関する論文作成2 【第12回】研究テーマに関する論文作成3 【第13回】まとめレポート作成提出						
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。						
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。						
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。						
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101605	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					田村 亘禰	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	卒業論文の作成。卒業論文のテーマに付随する諸問題の把握。						
到達目標	卒業論文を完成させる。卒業論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間、卒業論文の準備作業に充てること。						
授業計画	【第1回】卒業論文の進め方の確認。ゼミナール（三）の伝達ポイントの再確認。 【第2回】テーマに相応する講義。 【第3回】テーマに相応する講義。 【第4回】1章を作成・発表。質疑応答。 【第5回】1章を作成・発表。質疑応答。 【第6回】1章を作成・発表。質疑応答。 【第7回】テーマに相応する講義。 【第8回】テーマに相応する講義。 【第9回】2章を作成・発表。質疑応答。 【第10回】2章を作成・発表。質疑応答。 【第11回】2章を作成・発表。質疑応答。 【第12回】2章を作成・発表。質疑応答。 【第13回】まとめ。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。						
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、適宜、授業中に提示する。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール／卒業論文						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101606	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					本間 俊文	第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での研究法を身につけて実践することを目的とする。						
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する研究法を実践することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 研究の実践（1） 【第2回】 研究の実践（2） 【第3回】 研究の実践（3） 【第4回】 研究の実践（4） 【第5回】 研究の実践（5） 【第6回】 研究の実践（6） 【第7回】 研究の実践（7） 【第8回】 研究の実践（8） 【第9回】 研究の実践（9） 【第10回】 研究の実践（10） 【第11回】 研究の実践（11） 【第12回】 受講生による最終報告（1） 【第13回】 受講生による最終報告（2）						
成績評価の方法	発表（30％）、授業への取り組み姿勢（70％）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。						

講義コード	11A2101701	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール4					秋田 貴廣		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	「制作」を希望する学生は、現在に残された作品と、造形行為をととして対峙し、自分自身の感触と過去の事実を立体的に交差させる。さらに、各作品の造形様式の展開と変遷を辿りながらその必然性と意味を探る。								
到達目標	「制作」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集、テーマの決定、制作材料の決定、その後制作作業に入り、対象に近づくことができる。また、過去の学術成果を確認する中で自分自身の問題意識を培い、それを自らの造形行為や考察に反映させることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義ではテキストは使用しない。それぞれのテーマに関連する関心のある作品について、事前に調査することが望ましい（15時間）。 自分が興味をもった文化や作品について、実際に観る。そして随時レポートとして提出する（15時間）。 自分の制作活動あるいは論文資料の検証と執筆作業（30時間）。								
授業計画	<年間を通して卒業論文（制作）に向けての制作指導を行う> 【第1回】 造形研究・技法研究・制作指導 / 論文執筆指導 【第2回】 〃 / 〃 【第3回】 〃 / 〃 【第4回】 〃 / 〃 【第5回】 〃 / 〃 【第6回】 〃 / 〃 【第7回】 〃 / 〃 【第8回】 〃 / 〃 【第9回】 〃 / 〃 【第10回】 〃 / 〃 【第11回】 台座設計・制作 / 論文執筆指導 【第12回】 〃 / 〃 【第13回】 作品解説パネルの作成 / 〃								
成績評価の方法	論文ならびに制作に対する姿勢50％・授業内レポート50％								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	4年時は就職活動等で時間をとられてしまうことが多いので、早めに進行させるためにも毎回出席すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	立体資料を適宜用いて、学生自身の目と手で文化を実感する機会を設ける。演習／ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101702	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					高橋 堯英	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成を視野にいれ、必要な指導を行うことを目的とする。						
到達目標	雑誌論文の輪読を通じ、研究論文とは如何なるものかが理解出来る。研究論文を作成する上での注意事項が理解出来る。前期終了時に、自らの卒論について発表する機会を設け、研究発表の基本を身につけることが出来る。段階的指導に従うことによって、卒業論文を完成させるための適切な手法を身につけることが出来る。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文の輪読資料の復習を通じ、研究論文作成についての理解を深めて欲しい。『仏教学科生のためのガイドブック 研究編』を復習してほしい。学期の中間と期末に、卒論についての発表機会を行うので、準備を進めること。各授業に対し2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を各自で行うこと。						
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】研究論文の輪読 【第3回】研究論文の輪読 【第4回】研究論文の輪読 【第5回】各自の研究の中間報告 【第6回】各自の研究の中間報告 【第7回】研究論文の輪読 【第8回】研究論文の輪読 【第9回】研究論文の輪読 【第10回】研究論文の輪読 【第11回】研究論文の輪読 【第12回】研究の進行状況の報告発表とディスカッション 【第13回】研究の進行状況の報告発表とディスカッション						
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢（60%）、中間発表と発表レジメ（20%）、学期末発表と発表レジメ（20%）。						
フィードバックの内容	輪読論文についてのディスカッションを授業中に行う。各自のテーマ設定、フレームワーク作成、リーディングリスト作成についての指導も授業中に行う。自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認する。						
教科書	特にもうけず						
指定図書	特にもうけず						
参考書	特にもうけず						
教員からのお知らせ	積極的・主体的取り組みを期待する。卒業論文のテーマ設定等相談があれば、オフィスアワーか、下記のメールアドレスにてメールで対応する。中間報告や学期末報告の発表日に無断欠席した者、発表資料未提出者には単位認定しない。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。メール（takahidetakahashi1955@gmail.com）でも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	学期途中と学期末に、各自の積極的な能動的な調査による研究成果を報告する発表機会を設け、ディスカッションを通じて、各自の研究の深化を図る。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101703	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					手島 一真	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。						
到達目標	各自の研究課題に関し、先行研究の成果や原典資料を適切に用いて、客観的合理的論証を導き出せる。その要点を捉えて口頭発表（プレゼンテーション）としてまとめることができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	原典資料講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表に関しては、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】論文作成のポイント（1） 【第2回】ゼミ生による研究発表と意見交換（1） 【第3回】同（2） 【第4回】同（3） 【第5回】同（4） 【第6回】論文作成のポイント（2） 【第7回】原典資料・論文講読（1） 【第8回】同（2） 【第9回】同（3） 【第10回】ゼミ生による研究発表と意見交換（5） 【第11回】同（6） 【第12回】同（7） 【第13回】総括						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢45%、研究文献目録・研究計画書作成15%、研究発表40%（研究発表必須）						
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表といった課題に対する講評は、提出・発表時に随時行う。						
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年						
指定図書	ゼミ1指定図書を参照						
参考書							
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナールなど						
実践的な教育内容							
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。						

講義コード	11A2101704	授業形態	演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	ゼミナール4					戸田 裕久		第2期	
履修前提条件						備 考			
授 業 の 目 的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教における修行法に焦点を当て、ヒンドゥー教系のそれと比較対照する。また古今の神秘主義思想とその実践方法に関して多角的に調査研究し考察する。受講生が自ら興味関心・問題意識をもって研究課題を設定し調査・報告する力を養う。								
到 達 目 標	仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知り自らの研究に役立てることができる。各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文を作成することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握した上で、各自の見解や疑問点を書き留めておき、演習における発言や質問に備えること。また、各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文作成の準備を進めること。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。								
授 業 計 画	【第1回】卒業論文中間発表および質疑応答 【第2回】卒業論文中間発表および質疑応答 【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法 【第4回】模範的学術論文の講読 【第5回】模範的学術論文の受講生による輪読 【第6回】個人研究発表（1）討議、学術論文の輪読 【第7回】個人研究発表（2）討議、学術論文の輪読 【第8回】個人研究発表（3）討議、学術論文の輪読 【第9回】個人研究発表（4）討議、仏教文献講読 【第10回】個人研究発表（5）討議、仏教文献講読 【第11回】個人研究発表（6）討議、仏教文献講読 【第12回】指導教員の研究発表・討議 【第13回】卒業論文成果発表・合評会								
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20％）と発表資料（20％）、研究成果報告書（30％）、平常点（30％）。								
フィードバックの内容	研究成果報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。								
教 科 書	適宜、資料を配布します。								
指 定 図 書									
参 考 書	『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年、『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年								
教員からのお知らせ	4年次受講生は各自、卒業論文作成に向けて研究を推進してください。第2期からは本格的に論文執筆に取り組み、随時、個人指導を受けていただきます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション、卒業論文								
実践的な教育内容									
そ の 他	必ず出席すること。遅刻しないこと。就職活動等でやむを得ず欠席する場合には事前または事後に報告すること。4年生は各自の卒業論文の完成に向けて研究に精励してください。								

講義コード	11A2101705	授業形態	演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	ゼミナール4					荻輪 顕量		第2期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	仏教の伝えた瞑想は東アジア世界に伝播し、漢訳されて普及していくが、鳩摩羅什によって翻訳された『坐禅三昧経』は中原に流布した瞑想に関する指南書でもある。このゼミナールでは、東アジア世界でよく使われた本書を講読していく。新国訳大蔵経の現代語訳を参照しながら、その内容を理解することを目指す。								
到 達 目 標	『坐禅三昧経』に表現された仏教の瞑想の内実を自分のことばで説明できるようになる。とくに念処や止観ということばが何を意味するのか、また何が達成されるのか、自分のことばで語れるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学習を60時間以上とする。毎回の授業の終わりに、次の講読の箇所を示すので、それを予習する。								
授 業 計 画	【第1回】 全体のガイダンス				【第8回】 坐禅三昧経の講読				
	【第2回】 坐禅三昧経の概説				【第9回】 坐禅三昧経の講読				
	【第3回】 坐禅三昧経の講読				【第10回】 坐禅三昧経の講読				
	【第4回】 坐禅三昧経の講読				【第11回】 坐禅三昧経の講読				
	【第5回】 坐禅三昧経の講読				【第12回】 坐禅三昧経の講読				
	【第6回】 坐禅三昧経の講読				【第13回】 坐禅三昧経の講読				
	【第7回】 坐禅三昧経の講読								
成績評価の方法	授業への貢献（5割）と期末のレポート（5割）で判断する。								
フィードバックの内容	授業における発表に対して、毎回、コメントを付けるとともに、授業の冒頭で前の回の概要を振り返る。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書	『新国訳大蔵経 坐禅三昧経』塩崎孝雄校注（大蔵出版）2006								
教員からのお知らせ	最初は難しく感じるかも知れないが、翻訳を脇において内容の理解を重視してゆっくりと進めたいと考えているので、心配せずに受講してほしい。								
オフィスアワー	専任）本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
	非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	演習 図書館やインターネットで関連する参考資料を調べる。								
実践的な教育内容	瞑想の指導経験を生かして時折、関連する瞑想を実習する。								
そ の 他	修行に関する資料であるので、ただ単に読むだけではなく、それをどのように理解すれば良いか試行錯誤もあると思うので、ご了解願いたい。								

講義コード	11A2101706	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					庄司 史生	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、文献読解と研究発表を通して、自己表現のひとつとしての学術論文（卒業論文）作成のための方法論の習得を目指す。 さらには各研究課題への取り組みを通して、私たちが生きていく上で接せざるを得ないさまざまな事象とその背後にある思想や文化にふれ、そこから受講者各自が、未知の世界に自らの足で一歩を踏み出す力を、多少なりとも養うことを目的とします。						
到達目標	自ら問いを立てそれに答える力、またそれを他者に伝える力を身につけることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本ゼミナールの受講にあたっては、予習と復習を重ね事前・事後に不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】論文作成の方法と資料の扱い方① 【第3回】〃 ② 【第4回】〃 ③ 【第5回】〃 ④ 【第6回】〃 ⑤ 【第7回】〃 ⑥ 【第8回】〃 ⑦ 【第9回】〃 ⑧ 【第10回】〃 ⑨ 【第11回】〃 ⑩ 【第12回】〃 ⑪ 【第13回】まとめ ※以上の中で研究発表を行います。						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋課題提出30%）と口頭発表40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考文献は、必要に応じて授業内に紹介します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101707	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4					久保 真紀子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築に関する研究論文等の講読を通して、制作当時の歴史的背景や地域的・時代的特性を考察するとともに、論文執筆の基礎を学ぶ。						
到達目標	客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料の収集・整理や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法や論文執筆の基本を身につける。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集や精読、博物館や美術館の見学等も可能な限り行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。						
授業計画	【第1回】論文中間報告会（1） 【第2回】論文中間報告会（2） 【第3回】論文中間報告会（3） 【第4回】論文中間報告会（4） 【第5回】論文中間報告会（5） 【第6回】論文中間報告会（6） 【第7回】論文構想発表会（1） 【第8回】論文構想発表会（2） 【第9回】論文構想発表会（3） 【第10回】論文構想発表会（4） 【第11回】論文構想発表会（5） 【第12回】卒業論文発表会（1） 【第13回】卒業論文発表会（2）						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。						
フィードバックの内容	文献講読や作品鑑賞、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙やFormに記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この授業では受講生全員に口頭発表の機会を設けている。その際には、他の受講生も積極的にコメントや質問を行って、お互いの研究の進展につなげてほしい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0105400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	禅学概論Ⅰ					大澤 邦由		第1期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	禅宗の概要を史料や文献の紹介を交えて講義します。講義名の禅学とは端的に言えば曹洞宗や臨済宗を含むところの禅宗に関わる論説を指します。本講義では具体的には、禅学・禅宗とはなにか、現代における禅の展開、および禅宗の起源と歴史のうち、南宗禅の発生までを取り上げて講義します。また、曹洞宗における坐禅についても扱います。								
到 達 目 標	禅学の概要を把握し、禅宗の歴史と教えを説明できるようになることを目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修ではリアクションペーパーの提出、および紹介する文献や授業で配布するプリントを予習復習してください。								
授 業 計 画	【第1回】 禅学／禅とはなにか 【第2回】 禅の思想 【第3回】 禅の生活と修行 【第4回】 現代における禅の展開（1） 【第5回】 現代における禅の展開（2） 【第6回】 曹洞宗の坐禅 【第7回】 前半のまとめ 【第8回】 禅宗の起源 インド、中国 【第9回】 史実と虚構の禅宗史 達磨と達摩 【第10回】 禅宗の歴史 東山法門、慧能の伝記（1） 【第11回】 禅宗の歴史 慧能の伝記（2） 【第12回】 禅宗の歴史 北宗と南宗 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	平常点（授業への取り組みとリアクションペーパーの提出、40%）、授業内で行う小テスト（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として翌週の授業内にて行う。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書	『禅学研究入門』田中良昭（大東出版社）2006、『中国禅宗史：「禅の語録」導読』小川隆（筑摩書房）2020、『中国禅思想史』伊吹敦（禅文化研究所）2021、『禅についての十五章』孫昌武著、衣川賢次訳（東方書店）2021、『禅とはなにか』鎌田茂雄（講談社）1979、『禅の歴史』伊吹敦（法蔵館）2001、『禅語録』柳田聖山（中央公論社）1974								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A0105500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	禅学概論2					大澤 邦由		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	禅宗の文化と歴史の概要を史料や文献の紹介を交えて講義します。講義名の禅学とは端的に言えば曹洞宗や臨済宗を含むところの禅宗に関わる論説を指します。本講義では具体的には、禅学・禅宗とはなにかを復習したのちに、禅と文化との関係を概観し、その後、中国から日本にいたる禅宗の歴史を曹洞宗からの観点を中心として取り上げて講義します。また、曹洞宗における坐禅についても扱います。								
到達目標	禅学の概要を把握し、禅宗の歴史と教えを説明できるようになることを目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修ではリアクションペーパーの提出、および紹介する文献や授業で配布するプリントを予習復習してください。								
授業計画	【第1回】 禅学とはなにか 禅学概論1のまとめ 【第2回】 禅と文化、宋代の士大夫 【第3回】 禅と詩歌 【第4回】 禅問答と語録、灯史 【第5回】 禅宗文献を読む（1） 【第6回】 禅宗文献を読む（2） 【第7回】 前半のまとめ 【第8回】 禅宗の歴史 宋代の禅宗 看話と黙照 【第9回】 曹洞宗の坐禅 【第10回】 道元の生涯 【第11回】 道元の教え 正法眼蔵について 【第12回】 道元の教え 正法眼蔵随聞記の教え 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	平常点（授業への取り組みとリアクションペーパーの提出、40%）、授業内で行う小テスト（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として翌週の授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『禅学研究入門』田中良昭（大東出版社）2006、『中国禅宗史：「禅の語録」導読』小川隆（筑摩書房）2020、『中国禅思想史』伊吹敦（禅文化研究所）2021、『禅についての十五章』孫昌武著、衣川賢次訳（東方書店）2021、『禅とはなにか』鎌田茂雄（講談社）1979、『禅の歴史』伊吹敦（法蔵館）2001、『講座禅 第五巻 禅と文化』西谷啓治編（筑摩書房）1968、『禅語録』柳田聖山（中央公論社）1974								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0106200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	中国仏教史Ⅰ					手島 一真	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教発祥地のインドとは異なる、漢字文化圏である中国において仏教が展開していく様子について講説し、とくに教学・思想のピークといわれる唐代までを重点的に扱います。内容としては、中国の政治や社会の歴史の変遷とともに展開した仏教の諸相を理解することを目的とします。						
到達目標	中国仏教史上における隆替の画期は、各授業回のタイトルに示したごとくである。これらに関わる諸事項を適切に説明できること。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を事前に読んでおくことは勿論ですが、下記の指定図書の記載を参考に、何らかの中国史概説書、仏教学・仏教史の概説書を授業の予習・復習として読み、奥行きのある歴史理解を心がけてください。 なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】中国の地勢と歴史の概観 【第2回】仏教の中国初伝の事情：『後漢書』と『三国志』の記述 【第3回】漢訳仏典の梗概：大蔵経の構成について 【第4回】西晋時代：竺法護と訳経／五胡十六国・東晋時代（1）：仏図澄、道安 【第5回】五胡十六国・東晋時代（2）：鳩摩羅什三蔵と中観系仏教 【第6回】五胡十六国・東晋時代（3）：廬山慧遠、仏駄跋陀羅、法顕 【第7回】南北朝時代（1）：南朝：梁の武帝と貴族仏教 【第8回】南北朝時代（2）：北朝（1）：北魏の太武帝／付、道教 【第9回】南北朝時代（3）：北朝（2）：北周の武帝 【第10回】隋唐時代（1）：隋：文帝と国家仏教 【第11回】隋唐時代（2）：唐：仏道間の論争 【第12回】仏教芸術の発達 【第13回】総括						
成績評価の方法	期末試験60%（手書きノート持込可）、授業への取組み姿勢40%						
フィードバックの内容	課題に対する講評を、授業内で行います。						
教科書	『仏教史概説 中国篇』野上俊成ほか（平楽寺書店）1968年						
指定図書	『新アジア仏教史（全15巻）』沖本克己ほか（佼成出版社）2010年～、『新中国仏教史』鎌田茂雄（大東出版社）2001年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年、『世界の歴史（全30巻。とくに第2巻、第6巻）』尾形勇・礪波護ほか（中央公論社）1996～99年、『中国の歴史（全12巻。とくに第6巻まで）』礪波護ほか（講談社）2004～05年、『古代中国』貝塚茂樹・伊藤道治（講談社学術文庫）2000年、『魏晋南北朝』川勝義雄（講談社学術文庫）2003年、『隋唐帝国』布目潮風、栗原益男（講談社学術文庫）1997年						
参考書	『仏教の思想（全12巻）』塚本善隆ほか（角川文庫ソフィア）1996～97年、『アジア仏教史 中国編（全5巻）』中村元ほか（佼成出版社）1974～76年、『中国仏教史（全6巻）』鎌田茂雄（東京大学出版会）1982～99年、『中国仏教要史』布施浩岳（山喜房佛書林）1970年、『中国通史』堀敏一（講談社学術文庫）2000年						
教員からのお知らせ	本講義は「インド仏教史Ⅰ」を学んでから履修することが望ましい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、および学部学科の定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容							
その他	－						

講義コード	11A0106300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	中国仏教史2					手島 一真	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教発祥地のインドとは異なる、漢字文化圏である中国において仏教が展開していく様子について講説し、とくに教学・思想のピークといわれる唐代までを重点的に扱います。内容としては、「中国仏教」なるものの概観を踏まえ、各宗派の展開、および関連する文化の諸相を理解することを目的とします。						
到達目標	「中国仏教」の意味するもの、各宗派の展開、関連諸文化に関して、重要な諸事項および特質を説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を事前に読んでおくことは勿論ですが、下記の指定図書の記載を参考に、何らかの中国史概説書を授業の予習・復習として読み、奥行きのある歴史理解を心がけてください。 なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】「中国仏教」なるものの成立事情と特質 【第2回】中国仏教史の時代区分 【第3回】各宗派の展開（1）：教判論の歴史（1） 【第4回】各宗派の展開（2）：教判論の歴史（2） 【第5回】各宗派の展開（3）：涅槃経の伝訳と涅槃宗 【第6回】各宗派の展開（4）：中観系仏教と三論宗 【第7回】各宗派の展開（5）：天台宗；五時八教判 【第8回】各宗派の展開（6）：天台宗；一念三千論 【第9回】各宗派の展開（7）：唯識系仏教と地論宗・華嚴宗 【第10回】各宗派の展開（8）：華嚴宗；四種法界観／唯識法相宗 【第11回】各宗派の展開（9）：禪／真言密教 【第12回】仏教文化の展開：末法思想 【第13回】総括						
成績評価の方法	期末試験60％（手書きノート持込可）、授業への取組み姿勢40％						
フィードバックの内容	課題に対する講評を、授業内で行います。						
教科書	『仏教史概説 中国篇』野上俊成ほか（平楽寺書店）1968年						
指定図書	『新アジア仏教史（全15巻）』沖本克己ほか（佼成出版社）2010年～、『新中国仏教史』鎌田茂雄（大東出版社）2001年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年、『世界の歴史（全30巻。とくに第2巻、第6巻）』尾形勇・礪波護ほか（中央公論社）1996～99年、『中国の歴史（全12巻。とくに第6巻まで）』礪波護ほか（講談社）2004～05年、『古代中国』貝塚茂樹・伊藤道治（講談社学術文庫）2000年、『魏晉南北朝』川勝義雄（講談社学術文庫）2003年、『隋唐帝国』布目潮風、栗原益男（講談社学術文庫）1997年						
参考書	『仏教の思想（全12巻）』塚本善隆ほか（角川文庫ソフィア）1996～97年、『アジア仏教史 中国編（全5巻）』中村元ほか（佼成出版社）1974～76年、『中国仏教史（全6巻）』鎌田茂雄（東京大学出版会）1982～99年、『中国仏教要史』布施浩岳（山喜房佛書林）1970年、『中国通史』堀敏一（講談社学術文庫）2000年						
教員からのお知らせ	本講義は「インド仏教史1・2」と「中国仏教史1」を学んでから履修することが望ましい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、および学部学科の定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0100101	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	データサイエンス入門(仏教学部)					高部 勲	第1期集中
履修前提条件						備考	
授業の目的	近年、めざましい成果を上げている数理・データサイエンス・AIの入門として、社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向、利活用の際の留意事項について学ぶ。また、様々なデータの種類とそれらを活用するための数理・データサイエンス・AIの方法について学ぶとともに、実際のデータを活用した分析方法についても演習を行う。						
到達目標	・社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向、利活用の際の留意事項を結び付けて理解し、説明することができる。 ・様々なデータの種類や利活用方法について理解する。 ・数理・データサイエンス・AIに用いられている分析手法の特徴・概要について理解し、説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義内容の復習を中心に、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】社会で起きている変化とデータ・AIの利活用の最新動向（Society 5.0, データ駆動型社会、AI リテラシー 等） 【第2回】社会で活用されているデータ（データの種類、構造化・非構造化データ 等） 【第3回】データ・AIの活用領域と利活用の現場（データ・AIの活用領域の広がり、流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AIの活用事例、公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析 等） 【第4回】数学・統計の基礎（ベクトル・行列・微分積分の基礎、確率分布、推測統計 等） 【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方（記述統計、データの可視化・加工 等） 【第6回】機械学習の基礎（教師あり学習・教師なし学習・強化学習、モデルの評価 等） 【第7回】教師あり学習：分類（判別分析、ロジスティック回帰、決定木、集団学習、線形回帰モデル、変数選択、高次元回帰 等） 【第8回】教師なし学習（クラスタリング、高次元データの次元削減 等） 【第9回】ニューラルネットワークと深層学習 【第10回】画像データの解析（画像認識と深層学習、畳み込みニューラルネットワーク 等） 【第11回】時系列データの解析（移動平均、自己相関、状態空間モデル、音声データ 等） 【第12回】テキストデータの解析（テキスト情報の可視化、自然言語処理 等） 【第13回】データ・AI利活用における留意事項（ELSI, GDPR, AI 倫理、情報セキュリティとプライバシー、個人情報の保護）						
成績評価の方法	授業中の小テスト（60％）及び授業への取組姿勢（40％）により成績を評価する。						
フィードバックの内容	課題等の採点結果は各回の授業時にフィードバックするので、必ず確認し成績評価の参考にすること。						
教科書	授業時に資料を配布する。						
指定図書	各回の授業時に紹介する。						
参考書	『ディープラーニング G（ジェネラリスト）検定公式テキスト』浅川伸一ほか（翔泳社）2018、『ディープラーニング活用の教科書』日経クロストrend編（日経 BP 社）2018、『人工知能は人間を超えるのか』松尾豊（KADOKAWA）2015、『AI 白書2023』独立行政法人情報処理推進機構 AI 白書編集委員会（KADOKAWA）2023						
教員からのお知らせ	授業には積極的に参加すること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は学部学科に定めるオフィスアワーにて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有						
実践的な教育内容	・総務省統計局統計データ利活用センターのセンター長などを歴任した教員が、その経験を活かしてデータサイエンスにかかわる講義を行う。 ・行政機関・企業等との協定に基づき提供された実際のデータを活用した当該組織の課題解決に資するデータ分析についても学ぶ。						
その他	・独立行政法人統計センターが提供する「SSDSE（教育用標準データセット）」、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムが提供する e-ラーニング教材などのオープンな教材を一部活用して講義動画を作成している。						

講義コード	11B5120401	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	哲学とは何かA					湯浅 正彦		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義においては、聴講者に、哲学するための訓練とはどういうものかについて、いささかの理解をもってもらうこと、併せて、どうしても必要な哲学史的な知識を伝授すること、を目指します。								
到達目標	哲学とはどのような知的な営みであるかについて、いくらか理解でき、そのために哲学者たちが開発してきた諸理論や諸術語についてなにがしかの知識が得られる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、以下のような作業をして60時間以上の授業外学修を行うこと。すなわち、各回の授業内容を復習し、課題への回答を Open LMS 等で提出すること、また前回の課題への講評を熟読すること。								
授業計画	【第1回】序説：「哲学」をめぐって 【第2回】哲学の諸部門について 【第3回】哲学史から（1）：ソクラテスの哲学 【第4回】哲学史から（2）：プラトンの哲学 【第5回】哲学史から（3）：アリストテレスの哲学 【第6回】哲学史から（4）：アウグスティヌスの哲学 【第7回】哲学史から（5）：デカルトの哲学 【第8回】哲学史から（6）：ロックの哲学 【第9回】哲学史から（7）：ライプニッツの哲学 【第10回】哲学史から（8）：ヒュームの哲学 【第11回】哲学史から（9）：カントの理論哲学 【第12回】哲学史から（10）：カントの道徳哲学 【第13回】哲学史から（11）：カントの美学・目的論								
成績評価の方法	期末試験70％、平常点30％により総合的に評価する。								
フィードバックの内容	小テストを行った場合には、模範解答を示す。								
教科書	なし。								
指定図書	なし。								
参考書	『哲学の基礎』山本信（北樹出版）1988年、『論理学概論』近藤・好並（岩波書店）1964年、『倫理学』W. K. フランケナ（培風館）1975年、『哲学の歴史 全12巻』（中央公論新社）2007年、『哲学事典』（平凡社）1971年、『哲学思想事典』（岩波書店）1998年、『存在と自我』湯浅正彦（勁草書房）2003年、『絶対知の境位』湯浅正彦（KADOKAWA）2020年								
教員からのお知らせ	講師自身がいかにかに哲学しているかを知りたい方は、参考書に掲げた著書をお読みください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて別に定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	授業外に課題を提出。								
実践的な教育内容									
その他	私語をする、授業に遅刻して来るなど、授業妨害と認められることを行う学生がいた場合には退場を命じます。また、授業に集中するため、授業中に携帯電話を机上に置いたり操作することを禁じます。								

講義コード	11B5120402	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	哲学とは何かB					長倉 誠一		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	古代ギリシアに誕生した「哲学」とはどのようなものか、その本質をヨーロッパの哲学をもとにして示すこと。これが授業の目的。ヨーロッパにおいて「哲学」は、個々の学問ならびに文化と一体のものであったし、それらを統合するものであった。こうした本来の「哲学」を紹介するのが授業の目的である。								
到達目標	古代ギリシアに誕生し、ヨーロッパ文化の土台であり続けている「哲学」について、その本当の内容を知ること。とくに個々の「学問」との関係を理解すること。これが目標である。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定図書に挙げた『反哲学史』などを自分で読んでみることに45時間。授業の要約（1200字程度）を、何回か宿題としますが、これは15時間以上必要です。合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】哲学の出発点哲学者と知識人の違い（ソクラテスの問いの意味） 【第2回】ギリシアの数学と哲学（タレスやプラトン）の関係 【第3回】アリストテレスによる哲学と学問分類 【第4回】近代自然科学の物質概念と近代哲学 【第5回】アダム・スミスなどの近代社会科学と哲学 【第6回】19世紀ドイツの歴史哲学 【第7回】実証主義と学問論争（ヴンデルバントなど） 【第8回】ニヒリズムとの対決（ニーチェなど） 【第9回】道具的理性批判（ホルクハイマーなどフランクフルト学派） 【第10回】ウィトゲンシュタインの知覚論とハンソンの観察の理論負荷性 【第11回】クーンやダントその他反進歩史観 【第12回】生物学と哲学（スペンサーやマックスやシェーラー） 1 【第13回】生物学と哲学（ロータッカーやニコライ・ハルトマン） 2								
成績評価の方法	課題の「レポート」提出（C ラーニング利用）など平常点で50点、まとめの学期末テストで50点の総合評価								
フィードバックの内容	課題のレポートを確認し、必要な場合は、それについて応答する。								
教科書	プリント配布								
指定図書	『反哲学史』木田元（講談社学術文庫）2000 2、『子どものためのカント』長倉誠一訳（未知谷）2008 3、『哲学の原点－ドイツからの提言』長倉誠一訳（未知谷）1999 7、『現代の古典カント』長倉誠一訳（未知谷）2023.11.								
参考書									
教員からのお知らせ	とくになし								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	授業内容を文章としてまとめ、レポートとして提出することを数回求める。								
実践的な教育内容									
その他	平常点の割合が高いので、レポート未提出の場合にはかなりマイナスになります。								

講義コード	11B5120501	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	哲学の基本諸問題					武内 大		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	魔術的な思想と深くかかわるルネサンス期の哲学を題材としつつ、想像力、言語、身体、愛などの問題について考えたい。この授業では、哲学的な思考力、読解力、論述力、歴史・文化への関心を養成するのが目的である。								
到達目標	歴史的・文化的背景を踏まえた哲学的思考ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	テキストの読解、レポート作成を含めて、授業外に計60時間以上の学修が必要となる。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション ルネサンス哲学と魔術 【第2回】 マルシリオ・フィチーノの星辰魔術 【第3回】 想像力 【第4回】 ビーコ・デッラ・ミランドラとカバラ思想 【第5回】 文字と数 【第6回】 コルネリウス・アグリッパのオカルト哲学 【第7回】 熱狂と恍惚 【第8回】 ジョルダノー・ブルーノのエロス魔術 【第9回】 愛と絆 【第10回】 ジョン・ディーの自然哲学 【第11回】 占星術・モナド・錬金術 【第12回】 天使との対話 【第13回】 総括								
成績評価の方法	レポート（60％）、授業への参加意欲（40％）を考慮した総合評価。								
フィードバックの内容	提出された課題や質問については、随時フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『ルネサンスの神秘思想』伊藤博明（講談社）2012								
教員からのお知らせ	資料は授業中に配布。参考書は授業中に改めてお知らせいたします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0104200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	天台学概論Ⅰ					田村 亘禰		第1期	
履修前提条件						備 考			
授 業 の 目 的	天台大師智顗（てんだいだいしちぎ）は、仏教思想史の中で、『法華経』を中心にして一切経（すべての経典）をまとめた最初の師と言える。この天台大師の説いた仏教総論とも言うべき五時八教判を中心に学んでいきたい。本講義では、むずかしい用語をなるべくやさしく解説し、ともどもに仏教哲理の世界へ歩を進めて行きたい。								
到 達 目 標	天台教学の概略を説明できる。五時八教判の概略を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習・復習あわせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】天台大師の生涯と思想1 【第2回】天台大師の生涯と思想2 【第3回】五時判1 【第4回】五時判2 【第5回】化儀の四教1 【第6回】化儀の四教2 【第7回】化法の四教1 【第8回】化法の四教2 【第9回】三種教相1 【第10回】三種教相2 【第11回】十境十乘観法1 【第12回】十境十乘観法2 【第13回】一念三千								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40％、課題（レポート等）60％で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行う。								
教 科 書									
指 定 図 書	『天台四教儀新釈』稲葉円成（法蔵館）1953年、『現代語訳 天台四教儀』池田魯参（山喜房佛書林）2011年、『天台四教儀談義』三友健容（大法輪閣）2016年、『天台学概論』福田堯穎（中山書房仏書林）1954年、『天台仏教の教え』多田孝文監修（大正大学出版会）2012年								
参 考 書	『天台学』安藤俊雄（平楽寺書店）1968年、『天台学論集』安藤俊雄（平楽寺書店）1975年								
教員からのお知らせ	テキストは特に定めない。適宜教場で指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスはポータルサイトのキャビネット内にあり）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A0104300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	天台学概論2					田村 亘禰		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	天台大師智顗（てんだいだいしちぎ）は、仏教思想史の中で、『法華経』を中心にして一切経（すべての経典）をまとめた最初の師と言える。この天台大師の説いた仏教総論の書、『法華玄義』を中心に学んでいきたい。 本講義では、むずかしい用語をなるべくやさしく解説し、ともどもに仏教哲理の世界へ歩を進めて行きたい。								
到達目標	『法華玄義』の内容を概略説明できる。三種教相、三法妙、待絶二妙、迹門十妙、本門十妙、本因本果、諸法実相、蓮華因果、十重顕本等の専門用語の説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習・復習あわせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】はじめに 【第2回】法華玄義の思想1 【第3回】法華玄義の思想2 【第4回】法華玄義の思想3 【第5回】法華玄義の思想4 【第6回】法華玄義の思想5 【第7回】法華玄義の思想6 【第8回】法華玄義の思想7 【第9回】法華文句の思想1 【第10回】法華文句の思想2 【第11回】摩訶止観の思想1 【第12回】摩訶止観の思想2 【第13回】おわりに								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（レポート等）60%で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書									
指 定 図 書	『現代語訳法華玄義（上）』菅野博史（公益財団法人東洋哲学研究所）2018年、『現代語訳法華玄義（下）』菅野博史（公益財団法人東洋哲学研究所）2019年								
参 考 書	『天台学』安藤俊雄（平楽寺書店）1968年、『天台学論集』安藤俊雄（平楽寺書店）1975年								
教員からのお知らせ	テキストは特に定めない。適宜教場で指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスはポータルサイトのキャビネット内にあり）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A0109000	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	東洋文化史 1					手島 一真		第 1 期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義では、東アジア漢字文化圏の歴史上の中心である中国において生成した宗教的思潮の展開を探ることを目的とします。内容としては、中国学（歴史、文化）に取り組むための方法を紹介することから始め、古代中国に成立した「儒教」について、「礼」を媒介とする古代の国家・社会との関係、精神文化的特徴と展開、貴族制時代における展開とその後、について講説します。								
到達目標	「礼」を媒介とした、儒教と古代の国家・社会との関係について説明できる。 儒教思想の構造的特徴について説明できる。 儒教発展の要因としての讖緯思想について説明できる。 魏晋・隋唐・宋の時代における儒教史の特徴について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	手島担当科目「中国仏教史」の指定図書の記載も参考に、中国史の概説書を、太古の時代から唐代あたりまで、事前に読んでおいてください。また授業後には、下記指定図書・参考書などを用いて、学的関心を広げてください。なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第 1 回】 導入－中国史と時代区分 【第 2 回】 中国学研究入門－地勢、歴史、歴史書 【第 3 回】 中国学研究入門 －中国の神話（およびその歴史との関係） 【第 4 回】 中国学研究入門－書物の分類と「経書」 【第 5 回】 儒教の成立－礼と儒教 【第 6 回】 儒教の成立－儒教国家の成立 【第 7 回】 儒教の成立－礼の経書 【第 8 回】 特論：儒教思想の構造 【第 9 回】 特論：讖緯思想 【第10回】 儒教の拡がり－貴族制の時代 【第11回】 儒教の拡がり－周孔の教え 【第12回】 儒教の拡がり－東アジア世界の中で 【第13回】 総括								
成績評価の方法	学期末試験もしくはレポート60％、授業への取り組み姿勢40％								
フィードバックの内容	課題に対する講評を、授業内で行います。								
教科書	『東アジアの儒教と礼』小島毅（山川出版社）2004年								
指定図書	『中国の宗教』アドラー（春秋社）2005年、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）1990年、『宗教から見る中国古代史』渡邊義浩（ナツメ社）2007年、『儒教と中国：「二千年の正統思想」の起源』渡邊義浩（講談社選書メチエ）2010年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年								
参考書	『中国思想史』武内義雄（岩波全書）1957年、『儒教史』戸川芳郎ほか（山川出版社／世界宗教史叢書）1987年、『講座道教（全6巻）』野口鐵郎ほか（雄山閣出版）1999～2001年、『シリーズ道教の世界（全5巻）』田中文雄ほか（春秋社）2002～03年、『中国の思想』村山吉廣（社会思想社／現代教養文庫）1972年、『アジア歴史事典（全10巻）』貝塚茂樹ほか（平凡社）1984年（再刊）、『道教事典』野口鐵郎ほか（平河出版社）1994年、『『道教』の大事典』坂出祥伸ほか（新人物往来社）1994年								
教員からのお知らせ	できるだけ1年次に、「東洋文化史2」とあわせて履修して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、および学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0109100	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	東洋文化史2					手島 一真	第2期
履修前提条件						備考	
授業の目的	本講義では、東アジア漢字文化圏の歴史上の中心である中国において生成した宗教思潮の展開を探ることを目的とします。内容としては、神仙信仰などを核心とする「道教」の成立と展開、インドより伝来した「仏教」が中国社会に浸透し発展していくなかで行われた儒仏道三教交渉の事情とそこに現れた思想状況について講義します。						
到達目標	道教の源流たる、道家と神仙思想について説明できる。 漢～南北朝～隋唐時代に形成された道教の特徴について説明できる。 南北朝・隋唐時代における道教と仏教・儒教との交渉の特徴について説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	手島担当科目「中国仏教史」の指定図書の記載も参考に、中国史の概説書を、太古の時代から唐代あたりまで、事前に読んでください。また授業後には、下記指定図書・参考書などを用いて、学的関心を広げてください。なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 導入－諸子百家：兵家、縦横家、法家、墨家、楊子、名家、道家（付 儒家） 【第2回】 中国史のなかの道教 【第3回】 道家と神僊（神仙）（1）：老子 【第4回】 道家と神僊（神仙）（2）：黄老・老荘・そして道家 【第5回】 道家と神僊（神仙）（3）：方技と神僊／さまざまな神僊術／鬼神信仰と符の源流 【第6回】 宗教的信仰集団と經典の形成（1）：黄老信仰 【第7回】 宗教的信仰集団と經典の形成（2）：五斗米道と天師道／上清經・靈宝經・三皇經の成立 【第8回】 宗教的信仰集団と經典の形成（3）：金丹鍊成の法 【第9回】 道教教理の大成（1）：教理の統合 【第10回】 道教教理の大成（2）：隋から唐へ 【第11回】 道教教理の大成（3）：『雲笈七籤』と道教教理 【第12回】 〈特論〉：隋唐時代までの儒教・仏教・道教による交渉 【第13回】 総括						
成績評価の方法	学期末試験もしくはレポート60％、授業への取り組み姿勢40％						
フィードバックの内容	課題に対する講評を、授業内で行います。						
教科書	『中国道教の展開』横手裕（山川出版社）2008年						
指定図書	『中国の宗教』アドラー（春秋社）2005年、『宗教から見る中国古代史』渡邊義浩（ナツメ社）2007年、『中国の道教』金正輝（平川出版社）1995年、『中国の道教』小林正美（創文社／中国学芸叢書）1998年、『道教の歴史』横手裕（山川出版社）2015年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年						
参考書	『中国思想史』武内義雄（岩波全書）1957年、『儒教史』戸川芳郎ほか（山川出版社／世界宗教史叢書）1987年、『講座道教（全6巻）』野口鐵郎ほか（雄山閣出版）1999～2001年、『シリーズ道教の世界（全5巻）』田中文雄ほか（春秋社）2002～03年、『中国の思想』村山吉廣（社会思想社／現代教養文庫）1972年、『アジア歴史事典（全10巻）』貝塚茂樹ほか（平凡社）1984年（再刊）、『道教事典』野口鐵郎ほか（平河出版社）1994年、『「道教」の大事典』坂出祥伸ほか（新人物往来社）1994年						
教員からのお知らせ	本科目は「東洋文化史1」を学んでから履修することが望ましい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、および学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容	－						
その他							

講義コード	11A0102800	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日蓮聖人伝 1					本間 俊文	第 1 期
履修前条件						備考	
授業の目的	鎌倉時代中期に活躍した日蓮聖人（1222-1282）は、釈尊が説かれた仏教経典の中でも『法華経』の教えを根本に据え、法華経信仰によって世の人々を救う道を開いた。本授業では、法華経弘通に邁進した日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から究明することを目的とし、最新の研究成果を踏まえつつその生涯を概観する。						
到達目標	史実と伝承の違いを踏まえて、日蓮聖人の生涯に関する基本的事項が体系的に説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授 業 計 画	【第1回】日蓮聖人が生きた時代 【第2回】誕生と出自 【第3回】清澄登山・出家 【第4回】鎌倉・京畿遊学 【第5回】立教開宗 【第6回】鎌倉布教 【第7回】災害の続出と上奏の準備 【第8回】『立正安国論』の上奏 【第9回】松葉谷法難 【第10回】伊豆法難 【第11回】安房帰省 【第12回】小松原法難 【第13回】蒙古国書到来と『立正安国論』の再検証						
成績評価の方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教 科 書	『増補改訂 日蓮－その行動と思想』高木豊（太田出版）2002年						
指 定 図 書	『日蓮 その生涯と思想』久保田正文（講談社）1967年、『講座日蓮 2 日蓮の生涯と思想』田村芳朗・宮崎英修編（春秋社）1972年、『法華経の行者日蓮』姉崎正治（講談社）1983年、『日蓮聖人－その生涯と教え－』日蓮宗新聞社編（日蓮宗新聞社）1991年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮』中尾堯（吉川弘文館）2001年、『シリーズ日蓮 2 日蓮の思想とその展開』小松邦彰・花野充道編（春秋社）2014年、『日蓮聖人の歩みと教え（鎌倉期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（佐渡期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（身延期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2018年						
参 考 書	『日蓮聖人伝十講』山川智応（新潮社）1921年、『日蓮聖人正伝』鈴木一成編（平楽寺書店）1977年、『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2000年改訂増補第三刷、『目からウロコの 日蓮と日蓮宗』小松邦彰監修（学習研究社）2006年、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編（東京堂出版）2013年						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り						
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から解説し理解させる。						
そ の 他	第2期開講の「日蓮聖人伝2」と合わせて受講することを希望します。						

講義コード	11A0102900	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日蓮聖人伝 2					本間 俊文	第 2 期
履修前条件						備考	
授業の目的	鎌倉時代中期に活躍した日蓮聖人（1222-1282）は、釈尊が説かれた仏教経典の中でも『法華経』の教えを根本に据え、法華経信仰によって世の人々を救う道を開いた。本授業では、法華経弘通に邁進した日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から究明することを目的とし、最新の研究成果を踏まえつつその生涯を概観する						
到達目標	史実と伝承の違いを踏まえて、日蓮聖人の生涯に関する基本的事項が体系的に説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授 業 計 画	【第1回】良観房忍性との対決 【第2回】龍口法難 【第3回】依智から寺泊へ 【第4回】佐渡流罪（1） 【第5回】佐渡流罪（2） 【第6回】佐渡流罪（3） 【第7回】身延入山 【第8回】蒙古襲来（元寇） 【第9回】身延での生活（1） 【第10回】身延での生活（2） 【第11回】身延での生活（3） 【第12回】熱原法難 【第13回】身延下山と入滅						
成績評価の方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教 科 書	『増補改訂 日蓮－その行動と思想』高木豊（太田出版）2002年						
指 定 図 書	『日蓮 その生涯と思想』久保田正文（講談社）1967年、『講座日蓮 2 日蓮の生涯と思想』田村芳朗・宮崎英修編（春秋社）1972年、『法華経の行者日蓮』姉崎正治（講談社）1983年、『日蓮聖人－その生涯と教え－』日蓮宗新聞社編（日蓮宗新聞社）1991年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮』中尾堯（吉川弘文館）2001年、『シリーズ日蓮 2 日蓮の思想とその展開』小松邦彰・花野充道編（春秋社）2014年、『日蓮聖人の歩みと教え（鎌倉期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（佐渡期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（身延期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2018年						
参 考 書	『日蓮聖人伝十講』山川智応（新潮社）1921年、『日蓮聖人正伝』鈴木一成編著（平楽寺書店）1977年、『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2000年改訂増補第三刷、『目からウロコの 日蓮と日蓮宗』小松邦彰監修（学習研究社）2006年、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編（東京堂出版）2013年						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り						
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から解説し理解させる。						
そ の 他	第1期開講の「日蓮聖人伝1」と合わせて受講することを希望します。						

講義コード	11A0100251	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本語表現基礎A					石井 公一	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この授業の目的は、論理的な文章をわかりやすく表現できるようにすることです。自分の意見を筋道を立てて組み立て、相手に適切に伝えられるかが重要です。そのために、表現・文体・構成などに注意しながら文章表現ができること、また口頭で発表できることが目的です。						
到達目標	多くの論理的文章に触れることにより、自ら論理的文章の組み立てや構成を学ぶことが重要です。そのためには文章を何回も書くことを重ねながら推敲を行い、また資料やデータを読み解き、相手に正確に伝わる文章表現に仕上げていくことが目標です。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	自分の文章を推敲し論理的でよりわかりやすい文章にすること。また相手の文章を読んで、自分の意見との相違点を論理的に発表できるようにすること。またインターネット等を通じてより広く深く問題点を追究していくことが大切である。						
授業計画	【第1回】授業の概要 【第2回】文章表現上のルール・原則 【第3回】わかりやすい文章とは 【第4回】論理的文章を読んで、意見発表を行う。① 【第5回】倫理的文章を読んで、意見発表を行う。② 【第6回】文章構成と段落の研究① 【第7回】文章構成と段落の研究② 【第8回】話し言葉と書き言葉の相違について 【第9回】資料やデータを読み解く方法① 【第10回】資料やデータを読み解く方法② 【第11回】文章要約の方法① 【第12回】文章要約の方法② 【第13回】文章表現方法のまとめ						
成績評価の方法	①欠席・遅刻をしないこと。(40%) ②毎回の課題提出を行うこと。(40%) ③授業への積極的な取り組みと活発な意見発表ができること。(20%)						
フィードバックの内容	毎回提出された課題を添削し、返却する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	専任) 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、LMS のメッセージ機能でも受付けます (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。 非常勤) 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0100253	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本語表現基礎C					小此木 敏明	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	将来、卒業論文を書く際に困らないよう、論理的文章を書けるようにする。論文などを書く上での約束ごとや、適切な表現などについて解説する。						
到達目標	表現・文体・構成などに注意しつつ、論理的文章を組み立てることができる。論文にふさわしくない表現をさけつつ、分かりやすい文章を書くことができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業時間内に終わらなかった課題に取り組む。また、自分で書いた文章を見直し、どうしたらより分かりやすくなるかを考えること。						
授業計画	【第1回】授業の概要、原稿用紙のルール・各種記号の使い方 【第2回】文体について、校正記号について 【第3回】一文を分かりやすく書く① 【第4回】一文を分かりやすく書く② 【第5回】接続表現に注意する① 【第6回】接続表現に注意する② 【第7回】接続表現に注意する③ 【第8回】段落と構成① 【第9回】段落と構成② 【第10回】段落と構成③ 【第11回】引用のルールと表現① 【第12回】引用のルールと表現② 【第13回】出典の示し方						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢と提出課題 (60%)、レポート (40%)						
フィードバックの内容	提出課題に対する講評・解説を授業の初めに行う。						
教科書	プリントを配布する						
指定図書	授業中に指示する						
参考書	授業中に指示する						
教員からのお知らせ	授業時間内に課題を行ってもらいが、文字を丁寧に書くこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返りなど						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0100252	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本語表現基礎B					小此木 敏明	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	将来、卒業論文を書く際に困らないよう、論理的な文章を書けるようにする。論文などを書く上での約束ごとや、適切な表現などについて解説する。						
到達目標	表現・文体・構成などに注意しつつ、論理的な文章を組み立てることができる。論文にふさわしくない表現をさけつつ、分かりやすい文章を書くことができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業時間内に終わらなかった課題に取り組む。また、自分で書いた文章を見直し、どうしたらより分かりやすくなるかを考えること。						
授業計画	【第1回】授業の概要、原稿用紙のルール・各種記号の使い方 【第2回】文体について、校正記号について 【第3回】一文を分かりやすく書く① 【第4回】一文を分かりやすく書く② 【第5回】接続表現に注意する① 【第6回】接続表現に注意する② 【第7回】接続表現に注意する③ 【第8回】段落と構成① 【第9回】段落と構成② 【第10回】段落と構成③ 【第11回】引用のルールと表現① 【第12回】引用のルールと表現② 【第13回】出典の示し方						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢と提出課題（60%）、レポート（40%）						
フィードバックの内容	提出課題に対する講評・解説を授業の初めに行う。						
教科書	プリントを配布する						
指定図書	授業中に指示する						
参考書	授業中に指示する						
教員からのお知らせ	授業時間内に課題を行ってもらいが、文字を丁寧に書くこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返りなど						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1114600	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本社会と宗教／社会と宗教Ⅰ					丹羽 宣子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この授業では、宗教というレンズを通して現代日本社会を理解することを目指す。 日本の宗教状況について、宗教学・宗教社会学の基礎概念に基づきながら学ぶ。その際に、歴史的な事例から現代社会における状況まで、さまざまな具体的事例を取り上げ、宗教を学問的立場からどのように視ることができ、それにより現代世界と日本社会をどのように理解できるかを概説していく。						
到達目標	日本の宗教文化・宗教現象に関する基本的な知識を身につけ、宗教に関する基本的用語や概念の意味、視角を理解する。またそれに基づき、日本の諸宗教について、客観的な知識と歴史理解、現状把握に基づいた思考・判断・発言ができるようになることを目指す。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎回の授業では参考資料を公開する。復習や、理解をより深めるために活用すること。疑問に思ったこと、より深く知りたいテーマについての相談は随時受け付ける。 また宗教関連ニュースに意識して触れ、授業で学んだ視点から読み解くこと。 60時間の授業外学習時間が必要となる。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：〈宗教〉を幅広い視点から捉える 【第2回】日本における宗教の概要（1）統計データから見る日本人の宗教行動 【第3回】日本における宗教の概要（2）日本の「伝統宗教」について 【第4回】日本における宗教の概要（3）近現代の社会変動と宗教教団 【第5回】日本における宗教の概要（4）政教分離、世俗主義、宗教と教育 【第6回】現代社会と宗教（1）ジェンダーと宗教 【第7回】現代社会と宗教（2）家族・ライフサイクルと宗教 【第8回】現代社会と宗教（3）スピリチュアリティと園周辺 【第9回】現代社会と宗教（4）医療技術の進歩と宗教 【第10回】現代社会と宗教（5）変わりゆく葬儀、墓 【第11回】現代社会と宗教（6）情報化時代の到来と宗教 【第12回】現代社会と宗教（7）グローバル化する日本の宗教・宗教と社会貢献 【第13回】授業のまとめ：拡散する宗教、現代社会における宗教の位相						
成績評価の方法	学期末レポート（60％）、授業への取り組み姿勢・コメントペーパーの提出（40％）						
フィードバックの内容	授業開始5～10分は、前回授業でのコメントペーパーに寄せられた質問・コメントなどに、全体講評のフィードバックを行う						
教科書 指定図書							
参考書	『プレステップ 宗教学 第3版』石井研士（弘文堂）2020年、『宗教と社会のフロンティア 宗教社会学からみる日本』高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔（勁草書房）2012年						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。またLMSのメッセージ機能も活用する。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容 その他	－						

講義コード	11A0100600	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本宗教・文化研究入門／日本仏教研究入門					安中尚史・本間俊文・三輪是法	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業は、3年次進級時の所属コース決定に向けて、日本宗教・文化コース（日本仏教コース）の学びの柱となる「日本宗教と文化」・「日本宗教の歴史」・「日本宗教の思想」の3つの研究領域の内容とその研究法について学修することを目的とする。						
到達目標	日本の宗教と文化を研究するための基礎知識を身につけ、その研究法について説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業計画と参考図書等を参照し、日本宗教の歴史・思想、それに基づく日本文化について事前に調べた上で授業に臨むこと。 なお、授業外学修は60時間以上を目安に行うこと。						
授業計画	【第1回】「日本宗教・文化」研究の概要 【第2回】日本文化史研究入門（1） 【第3回】日本文化史研究入門（2） 【第4回】日本文化史研究入門（3） 【第5回】日本文化史研究入門（4） 【第6回】日本宗教史研究入門（1） 【第7回】日本宗教史研究入門（2） 【第8回】日本宗教史研究入門（3） 【第9回】日本宗教史研究入門（4） 【第10回】日本宗教思想研究入門（1） 【第11回】日本宗教思想研究入門（2） 【第12回】日本宗教思想研究入門（3） 【第13回】日本宗教思想研究入門（4）						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	（なし）						
指定図書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017年、『日本宗教史』末本文美士（岩波書店）2006年						
参考書	『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』末本文美士（新潮社）1992年、『日本文化史ハンドブック』阿部猛・西垣晴次編（東京堂出版）2002年、『読みなおす日本史 日本の宗教』村上重良（吉川弘文館）2020年						
教員からのお知らせ	配布資料に基づいて授業を行います。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り						
実践的な教育内容							
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。						

講義コード	11A0110800	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本美術史Ⅰ					三戸 信恵	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	日本の美術は、海外からの影響を繰り返し受けながら、消化と洗練の過程を経て、個性豊かな造形世界を創り出してきました。この授業では、縄文時代から鎌倉時代までを対象に、各時代の代表的な作品を紹介し、宗教や政治、文学との関わりにも目を配りながら、作品の成り立ちから受容のあり方、視覚的な造形としての特質まで、日本美術の歴史を多角的に学ぶことができるよう促していきます。						
到達目標	日本美術の歴史の流れを説明できる。日本美術の代表的な作品を把握・理解できる。各時代の造形の特徴と作品を取り巻く社会的背景についての知識を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業中に紹介する書籍や図録を精読、閲覧し、展覧会を見学すること。および、宿題、レポートに取り組む時間とあわせ、授業外学修として合計60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】日本美術の特質 【第2回】縄文時代：造形に込めた願いと祈り 【第3回】弥生時代：文物が語る海外との交流 【第4回】古墳時代：古墳にみる権力と造形 【第5回】飛鳥時代：仏教美術の開花 【第6回】奈良時代（1）：仏教の発展と造形 【第7回】奈良時代（2）：正倉院宝物 【第8回】平安時代（1）：密教美術を中心に 【第9回】平安時代（2）：浄土教美術を中心に 【第10回】平安時代（3）：貴族の美意識、「和」のかたち 【第11回】平安～鎌倉時代：メディアとしての絵巻の可能性 【第12回】鎌倉時代：人を象る、神仏を表す 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢および宿題（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（60%）により総合評価します。レポートでは、自分なりの問題意識と結びつけ、自分で考えた自分の意見を記述できているかをみます。期末試験では、到達目標に記載した内容について、自分の言葉で説明し、筋道をたてて文章化できているかをみて評価します。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーや宿題に対するフィードバックを翌週以降の授業内で実施し、問題点や課題が見つかった場合は、都度補足説明を行います。						
教科書							
指定図書							
参考書	『日本美術全集』（講談社）1990-1993、『日本美術館』（講談社）1997、『日本美術全集』（小学館）2012-16、『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』（美術出版社）2014、『日本美術の歴史 補訂版』辻惟雄（東京大学出版会）2021						
教員からのお知らせ	普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に関心を持ち、会場に足を運んで、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で、教室内にて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0110900	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本美術史2					三戸 信恵	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	日本の美術は、海外からの影響を繰り返し受けながら、消化と洗練の過程を経て、個性豊かな造形世界を創り出してきました。この授業では、南北朝・室町時代から近代までを対象に、各時代の代表的な作品を紹介し、宗教や政治、文学との関わりにも目を配りながら、作品の成り立ちから受容のあり方、視覚的な造形としての特質まで、日本美術の歴史を多角的に学ぶことができるよう促していきます。						
到達目標	日本美術の歴史の流れを説明できる。日本美術の代表的な作品を把握・理解できる。各時代の造形の特徴と作品を取り巻く社会的背景についての知識を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業中に紹介する書籍や図録を精読、閲覧し、展覧会を見学すること。および、宿題、レポートに取り組む時間とあわせ、授業外学修として合計60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】南北朝・室町時代：禅宗文化と造形 【第2回】室町時代（1）：東山御物と座敷飾り 【第3回】室町時代（2）：屏風と絵巻 【第4回】桃山時代（1）：天下人の造形 【第5回】桃山時代（2）：南蛮美術と茶の湯の造形 【第6回】室町～江戸時代：流派の発展 【第7回】桃山～江戸時代：風俗画－聖と俗と 【第8回】江戸時代（1）：寛永文化と元禄文化 【第9回】江戸時代（2）：出版の隆盛と個性の開花 【第10回】江戸時代（3）：近代性の萌芽 【第11回】明治時代：洋画と日本画の誕生 【第12回】大正～昭和時代：デカダンスとモダニズム 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢および宿題（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（60%）により総合評価します。レポートでは、自分なりの問題意識と結びつけ、自分で考えた自分の意見を記述できているかをみます。期末試験では、到達目標に記載した内容について、自分の言葉で説明し、筋道をたてて文章化できているかをみて評価します。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーや宿題に対するフィードバックを翌週以降の授業内で実施し、問題点や課題が見つかった場合は、都度補足説明を行います。						
教科書							
指定図書							
参考書	『日本美術全集』（講談社）1990-1993、『日本美術館』（講談社）1997、『日本美術全集』（小学館）2012-16、『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』（美術出版社）2014、『日本美術の歴史 補訂版』辻惟雄（東京大学出版会）2021						
教員からのお知らせ	普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に関心を持ち、会場に足を運んで、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で、教室内にて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0104400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本仏教史概論／日本仏教史 1					安中 尚史	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	紀元前6世紀頃にインドで興った仏教は、西域をへて中国に拡大し、その後、朝鮮半島から日本海を渡って日本に到来したのは6世紀のことです。以来、仏教は日本人の思想や行動、文化に多大な影響を及ぼすこととなりました。この授業は、日本に仏教が伝来し、その後、国家的に受け入れられ、定着を果たしてきた過程についての考察を目的とします。						
到達目標	日本仏教の歴史的な展開について、その基本知識と正しい理解の修得を目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、各時代の日本仏教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】 仏教の日本伝来 【第2回】 古代における仏教の展開 1 【第3回】 古代における仏教の展開 2 【第4回】 古代における仏教の展開 3 【第5回】 古代における仏教の展開 4 【第6回】 中世における仏教の展開 1 【第7回】 中世における仏教の展開 2 【第8回】 中世における仏教の展開 3 【第9回】 近世における仏教の展開 1 【第10回】 近世における仏教の展開 2 【第11回】 近世における仏教の展開 3 【第12回】 近代・現代における仏教の展開 1 【第13回】 近代・現代における仏教の展開 2 ※対面式で期末試験を実施します。本授業は時間割りの上では、水曜日・6時限に設定していますので、基本的には第1期期末試験期間中の水曜日・6時限目に実施します。詳細について授業やポータルサイト等で連絡します。 また、受講生の所属する学部・学科によっては、本授業の単位を取得しても卒業に必要な単位とならない場合があるので、履修の際に留意してください。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%（毎回の講義課題＜不正に対しては厳正に対応します＞）、対面式の期末試験で70%評価します。 ※対面式で期末試験を実施します。本授業は時間割りの上では、水曜日・6時限に設定していますので、基本的には第1期期末試験期間中の水曜日・6時限目に実施します。詳細について授業やポータルサイト等で連絡します。また、受講生の所属する学部・学科によっては、本授業の単位を取得しても卒業に必要な単位とならない場合があるので、履修の際に留意してください。						
フィードバックの内容	大学が新たに導入した「OPEN LMS」の導入を予定しています。詳細については、第1回目の授業でお伝えします。						
教科書	プリントを配布します						
指定図書							
参考書	『日本仏教史』辻善之助（岩波書店）1944～1953、『論集日本仏教史』（雄山閣）1986～1999、『日本仏教史』（吉川弘文館）1986～1998、『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』末本文美士（新潮社）1992						
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組んで下さい。 － ※受講生の所属する学部・学科によっては、本授業の単位を取得しても卒業に必要な単位とならない場合があるので、履修の際に留意してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0104900	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教思想概論					三輪 是法		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代的变化を踏まえて宗派化・専修化したものであった。この授業では、日本仏教の思想的特徴について、古代から現代に至るまでを概説していく。								
到達目標	日本仏教の宗派ごとに形成された仏教思想について、時代ごとに理解する。延いては、日本人の宗教観の基底を知る。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～日本仏教とは？ 【第2回】天台宗 【第3回】真言宗 【第4回】禅宗－臨済宗 【第5回】禅宗－曹洞宗 【第6回】浄土宗 【第7回】浄土真宗 【第8回】仏教と神道 【第9回】仏教とキリスト教 【第10回】仏教と儒教 【第11回】仏教と近代① 【第12回】仏教と近代② 【第13回】仏教と新興宗教～総括								
成績評価の方法	事前学修に基づく授業態度30パーセント、期末試験70パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『日本仏教史』末本文美士（新潮社）1996年								
教員からのお知らせ	テキストはありません。資料と皆さんが作成するノートを自分のテキストにしてください。								
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。アドレスはポータルサイトの掲示板を確認してください。								
アクティブラーニングの内容	問答形式で進めていく。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0105000	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教思想特講 1					神田 大輝		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本授業では、中国天台の法華教学を基盤としつつ、日本で独自に育まれ、高揚された天台本覚思想に注目し、文献としてみられる源流的要素と体系的な組織づけがなされるまでの推移を概観する。現実の絶対肯定に特徴づけられる本覚思想は、日本の仏教界のみならず、神道や文芸界にまで大きな影響を及ぼしており、各方面の発展史を考える上で欠かせない思潮である。そして、本覚思想に風靡される時代を背景に、法華教学の真価を発揮し、特有の教義体系を確立されたのが日蓮聖人である。天台本覚思想の特色を捉えておくことは、日蓮聖人の教学、及び門下の継承を学ぶ上で極めて重要であり、そうした比較の観点を養うことが本授業の目的である。								
到達目標	日本仏教思想史上における天台本覚思想の特色を説明し、また諸典籍において、本覚思想の立場から特に重視された術語・標語を捉え、指摘できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】日本天台の時代的区分（1） 【第2回】日本天台の時代的区分（2） 【第3回】日本上古天台の思想（1） －伝教大師最澄の生涯－ 【第4回】日本上古天台の思想（2） －伝教大師最澄の思想－ 【第5回】日本上古天台の思想（3） －慈覚大師円仁の生涯と思想－ 【第6回】日本上古天台の思想（4） －智証大師円珍の生涯と思想－ 【第7回】日本上古天台の思想（5） －五大院安然の生涯と思想－ 【第8回】日本上古天台の思想（6） －恵心僧都源信の生涯と思想－ 【第9回】日本中古天台の思想（1） －恵檀両流と口伝法門－ 【第10回】日本中古天台の思想（2） －天台本覚思想の文献と時代区分－ 【第11回】天台本覚思想の特色（1） 【第12回】天台本覚思想の特色（2） 【第13回】日蓮聖人の思想								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	本授業の課題に対するフィードバックを授業内、またはオンラインにて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『天台教学と本覚思想』大久保良峻（法蔵館）2022年増訂、『天台教学史』島地大等（隆文館）1986年、『鎌倉新仏教思想の研究』田村芳朗（岩波書店）1965年、『上古日本天台本門思想史』浅井円道（平楽寺書店）1973年、『日本仏教の開展とその基調』略 慈弘（三省堂出版）1948年、『法華思想史上の日蓮上人』山川智応（新潮社）1933年、『台密教学の研究』大久保良峻（法蔵館）2004年、『天台本覚論』多田厚隆・大久保良順・田村芳朗・浅井円道（岩波書店）1973年、『本覚思想論』田村芳朗（春秋社）1990年								
教員からのお知らせ	各回授業で配付資料を用意するので、教科書等を購入する必要はありません。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後の教室内、もしくは講師宛のメールにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他	本授業に関する質問・相談は、授業前後の教室内、もしくは講師宛のメールにて受け付けます。								

講義コード	11A0105100	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本仏教思想特講2					布施 義高	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	日蓮聖人は南無妙法蓮華經の題目による末法衆生の救済を打ち出された。それは本門中心の法華經觀に基づくものである。かかる本門思想は、日蓮聖人滅後、特に「本迹論」を通して緻密な研鑽が積まれ、関連する重要課題の見方にも大きな影響を与えてきた。その教理史的な展開は、日本仏教思想史の中でも注目されるものである。今回の講義では、この点について集中的に見ていきたい。						
到達目標	日本仏教思想史を視野に据えながら、日蓮聖人及び日蓮教学史の本門思想の特色を説明することができる。また、授業で得た知識を定着させ、他の講義の内容と関連させながら日蓮教学への理解をより深める。卒業論文など、各自の今後の研究に役立てる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	基礎の定着を目的として、各回の授業の復習を中心に、60時間以上の授業外学修を行うこと。具体的な学修の方法は授業中に指示する。						
授業計画	【第1回】序論 【第2回】本門思想の基礎（1） 【第3回】本門思想の基礎（2） 【第4回】本迹論の基礎と本迹論史の外貌 【第5回】初期日蓮教学史と本迹論 【第6回】本迹一致論の概観 【第7回】本迹勝劣論の概観（1） 【第8回】本迹勝劣論の概観（2） 【第9回】本迹論と日蓮遺文 【第10回】本迹論と天台教学 【第11回】本迹論と顕本論 【第12回】本迹論と本因本果・三益論 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50％）、期末試験（50％）による評価						
フィードバックの内容							
教科書	※授業中に配付するプリント、『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2008年、『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）2016年・第15刷						
指定図書	『日蓮教学研究』北川前肇（平楽寺書店）1987年、『日蓮の思想とその展開』シリーズ日蓮・第2巻（春秋社）2014年、『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮・第3巻（春秋社）2015年、『日蓮宗学説史』望月敏厚（平楽寺書店）1968年、『日蓮教学の研究』望月敏厚（平楽寺書店）1958年、『御義口伝の研究』執行海秀（山喜房佛書林）2006年、『興門教学の研究』執行海秀（山喜房佛書林）2011年・改訂新版、『日蓮宗信行論の研究』渡辺宝陽（平楽寺書店）1976年、『仏典講座38 観心本尊抄』浅井円道（大蔵出版）1982年、※その他、授業の中で重要な著書や論文を随時紹介する。						
参考書	『日蓮聖人教学の探求』浅井円道（山喜房佛書林）1997年、『日蓮聖人と天台宗』浅井円道（山喜房佛書林）1999年、『上古日本天台本門思想史』浅井円道（平楽寺書店）1973年、『日蓮聖人教学基礎研究』庵谷行亨（山喜房佛書林）1994年、『鎌倉新仏教思想の研究』田村芳朗（平楽寺書店）1965年、『法華思想史上の日蓮上人』山川智応（新潮社）1933年、『法華教学史の研究』塩田義遜（塩田教授古稀記念出版）1960年、『日本思想大系9 天台本覚論』多田厚隆・大久保良順・田村芳朗・浅井円道編（岩波書店）1973年、『日本仏教の開展とその基調』碓慈弘（三省堂）1974年、※その他、授業の中で重要な著書や論文を随時紹介する。						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、 ①授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教場にて対応。 もしくは、 ②メール（fusegiko@yahoo.co.jp）により対応。						
アクティブラーニングの内容	－						
実践的な教育内容	一寺院の住職としての経験、また、宗門行政や日蓮聖人門下連合会の役員としての実務経験などを活かし、受講者の今後の歩みに僅かでも資助を供せるよう努めながら授業を進めたい。						
その他							

講義コード	11A1105110	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教思想特講3					三輪 是法		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代の要請などによって宗派化・専修化・宗教化したものであった。この特講では、近現代の新興宗教発生の契機を理解するために、同時代の日本仏教に関する資料を講読する。								
到達目標	近現代に展開する日本仏教の思想と動向、およびその時代背景を学修し、日本人の宗教信仰の特質について理解する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授 業 計 画	【第1回】オリエンテーション～日本仏教の特徴 【第2回】近現代における日本仏教① 【第3回】近現代における日本仏教② 【第4回】日蓮主義概説 【第5回】日蓮主義を読む1 【第6回】日蓮主義を読む2 【第7回】日蓮主義を読む3 【第8回】日蓮主義を読む4 【第9回】日蓮主義を読む5 【第10回】日蓮主義を読む6 【第11回】日蓮主義を読む7 【第12回】日蓮主義を読む8 【第13回】総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容50パーセント、最終課題レポート50パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書	『近代日本の日蓮主義運動』大谷栄一（法蔵館）2001年、『近代仏教という視座』大谷栄一（べりかん社）2012年、『日蓮主義とはなんだったのか』大谷栄一（講談社）2019年、『近現代日本の法華運動』西山茂（春秋社）2016年、『近現代日本における日蓮信仰』三輪是法（法蔵館）2024年								
教員からのお知らせ	テキストは随時配布します。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A1105120	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	日本仏教思想特講4					三輪 是法		第2期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代の要請などによって宗派化・専修化・宗教化したものであった。この授業では、近現代における日本仏教の思想的特徴について理解する。								
到 達 目 標	近現代に展開する日本仏教の思想と動向、およびその時代背景を学修し、日本人の宗教信仰の特質について理解する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授 業 計 画	【第1回】オリエンテーション～近世・近代仏教について－総論1 【第2回】近現代仏教について－総論2 【第3回】近現代仏教について－総論3 【第4回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想1 【第5回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想2 【第6回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想3 【第7回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想4 【第8回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想5 【第9回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想1 【第10回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想2 【第11回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想3 【第12回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想4 【第13回】総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント、期末課題レポート70パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教 科 書									
指 定 図 書	『近代日本思想体系 全23巻』（岩波書店）1991年								
参 考 書	『近代仏教という視座』大谷栄一（べりかん社）2012年、『近代日本と仏教』末木文美士（トランスビュー）2004年、『日本の近代社会と仏教』吉田久一（評論社）1970年、『近現代日本における日蓮信仰』三輪是法（法蔵館）2024年、『大正生命主義と現代』鈴木貞美 編（河出書房新社）1995年								
教員からのお知らせ	テキストは随時配布します。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A0105160	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	日本仏教史特論Ⅰ					本間 俊文		第1期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	本授業では、「日本古代仏教史」研究をテーマに、古代における日本仏教がいかに社会と関わり合いながら展開したのかを概観するとともに、その過程において生じた様々な宗教的・社会的・文化的諸問題や歴史資料を取り上げ、その内容について考察する。								
到 達 目 標	日本古代仏教史に関する基本的な事項について説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】 仏教の伝来と受容 【第2回】 日本仏教の歴史資料①－仏教伝来と聖徳太子－ ※オンライン授業で実施 【第3回】 奈良仏教の展開（1） 【第4回】 奈良仏教の展開（2） 【第5回】 日本仏教の歴史資料②－鎮護国家の美しき仏－ ※オンライン授業で実施 【第6回】 平安仏教の展開（1） 【第7回】 平安仏教の展開（2） 【第8回】 平安仏教の展開（3） 【第9回】 日本仏教の歴史資料③－密教と曼荼羅世界－ ※オンライン授業で実施 【第10回】 日本古代史と仏教史料 【第11回】 日本仏教の歴史資料④－華麗なる王朝の美－ ※オンライン授業で実施 【第12回】 古代仏教とその周辺（1） 【第13回】 古代仏教とその周辺（2）								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教 科 書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会編（法蔵館）2017年								
指 定 図 書	『日本仏教史 古代』 速水 侑（吉川弘文館）1986年、『事典 日本の仏教』 蓑輪顕量編（吉川弘文館）2014年、『日本仏教史』 蓑輪顕量（春秋社）2015年、『仏教事典』 日本佛教学会編（丸善出版）2021年								
参 考 書									
教員からのお知らせ	教科書を講読しながら授業を進めますので、教科書を必ず用意してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
そ の 他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105170	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	日本仏教史特論2／日本仏教史特講 1					本間 俊文		第2期	
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	本授業では、「日本中世仏教史」研究をテーマに、中世における日本仏教がいかに社会と関わり合いながら展開したのかを概観するとともに、その過程において生じた様々な宗教的・社会的・文化的諸問題や歴史資料を取り上げ、その内容について考察する。								
到 達 目 標	日本中世仏教史に関する基本的な事項について説明ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】 中世国家と仏教（1） 【第2回】 中世国家と仏教（2） 【第3回】 日本仏教の歴史資料①－運慶と快慶－ ※オンライン授業で実施 【第4回】 中世の仏教思想 【第5回】 中世の信仰世界（1） 【第6回】 曼荼羅本尊 【第7回】 中世の信仰世界（2） 【第8回】 中世の信仰世界（3） 【第9回】 日本仏教の歴史資料②－禅林と会所－ ※オンライン授業で実施 【第10回】 中世の仏教文化（1） 【第11回】 中世の仏教文化（2） 【第12回】 中世僧侶の修学 【第13回】 中世僧侶の衣食住								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教 科 書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会編（法蔵館）2017年								
指 定 図 書	『日本仏教史 中世』 大隅和雄、中尾堯編（吉川弘文館）1998年、『事典 日本の仏教』 蓑輪顕量編（吉川弘文館）2014年、 『日本仏教史』 蓑輪顕量（春秋社）2015年、『仏教事典』 日本佛教学会編（丸善出版）2021年								
参 考 書									
教員からのお知らせ	教科書を講読しながら授業を進めますので、教科書を必ず用意してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
そ の 他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105180	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教史特論3／日本仏教史特講2					本間 俊文		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、「日本近世仏教史」研究をテーマとし、近世における日本仏教がいかに社会と関わり合いながら展開したのかを概観するとともに、その過程において生じた様々な宗教的・社会的・文化的諸問題や歴史資料を取り上げ、その内容について考察する。								
到達目標	日本近世仏教史に関する基本的な事項について説明ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 近世国家と仏教（1） 【第2回】 近世国家と仏教（2） 【第3回】 近世における諸宗派の動向（1） 【第4回】 近世における諸宗派の動向（2） 【第5回】 日本仏教の歴史資料①－天下人の造形－ ※オンライン授業で実施 【第6回】 近世社会と仏教（1） 【第7回】 近世の出開帳 【第8回】 近世の大仏造立 【第9回】 近世社会と仏教（2） 【第10回】 近世社会と仏教（3） 【第11回】 過去帳の成立と展開 【第12回】 日本仏教の歴史資料②－将軍家と庶民の仏－ ※オンライン授業で実施 【第13回】 仏教の学問・知識								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017年								
指定図書	『日本仏教史 近世』圭室文雄（吉川弘文館）1987年、『事典 日本の仏教』養輪顕量編（吉川弘文館）2014年、『日本仏教史』養輪顕量（春秋社）2015年、『仏教事典』日本佛教学会編（丸善出版）2021年								
参考書	『江戸の開帳』比留間尚（吉川弘文館）1980年、『近世開帳の研究』北村行遠（名著出版）1989年、『葬式仏教』圭室諦成（大法輪閣）2004年オンデマンド版								
教員からのお知らせ	教科書を講読しながら授業を進めますので、教科書を必ず用意してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105190	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員	安 中 尚 史	開 講 期	第 2 期
科 目 名	日本仏教史特論4／日本仏教史2								
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	紀元前6世紀頃にインドで興った仏教は、西域をへて中国に拡大し、その後、朝鮮半島から日本海を渡って日本に到来したのは6世紀のことです。以来、仏教は日本人の思想や行動、文化に多大な影響を及ぼすこととなりました。								
	この授業は、日本に仏教が伝来し、その後、国家的に受け入れられ、定着を果たし、さらに新たな展開がみられた近代についての考察を目的とします。								
到 達 目 標	近代における日本仏教の歴史的な展開について、その基本知識と正しい理解の修得を目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、各時代の日本仏教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授 業 計 画	【第1回】 前近代における仏教の展開1 【第2回】 前近代における仏教の展開2 【第3回】 前近代における仏教の展開3 【第4回】 前近代における仏教の展開4 【第5回】 廃仏毀釈の様相1 【第6回】 廃仏毀釈の様相2 【第7回】 仏教の近代化1 【第8回】 仏教の近代化2 【第9回】 仏教の近代化3 【第10回】 仏教と戦争 【第11回】 仏教の海外進出 【第12回】 仏教と教育 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30％、期末試験70％で評価します。								
フィードバックの内容									
教 科 書	プリントを配布します								
指 定 図 書									
参 考 書	『日本仏教史』辻善之助（岩波書店）1944～1953、『論集日本仏教史』（雄山閣）1986～1999、『日本仏教史』（吉川弘文館）1986～1998、『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』末本文美士（新潮社）1992								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A1116700	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教文献演習 1／史料演習 3					戸田 教敏		第 1 期	
履修前条件					備考				
授業の目的	室町時代に京都を中心として活躍した久遠成院日親（1407-1488）は、その生涯を通じて日蓮聖人の教えを厳格に守るべきことを力説し、周辺からの激しい迫害を蒙りながら、命がけの伝道を展開した著名な僧侶である。この日親の代表的著作の一つに『伝灯鈔』と称する文献史料がある。本書は、その題号が示すように、日蓮聖人滅後における法灯の伝統を論じたものであり、14～15世紀の日蓮教団の動向を窺う上で貴重な文献史料である。本授業では、この『伝灯鈔』の講読を通じて、中世日蓮教団の展開の一端を繙いていく。								
到達目標	室町時代に成立した『伝灯鈔』の講読を通じて、文献史料の読解力を向上させるとともに、日親の行跡と中世日蓮教団の展開を理解し、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第 1 回】ガイダンス					【第 8 回】『伝灯鈔』講読（ 3 ）			
	【第 2 回】室町時代における日蓮教団の展開					【第 9 回】『伝灯鈔』講読（ 4 ）			
	【第 3 回】日親の生涯（ 1 ）					【第10回】『伝灯鈔』講読（ 5 ）			
	【第 4 回】日親の生涯（ 2 ）					【第11回】『伝灯鈔』講読（ 6 ）			
	【第 5 回】『伝灯鈔』の書誌					【第12回】『伝灯鈔』講読（ 7 ）			
	【第 6 回】『伝灯鈔』講読（ 1 ）					【第13回】『伝灯鈔』講読（ 8 ）			
	【第 7 回】『伝灯鈔』講読（ 2 ）								
成績評価の方法	期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書									
指定図書	『日蓮宗宗学全書 第18巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）1959年、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日親－その行動と思想－』中尾堯（評論社）1971年、『反骨の導師 日親・日奥』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年								
参考書	『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（日蓮宗宗務院）1981年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『シリーズ日蓮 3 日蓮教団の成立と展開』小松邦彰・花野充道編（春秋社）2015年								
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。「日本仏教文献演習 2／史料演習 4」とともに受講することを希望します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また E メールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1116800	授業形態	演習	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	日本仏教文献演習2／史料演習4					戸田 教敏		第2期	
履修前条件						備 考			
授業の目的	室町時代に京都を中心として活躍した久遠成院日親（1407-1488）は、その生涯を通じて日蓮聖人の教えを厳格に守るべきことを力説し、周辺からの激しい迫害を蒙りながら、命がけの伝道を展開した著名な僧侶である。この日親の代表的著作の一つに『伝灯鈔』と称する文献史料がある。本書は、その題号が示すように、日蓮聖人滅後における法灯の伝統を論じたものであり、14～15世紀の日蓮教団の動向を窺う上で貴重な文献史料である。本授業では、この『伝灯鈔』の講読を通じて、中世日蓮教団の展開の一端を繙いていく。								
到達目標	室町時代に成立した『伝灯鈔』の講読を通じて、文献史料の読解力を向上させるとともに、日親の行跡と中世日蓮教団の展開を理解し、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】ガイダンス 【第2回】『伝灯鈔』講読（1） 【第3回】『伝灯鈔』講読（2） 【第4回】『伝灯鈔』講読（3） 【第5回】『伝灯鈔』講読（4） 【第6回】『伝灯鈔』講読（5） 【第7回】『伝灯鈔』講読（6） 【第8回】『伝灯鈔』講読（7） 【第9回】『伝灯鈔』講読（8） 【第10回】『伝灯鈔』講読（9） 【第11回】『伝灯鈔』講読（10） 【第12回】『伝灯鈔』講読（11） 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	期末レポート（50％）、授業への取り組み姿勢（50％）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教 科 書									
指 定 図 書	『日蓮宗宗学全書 第18巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）1959年、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日親－その行動と思想－』中尾堯（評論社）1971年、『反骨の導師 日親・日奥』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年								
参 考 書	『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（日蓮宗宗務院）1981年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『シリーズ日蓮3 日蓮教団の成立と展開』小松邦彰・花野充道編（春秋社）2015年								
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業内に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。「日本仏教文献演習1／史料演習3」の受講を前提に授業を進めるので、連続して受講することを希望します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A0115350	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	日本文化史特講 1					田村 亘禰	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業は、ただ単に、伝統的な文化の価値を説くことに限定するものではない。過去の伝統的な文化であっても、それらはすべて歴史上のある時期に生み出されたものであり、常に変化しながら現代に受け継がれてきたものであることを、それが創り出された初めに立ち返って把握することを目的とする。						
到達目標	日本文化の概略を他者に話して聞かせることができる。特に仏教と日本文化の融合について説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。読み方や意味の分からない用語について、あらかじめ調べておくこと。各回の授業後に復習を行い、内容を深く理解すること。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】「日本」とは 【第3回】「文化」と「文明」 【第4回】日本文化の基層 【第5回】日本の心情 【第6回】伝統芸能 【第7回】茶の湯 【第8回】音楽文化 【第9回】信仰と宗教 【第10回】日本的仏教 【第11回】寺院と寺社 【第12回】神道 【第13回】自然観、まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（期末レポート等）60%で評価します。						
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行います。						
教科書	『日本文化入門』板垣俊一（武蔵野書院）2016年						
指定図書	『日本文化史研究（上）』内藤湖南（講談社）1976年、『日本文化史研究（下）』内藤湖南（講談社）1976年、『日本文化の形成』宮本常一（そしえて）1981年						
参考書	『日本文化の核心』松岡正剛（講談社）2020年、『菊と刀』ルース・ベネディクト著／長谷川松治訳（講談社）2005年						
教員からのお知らせ	テキストについては、教場で指示する。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0115400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	日本文化史特講2／宗教文化史概論					松野 智章		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義では、日本文化史・宗教文化史において、重要な視点であるにも関わらず、あまり注目されない「戦争」について取り上げる。見方によっては戦争こそ、その国の国民性・特徴が表れるものである。また、中世以前の戦闘については根拠となる資料が乏しく歴史学者の間でも見直しの作業が進んでいる。戦国時代の合戦も TV や映画の影響が強く想像の部分も多い。一度、検証的に「戦争」と向き合う必要がある。								
到達目標	1 歴史を批判的にみる目を養う。 2 自分自身で考える力を養う。 3 日本人が関わった戦争史を理解することができる。 4 日本における宗教戦争史を理解することができる。 5 戦争を学ぶことの意義を理解することができる。 6 武器・兵器を詳しく理解できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	予習はしなくて良いので、復習を行うこと。 授業外学習に60時間以上を使うこと。 批判の対象となる戦争映画・時代劇などを観るのも良い。								
授業計画	【第1回】戦争を通して日本文化史や宗教文化史を学ぶ意義について 【第2回】古代の戦争を考える。 【第3回】中世の戦争を考える。 【第4回】戦国時代の戦争を検証する。 【第5回】仏教と僧兵・一向一揆を考察する。 【第6回】鉄砲伝来と戦場の変化を検証する。 【第7回】江戸時代と武士道について考察する。 【第8回】幕末・明治初頭の戦争について。 【第9回】日清戦争について。 【第10回】日露戦争について。 【第11回】大東亜戦争・陸軍の戦いについて。 【第12回】大東亜戦争・海軍の戦いについて。 【第13回】自衛隊について。								
成績評価の方法	授業参加度60％ 学期末レポート40％								
フィードバックの内容	毎週リアクションペーパーにて質問を受け付ける。翌週に、その回答を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『戦国技術の歴史5 東洋編』マイケル・E. ハスキュー他（創元社）2016、『長篠合戦 鉄砲戦の虚像と実像』金子拓（中央公論新社）2023、『城郭考古学の冒険』千田嘉博（幻冬舎）2021、『武器』ダイヤグラムグループ 編（マール社）1982、『機関銃の社会史』ジョン・エリス（平凡社）2008、『軍事学入門』防衛大学校・防衛学研究会 編（かや書房）1999								
教員からのお知らせ	やる気があれば十分です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	1 時間半の授業時間が、アクティブラーニングを踏まえて1 時間45分となりました。何が必要なのかは、試行錯誤しながらになるかと思います。基本的なことは、「調べる」「想像する」「話し合う」ということ以外にないと思われます。授業にどのように組み込むのかはその状況に合わせて判断します。								
実践的な教育内容									
その他									

な

講義コード	11A0115050	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	日本文化特講 1					田村 亘禰		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	私たちが多種多様な日本独自の文化を理解しておくことは、日本人としてのアイデンティティを保有することである。また、その日本文化が深く仏教文化とつながっていることも知っておくべきである。この授業が、国際化が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティの構築の一助となれば幸いである。								
到達目標	日本文化の概略、特色などを他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後に事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授 業 計 画	【第1回】 歌舞伎、能・狂言 【第2回】 文楽、雅楽、落語 【第3回】 陶芸、漆芸 【第4回】 染織、竹工芸 【第5回】 和紙、茶道 【第6回】 いけばな、香道 【第7回】 邦楽、囲碁・将棋 【第8回】 日本絵画、浮世絵 【第9回】 仏像、日本庭園 【第10回】 書、正月 【第11回】 節分、ひな祭り 【第12回】 お花見、端午の節句 【第13回】 七夕、お盆（盂蘭盆会）								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢20%、小テスト20%、期末レポート60%で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行います。								
教科書	『日本文化ビジュアル解体新書』山本素子（SBクリエイティブ株式会社）2019年								
指定図書	『日本文化史 第二版』家永三郎（岩波書店）1982年、『日本文化史講義』大隅和雄（吉川弘文館）2017年、『日本文化の歴史』尾藤正英（岩波書店）2000年、『日本文化史ハンドブック』阿部猛・西垣晴次編（東京堂出版）2002年								
参考書	『日本文化における時間と空間』加藤周一（岩波書店）2007年、『武士道』新渡戸稲造著／岬龍一郎訳（PHP 研究所）2005年								
教員からのお知らせ	授業に集中すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0115100	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員	開 講 期
科 目 名	日本文化特講2／宗教の文化					松野 智章	第2期
履修前提条件					備 考		
授 業 の 目 的	日本文化を理解するために「神道とは何か」を理解することを目的とする。神道が日本文化の全てではないが、仏教と共に、日本文化の主要な軸であることに間違いない。神道のものの見方、生活の中の神道、神道の歴史、天皇と神道、靖国神社問題、アニメと神道など、多岐にわたるトピックを横断しながら、神道の全体像を捉え、神道を理解できるようにする。						
到 達 目 標	1 お祭りとは何かを理解できるようになる。 2 天皇とは何かを理解できるようになる。 3 神道とナショナリズムについて理解出来るようになる。 4 靖国問題に対して自分なりの意見が持てるようになる。 5 神道と他宗教の違いを理解出来るようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	予習はしなくて良いので、復習を行うこと。 また、実際に、神社のお祭りに見学に行ってみるとより理解することが出来る。 授業外学習に60時間以上を使うこと。						
授 業 計 画	【第1回】民族宗教としての神道 【第2回】年中行事と人生儀礼 【第3回】神職とは何か？祭とは何か？ 【第4回】神社とは何か？ 【第5回】天皇とは何か？ 【第6回】日本神話とは何か？ 【第7回】古代の神道 【第8回】中世の神道 【第9回】近世の神道 【第10回】近代の神道 【第11回】国家神道とは何か？ 【第12回】戦後の神道 【第13回】靖国問題について						
成績評価の方法	授業参加度60％ 学期末レポート40％						
フィードバックの内容	毎週リアクションペーパーにて質問を受け付ける。翌週に、その回答を行う。						
教 科 書							
指 定 図 書							
参 考 書	『教養としての神道－生きのびる神々』島蘭進（東洋経済新報社）2022/ 5 /13、『プレステップ神道学』國學院大學神道文化学部（弘文堂）2023/ 2 /22、『神道の逆襲』菅野 覚明（講談社現代新書）2001/ 6 /20						
教員からのお知らせ	やる気があれば十分です。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
そ の 他							

講義コード	11A2117400	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	パーリ語入門					藪内 聡子		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講座では、パーリ語文法の基本を学修します。 南方上座部所伝であるパーリ語で伝承された三蔵は、初期に成立した仏典の中で今日最も完全な形で残存しているもので、仏教研究のいずれの領域においても、源流をたどるために参照すべきものとされます。またスリランカや、ミャンマー、タイ、カンボジアといった東南アジアの国々で普及している上座仏教は、現在もこれらの仏典に依拠しています。さらに史書もパーリ語で伝承されています。パーリ語文法を学修することで、パーリ語の原典を読解する力を身につけましょう。								
到達目標	1. パーリ語の初歩の文法事項を理解する。 2. 辞書を使用しながらパーリ文を日本語に訳すことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	文法書をよく読むこと。また授業で扱ったパーリ文について、必ず辞書をひいて文法的に説明できるようにすること。復習を徹底してください。この科目では、計60時間以上の授業外学修が必要です。								
授 業 計 画	【第1回】パーリ語とは・音韻論 【第2回】名詞、形容詞の曲用 【第3回】代名詞・数詞の曲用 【第4回】曲用のまとめ 【第5回】動詞の活用：直接法① 【第6回】動詞の活用：直接法② 【第7回】動詞の活用：命令法・願望法・条件法 【第8回】動詞の活用：受動動詞・使役動詞・名動詞 【第9回】分詞・連続体・不定体 【第10回】不変語・合成語 【第11回】文章論 【第12回】動詞全体のまとめ 【第13回】文法全体のまとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（授業内課題提出 70%）、期末試験（持ち込み可 30%）で評価します。辞書を使用するかまいませんので、パーリ文を日本語に訳す試験をおこないます。								
フィードバックの内容	毎回の授業において、前半は教科書（文法書・辞書）を用いて文法事項を説明し、後半は練習問題をおこないます。提出物は添削して翌週返却します。								
教 科 書	『パーリ語文法』水野弘元（山喜房佛書林）1955、『増補改訂パーリ語辞典』水野弘元（春秋社）2005								
指 定 図 書	『The Pali Text Society's Pali-English Dictionary』T.W.Rhys Davids and William Stede (The Pali Text Society) 1921-1925、『Pali Reader and Pali Glossary』Dines Andersen (Asian Educational Services) 1901、『パーリ語文法』ショバ・ラニ・ダシュ（法蔵館）2021								
参 考 書	『新版パーリ語佛教辞典』雲井昭善（山喜房佛書林）2008、『パーリ仏教辞典』村上真完・及川真介（春秋社）2009								
教員からのお知らせ	授業には、文法書、辞書を必ず持参してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業時間前後に受け付けます。その他の連絡手段につきましては、授業内でお伝えします。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
そ の 他	他に必要な参考文献は、授業にて適宜紹介します。								

講義コード	11A2117800	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	比較思想論／比較思想論 1					有賀 弘紀		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	日本における比較思想論研究の発端には、文化圏同士の交流が盛んになったという時代要因があります。そして、交流は多様化し身近なものになってきていますが、突然の対話断絶が生み出されかねない状況も一方では生じています。そこで、様々な思想に接し、思想史的な位置づけを確認し、比較思想の軌跡を知り、その意味を問うことにより、諸文化の共存と共生を可能とするあり方を自ら考えることを目的とします。								
到達目標	様々な思想が様々な時代に様々な地域に生まれ、また、発展してきたことを文献に基づいて知り、世界の思想の潮流・傾向を理解し、その特質を把握することができる。思想の背景に留意し、その影響を思想史の視点から見るることができる。思想を扱う上での方法論の重要性を理解し、自ら試行することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	配布資料に予め目を通し、参考図書を参照し、関連文献の当該箇所の理解に努め、その理解内容を表現できるよう、予習・復習を合わせて毎回4時間以上、計60時間以上となるように行うこと。								
授業計画	【第1回】「比較思想論」について 【第2回】「比較思想論の発展」について考える 【第3回】「東洋人の思惟方法」から考える 1 【第4回】「東洋人の思惟方法」から考える 2 【第5回】「東洋人の思惟方法」から考える 3 【第6回】「東洋人の思惟方法」から考える 4 【第7回】「東西文明論」について 1					【第8回】「東西文明論」について 2 【第9回】「西洋思想からみた東洋思想」1 【第10回】「西洋思想からみた東洋思想」2 【第11回】「西洋思想からみた東洋思想」3 【第12回】「比較思想論」の議論再考 【第13回】「比較思想研究」の実際・まとめ			
	○ 第1回では、授業計画の内容と資料配布、小レポートについての補足説明をした後、「比較思想論」の概論を行います。								
成績評価の方法	学期末試験（30％）、授業への取り組み姿勢（小レポート、原則として講義内容のまとめり（授業計画の区分）ごとに1回、教室またはネットを通して提出の予定）（70％）により評価する。								
フィードバックの内容	小レポートについての講評とそれに関連する要点への言及を授業時間内におこなう。								
教科書									
指定図書									
参考書	『比較思想論』中村元（岩波書店）1960（2005）、『比較思想の軌跡』中村元（東京書籍）1993、『決定版中村元選集別巻1 世界思想史1』中村元（春秋社）1998、『決定版中村元選集別巻2 世界思想史2』中村元（春秋社）1999、『決定版中村元選集別巻3 世界思想史3』中村元（春秋社）1999、『決定版中村元選集別巻4 世界思想史4』中村元（春秋社）1999、『比較思想事典』峰島旭雄編（東京書籍）2000、『比較思想序論（増補版）』三枝充憲（春秋社）1994								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で受け付けます。また、小レポート提出時に記載することも可とします。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

は

講義コード	11A2118200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	比較文化特講／比較文化特講Ⅰ					佐野 靖夫		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では《東洋》《西洋》あるいは《現代》として知られる諸思想と仏教の特徴を中心に比較考察し、比較文化の観点から各文化を成立させている思想の深奥を探ることを目的とします。そして世界の思想と宗教の種々相を紹介しながら、現代を取り巻く諸問題を考えるヒントを模索します。古典思想から出発し、近現代をリードする思想、存在・時間論、社会論、運命論、死生観、人間観等の視点から様々な位相の仏教と比較を試みます。								
到達目標	各思想と仏教を比較考察することにより、現代における様々な思想的・歴史的問題点への寄与ができること、また、リアクションペーパー・パネルディスカッション形式の授業を取り入れることにより、自己意見の有効な表現手法の習得を目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学習時間は60時間以上を行うこと。自分のテーマに即した授業外学習が必要となります。興味を持った分野、思想家たちの著作を一冊でも多く手に取ることを薦めます。								
授業計画	【第1回】東洋とは・西洋とは！？ ——比較文化へのプロムナード、授業方法の説明 【第2回】古代オリエントとケルトの宗教 【第3回】ギリシア自然哲学、プラトン・アリストテレス 【第4回】ユダヤ教・キリスト教・イスラーム 【第5回】イスラームⅡ、現代過激原理主義 【第6回】戦争Ⅰ——靖国神社と日本型ファシズム 【第7回】戦争Ⅱ——ゲルマン神話 【第8回】恋愛——中国恋物語と西洋騎士道 【第9回】魔女裁判とグノーシス、万物斉同 【第10回】儒教と成立道教 【第11回】ヒンドゥ教とブッタロード 【第12回】憑依憑霊現象 ——『死霊解脱物語聞書』（怪談累ヶ淵） 【第13回】パネルディスカッション								
成績評価の方法	レポート50%、リアクションペーパー参加点及び授業への取り組み姿勢50%、原則としてリアクションペーパー・パネルディスカッション未参加のものは試験を受けなかったものと同等にみなしますのでご注意ください。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーにより、フィードバックを原則翌週授業内にて行う。								
教科書	授業中に適宜提示する。								
指定図書	授業中に適宜提示する。								
参考書	『世界宗教史 Ⅰ～Ⅷ』ミルチア・エリアーデ著、中村恭子訳（ちくま学芸文庫）2000、『ヒンドゥー教と仏教』マックス・ウェーバー、深沢宏訳（日貿出版社）1983、『ニーチェ全集 Ⅰ 古典ギリシアの精神』ニーチェ著、戸塚七郎、泉治典、上妻精訳（ちくま学芸文庫）1994、『知の考古学』M・フーコー著、中村雄二郎訳（河出書房新社）2006、『不完全性定理』ゲーデル著、林晋、八杉満利子訳（岩波文庫 青944-Ⅰ）2006								
教員からのお知らせ	自分の力で問題設定ができるよう、限界や壁をつくらぬ柔軟な好奇心を磨いて欲しい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また LMS のメッセージ機能にても受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、意見共有、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	テキスト等参考資料は授業にさいして適宜指示します。								

講義コード	11A0114200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員		開 講 期	
科 目 名	仏教カウンセリング					遠藤 みゆき	第1期		
履修前提条件					備 考				
授 業 の 目 的	寺院にはさまざまな悩みや苦しみを抱えた来訪者が、その悩みの解決や癒しを求めてやってくる。この講義では、人の苦悩をどう理解するか、そして実際に仏教者として悩みを訴える人にどう応じるのか、について仏教カウンセリングの視点から講義する。また、人を苦しみから解放しようとする人が集まっているにも関わらず、カルト化した会に所属する人の心理やそこから脱会した後の支援についても説明する。								
到 達 目 標	受講することにより、実際に寺院にて仏教者として相談を受けるときの心構えを身につけ、また相談に関する基礎知識を説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、授業内容の復習を行うこと。								
授 業 計 画	【第1回】 仏教カウンセリングの理念 【第2回】 相談員の倫理と心構え 【第3回】 相談員の基本対応 【第4回】 相談対応1（精神症状がある場合） 【第5回】 相談対応2（児童虐待・発達障害など） 【第6回】 仏教カウンセリング1（マインドフルネス） 【第7回】 仏教カウンセリング2（唯識とユング心理学） 【第8回】 仏教カウンセリング3（森田療法と内観法） 【第9回】 仏教カウンセリング4（トラウマインフォームドケア） 【第10回】 カルトへの対応1（カルトの問題と対策） 【第11回】 カルトへの対応2（カルト勧誘と入信者の心理） 【第12回】 カルトへの対応3（脱会後カウンセリング） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢25%、小テスト50%、レポート25%で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、ポータルサイト内の掲示板等で対応します。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容	現役カウンセラーがカウンセリング技術の基本を理解させる。								
そ の 他									

講義コード	11A0100100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教学演習基礎 1					庄司 史生	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教学部における学びの多様性について講義するとともに、受講者が自らが関心を抱いた事柄について意見を交換することで、各自の研究テーマを見つけ出すことを目的とする。						
到達目標	「仏教学」や「宗学」という仏教学部における学びの特色を理解し、その時点での自らの研究テーマを決定し、その意義を他者に対して説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】「仏教学」とは何か（仏教学概説） 【第2回】仏教ではどのような言語が用いられているのか（仏教聖典語概説） 【第3回】仏教聖典とはどのようなものか（仏教聖典概説） 【第4回】仏教はインド・スリランカ・東南アジアでどのように展開したのか（南アジア・東南アジア仏教史概説） 【第5回】仏教はどのようにして中国に伝えられ、展開したのか（東アジア仏教史概説①） 【第6回】仏教はどのようにして日本に伝えられ展開したのか（〃〃②） 【第7回】仏教はチベットでどのように展開したのか（内陸アジア仏教史概説） 【第8回】仏教芸術・仏像はどのように展開したのか（仏教芸術・仏像史概説） 【第9回】何のために「比較」するのか（比較文化（学）概説） 【第10回】『法華経』とはどのようなものか（法華経概説） 【第11回】日蓮聖人の思想と行動とは（日蓮聖人伝） 【第12回】日蓮宗はどのように展開したのか（日蓮宗教団史） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価する。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館）佛教史学会〔編〕						
教員からのお知らせ	使用する「教科書」をはじめ、必要な資料は授業内で配布します。購入する必要はありません。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0100200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教学演習基礎 2					庄司 史生	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教の人間社会における存在意義と可能性について、身近な、もしくは現代的な題材を用い、教室内での議論を通じて気づかせることを目的とする。						
到達目標	1）宗教（仏教）に対する自らの考え方をまとめ、説明することができる。 2）宗教（仏教）に対する他者の考え方を受けとめ、自らの考え方との同異を比較し、論理的に分析・説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】「宗教」「仏教」とは何か 【第3回】「仏教学」「宗学」とは何か 【第4回】仏教的なものの見方を理解する①：私たちは何故ここにいるのか（業・輪廻・解脱） 【第5回】〃〃②：私たちはどのようにして成り立っているのか（五蘊・十二処・十八界） 【第6回】〃〃③：世界はどのようにして生じたのか（十二縁起） 【第7回】〃〃④：偏見や差別をなくすことは可能か（中道） 【第8回】〃〃⑤：現状を変えることは可能か（四諦八正道） 【第9回】〃〃⑥：仏教は死をどのようにとらえているのか（キサーゴータミーの逸話） 【第10回】〃〃⑦：仏教は自死をどのようにとらえているのか（チャンナ等仏弟子らの逸話） 【第11回】〃〃⑧：仏教は世界をどのようにとらえているのか（ブッダの生涯と瞑想） 【第12回】〃〃⑨：何がないのか（空） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会〔編〕（法蔵館）2017						
教員からのお知らせ	使用する資料等は毎回授業内で配布します。 この授業は、仏教学部の学びへの入り口となるものです。みなさんとともに、いろいろと考えていきたいと思います。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 ／演習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A010360D	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	仏教学概論Ⅰ					庄司 史生		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教思想の発展とその歴史的展開について講義する。仏教思想が有する普遍性とその歴史にみる仏教の多様性について理解することを目的とする。								
到達目標	仏教思想がいかに発展し、それがどのように歴史的に展開したかを理解し、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べること。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】ブッダの生涯 【第3回】拡散していた仏説の集約、教団内における共有化 【第4回】教団の分裂と諸法の体系化、アビダルマ仏説論の展開 【第5回】新たな「経」の出現と浸透（初期大乘經典） 1 【第6回】 〃 2 【第7回】伝統的教説に基づく空思想の理論化と「大乘」の擁護 【第8回】大乘非仏説・仏説論の展開（中期大乘經典） 【第9回】上座部大寺派教学の大成 【第10回】瑜伽行派と中観派の興隆と仏教論理学の勃興（後期大乘經典） 【第11回】部派からの大乘批判、そして大乘から密教へ 【第12回】後期インド仏教の発展と衰退 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	平常点60％（授業への取り組み姿勢30％＋毎回の課題提出30％）と学期末の課題提出40％により成績を評価します。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017、『仏典解題事典（第三版）』斎藤明〔ほか〕編（春秋社）2020、『岩波仏教辞典（第三版）』中村元〔ほか〕編集（岩波書店）2023								
教員からのお知らせ	使用する資料等は毎回授業内で配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0103700	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教学概論2					庄司 史生	第2期
履修前提条件						備考	
授業の目的	仏教史上における主要人物の事績とその作品について講義する。アジア各地に伝播し展開した仏教の普遍性と多様性について、主要人物をてがかりとして理解することを目的とする。						
到達目標	仏教史上においていかなる人物がどのような作品を生み出したかを理解し、説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】ブッダ 【第3回】馬鳴と龍樹 【第4回】無著と世親 【第5回】法顕と鳩摩羅什 【第6回】ブッダゴーサ 【第7回】智顗と吉蔵 【第8回】聖徳太子 【第9回】玄奘と法蔵 【第10回】最澄と空海 【第11回】法然と日蓮 【第12回】ツォンカバ 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	平常点60％（授業への取り組み姿勢30％＋毎回の課題提出30％）と学期末の課題提出40％により成績を評価する。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017、『仏典解題事典（第三版）』斎藤明〔ほか〕編（春秋社）2020、『岩波仏教辞典（第三版）』中村元〔ほか〕編集（岩波書店）2023						
教員からのお知らせ	必要な資料は授業内で配布します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2118500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教考古学研究Ⅱ					池上 悟	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	各時代の墓所に造立された墓石は、時代性を反映する歴史資料である。江戸時代に幕藩体制の確立により安定した社会では、身分階層に従って種々な墓石が造営されている。徳川将軍家、大名家には独自の墓石が認められ、旗本、大名家臣墓石は、それぞれの規制に従って造立されている。明治維新後には社会体制の変革により墓地は様変わりしており、墓石もまた新様相が確認できる。						
到達目標	歴史資料としての各時代の墓石の特徴を把握することにより、社会体制の変革を確認することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 将軍家墓所 【第2回】 仏式、儒葬、神葬墓地 【第3回】 大名墓所・仙台藩 【第4回】 大名墓所・土井家 【第5回】 大名墓所・尾張藩 【第6回】 大名墓所・秋元家 【第7回】 大名墓所・越智松平家 【第9回】 大名墓所・水戸藩 【第8回】 大名墓所・鳥取藩・津和野藩 【第10回】 戊辰戦役・官修墓 【第11回】 西南戦役墓石 【第12回】 明治華族の墓所 【第13回】 陸海軍墓地						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、期末試験70%						
フィードバックの内容	前回授業の内容を、次回授業冒頭で確認する。						
教科書							
指定図書							
参考書	『近世墓石論攷』池上 悟（カドカワ出版）2021						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1116400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教古文書演習／日蓮遺文研究Ⅱ					寺尾 英智	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	日蓮教団史を研究するためには、古文書をはじめとする史料を解読することが必要である。古文書の中には活字本として刊行されていないものもあり、「くずし字」で書かれた古文書の原本を判読することが必要になる場合も多い。そこで、仏教古文書解読のための入門として、日蓮聖人真蹟書状を写真版（コピー）によって講読する。漢字仮名交じり文の書状を取り上げ、二紙程度の短文の書状から長文の書状へと順次講読する。						
到達目標	仏教古文書の一つとして、日蓮聖人真蹟の書状（漢字仮名混じり文）が判読できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修をおこなうこと。テキストで使用される用語の意味を調べ、理解できるようにすること。テキストごとに指示した課題を作成し、翌週の授業にて提出すること。						
授業計画	【第1回】 料紙の使用法と書状の特徴 【第2回】 真蹟書状『富木殿御書』（2紙、『昭和定本日蓮聖人遺文』809頁）の講読 【第3回】 『富城殿女房尼御前御書』（2紙、同1710頁）の講読（その1） 【第4回】 同上（その2） 【第5回】 『土木殿御返事』（2紙、同503頁）の講読（その1） 【第6回】 同上（その2） 【第7回】 『止観第五之事御消息』（2紙、同459頁）の講読（その1） 【第8回】 同上（その2） 【第9回】 『富木殿御返事』（4紙、同860頁）の講読（その1） 【第10回】 同上（その2） 【第11回】 同上（その3） 【第12回】 同上（その4） 【第13回】 まとめ						
成績評価の方法	学期末レポート50%、提出課題30%、授業への取り組み姿勢20%						
フィードバックの内容	提出課題に対する 講評を翌週 授業内にて行う。						
教科書	プリント配布						
指定図書	『日蓮聖人真蹟集成』（法蔵館）、『日蓮大聖人御真蹟対照録』立正安国会編（立正安国会）、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）、『仏教古文書字典』川澄 勲編（山喜房佛書林）、『日蓮聖人書体字典』松本 慈恵編（国書刊行会）、『日蓮聖人全集』渡邊實陽他編（春秋社）1992～						
参考書	『日蓮聖人真蹟の世界』山中 喜八（雄山閣）、『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』寺尾 英智（雄山閣）、『ご真蹟にふれる』中尾 堯（日蓮宗新聞社）、『日蓮聖人遺文辞典（歴史篇）』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）、『日蓮聖人遺文辞典（教学篇）』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）、『日蓮聖人御真蹟選集 1～5』（日蓮宗東京西部教化センター）2008～						
教員からのお知らせ	講読にあたっては受講生を順次指名するので、積極的な予習が望まれる。講読のテキスト、並びに順序は変更する場合もある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	仏教書誌学研究／日蓮遺文研究Ⅰを共に受講することが望ましい。						

講義コード	11A0106400	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教史特講 1					中井 本勝	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	本講義では、梁の僧祐（445-518）によって編纂された『弘明集』所収の資料の読解を通じて、中国における仏教の受容・理解や、他宗教からの批判などについて説明する。						
到達目標	中国における当時の人々の仏教の理解および他宗教から仏教がどのように批判されていたかについて、説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味の分からない用語については、あらかじめ調べておくことが望ましい。						
授業計画	【第1回】授業の概要説明、中国仏教史概観 【第2回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（1） 【第3回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（2） 【第4回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（3） 【第5回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（4） 【第6回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（5） 【第7回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（6） 【第8回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（7） 【第9回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（8） 【第10回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（9） 【第11回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（10） 【第12回】『弘明集』所収『理惑論』（前半）を読む（11） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（課題提出）（60％）、学期末試験もしくは学期末レポート（40％）により総合評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	適宜、配布する。						
指定図書	『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝』沖本克己編（佼成出版社）2010、『新アジア仏教史07 中国Ⅱ 隋唐』沖本克己編（佼成出版社）2010						
参考書	『大乘仏典〈中国・日本篇〉4 弘明集・広弘明集』吉川忠夫（中央公論社）1988、『出三蔵記集序巻訳注』中嶋隆藏（平楽寺書店）1997、『六朝期における仏教受容の研究』遠藤祐介（白帝社）2014、『唐・南山道宣著作序文訳註』大内文雄（法蔵館）2019、『六朝隋唐仏教展開史』船山徹（法蔵館）2019						
教員からのお知らせ	①本講義は、学問的に専門的なことを扱うため、ある程度の仏教知識が必要とされます。よって、基礎的な仏教知識を得た上、思想的な問題意識を持って受講してください。 ②4回以上、欠席あるいは課題が未提出であった場合、単位は修得できません。 ③10分以上遅刻の場合は、出席にはなりません。 ④特別な理由なく教室を途中退出することは不可とします。（退出後、不当に長時間戻ってこなかった場合、出席にはなりません。） ⑤よくわからないことがある場合は、必ず自主的に質問をしてください。可能な範囲内でお答えします。 ⑥課題や学期末試験もしくは学期末レポート等は自分で考えた意見を書いてもらいます。ネット記事や論文から一部分でも「貼り付け」（コピー＆ペースト）をした場合や、ChatGPT等のAIを使った場合、評価は0点となります。 ⑦課題や学期末試験もしくは学期末レポートの記述内容が、十分な姿勢で取り組んでいないと教員が判断した場合、評価は0点となります。 ⑧上記の内容について、「シラバスを読んでいなかった」・「知らなかった」という主張は通じませんので、必ず通読し、理解をしておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他	【注意】本講義は、考えることを要求される。自分の頭脳を使って考え、自分の言葉で語れるようになってください。						

講義コード	11A0106500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教史特講2					中井 本勝	第2期
履修前条件						備考	
授業の目的	本講義では、梁の僧祐（445-518）によって編纂された『弘明集』所収の資料の読解を通じて、中国における仏教の受容・理解や、他宗教からの批判などについて説明する。						
到達目標	中国における当時の人々の仏教の理解および他宗教から仏教がどのように批判されていたかについて、説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味の分からない用語については、あらかじめ調べておくことが望ましい。						
授業計画	【第1回】授業の概要説明、中国仏教史概観 【第2回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（1） 【第3回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（2） 【第4回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（3） 【第5回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（4） 【第6回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（5） 【第7回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（6） 【第8回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（7） 【第9回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（8） 【第10回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（9） 【第11回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（10） 【第12回】『弘明集』所収『理惑論』（後半）を読む（11） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（課題提出）（60％）、学期末試験もしくは学期末レポート（40％）により総合評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	適宜、配布する。						
指定図書	『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝』沖本克己編（佼成出版社）2010、『新アジア仏教史07 中国Ⅱ 隋唐』沖本克己編（佼成出版社）2010						
参考書	『大乘仏典〈中国・日本篇〉4 弘明集・広弘明集』吉川忠夫（中央公論社）1988、『出三蔵記集序巻訳注』中嶋隆藏（平楽寺書店）1997、『六朝期における仏教受容の研究』遠藤祐介（白帝社）2014、『唐・南山道宣著作序文訳註』大内文雄（法蔵館）2019、『六朝隋唐仏教展開史』船山徹（法蔵館）2019						
教員からのお知らせ	①本講義は、学問的に専門的なことを扱うため、ある程度の仏教知識が必要とされます。よって、基礎的な仏教知識を得た上、思想的な問題意識を持って受講してください。 ②4回以上、欠席あるいは課題が未提出であった場合、単位は修得できません。 ③10分以上遅刻の場合は、出席にはなりません。 ④特別な理由なく教室を途中退出することは不可とします。（退出後、不当に長時間戻ってこなかった場合、出席にはなりません。） ⑤よくわからないことがある場合は、必ず自主的に質問をしてください。可能な範囲内でお答えします。 ⑥課題や学期末試験もしくは学期末レポート等は自分で考えた意見を書いてもらいます。ネット記事や論文から一部分でも「貼り付け」（コピー＆ペースト）をした場合や、ChatGPT等のAIを使った場合、評価は0点となります。 ⑦課題や学期末試験もしくは学期末レポートの記述内容が、十分な姿勢で取り組んでいないと教員が判断した場合、評価は0点となります。 ⑧上記の内容について、「シラバスを読んでいなかった」・「知らなかった」という主張は通じませんので、必ず通読し、理解をしておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容							
その他	【注意】本講義は、考えることを要求される。自分の頭脳を使って考え、自分の言葉で語れるようになってください。						

は

講義コード	11A2106600	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教史特講3					金 炳坤	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	中国や日本、それからチベットなど、アジア諸国に対し少なくない影響を及ぼした「韓（朝鮮）半島における仏教——韓国（朝鮮・海東）仏教（Korean Buddhism）」の歴史的展開について概観し、その特質（Koreanized Buddhism）について理解することによって、東アジア仏教研究のための韓国仏教研究の当為性を認識すること。それが本授業の主眼とするところである。						
到達目標	（１）東アジア仏教の歴史と特質を学修し韓国仏教に対する理解を深めることができる。（２）受講者それぞれの研究意欲や課題設定のための視野を広げることができる。（３）卒業論文に向けた研究方法を習得し論文作成のためのスキルを高めることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	教育リソースに沿って進めていきますので、事前学修（２時間以上）では、授業計画を確認し、次の授業内容について調べておくようにしてください。事後学修（２時間以上）では、教育リソースを読み直し、次回に前回の「授業のまとめ」を提出できるようにしてください。						
授業計画	【第1回】授業略説、〈Ⅰ インド編〉第一講：釈尊の略伝と仏舎利のこと 【第2回】第二講：結集と経典のこと、第三講：仏教の区分と仏教伝播 【第3回】第四講：大乘仏教の興起と展開、第五講：インドにおける仏教美術の展開 【第4回】第六講：インドにおける仏教衰退／〈Ⅱ 中国編〉、第七講：インドから中国へ 【第5回】第八講：混乱期の僧侶の活躍、第九講：南北朝の仏教（その一）－漢族統治下の南朝仏教 【第6回】第十講：南北朝の仏教（その二）－胡族統治下の北朝仏教、第十一講：隋代の仏教－中国仏教の誕生 【第7回】第十二講：唐代の仏教（その一）－唐代仏教の隆盛、第十三講：唐代の仏教（その二）－唐代仏教の繁栄と衰退 【第8回】第十四講：五代・宋代の仏教、第十五講：遼・金・元代の仏教 【第9回】第十六講：明・清代の仏教、第十七講：近・現代の中国仏教 【第10回】〈Ⅲ 朝鮮編〉第十八講：朝鮮半島の固有信仰、第十九講：朝鮮半島三国の仏教受容 【第11回】第二十講：新羅仏教の展開、第二十一講：高麗仏教の展開 【第12回】第二十二講：李朝の仏教弾圧と仏教の社会浸透、第二十三講：近代朝鮮仏教の復興と影 【第13回】第二十四講：現代の韓国仏教、授業総説						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20％）、授業のまとめ（60％）、学期末レポート（20％）により総合評価します。						
フィードバックの内容	Google フォームで提出された「授業のまとめ」における質問等については、次の授業にて補説します。						
教科書	教育リソースを提供します。、『仏教伝来：朝鮮仏教史への入門（刊行予定）』福士慈稔（法蔵館）2025						
指定図書	『朝鮮仏教史』鎌田茂雄（講談社）2020、『東アジア仏教史』石井公成（岩波書店）2019						
参考書	『岩波仏教辞典（第3版）』中村元〔ほか〕編集（岩波書店）2023、『仏典解題事典（第3版）』斎藤明〔ほか〕編（春秋社）2020						
教員からのお知らせ	仏教系大学における教員歴14年。立正大学仏教学部出身として、学業全般に関するあらゆる相談に応じていきます。隔年開講となりますので、この機会を逃さないようにしてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容							
その他	世界の言語と文化〔ハングル〕（第1期、月曜日、1時限）と連続で受講することを薦めます。						

講義コード	11A1116300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教書誌学研究／日蓮遺文研究1					寺尾 英智	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	書誌学とは、書籍・典籍を対象として、その成立や形態、また伝来などを研究する学問分野です。本講義は日本中世・鎌倉時代の代表的仏教者の一人である日蓮の記した、いわゆる「日蓮遺文」を研究対象として、その形態（種類）や書跡、また日蓮滅後の継承と伝来について考察し「仏教書誌学とはなにか」「日蓮遺文とはなにか」に関する基本的知識の付与を目的とします。						
到達目標	最新の研究成果を根拠として、各時代の歴史資料に関する研究方法を分析することができる。また仏教書籍・典籍（特に日蓮遺文）に関する知識を他者へ分かりやすく説明できる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	次講義の項目や資料（遺文）などを参考書などにて予習することに30時間以上、また出題する課題や振り返りノート作成に30時間以上、合計60時間以上の講義外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】書誌学とはなにか 【第2回】日蓮遺文とはなにか－日蓮遺文に関する基本知識 【第3回】日蓮遺文の大別（1） 【第4回】日蓮遺文の大別（2） 【第5回】日蓮の書跡－筆・墨・紙・装丁など 【第6回】日蓮遺文を研究すること－「祖書研究」とは何か（外的研究） 【第7回】日蓮遺文を研究すること－「祖書研究」とは何か（内的研究） 【第8回】日蓮遺文の継承と伝来（1）－蒐集 【第9回】日蓮遺文の継承と伝来（2）－護持 【第10回】日蓮遺文の継承と伝来（3）－写本 【第11回】日蓮遺文の継承と伝来（4）－刊本 【第12回】日蓮遺文の継承と伝来（5）－編年本 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	中間レポート（30％）、期末レポート（50％）、授業への取り組み姿勢（20％）を基準として、総合的に評価する。						
フィードバックの内容	リアクションペーパー及び課題に対するフィードバックを講義中に行う。						
教科書							
指定図書	『日蓮聖人教学の研究』浅井要麟（平楽寺書店）1958、『日蓮聖人遺文の文献学的研究』鈴木一成（山喜房佛書林）1965、『日蓮真蹟遺文と寺院文書』中尾堯（吉川弘文館）2002、『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』寺尾英智（雄山閣出版）1997						
参考書	『古真蹟にふれる』中尾堯（日蓮宗新聞社）1994、『刊本録内御書の書誌学的研究』堀部正円（山喜房佛書林）2020、『日蓮の思想とその展開（シリーズ日蓮2）』小松邦彰・花野充道（春秋社）2014、『全篇解説 日蓮聖人遺文』邊實陽・関戸堯海・高森大乗（佼成出版社）2017、『日蓮遺文解題集成』山上弘道（興風出版）2023						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	リアル教材						
実践的な教育内容							
その他	仏教古文書演習／日蓮遺文研究2 を共に履修することを薦めます。						

講義コード	11A0114300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教デス・エデュケーション					武田 悟一	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	「デス・エデュケーション」とは、死の教育、あるいは死への準備教育を意味します。私たちは、かならず「死」を迎える存在でありますから、その死をいかに受けとめ、自己の人生の問題として考える必要があります。仏教では「死」を迎える私たちが、いかにこの課題と向かうべきかを教えています。そこで、この授業においては、釈尊の生き方、あるいは日蓮聖人（1222－82）の教えにその問題をたずね、現代社会における「死」についても考えます。						
到達目標	生命をうけている私たちは、必ず死を迎えるが、具体的な事例をとおして、自己の問題として受けとめ、説明することができきる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書（プリント配布）・指定・参考図書を30時間以上、毎回出題する課題と予習・復習に30時間以上、合計60時間以上の学修を行って下さい。						
授業計画	【第1回】デス・エデュケーションとは何か 【第2回】アルフォンス・デーケン氏の提唱 【第3回】悲嘆のプロセスについて 【第4回】日本の文化からみる死生観① 【第5回】日本の文化からみる死生観② 【第6回】日本の文化からみる死生観③ 【第7回】ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる 【第8回】仏教における「死」の問題 【第9回】日蓮聖人にとっての「臨終」の問題 【第10回】日蓮聖人と檀越 【第11回】日蓮聖人にみる「臨終」について 【第12回】現代日本人の死生観① 【第13回】現代日本人の死生観②・まとめ						
成績評価の方法	定期試験（50％）、毎授業の課題・授業への取り組み姿勢（50％）を基準として、総合的に評価します。						
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。						
教科書	プリントを配布します						
指定図書	『ブッダ最後の旅』中村元訳（岩波文庫）1980年、『死とは何か』大法輪編集部（大法輪閣）1984年、『書簡にみる日蓮 ころの交流』北川前肇（NHK ライブラリー）2006年、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン（NHK ライブラリー）1996年、『死への準備教育第1巻・第2巻・第3巻』アルフォンス・デーケン編（メヂカルフレンド社）1986年、『死を看とる医学』柏木哲夫（NHK ライブラリー）1996年						
参考書	『愛、見つけた 小さな命の置きみやげ』小林完吾（二見書房）1983年、『新しい生命倫理を求めて』田村芳朗他著（北樹出版）1989年						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	授業終了後および Microsoft Teams のチャット機能にて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、リアル教材						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0110000	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教文化史特講 1					久保 真紀子	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教がインドに興り、アジア諸地域に伝わり受容される過程で、各地で彫刻・絵画・工芸・建築等によって人々の信仰心が表された。この講義では、仏教美術の起源や、仏像が創始されるまでの経緯、およびそれらが南伝と北伝それぞれの経路で各地に広まって様々な表現が生み出された過程を学び、仏教美術を鑑賞するための基礎的知識を習得することを目指す。						
到達目標	南アジア、東南アジア、東アジアの仏像の像容を、基本的な専門用語を使って客観的に説明できるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 釈尊の生涯と仏教美術のはじまり 【第2回】 無仏像の伝統 【第3回】 仏像の創始（1）ガンダーラ彫刻 【第4回】 仏像の創始（2）マトゥラー彫刻 【第5回】 仏教の伝播－南伝と北伝（1）南インド 【第6回】 仏教の伝播－南伝と北伝（2）スリランカ 【第7回】 仏教の伝播－南伝と北伝（3）東南アジア〈島嶼部〉 【第8回】 仏教の伝播－南伝と北伝（4）東南アジア〈大陸部〉 【第9回】 仏教の伝播－南伝と北伝（5）東アジア〈中国〉 【第10回】 仏教の伝播－南伝と北伝（6）東アジア〈朝鮮半島〉 【第11回】 仏教の伝播－南伝と北伝（7）東アジア〈日本〉 【第12回】 仏像の種別－如来像・菩薩像 【第13回】 まとめ （1）配布資料について この授業では特定の教科書は使いません。資料は毎回の授業時に配布します。 （2）その他の提出物について 毎回の受講時に課す課題に回答し、提出すること。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、期末試験（40%）を総合して成績を評価する。						
フィードバックの内容	毎回の授業後に課す課題の回答を見て、必要に応じてその後の授業で補足説明を行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『インド美術史』宮治昭（吉川弘文館）1981、『仏教の説話と美術』高田修（講談社）2004、『世界美術大全集 東洋編13 インド（1）』肥塚隆・宮治昭（小学館）2000、『世界美術大全集 東洋編12 東南アジア』肥塚隆（小学館）2001、『仏像の鑑賞基礎知識』光森正士・岡田健（至文堂）1993						
教員からのお知らせ	美術史を学ぶためには、博物館や美術館、あるいは寺院等に足を運び、作品をじっくりと鑑賞することが大切です。毎回の授業時にも、配布資料に掲載された写真をよく観察し、形状や作品の醸し出す雰囲気をとらえるように努めてください。また、毎回の授業の復習として、鑑賞した作品について、手元にある書籍やインターネットを活用して調べてみることも良いでしょう。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールで受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0110100	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教文化史特講2					久保 真紀子	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教がインドに興り、アジア諸地域に伝わり受容される過程で、各地で彫刻・絵画・工芸・建築等によって人々の信仰心が表された。この講義では、仏伝図や本生図といった仏教説話図に注目し、南アジアおよび東南アジアの寺院建築に表された彫刻や壁画における仏教説話図の鑑賞を通して、その主題や図像表現、地域性や時代背景について理解を深める。						
到達目標	仏教説話図を観察し、基本的な専門用語を使って、そこに描写された情景を客観的に説明できるようになるとともに、主題となった説話の内容を理解する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授 業 計 画	【第1回】 古代インドの仏塔にみられる仏教説話図 【第2回】 ガンダーラ彫刻の仏教説話図 【第3回】 南インドの仏教説話図 【第4回】 アジャンター石窟の壁画に表された仏教説話 【第5回】 作品鑑賞文発表会（1） 【第6回】 インドネシア・ボロブドゥールの仏教説話図〈仏伝・本生話〉 【第7回】 インドネシア・ボロブドゥールの仏教説話図〈善財童子の巡礼の旅〉 【第8回】 作品鑑賞文発表会（2） 【第9回】 カンボジア・アンコール期の仏教説話図〈仏伝〉 【第10回】 カンボジア・アンコール期の仏教説話図〈本生話〉 【第11回】 カンボジアの上座部仏教寺院に描かれた仏教説話図 【第12回】 作品鑑賞文発表会（3） 【第13回】 まとめ （1）配布資料について この授業では特定の教科書は使いません。資料は毎回の授業時に配布します。 （2）作品鑑賞文について 第5回、第8回、第12回の授業時に特定の作品を提示しますので、授業時間内にそれを観察して「作品鑑賞文」を記入・提出してもらいます。その次の回に、それぞれ数名の「作品鑑賞文」を選び紹介するとともに、講師による講評を行います。 （3）その他の提出物について 毎回の受講時に課される課題に回答し、提出すること。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40％）、作品鑑賞文の提出および内容（20％）、期末試験（40％）を総合して成績を評価する。						
フィードバックの内容	毎回の提出物をみて、必要に応じてその後の授業時間内に補足説明を行う。						
教 科 書							
指 定 図 書							
参 考 書	『インド美術史』宮治昭（吉川弘文館）1981、『仏教の説話と美術』高田修（講談社）2004、『仏像の鑑賞基礎知識』光森正士・岡田健（至文堂）1993、『世界美術大全集 東洋編12 東南アジア』肥塚隆責任編集（小学館）2001、『世界美術大全集 東洋編13 インド（1）』宮治昭・肥塚隆責任編集（小学館）1998、『世界美術大全集 東洋編14 インド（2）』宮治昭・肥塚隆責任編集（小学館）1998、『Buddhist Painting in Cambodia』Vittorio Roveda and Yem Sothon (River Books) 2009、『Preah Bot: Buddhist painted scrolls in Cambodia』Vittorio Roveda and Yem Sothon (River Books) 2010						
教員からのお知らせ	この授業の内容は第1期開講の「仏教文化史特講1」履修後のほうが理解しやすいので、連続して受講することが望ましいですが、この科目のみ履修することも可能です。その場合は、参考文献を使って自主的に予習復習するようにしてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールで受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
そ の 他							

講義コード	11A2110200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	仏教文化史特講3					藪内 聡子	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	<サブタイトル 初期仏教とは・上座仏教とは（スリランカを中心として）> 本講義では、インドにおける仏教の成立、およびインドからスリランカへの上座部の仏教の伝道とその展開について、文化史という視点から学修します。まず仏伝、初期仏教の思想と実践について、上座仏教の聖典であるパーリ三蔵によって理解を深めた後、スリランカに流布した上座仏教の存在形態、思想、社会的役割について、スリランカの社会構造、人々の思维方法、儀礼、生活慣行といった観点から概観します。さらにスリランカから東南アジアへ上座仏教がどのように伝播していったのかを歴史的に検討します。国家仏教として位置づけられた上座仏教が、王朝の政策とどのように関連づけながら受容されてきたのかを学修します。						
到達目標	1. 上座仏教の聖典であるパーリ三蔵の編纂過程について理解し、どのように伝承されてきたかを把握する。 2. 近代仏教学の成立と上座仏教（パーリ仏教）の歴史学的研究について理解する。 3. インドにおける仏教の成立を、パーリ三蔵から理解する。 4. スリランカ、および東南アジアにおける上座仏教の存在形態とその思想を様々な視点から理解する。 5. 上座仏教の位置づけを、王朝の政策と関連付けて歴史的に把握する。 6. 西欧列強の植民地支配からの独立の際に、仏教の果たした役割について理解する。 7. 史書、碑文資料の取り扱いの方法ならびに歴史研究のための視点を捉える。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業中に内容を説明した仏典については、教科書以外の箇所にも目を通すこと。仏典研究、歴史研究についての先行論文も自分で読むことが望ましい。スリランカや東南アジアにおける仏教史については、授業内で取り上げた参考書等を読んで理解を深めること。 この科目では、60時間以上の授業外学修が必要です。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 本講義の目的・進め方について説明し、現代インド・スリランカ・ミャンマー・タイ等を概観します。 【第2回】仏教史概観 仏教の興隆と各国への流布について学修します。 【第3回】初期仏教の聖典 上座仏教の聖典語であるパーリ語と、上座仏教（パーリ仏教）の研究の歴史について、また聖典の分類について学修します。 【第4回】インドにおける仏教の成立① ブッダの誕生から成道までを、『スッタニパータ』などから読み解きます。 【第5回】インドにおける仏教の成立② 思想と実践について、『ダンマパダ』、『サンユッタ・ニカーヤ』などから読み解きます。 【第6回】ブッダの弟子たち 主だった弟子たちについて、『テラ・ガーター』、『テーリー・ガーター』から読み解きます。 【第7回】ブッダ入滅 『マハーパリニッバーナ・スッタタ』を読みながら、ブッダ入滅の状況を読み解きます。 【第8回】上座仏教とは 上座仏教の存在形態を三宝という視点から考察します。 【第9回】アヌラダプラ時代～ポロンナルワ時代のスリランカ スリランカへの仏教伝道とその後のサンガの変容を、インド仏教の変容とあわせて検討します。スリランカの史書についてもふれます。 【第10回】ダンパデニヤ時代以降のスリランカ 南アジアからのタミル人の侵入を中心に、仏教とヒンドゥー教の融合について検討します。 【第11回】スリランカと東南アジアとの交流 ミャンマー、タイ、カンボジアなどの東南アジア諸国への上座仏教の伝道過程について検討します。 【第12回】西欧列強の植民地下の仏教復興運動 キリスト教優位政策下での仏教衰退と復活の過程を概観します。 【第13回】上座仏教のパリッタ儀礼 出家者と在家者との日常的なかかわりについて検討します。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（課題提出）（50%）、学期末考査（レポート）（50%）で評価します。						
フィードバックの内容	課題のフィードバックは、WebClass または OpenLMS にておこないます。						
教科書	『原始仏典』中村 元（筑摩書房（ちくま学芸文庫））2011						
指定図書	『ブッダ伝』中村元（角川（角川ソフィア文庫））2015、『パウッタ [佛教]』中村元・三枝充恵（講談社（講談社学術文庫））2009、『現代スリランカの上座仏教』前田慧學編（山喜房佛書林）1986、『古代中世スリランカの王権と佛教』藪内聡子（山喜房佛書林）2009						
参考書	『世界宗教史叢書7 仏教史Ⅰ』奈良康明（山川出版社）1979、『パーリ語文法』水野弘元（山喜房佛書林）1955						
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業の前後、教室内にて受け付けます。その他の連絡方法につきましては、授業にてお伝えします。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他	他の参考書等については、授業で適宜紹介します。						

講義コード	11A0100800	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	文化遺産・芸術研究入門／文化・芸術研究入門					高橋堯英・久保真紀子・蓑輪顕量		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	アジア各地にみられる仏教に関わる文化は、寺院の造営、彫刻や絵画の制作、あるいは儀礼や祭祀の催行等、多くの人々の絶え間ない営みによって築き上げられてきた。この講義は、文化や芸術の観点から仏教を理解し研究する意義と方法について、担当教員3名がそれぞれの専門分野における具体的事例を示しながら解説する。教員1名につき4回もしくは5回の講義を担当し、輪講形式で進めて行く。								
到達目標	仏教文化および仏教芸術に関する具体的な研究方法や体験談に触れることで、自分自身の興味関心や問題意識を醸成する。そしてこのようなアプローチから見出し得る知見について確認し、3年次に向けてのコース選択、および卒業論文のテーマ設定のための土台を築く。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。また、博物館や美術館等にも足を運び、仏教に関する文化遺産・芸術に関する見識を深めるよう努めてほしい。それが難しい場合は、展覧会図録や関連文献を入手して目を通すなど、自らの感触を持てる機会をつくってほしい。								
授業計画	【第1回】美術史研究の方法と実践（1）（久保） 【第2回】美術史研究の方法と実践（2）（久保） 【第3回】美術史研究の方法と実践（3）（久保） 【第4回】美術史研究の方法と実践（4）（久保） 【第5回】美術史研究の方法と実践（5）（久保） 【第6回】古代インドにおける信仰の拠点：仏塔（ストゥーパ）について（高橋） 【第7回】古代インドにおける信仰の拠点：石窟寺院について（高橋） 【第8回】古代インドのヤクシャ信仰について（高橋） 【第9回】古代インドのナーガ信仰について（高橋） 【第10回】お茶の源流を探る－南・東アジアを中心に（蓑輪） 【第11回】日本におけるお茶の受容の変遷－中世まで（蓑輪） 【第12回】佗茶の発生と仏教との接点－村田珠光から利休へ（蓑輪） 【第13回】仏教と融合したお茶の展開－江戸時代のお茶（蓑輪）								
成績評価の方法	提出物（授業の感想等）50％、授業への取り組み姿勢50％で総合的に評価。								
フィードバックの内容	受講生から提出された感想に基づき、担当教員が必要に応じて補足説明を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この科目は仏教学部1年次の必修科目である。2年次に行うコース選択を意識しつつ、積極的な姿勢で受講してほしい。また、各回の参考文献は授業資料に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業前後に受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2112000	授業形態	講義	抽選の有無	－	担 当 教 員	本郷 孝衣	開 講 期	第 1 期
科 目 名	文化財論3／文化財修復概説／文化財修復概説 1					本郷 孝衣		第 1 期	
履修前提条件						備 考			
授 業 の 目 的	文化財、文化遺産の保存の歴史を通して、人々の価値観の変遷や、文化現象の関係性について考える。まず日本の文化財保護制度の現状を概観する。その上で、彫刻文化財を中心に、その歴史や制作技法、保存手法について、近代的文化財制度の成り立ちとあわせて解説する。またユネスコの文化遺産制度の概要を紹介し、現在の文化遺産がかかえる問題について考察する。授業は、プリントや画像、動画を使用し、講義する。								
到 達 目 標	日本を中心に、文化財、文化遺産の保存の歴史と保存継承の取り組みについて理解し、その要点と課題を指摘できる。実際の文化財、文化遺産を見に行き、それらが有する価値や意義について、自身が得た経験と収集した情報に基づき、わかりやすく説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	日頃から新聞やインターネットなどでニュースを見聞きし、授業内容と関連付けながら、現在の社会の様々な動きについて情報収集すること（30時間）。文献や映像から知識を得るだけでなく、実際の文化財、文化遺産を自ら見に行き、出題する課題に取り組むこと（30時間）。これらについて授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授 業 計 画	【第 1 回】ガイダンス／日本の文化財保護制度① 【第 2 回】日本の文化財保護制度② 【第 3 回】日本の文化財史① 【第 4 回】日本の文化財史② 【第 5 回】日本の文化財史③ 【第 6 回】日本の文化財史④ 【第 7 回】日本の文化財史⑤ 【第 8 回】日本の文化財史⑥ 【第 9 回】日本の文化財史⑦ 【第10回】日本の文化財史⑧ 【第11回】日本の文化財史⑨ 【第12回】世界遺産概説① 【第13回】世界遺産概説②／まとめ								
成績評価の方法	期末レポート（70%）、アンケート・小テスト・宿題（20%）、授業への取り組み姿勢（10%）による。 到達目標に記載の内容について、具体例を挙げて、わかりやすく自分の言葉を使って論述できることをレポートの評価基準とする。								
フィードバックの内容	小テスト・宿題への講評は授業内にて行う。								
教 科 書									
指 定 図 書									
参 考 書									
教員からのお知らせ	教科書は使用せず。適宜プリントを配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、調査学習。								
実践的な教育内容									
そ の 他									

講義コード	11A0100900	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献学演習 1					中井 本勝	第 1 期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教を理解するためには、漢文資料の読解が必須である。本授業では自ら読解することによって、漢文資料を読むことや文意を理解するために用語を調べる作業について、習熟することを目的とする。						
到達目標	仏教に関する漢文資料を読み、内容を理解・説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。						
授 業 計 画	【第 1 回】授業の概要説明、取り扱う文献の説明 【第 2 回】漢文資料の読解（1） 【第 3 回】漢文資料の読解（2） 【第 4 回】漢文資料の読解（3） 【第 5 回】漢文資料の読解（4） 【第 6 回】漢文資料の読解（5） 【第 7 回】漢文資料の読解（6） 【第 8 回】漢文資料の読解（7） 【第 9 回】漢文資料の読解（8） 【第 10 回】漢文資料の読解（9） 【第 11 回】漢文資料の読解（10） 【第 12 回】漢文資料の読解（11） 【第 13 回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60％）、学期末試験もしくは学期末レポート（40％）により総合評価する。						
フィードバックの内容							
教科書	適宜、配布する。						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。真摯な姿勢で授業に参加してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	演習、能動的な授業外学修など。						
実践的な教育内容							
そ の 他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。						

講義コード	11A0101000	授業形態	演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献学演習 2					中井 本勝	第 2 期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教を理解するためには、漢文資料の読解が必須である。本授業では自ら読解することによって、漢文資料を読むことや文意を理解するために用語を調べる作業について、習熟することを目的とする。						
到達目標	仏教に関する漢文資料を読み、内容を理解・説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。						
授 業 計 画	【第 1 回】授業の概要説明、取り扱う文献の説明 【第 2 回】漢文資料の読解（1） 【第 3 回】漢文資料の読解（2） 【第 4 回】漢文資料の読解（3） 【第 5 回】漢文資料の読解（4） 【第 6 回】漢文資料の読解（5） 【第 7 回】漢文資料の読解（6） 【第 8 回】漢文資料の読解（7） 【第 9 回】漢文資料の読解（8） 【第 10 回】漢文資料の読解（9） 【第 11 回】漢文資料の読解（10） 【第 12 回】漢文資料の読解（11） 【第 13 回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60％）、学期末試験もしくは学期末レポート（40％）により総合評価する。						
フィードバックの内容							
教科書	適宜、配布する。						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。真摯な姿勢で授業に参加してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	演習、能動的な授業外学修など。						
実践的な教育内容							
そ の 他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。						

講義コード	11A0101100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献学演習3／史料演習1					戸田 教敏	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	仏教寺院は、日本の歴史を知るために必要な「文献史料」の宝庫である。日本仏教の長い歴史において、各寺院では、僧侶・檀越の宗教活動、公武権力との接触を契機として、様々な文献史料が生み出された。それらの多くは、各寺院に「宝物」として厳重に保管され、今日に伝来する。本授業では、中近世に成立した文献史料、特に日蓮宗の寺院に伝来する文書・記録等の文献史料を講読し、各史料が持つ意義と特色を学びながら、日本仏教史・日蓮教団史の一端を紐解いていく。						
到達目標	日本の仏教寺院に所蔵される文献史料を講読・考察することによって、日本仏教史・日蓮教団史の一端を理解するとともに、文献史料にそなわる多様な機能と性質を理解し、説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス【第2回】寺院史料について（1）【第3回】寺院史料について（2）【第4回】史料講読（1）【第5回】史料講読（2）【第6回】史料講読（3）【第7回】史料講読（4）【第8回】史料講読（5）【第9回】史料講読（6）【第10回】史料講読（7）【第11回】史料講読（8）【第12回】史料講読（9）【第13回】史料講読（10）						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）1960年～、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『概説古文書学 古代・中世編』日本歴史学会編（吉川弘文館）1983年、『概説古文書学 近世編』日本歴史学会編（吉川弘文館）1989年、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修（日蓮宗新聞社）1996年、『新版古文書学入門』佐藤進一（法政大学出版局）2003年、『図説 日蓮聖人と法華の至宝 全7巻』中尾堯・他編（同朋舎メディアプラン・同朋舎新社）2012年～						
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0101200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献学演習4／史料演習2					戸田 教敏	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	仏教寺院は、日本の歴史を知るために必要な「文献史料」の宝庫である。日本仏教の長い歴史において、各寺院では、僧侶・檀越の宗教活動、公武権力との接触を契機として、様々な文献史料が生み出された。それらの多くは、各寺院に「宝物」として厳重に保管され、今日に伝来する。本授業では、寺院文書を中心に文献を講読し、各史料が持つ意義と特色を学びながら、日本仏教史・日蓮教団史の一端を紐解いていく。また、第55代首相を務めた本学第16代学長・石橋湛山が学生・教職員に遺した言説に触れ、教育や社会に活かされる日蓮思想の在り方を学ぶ。						
到達目標	日本の仏教寺院に所蔵される文献史料を講読・考察することによって、日本仏教史・日蓮教団史の一端を理解するとともに、文献史料にそなわる多様な機能と性質を理解し、説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス【第2回】史料講読（1）【第3回】史料講読（2）【第4回】史料講読（3）【第5回】史料講読（4）【第6回】史料講読（5）【第7回】史料講読（6）【第8回】史料講読（7）【第9回】史料講読（8）【第10回】史料講読（9）【第11回】史料講読（10）【第12回】史料講読（11）【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）1960年～、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『概説古文書学 古代・中世編』日本歴史学会編（吉川弘文館）1983年、『概説古文書学 近世編』日本歴史学会編（吉川弘文館）1989年、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修（日蓮宗新聞社）1996年、『新版古文書学入門』佐藤進一（法政大学出版局）2003年、『図説 日蓮聖人と法華の至宝 全7巻』中尾堯・他編（同朋舎メディアプラン・同朋舎新社）2012年～、『石橋湛山全集 全16巻』石橋湛山（東洋経済新報社）2010年～2011年						
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0100301	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献読解基礎演習１Ａ／仏教学基礎演習３Ａ					中井 本勝	第１期
履修前提条件						備考	
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。						
到達目標	古典資料の読解のために必要な、古文の文法（古文読解の基礎的知識）および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。						
授業計画	【第１回】ガイダンス 【第２回】文法と講読 【第３回】文法と講読 【第４回】文法と講読 【第５回】文法と講読 【第６回】文法と講読 【第７回】文法と講読 【第８回】文法と講読 【第９回】文法と講読 【第10回】文法と講読 【第11回】文法と講読 【第12回】文法と講読 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50％）、期末試験もしくは期末レポート（50％）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書	『新版二訂ニューエッジ古典達成２＋』第一学習社編集部（第一学習社）2022						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。						

講義コード	11A0100302	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献読解基礎演習１Ｂ／仏教学基礎演習３Ｂ					戸田 教敏	第１期
履修前提条件						備考	
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。						
到達目標	古典資料の読解のために必要となる古文の文法（古文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。						
授業計画	【第１回】ガイダンス 【第２回】文法と講読 【第３回】文法と講読 【第４回】文法と講読 【第５回】文法と講読 【第６回】文法と講読 【第７回】文法と講読 【第８回】文法と講読 【第９回】文法と講読 【第10回】文法と講読 【第11回】文法と講読 【第12回】文法と講読 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50％）、期末試験もしくは期末レポート（50％）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書	『新版二訂 ニューエッジ 古典達成２＋』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。						

講義コード	11A0100304	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献読解基礎演習１C					戸田 教敏	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。						
到達目標	古典資料の読解のために必要となる古文の文法（古文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】文法と講読 【第3回】文法と講読 【第4回】文法と講読 【第5回】文法と講読 【第6回】文法と講読 【第7回】文法と講読 【第8回】文法と講読 【第9回】文法と講読 【第10回】文法と講読 【第11回】文法と講読 【第12回】文法と講読 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。						

講義コード	11A0100401	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献読解基礎演習２A／仏教学基礎演習４A					中井 本勝	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。						
到達目標	古典資料の読解のために必要な、漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】文法と講読 【第3回】文法と講読 【第4回】文法と講読 【第5回】文法と講読 【第6回】文法と講読 【第7回】文法と講読 【第8回】文法と講読 【第9回】文法と講読 【第10回】文法と講読 【第11回】文法と講読 【第12回】文法と講読 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書	『新版二訂ニューエイジ古典達成2+』第一学習社編集部（第一学習社）2022						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。						

講義コード	11A0100402	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献読解基礎演習2B／仏教学基礎演習4B					戸田 教敏	第2期
履修前提条件						備考	
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。						
到達目標	古典資料の読解のために必要となる漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】文法と講読 【第3回】文法と講読 【第4回】文法と講読 【第5回】文法と講読 【第6回】文法と講読 【第7回】文法と講読 【第8回】文法と講読 【第9回】文法と講読 【第10回】文法と講読 【第11回】文法と講読 【第12回】文法と講読 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。						

講義コード	11A0100404	授業形態	講義・演習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	文献読解基礎演習2C					戸田 教敏	第2期
履修前提条件						備考	
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。						
到達目標	古典資料の読解のために必要となる漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】文法と講読 【第3回】文法と講読 【第4回】文法と講読 【第5回】文法と講読 【第6回】文法と講読 【第7回】文法と講読 【第8回】文法と講読 【第9回】文法と講読 【第10回】文法と講読 【第11回】文法と講読 【第12回】文法と講読 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。						

講義コード	16A0170001	授業形態	実習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	法要実習 1					伊東 泰樹	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業では主に「宗定日蓮宗法要式 平成版」の内容に沿って信行道場入場を視野に入れた基礎的な法儀の学習と実践的な演習を講義します。また、僧侶を志す者への道念を涵養する場としても配慮します。						
到達目標	法要儀式の意義や基本項目についての説明ができる。 基本所作や丁寧な仏具の扱い等、法要儀式に関する実践ができる。 学習と演習に励むことで自ら今後の課題を見出すことができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	受講内容の反復練習をはじめとして、大学での聖日法要・師匠寺院・縁故寺院等での勤行・法要の出仕、そして仏教全般の知識・情報収集などの研鑽を積むことに年間30時間以上を授業外学習に充てるものとします。						
授業計画	【第1回】第1期授業ガイダンス 【第2回】宗定日蓮宗法要式概説 【第3回】勤行と法要儀式について 【第4回】法衣について 【第5回】基本所作 【第6回】〃 【第7回】仏具の扱い方 【第8回】〃 【第9回】発声法と法華経読誦 【第10回】〃 【第11回】声明誦唱 【第12回】〃 【第13回】第1期総括						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢・期末試験を総合して評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書	『宗定日蓮宗法要式 平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗新聞社）2002.12、妙法蓮華経 要品、『日蓮宗声明』（日蓮宗声明師会連合会）						
指定図書							
参考書	『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会（日蓮宗宗務院）						
教員からのお知らせ	実習主体の授業になりますが、仏具の扱いなど実技経験の有無は問いません。取り組み姿勢を重視して評価します。補助教材は必要時に授業内で配布します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	実習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	16A0170101	授業形態	実習	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	法要実習 2					伊東 泰樹	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業では主に「宗定日蓮宗法要式 平成版」の内容に沿って信行道場入場を視野に入れた基礎的な法儀の学習と実践的な演習を講義します。また、僧侶を志す者への道念を涵養する場としても配慮します。						
到達目標	法要儀式の意義や基本項目についての説明ができる。 基本所作や丁寧な仏具の扱い等、法要儀式に関する実践ができる。 学習と演習に励むことで自ら今後の課題を見出すことができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	受講内容の反復練習をはじめとして、大学での聖日法要・師匠寺院・縁故寺院等での勤行・法要の出仕、そして仏教全般の知識・情報収集などの研鑽を積むことに年間30時間以上を授業外学習に充てるものとします。						
授業計画	【第1回】第1期授業内容の復習 【第2回】行軌作法の解説（二大得意） 【第3回】行軌作法の解説と実習（七方便） 【第4回】〃 【第5回】行軌作法の解説と実習（十正修） 【第6回】〃 【第7回】法要導師の解説と実習 【第8回】〃 【第9回】各種法要儀式の実習 【第10回】〃 【第11回】葬儀式について 【第12回】拵拾補遺 【第13回】期末試験						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢・期末試験を総合して評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書	『宗定日蓮宗法要式 平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗新聞社）2002.12、妙法蓮華経 要品、『日蓮宗声明』（日蓮宗声明師会連合会）						
指定図書							
参考書	『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会（日蓮宗宗務院）						
教員からのお知らせ	実習主体の授業になりますが、仏具の扱いなど実技経験の有無は問いません。取り組み姿勢を重視して評価します。補助教材は必要時に授業内で配布します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	実習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0102600	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	法華経概論 1					原 慎定		第 1 期	
履修前提条件						備 考			
授業の目的	日蓮聖人は法華経を釈尊の実語として受容し、その教えに随順することを末代凡夫の信行の中心課題とされた。法華経には教主釈尊による衆生教化の一大目的が明らかにされ、教えを信受し継承することによって永遠のいのちを生きるというテーマが暗示されている。本講義では主として宗学的（信仰的）アプローチにより、法華経の内容を味わい、その特質に迫ることを目的としたい。								
到達目標	法華経の概要を理解するとともに、人間の生き方にかかわる本質的なテーマについて考える視座をもつことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としては毎回テキストの該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。毎回の復習として、使用するシステム（Teams 等）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授 業 計 画	【第 1 回】法華経研究の方法論、テキスト・参考書の紹介 【第 2 回】法華経の経題釈 【第 3 回】法華経の成立と漢訳、鳩摩羅什の生涯 【第 4 回】法華経の構成と思想的特色 【第 5 回】天台大師の法華経受容 【第 6 回】伝教大師の法華経受容（1） 【第 7 回】伝教大師の法華経受容（2） 【第 8 回】日蓮聖人の法華経受容（1） 【第 9 回】日蓮聖人の法華経受容（2） 【第10回】開経『無量義経』について 【第11回】以下、法華経各品の概要、序品 【第12回】方便品 【第13回】譬喻品								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次の授業内で行います。								
教 科 書	『ものがたり法華経』勝呂信静（山喜房佛書林）1996年、『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1923年								
指 定 図 書	『仏典講座 7 法華経 上』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1988年、『仏典講座 7 法華経 下』藤井教公（大蔵出版）1992年								
参 考 書	『法華経－真理・生命・実践－』田村芳朗（中央公論社（中公新書））1969年、『法華経入門』茂田井教享（大蔵出版）1976年、『法華経に学ぶ 上』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経に学ぶ 下』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経の信心～久遠釈尊からの要請に生きる～』原慎定（福岡県布教師会）2020年								
教員からのお知らせ	「法華経概論 2」とあわせて履修して下さい。自己の真実を照らす鏡を求めて、主体的に学ぶことを期待します。授業では法華経の深層に迫るためのヒントや課題を与えるので、積極的な学修が要請されます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし日蓮宗の依経である法華経の概要を理解させる。								
そ の 他									

講義コード	11A0102700	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員		開講期	
科目名	法華経概論 2					原 慎定		第 2 期	
履修前提条件						備 考			
授業の目的	日蓮聖人は法華経を釈尊の実語として受容し、その教えに随順することを末代凡夫の信行の中心課題とされた。法華経には教主釈尊による衆生教化の一大目的が明らかにされ、教えを信受し継承することによって永遠のいのちを生きるというテーマが暗示されている。本講義では主として宗学的（信仰的）アプローチにより、法華経の内容を味わい、その特質に迫ることを目的としたい。								
到達目標	法華経の概要を理解するとともに、人間の生き方にかかわる本質的なテーマについて考える視座をもつことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としては毎回テキストの該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。毎回の復習として、使用するシステム（Teams 等）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授 業 計 画	【第 1 回】法華経各品の概要：信解品 【第 2 回】葉草喩品・授記品 【第 3 回】化城喩品 【第 4 回】五百弟子受記品・授学無学人記品 【第 5 回】法師品・見宝塔品 【第 6 回】提婆達多品 【第 7 回】勸持品・安樂行品 【第 8 回】從地涌出品・如來寿量品 【第 9 回】分別功德品・隨喜功德品・法師功德品 【第10回】常不輕菩薩品 【第11回】如來神力品・囑累品 【第12回】藥王菩薩本事品・妙音菩薩品・觀世音菩薩普門品・陀羅尼品・妙莊嚴王本事品・普賢菩薩勸發品 【第13回】結経『觀普賢菩薩行法経』について								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次の授業内で行います。								
教 科 書	『ものがたり法華経』勝呂信静（山喜房佛書林）1996年、『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1923年								
指 定 図 書	『仏典講座 7 法華経 上』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1988年、『仏典講座 7 法華経 下』藤井教公（大蔵出版）1992年								
参 考 書	『法華経－真理・生命・実践－』田村芳朗（中央公論社（中公新書））1969年、『法華経入門』茂田井教享（大蔵出版）1976年、『法華経に学ぶ 上』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経に学ぶ 下』北川前肇（大東出版社）1996年								
教員からのお知らせ	「法華経概論 1」の履修を前提として授業を進めます。自己の真実を照らす鏡を求めて、主体的に学ぶことを期待します。授業では法華経の深層に迫るためのヒントや課題を与えるので、積極的な学修が要請されます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし日蓮宗の依経である法華経の概要を理解させる。								
そ の 他									

講義コード	11A0107200	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	法華思想史 1					庄司 史生	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この授業は、法華經に示される主題を理解するために、南アジア、内陸アジア、中央アジア、東アジアにおける法華思想の歴史的展開について、仏教学の立場にて学ぶことを目的とする。						
到達目標	アジア諸地域における法華經の受容と展開について理解し、仏教思想史上における法華思想の位置と役割について説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義の受講にあたっては、テキストを事前に読み、読み方や意味の分からない用語について、辞書などであらかじめ調べておくこと。 講義後は復習を重ね、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	[A] 導入 【第1回】成立論から主題論へ [B] 南アジアにおける法華思想の受容と展開 【第2回】インドにおける法華思想①：インド仏教文献にみる法華經受容 【第3回】インドにおける法華思想②：一乗と三乗の解釈(1) 【第4回】インドにおける法華思想③：一乗と三乗の解釈(2) 【第5回】まとめ：インドとネパールにおける法華思想 [C] 内陸アジア・中央アジアにおける法華思想の受容と展開 【第6回】チベットにおける法華思想①：チベットにおける『法華玄賛』の受容 【第7回】チベットにおける法華思想②：チベット仏教者による法華經理解 【第8回】まとめ：チベットと中央アジアにおける法華思想 [D] 東アジアにおける法華思想の受容と展開 【第9回】中国における法華思想①：三車家・四車家の解釈を含む一乗思想の展開 【第10回】中国における法華思想②：仏身論の展開 【第11回】中国における法華思想③：十如是理解の系譜 【第12回】まとめ：中国と日本における法華思想 [E] 総括 【第13回】全体のまとめと近世日本における法華經批判とその後						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書	『法華經の思想と文化』坂本幸男編（平楽寺書店）1965、『法華思想』横超慧日編（平楽寺書店）1969、『法華思想（講座大乘仏教 第4巻）』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1983						
参考書							
教員からのお知らせ	指定の教科書はありません。資料はポータルサイトにアップロードします。参考書は必要に応じて追加して指示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0107300	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	法華思想史2					庄司 史生	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この授業では、主にインド仏教における般若思想、華厳思想、浄土思想、如来蔵思想といった大乘仏教諸思想の基礎を確認した上で、思想史という観点から法華思想（法華經に示される思想）の特色について学ぶことを目的とする。						
到達目標	仏教思想史上における法華思想の特色について説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義の受講にあたっては、テキストを事前に読み、読み方や意味の分からない用語について、辞書などであらかじめ調べておくこと。 講義後は復習を重ね、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	[A] 導入 【第1回】大乘仏教成立論と主要大乘經典の思想 [B] 主要大乘經典の思想とその特徴を理解する 【第2回】般若思想の概要 【第3回】華厳思想の概要 【第4回】浄土思想の概要 【第5回】法華思想の概要 【第6回】まとめ：般若・華厳・浄土・法華思想と如来蔵思想の概要 【C】主要大乘經典との比較に基づき法華思想の特徴を理解する 【第7回】般若思想と法華思想 【第8回】華厳思想と法華思想 【第9回】浄土思想と法華思想 【第10回】如来蔵思想と法華思想 【第11回】まとめ：般若・華厳・浄土・如来蔵思想から見た法華思想の特徴 [D] 法華思想形成の背景を理解する 【第12回】原始仏教と法華思想の連関 【E】総括 【第13回】全体のまとめと法華思想のその後の展開						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書	『法華經の思想と文化』坂本幸男編（平楽寺書店）1965、『法華思想』横超慧日編（平楽寺書店）1969、『般若思想（講座大乘仏教 第2巻）』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1983、『華厳思想（講座大乘仏教 第3巻）』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1983、『法華思想（講座大乘仏教 第4巻）』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1983、『浄土思想（講座大乘仏教 第5巻）』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1985、『初期大乘と法華思想（平川彰著作集 第6巻）』平川彰（春秋社）1989、『如来蔵思想（講座大乘仏教 第6巻）』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1982						
参考書							
教員からのお知らせ	指定の教科書はありません。資料はポータルサイトにアップロードします。その他の参考書は必要に応じて追加して指示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオリエンテーションで受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0100500	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	寺尾英智・田村亘禰・原 慎定	開講期	第2期
科目名	法華仏教研究入門								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、3年次進級の際の所属コース決定に向けて、法華仏教コースの学びの柱となる「法華教学史（法華経の思想史および天台学）」・「日蓮教学（日蓮聖人の教え）」・「日蓮宗教学史（日蓮教学の継承の歴史）」・「日蓮教団史（日蓮聖人の生涯および日蓮教団の歴史的展開）」の4つの研究領域の内容とその研究法について学修し、日蓮聖人の思想・生涯に基づく法華仏教研究の奥深さとその意義を見出すことを目的とする。								
到達目標	法華仏教研究の内容とその研究法について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス、法華教学史研究入門（1） 【第2回】法華教学史研究入門（2） 【第3回】日蓮教学研究入門（1） 【第4回】日蓮教学研究入門（2） 【第5回】日蓮教学研究入門（3） 【第6回】日蓮教学研究入門（4） 【第7回】日蓮教団史研究入門（1） 【第8回】日蓮教団史研究入門（2） 【第9回】日蓮教団史研究入門（3） 【第10回】日蓮教団史研究入門（4） 【第11回】日蓮宗教学史研究入門（1） 【第12回】日蓮宗教学史研究入門（2） 【第13回】日蓮宗教学史研究入門（3）、まとめ								
成績評価の方法	毎回の授業における学修内容・感想等の記入（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業で学修した内容・感想等について、担当教員の指定する方法による記入・提出を求め、そのフィードバックを必要に応じて行う。								
教科書	（なし）								
指定図書	『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）2008年第30版、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2000年改訂増補第3刷、『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編（東京堂出版）2013年、『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）2016年第15刷								
参考書	『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ	本授業は対面授業ですが、OpenLMS等のシステムを活用して授業を行います。詳しくは第1回授業で説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスはポータルサイトのキャビネット内にあり）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11B6138501	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	民俗学Ⅰ					加藤 紫誠	第1期
履修前提条件						備考	
授業の目的	私たちが生活のなかで当たり前だと思っているさまざまな習慣や文化には、どのような意味があり、伝承されてきたのだろうか。民俗学はそのような、世代を超えて繰り返し伝承されてきた習慣や事象に対する関心や疑問を解明する学問である。「民俗学Ⅰ」では、民俗学の基礎的な理論を紹介しながら、学問の目的や研究方法などを説明する。そのなかから身近な民俗文化に注目し、その意味や変遷を講義する。						
到達目標	①「民俗学」と「民族学」の違い、および「民俗学」の概要を自分の言葉で説明することができる。 ②民俗学に関する基礎的な方法論を理解する。 ③自分たちの生活のなかに民俗事象を見だし、その意味や社会的役割を理解、説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回のテーマに関連する内容について、毎回インターネットや参考図書などで予習復習を行うこととし、課せられた課題レポートなどの提出物の作成・準備と合わせ、授業外で計60時間以上の学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 身近な民俗事象について 【第2回】民俗学とは何か（1）民俗学と民族学、民俗学の定義 【第3回】民俗学とは何か（2）日本民俗学の成立 【第4回】民俗学とは何か（3）日本民俗学史（柳田國男と民俗学） 【第5回】民俗学とは何か（4）民俗学の研究方法 【第6回】さまざまな縁をめぐる民俗 【第7回】身体をめぐる民俗 【第8回】人の一生（1）人生をめぐる民俗 【第9回】人の一生（2）産育儀礼 【第10回】人の一生（3）成年・結婚 【第11回】人の一生（4）年祝い 【第12回】人の一生（5）死と葬送 【第13回】授業の総括						
成績評価の方法	期末試験50%、授業内提出物（レポートおよびリアクションペーパーの内容）50%で評価する。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーや課題に対する質問や意見のフィードバックは翌週の授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『柳田國男全集』（ちくま書房）1997、『はじめて学ぶ民俗学』市川秀之ほか編（ミネルヴァ書房）2015、『知って役立つ民俗学』福田アジオ責任編集（ミネルヴァ書房）2015、『日本民俗学の萌芽と生成』板橋春夫（七月社）2023						
教員からのお知らせ	特定の教科書は使用せず、毎回資料を提示する。 授業の進捗状況や理解度などで、授業計画の順番が変わる可能性がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。						
アクティブラーニングの内容	毎回の授業後に学修支援ツールを用いて意見や質問を書いたリアクションペーパーを提出する。翌週の授業内で寄せられた意見を共有し、解説や補足を交えて前回の授業を振り返る。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11B6138601	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	民俗学2					加藤 紫識	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	民俗学は日常生活のなかで繰り返し伝承されてきた習慣や行為を対象に、日本の伝統文化や生活文化を解明する学問として発達してきた。この授業では、「民俗学1」の理論的な学修を踏まえて、個別の民俗事象とその調査・研究方法を交えて説明する。また、現代社会における民俗の「文化的な意味、社会的な役割」を捉える視点を解説する。						
到達目標	①身近な慣習や行為が民俗事象として研究対象になることに注目することができる。 ②対象に応じた調査方法を理解し、調査内容をまとめることができる。 ③日本の生活や社会において民俗のもつ文化的意味や社会的役割を個々の場面で説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回のテーマに関連する内容について、毎回インターネットや参考図書などで予習復習を行うこととし、課せられた課題レポートなどの提出物の作成・準備と合わせ、授業外で計60時間以上の学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 生活のなかの民俗事象 【第2回】民俗信仰の諸相（1）稲荷信仰 【第3回】民俗信仰の諸相（2）人々のさまざまな願い① 絵馬の歴史と人々の願い 【第4回】民俗信仰の諸相（3）人々のさまざまな願い② 板絵に託す願い 【第5回】民俗信仰の諸相（4）願掛けとパワースポット 【第6回】年中行事（1）暦の構造と季節感 【第7回】年中行事（2）春の行事 【第8回】年中行事（3）夏の行事 【第9回】年中行事（4）秋の行事 【第10回】年中行事（5）節分とは何か 【第11回】民俗調査の方法 【第12回】民具調査の方法 【第13回】授業の総括						
成績評価の方法	期末試験50%、授業内提出物（レポートおよびリアクションペーパーの内容）50%で評価する。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対する質問や意見のフィードバックは、翌週授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『柳田国男全集』（ちくま書房）1997、『暮らしの中の民俗学 全3巻』新谷尚紀・波平恵美子ほか編（吉川弘文館）2003、『都市の暮らしの民俗学 全3巻』新谷尚紀・岩本通弥編（吉川弘文館）2006、『はじめて学ぶ民俗学』市川秀之ほか編（ミネルヴァ書房）2015、『知って役立つ民俗学』福田アジオ責任編集（ミネルヴァ書房）2015						
教員からのお知らせ	特定の教科書は使用せず、毎回資料を提示する。 授業の進捗状況や理解度などで、授業計画の順番が変わる可能性がある。 前期開講の「民俗学1」にて民俗学の基礎的な概説を行うので、「民俗学1」の履修後に本科目を履修することを強く勧める。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。						
アクティブラーニングの内容	毎回の授業後に学修支援ツールを用いて意見や質問を書いたリアクションペーパーを提出する。翌週の授業内で寄せられた意見を共有し、解説や補足を交えて前回の授業を振り返る。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0101101	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	田中 聖華	開講期	第1期集中
科目名	ライフ・キャリア概論A					田中 聖華		第1期集中	
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について説明できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	平常点：65％（各回の動画教材の視聴、フィードバックコメントの確認、理解度テスト、問いへの回答、リアクションペーパー、その他課題の提出など） 期末レポート：35％（学生時代の過ごし方の提出） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーの内容から、共有する必要があるもの、継続議論が必要な視点のもの、および参考情報や資料を取り上げ、翌週以降にフィードバック資料をLMSに掲載する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	提出物は期限厳守のこと。期限後は受付を締め切るので注意すること。 フィードバック資料にも問いかけがある場合があるので、必ず確認すること。								
オフィスアワー	質問は、指定メールアドレスへのメールで受け付ける。 指定メールアドレスはOpenLMSに掲載するので、必ず指定された指定メールアドレスに連絡すること。指定メールアドレス以外のメールには回答できないことがあるので注意すること。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な対話								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	14Z0101102	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ライフ・キャリア概論B					野条 美貴	第1期集中
履修前提条件	備考						
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。						
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について説明できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ						
成績評価の方法	平常点：65％（各回の動画教材の視聴、フィードバックコメントの確認、理解度テスト、問いへの回答、リアクションペーパー、その他課題の提出など） 期末レポート：35％（学生時代の過ごし方の提出） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	初回の授業は、ポータルサイトから OpenLMS にアクセスして、確認してください。授業は第1回から13回まで毎回動画を視聴し、確認テスト及び課題提出がありますので、積極的に取り組んでください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、指定の LMS のメッセージ機能で受付けます。（利用方法は初回授業で説明します。）						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	14Z0101103	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ライフ・キャリア概論C					徳山 誠	第1期集中
履修前提条件	備考						
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。						
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について説明できるようにする。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ						
成績評価の方法	平常点：65％（各回の動画教材の視聴、フィードバックコメントの確認、理解度テスト、問いへの回答、リアクションペーパー、その他課題の提出など） 期末レポート：35％（学生時代の過ごし方の提出） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	毎回のリアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーの内容については個人へのフィードバックおよび、全体を通してのフィードバックも行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業はオンデマンド形式ですが、とても有意義な内容ばかりです。リアル授業同様当事者意識を持って授業に参加してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。相談方法については、授業内で周知します。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容	－						
その他							

講義コード	14Z0101104	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ライフ・キャリア概論D					佐藤 一義	第1期集中
履修前条件	備考						
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。						
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について説明できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ						
成績評価の方法	平常点：65%（各回の動画教材の視聴、フィードバックコメントの確認、理解度テスト、問いへの回答、リアクションペーパー、その他課題の提出など） 期末レポート：35%（学生時代の過ごし方の提出） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容							
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	授業後に対します						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容							
その他							

－

講義コード	14Z0101105	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ライフ・キャリア概論E					坪田 まり子	第1期集中
履修前提条件	備考						
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。						
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について説明できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ						
成績評価の方法	平常点：65％（各回の動画教材の視聴、フィードバックコメントの確認、理解度テスト、問いへの回答、リアクションペーパー、その他課題の提出など） 期末レポート：35％（学生時代の過ごし方の提出） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	課題を出していただいたあと、必要であれば、全体もしくは個別に適宜フィードバックをします。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	お互いに顔が見えない授業形態ですので、互いにやるべきことを誠実に取り組んでいきましょう。						
オフィスアワー	課題を提出していただく際に、質問や相談事項を合わせて入れてください。追って回答します。 もしくは私のメールアドレスに連絡してくださっても構いません。cordial@tsubotamariko.com メールを送る際に必ず記載してほしいことがあります。 1. 件名の箇所に。ライフ・キャリア概論履修生、と必ず入れること 2. 本文の下段に、あなたのお名前、連絡先を必ず入る						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容	就職活動全般（自己分析から面接対策まで）とキャリアデザインに関する実務経験のある教員が、その経験を活かして講義します。						
その他							

講義コード	14Z0101106	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	ライフ・キャリア概論F					勝又 あずさ	第1期集中
履修前条件	備考						
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。						
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について説明できるようにする。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ						
成績評価の方法	平常点：65%（各回の動画教材の視聴、フィードバックコメントの確認、理解度テスト、問いへの回答、リアクションペーパー、その他課題の提出など） 期末レポート：35%（学生時代の過ごし方の提出） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。						
フィードバックの内容	授業レポートには授業での学びや解釈について記述を求めるが、翌回以降の授業時間内にその授業レポート全体に対するフィードバックを行う。 フィードバックにはラーニング・マネジメント・システム（LMS）を活用する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	1. 授業では理論や情報をインプットするだけでなく、みなさんが「自分と他者の生き方を尊重し多様性を受容する」、その気持ちをもってライフ・キャリアを考える機会にしてください。 2. 毎回の授業終了後には、「理解度テスト」と「ミニレポート」をオンライン上で提出していただきます。また、学期末には定期試験に代わる期末レポートを提出いただき、それらをもとに評価をします。これらの提出について期日を過ぎた場合は受理をしません。 「定期試験に代わる期末レポートを提出したがその文書に記載がない」という場合は、「試験答案を白紙で提出」と扱いざるをえないため確認をして提出すること。 その他、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をすること。 上記を認識の上で、履修を検討してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、WebClass のメッセージ機能、または、メールでの問い合わせにも対応します。 メールアドレス：katsumata@seijo.ac.jp						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
実践的な教育内容	科目担当教員はソニー株式会社（現：ソニーグループ）にて24年間、主に広報・PR とキャリア支援・人材育成を担当し、独立後には株式会社（教育事業）を設立した。 これまでの実務経験と、現在の本務校でのライフ・キャリア教育を活かし、「個人が他者や社会と関わりながら自律的にキャリアを構築していく」、その重要性について事例を紹介しながら授業を展開する。						
その他	毎回の授業終了後には、「理解度テスト」と「ミニレポート」をオンライン上で提出していただきます。また、学期末には定期試験に代わる期末レポートを提出いただき、それらをもとに評価をします。これらの提出について期日を過ぎた場合は受理をしません。 「定期試験に代わる期末レポートを提出したがその文書に記載がない」という場合は、「試験答案を白紙で提出」と扱いざるをえないため確認をして提出すること。 その他、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をすること。 上記を認識の上で、履修を検討してください。						

講義コード	11A0103000	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	立正安国論講義 1					三輪 是法	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	『立正安国論』は、一般的にも日蓮聖人の代表的著書として認識されている。日蓮聖人が生涯持ち続けた問題、仏教者としてどのように人々を救済すればいいのかという問題を、講読を通して理解し、『立正安国論』がどのような書であるのかを改めて認識する。						
到達目標	『立正安国論』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。同時に、日蓮聖人教学を研究するための基本である、日蓮聖人遺文を読解する基礎を身につける。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後に事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。						
授 業 計 画	【第1回】オリエンテーション～日蓮聖人遺文を読むための基礎 【第2回】日本仏教思想史1 【第3回】日本仏教思想史2 【第4回】日本仏教思想史3 【第5回】『立正安国論』 講読1 【第6回】『立正安国論』 講読2 【第7回】『立正安国論』 講読3 【第8回】『立正安国論』 講読4 【第9回】『立正安国論』 講読5 【第10回】『立正安国論』 講読6 【第11回】『立正安国論』 講読7 【第12回】『立正安国論』 講読8 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント、期末試験70パーセントで評価する。対面での試験実施が不可能である場合など、状況に応じて課題レポートに切り替えます。						
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。						
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年						
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第一巻』小松邦彰（春秋社）1994年、『日本の仏典 9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年						
参 考 書	『傍訳日蓮聖人遺文 立正安国論』北川前肇・原慎定（四季社）2004年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成（日本仏書刊行会）1957年						
教員からのお知らせ	立正安国論講義2／（二）をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜授業で紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生（日蓮宗寺院にはあると思います）は、必ず持参するようにしてください。						
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。						
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。						
実践的な教育内容							
そ の 他							

講義コード	11A0103100	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	立正安国論講義 2					三輪 是法	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	『立正安国論』は、一般的にも日蓮聖人の代表的著書として認識されている。日蓮聖人が生涯持ち続けた問題、仏教者としてどのように人々を救済すればいいのかという問題を、講読を通して理解し、『立正安国論』がどのような書であるのかを改めて認識する。さらに、近代日本において『立正安国論』がどのように受容されたのかを考究する。						
到達目標	『立正安国論』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。同時に、日蓮聖人教学を研究するための基本である、日蓮聖人遺文を読解する基礎を身につける。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後に事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。						
授 業 計 画	【第1回】第1期復習～『立正安国論』 講読 【第2回】『立正安国論』 講読1 【第3回】『立正安国論』 講読2 【第4回】『立正安国論』 講読3 【第5回】「立正安国論再読」 講読1 【第6回】「立正安国論再読」 講読2 【第7回】「立正安国論再読」 講読3 【第8回】近代日本における『立正安国論』の受容1 【第9回】近代日本における『立正安国論』の受容2 【第10回】近代日本における『立正安国論』の受容3 【第11回】近代日本における『立正安国論』の受容4 【第12回】近代日本における『立正安国論』の受容5 【第13回】総括						
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント、期末試験70パーセントで評価する。状況に応じて、課題レポートに変更する可能性があります。						
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。						
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年						
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第一巻』小松邦彰（春秋社）1994年、『日本の仏典 9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年						
参 考 書	『傍訳日蓮聖人遺文 立正安国論』北川前肇・原慎定（四季社）2004年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成（日本仏書刊行会）1957年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年						
教員からのお知らせ	立正安国論講義1／（二）をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生（日蓮宗寺院にはあると思います）は、必ず持参するようにしてください。「立正安国論再読」と、第8回以降のテキストは随時ポータルサイトから配布いたします。						
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。						
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。						
実践的な教育内容							
そ の 他							

講義コード	11B5121401	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	倫理学とは何かA					小館 貴幸	第1期
履修前条件	備考						
授業の目的	私達が社会生活を営むうえで倫理は必須である。なぜなら、誰もが自分と異なった他者と共に暮らしていかななくてはならないからである。「あの人は倫理的である／ない」、「その行動は倫理に反する／反しない」など、日常でも倫理という言葉が登場するが、私達はどれほど倫理について知っているだろうか。この講義では、倫理そのものを明らかにし、諸学説を学びながら倫理の奥深さに触れ、自らの倫理観を養うことを目的とする。						
到達目標	①倫理とは何かを説明できる。 ②倫理学の様々な学説を整理し、それぞれの特徴や本質を述べることができる。 ③倫理的思考を用いて、自分の考えを言語化することができる。 ④自らの倫理観を養うことができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定図書や参考図書などを利用して、授業で取り上げる内容について予め把握しておくこと。授業後は、プリントを見直しながらもう一度考えて学びを深め、さらに自分で調べて知識を広めること。課題を提出すること。 以上、本科目では60時間の授業外学習を行うこと。						
授業計画	【第1回】イントロダクション（講義の概要や進め方など） 【第2回】倫理とは何か 【第3回】義務論Ⅰ（基本的諸事項と概略） 【第4回】義務論Ⅱ（カントの義務論） 【第5回】功利主義Ⅰ（基本的諸事項と概略） 【第6回】功利主義Ⅱ（功利主義の展開） 【第7回】プラグマティズム（基本的諸事項と概略） 【第8回】徳倫理学Ⅰ（ソクラテスにおける徳） 【第9回】徳倫理学Ⅱ（アリストテレスにおける徳） 【第10回】ケアの倫理学Ⅰ（ケアする人におけるケア論） 【第11回】ケアの倫理学Ⅱ（ケアされる人におけるケア論） 【第12回】環境倫理学Ⅰ（基本的諸事項と概略） 【第13回】環境倫理学Ⅱ（自然と人間の共生の具体的事例）						
成績評価の方法	学期末試験（60%）、課題提出（20%）、授業への取組み姿勢（10%）、小テスト（10%）						
フィードバックの内容	小テストについては終了後に解説を行い、課題やリアクションペーパーについては後の講義で教員がまとめてコメントします。						
教科書							
指定図書	『倫理学案内－理論と実践』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2008年、『道徳形而上学原論』イマヌエル・カント（岩波書店）2011年、『実践理性批判』イマヌエル・カント（岩波書店）1996年、『功利主義』ジョン・スチュアート・ミル（岩波書店）2021年、『ソクラテスの弁明・クリトン』プラトン（岩波書店）1995年、『ニコマコス倫理学（上）』アリストテレス（岩波書店）1993年、『ニコマコス倫理学（下）』アリストテレス（岩波書店）1992年、『ケアの本質－生きることの意味』ミルトン・メイヤロフ（ゆみる出版）1987年						
参考書	『沈黙の春』レイチェル・カーソン（新潮社）2006年、『野生のうたが聞こえる』アルド・レオポルド（講談社）2004年、『ケアリング－倫理と道徳の教育 女性の観点から』ネル・ノディングス（晃洋書房）1997年、『プラグマティズム古典集成』パース、ジェームス、デューイ（作品社）2014年、『なぜ生命倫理なのか』朝倉輝一編（大学教育出版）2024年、『つなわたりの倫理学』村松聡（株式会社 KADOKAWA）2024年						
教員からのお知らせ	教科書は使用しません。毎講義でプリントを配布して講義を行います。人数や状況に応じて、皆さんが直接参加する機会を設けていきます。また、受講者の関心に講じて、臨機応変に講義内容を変更することもあります。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	講義内で適宜意見表明の機会を設けて、皆で共有します。小テスト終了後に教員からのフィードバックによる振り返りを行います。グループ・ワークの機会も設ける予定です。－						
実践的な教育内容							
その他	社会生活を営む上で倫理は必須の事柄です。倫理を学問的に学ぶことはもちろんですが、それに留まらずに自らの倫理観を高めることができるように、常に自分のこととして主体的に講義に参加して下さい。						

講義コード	11B5121402	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	倫理学とは何かB					木村 史人	第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	私たちは様々な場面で、「正しい／正しくない」と判断している。それでは、「正しさ」とは何であろうか？ あなたがある行為（たとえば、席を譲る、暴力をふるう）を見て、「正しい／間違っている」と判断できているならば、あなたは「正しさとは何か」知っているはずである。 本講義では、具体的な問題について、これまでの倫理学思想、特に功利主義と共同体主義、義務論などを手がかりに考察する。						
到達目標	① これまでの倫理学思想を理解する。 ② ①で学んだことを実際の問題に応用することができる。 ③ 自分の考えを言語化することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業内容の予習、復習など、授業外に計60時間の学修を行うこと。						
授業計画	この授業では対話・議論を行いますので、対話・議論が好きな方向けです。 【第1回】授業の予定、進め方。良い、悪いとは何か？ 【第2回】功利主義① 利益とは何で、どのように計算すればいいのか？ 【第3回】功利主義② 快楽と苦痛 【第4回】功利主義③ 最大多数の最大幸福 【第5回】功利主義④ 快楽の質 【第6回】共同体主義① 徳としての倫理 【第7回】共同体主義② 物語の役割「誰」と倫理 【第8回】共同体主義③ 世間の規範 【第9回】義務論① カントとは誰か？ 【第10回】義務論② 自由とは何か？ 【第11回】義務論③ 理性的・普遍的な格率 【第12回】義務論④ 自他の人格を尊重する 【第13回】授業の振り返り。倫理・道徳は進歩しているのか？ 授業の予定は、学生の理解度によって、適宜変更される場合がある。						
成績評価の方法	小テスト（3回を予定、60%）、授業内の活動への参加姿勢（40%）から、授業内容の理解度およびそれを応用する思考力を評価する。						
フィードバックの内容	受講者は授業内で議論した内容を Open LMS など で発表し、その内容について、教員がコメントする。						
教科書							
指定図書	『倫理学案内：理論と課題』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2006、『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』マイケル・サンデル著；鬼澤忍訳（早川書房）2011、『モラル・トライブス』ジュシユア・グリーン（岩波書店）2015、『実践理性批判』カント（岩波文庫）1979、『功利主義論集』J・S・ミル（京都大学学術出版会）2010、『美德なき時代』マッキンタイア（みすず書房）1993、『物語としての歴史』アーサー・C・ダント（国文社）1989						
参考書							
教員からのお知らせ	グループで対話・議論を行いますので、そうした活動が望ましいです。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、Open LMS 等でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。						
アクティブラーニングの内容	① 授業内容を言語化する ② ①をグループで共有し、学びを深める教員および他の受講者に発表し、フィードバックを得る						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11B5121502	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	倫理学の基本諸問題B					木村 史人	第2期
履修前条件	備考						
授業の目的	本講義の第一の目的は、現代の社会における不平等の問題を多角的に考察し、理解することである。そのうえで、現代を生きるうえで必要な倫理とは何かを考える。さらに、学んだことを用いて、我々が日常的に出会う具体的な問題について考え、それを言語化することができるようになることを、第二の目的とする。						
到達目標	① 倫理学思想を理解し、自分の言葉で説明することができる。 ② ①で学んだことを実際の問題に応用することができる。 ③ 学んだことを基に、グループで議論できる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修・授業外学修時間 各回の授業内容の予習、復習など、授業外に計60時間の学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】授業の予定、進め方。 【第2回】正義論① ロールズの「無知のベール」を考える 【第3回】正義論② 公平なルールを取り決めることはどのようにして可能か？ 【第4回】正義論③ 公平性という正義はそもそも正しいのか？ 【第5回】正義論④ ロールズへの批判 自由至上主義 【第6回】動物倫理① 種差別とは何か？ 【第7回】動物倫理② 種差別は正しいのか？ 【第8回】動物倫理③ 動物実験・肉食は正しいのか？ 【第9回】世界の不平等① 平等とは何か？世界の不平等① 富の集中 【第10回】世界の不平等② 援助することは義務か？ 【第11回】世界の不平等③ 平等をどのように実現するのか？ 【第12回】世代間倫理について考える① 責任とは何か？ 【第13回】世代間倫理について考える② まだ生まれていない存在に対して、責任を有するのか？（授業の振り返り） 授業の予定は、学生の理解度によって、適宜変更される場合がある。						
成績評価の方法	小テスト（3回を予定、60%）、授業内の活動への参加姿勢（40%）から、授業内容の理解度およびそれを応用する思考力を評価する。						
フィードバックの内容	議論をした成果について、教員がフィードバックを行う。						
教科書							
指定図書	『倫理学案内：理論と課題』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2006、『貧困の倫理学』馬淵浩二（平凡社）2015、『責任という原理：科学技術文明のための倫理学の試み』ハンス・ヨナス著；加藤尚武監訳（東信堂）2010、『未来倫理』戸谷洋志（集英社新書）2023、『動物からの倫理学入門』伊勢田哲治（名古屋大学出版会）2008						
参考書							
教員からのお知らせ	授業内で議論・対話を行いますので、議論・対話が好きなお方にお勧めです。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、Open LMS等でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。						
アクティブラーニングの内容	自分で考えたことを基に、グループで議論・対話を行います。また、その成果について教員がコメントします。						
実践的な教育内容							
その他	－						

講義コード	11A0100700	授業形態	講義	抽選の有無	－	担当教員	開講期
科目名	歴史・思想研究入門／思想・歴史研究入門					手島一真・庄司史生・戸田裕久	第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	この講義では、①宗教学、②仏教思想史（南アジア中心）、③歴史学・仏教史（東アジア中心）という学問分野の概要と研究方法を紹介します。						
到達目標	①宗教学、②仏教思想史（南アジア中心）、③歴史学・仏教史（東アジア中心）という視点から学修・研究するための基礎的な方法を実践することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。特に配布資料や参考図書の該当箇所を授業後に再読して理解に努めること。						
授業計画	【導入】 【第1回】講義概要（庄司） 【仏教思想史】 【第2回】文献資料をどのように扱うか（庄司） 【第3回】様々な言語で記された文献をどのように読むのか（庄司） 【第4回】言語と思想（庄司） 【宗教学】 【第5回】宗教の世界（戸田） 【第6回】世界の宗教（戸田） 【第7回】神話の世界、世界の神話（戸田） 【第8回】世界の神秘主義（戸田） 【歴史学・仏教史】 【第9回】歴史の探究（1）「ひと」＝人物を対象として（手島） 【第10回】歴史の探究（2）「もの」＝遺物・遺跡などを対象として（手島） 【第11回】歴史の探究（3）「こと」＝事件・制度・政策などを対象として（手島） 【第12回】歴史の探究（4）総合的に（手島） 【鼎談】 【第13回】何を知りたいか～たとえば卒論のこと～ ※（カッコ内）は当該授業の担当者。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50％）と学期中に数回提示されるレポート課題（50％）提出により成績を評価します（計100％）。この授業は3人の担当者がそれぞれ行います。成績評価の具体的な方法は授業内に担当者よりアナウンスします。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書	各教員より資料配付。						
指定図書	『世界の歴史（全30冊）』（中央公論新社（中公文庫））2008年～2010年、『日本の歴史（全26冊）』（講談社（講談社学術文庫））2008年～2010年、『アジア仏教史（インド編全6巻、中国編全6巻、日本編全9巻）』（中村元、笠原一男、金岡秀友監修・編（佼成出版社）1972年～1976年、『新アジア仏教史（全15冊）』（佼成出版社）2010年～2011年、『インド哲学仏教学への誘い』菅沼見博士古稀記念論文集刊行会編（大東出版社）2005年、『講座・大乘仏教』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1981～1985年、『シリーズ大乘仏教』桂紹隆〔ほか〕編（春秋社）2011～2014年、『アジア歴史事典（全10冊）』平凡社編（貝塚茂樹ほか）（平凡社）1984年（新装復刊版）、『国史大辞典（全17冊）』国史大辞典編集委員会編（大久保利謙ほか）（吉川弘文館）1979年～1997年、『世界歴史大事典（全22冊）』芳賀登〔ほか〕編集（教育出版センター）1992年（新装版）						
参考書	『宗教学辞典』小口偉一、堀一郎監修（東京大学出版会）1973年、『比較思想事典』峰島旭雄編（東京書籍）2000年、『宗教的経験の諸相』W. ジェイムズ著・榊田啓三郎訳（岩波書店（岩波文庫））1970年、『比較思想論』中村元著（岩波書店）1969年、『比較思想序論』三枝充恵著（春秋社）1995年（増補版）、『インド思想史』早島鏡正著（東京大学出版会）1982年、『古代インドの文明と社会』山崎元一著（中央公論社）1997年、『世界歴史大系 南アジア－先史・古代－』山崎元一・小西正捷編（山川出版社）2007年、『古代インドの歴史』R.S. シャルマ著（山崎利男・山崎元一訳）（山川出版社）1985年、『仏教考古学事典』坂詰秀一編（雄山閣）2003年						
教員からのお知らせ	授業時に資料を配付します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習						
実践的な教育内容							
その他							

個人情報の取扱い

立正大学では、入学手続時その他大学所定の手続において収集した住所・氏名・電話番号等の個人情報は、法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。

[https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/
compliance/index.html](https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/index.html)





仏教学部事務室 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 TEL(03)3492-8528